

# Annual Report 2017

---

年 報 2017年(平成29年)度



JA 広島総合病院  
JA. HIROSHIMA General Hospital

# Annual Report 2017

---

年 報 2017年(平成29年)度

# Contents

巻頭言	病院長の言葉	4
-----	--------	---

## トピックス

カテーテルアブレーション治療の紹介	6
核医学診断装置を更新しました	7
NEW! 短時間で断層画像の収集が可能	7
NEW! 放射性核種ヨウドのエネルギー特性に適した設計 (コリメータ)	8
NEW! 健常者データを用いた診断補助アプリケーション (Dat QUANT)	8
第15回市民公開講座	9
第8回オープンホスピタル開催	10
第27回院内バレーボール大会開催	11
第7回広島西部高校生外科セミナー開催	11

## 病院の概要

病院概況	14
JA 広島総合病院のあゆみ	15

## 活動報告

呼吸器内科	18
循環器内科	20
腎臓内科	21
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	23
消化器内科	24
小児科	26
外科	27
乳腺外科	29
整形外科	30
形成外科	31
脳神経外科	32
呼吸器外科	35
心臓血管外科	36
皮膚科	37
泌尿器科	38
産婦人科	39
眼科	40
耳鼻咽喉科	41
放射線治療科	42
画像診断部	43
麻酔科	44
歯科口腔外科	46
救急・集中治療科	47
緩和ケア科	49
健康管理センター	50
病理診断科・病理研究検査科	52
臨床研修科	53
看護科	54
外来	55
外来治療センター	56
地域救命救急センター	57
ICU・西3階病棟	58
西4階病棟	59
西5階病棟	60
西6階病棟	61
西7階病棟	62
西8階病棟	63

東 3 階病棟	64
東 4 階病棟	65
東 5 階病棟	66
東 6 階病棟	67
東 7 階病棟	68
東 8 階病棟	69
手術室	70
居宅介護支援事業所	71
訪問看護ステーション	72
薬剤部	73
臨床研究検査科	74
中央放射線科	75
臨床工学科	76
リハビリテーション科	78
栄養科	79
診療情報管理科	80
医療安全管理室	81
地域医療連携室	82
総合医療相談室	83
人事課	84
情報企画科	85
災害対策ワーキングチーム (DMAT)	86
栄養サポートチーム (NST)	88
呼吸療法サポートチーム (RST)	89
感染防止対策室 (ICT)	90
緩和ケアチーム	91
心臓リハビリテーションチーム	92
「膵がん・胆道がん教室」運営チーム	93
各種委員会	94
出張記	105

## 実績

著書・論文	110
書籍・雑誌編集	113
学会発表	114
学会での座長	124
研究会講演・発表	125
研究会座長	132
地域活動	134
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	138
合同カンファレンス	140

## クラブ活動

華道部	142
野球部	143
テニス部	144
伯友会 (ゴルフ同好会)	145
サッカー部	146
フットサル部	147
バスケットボール部	148

## 資料

統計資料	150
------	-----



## 巻 頭 言

JA 広島総合病院 2017 年度年報が完成しました。

従来の市民公開講座は JA 広島総合病院と廿日市市の主催で開催していましたが、2017 年 6 月に開催した「第 15 回 市民公開講座」より佐伯地区医師会も主催に加わり、充実した内容で開催することができました。今後も住民目線を心がけ、廿日市市及び佐伯地区医師会と共に工夫された市民公開講座を開講したいと考えています。

また、2017 年 12 月に創立 70 周年の節目を迎えることができました。12 月 8 日に開催した創立記念式典では、湯崎広島県知事や越智広島大学学長に講演をいただき、その後の祝賀会では、当院へ医師を派遣していただいている広島大学教室の代表者や当院の歴代の病院長、薬剤部長、事務長そして各医師会長等多くの方の出席を賜ることができました。さらに、私がチームドクターをしている広島東洋カープの緒方監督の出席を賜り、祝辞もいただくことができました。

2017 年度年報のトピックスとし、「カテーテルアブレーション治療の紹介」があげられています。アブレーション治療は大腿動脈等からカテーテルを心臓まで入れて不整脈の治療を行うものです。患者への負担の少ない血管内治療が今後の主流になる中で、当院においても積極的に取り入れていく治療法であると考えています。

当年報は、辻山修司・年報編集委員長をはじめ 9 名の委員の尽力のおかげで完成しています。病院の各セクションの 1 年間の貴重な記録が収められ、2018 年へとつながっています。登場するスタッフたちの精彩と彼らが成長する過程で放つ一筋の光を感じていただければ幸いです。

2019 年 3 月

広島県厚生農業協同組合連合会  
広島総合病院

病院長 藤本 吉範



## カテーテルアブレーション治療の紹介

当院では2017年4月からカテーテルアブレーションによる不整脈の治療を行う事が出来るようになりました。

カテーテルアブレーションは脈の速くなる頻脈性不整脈に対する根治的な治療方法で、内頸静脈や大腿動脈からカテーテルを心臓まで入れて不整脈の原因となる異常な電気信号を発生する部位を心臓の内側から焼灼する治療法です。治療はカテーテル治療室で透視を用いて行いますが、その他にも心臓内の電氣的興奮を可視化するポリグラフや心臓の形態やカテーテル位置を表示する3Dマッピングシステムなどの様々な高度医療機器を使用します。当院ではそれらの装置を揃えた上で機械操作に習熟した臨床工学技士や診療放射線技師、看護師が一丸となりカテーテルアブレーション治療に専念しています。不整脈の種類にもよりますが、治療時間は1時間から4時間程度で、できるだけ薬で眠った状態で治療をするなど、患者に対して苦痛の少ない治療を目指しています。

カテーテルアブレーション治療の対象となる不整脈は心房細動・心房粗動・心房頻拍・発作性上室性頻拍等の上室性頻拍や心室性期外収縮・心室頻拍等の心室性頻拍と多岐にわたりますが、この中で最も多いのは心房細動です。

心房細動は脈がバラバラになる不整脈で、動悸や息切れ、ふらつき等の症状を伴う事が多いですが、中には全く症状もなく知らない間に心房細動となっている人もいます。

心房細動の合併症として最も重篤なものに心原性脳梗塞があり、その他のラクナ梗塞やアテローム血栓性脳梗塞と比較して予後が悪い事が知られています。脳梗塞予防のためには適切な抗凝固療法が必要ですが、抗凝固療法をしていない患者も多くいるのが現状です。

その理由の一つとして上記に示した、全く症状のない無症候性心房細動の存在が挙げられます。無症

候性であっても脳梗塞リスクに変わりはないため、いかにして心房細動を発見して治療に結びつけるかが重要になります。こういった経緯から日本不整脈心電学会は「毎年3月9日は脈(みやく)の日」と定めて心房細動の早期発見に努めるキャンペーンを行っています。自己検脈の指導や家庭血圧計の不整脈検知機能を活用する事で患者自身に不整脈を見つけてもらう他、医師会の先生方においても診察時に脈拍に注意して頂く事で心房細動の早期発見率を高める事が出来ます。そうして心房細動を早期に発見した上で適切な抗凝固療法を行う事が、心房細動の最も大切な治療方針となります。

適切な抗凝固療法を行った上で、患者が根治的治療を希望した場合は、カテーテルアブレーションを行う事になります。当院では毎週火曜日に行っており、順調に件数も増えています。

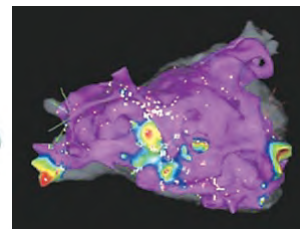
周囲に不整脈の患者がおられましたらお気軽にご紹介頂ければ幸いです。



アブレーション中の風景（カテーテル室にて）



アブレーション用カテーテル



左心房の3Dマッピング

## 核医学診断装置を 更新しました

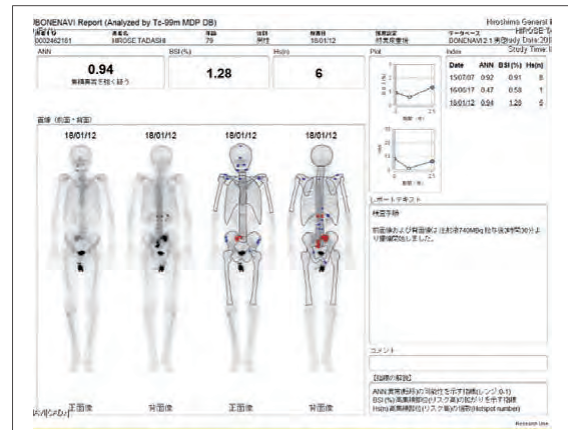
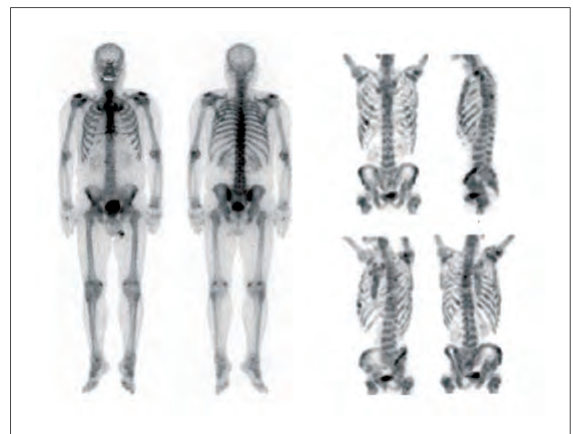
平成29年11月20日より最新型の核医学診断装置を導入し、運用を開始しました。この度更新した装置は、従来の装置と比較しコンパクトになったことにより、スムーズな動作が可能となり、安心かつ効率的な検査が可能となりました。画像処理端末も同時に更新され、最新の画像処理により核医学画像の持つボケを補正し、以前よりきれいな画像を得ることができます。端末には、他に診断を補助する様々なアプリケーションが搭載され、より診断精度の高い検査が可能となりました。また、機器更新に伴い核医学検査室の内装工事も行いました。室内を明るく柔らかい色味で統一いたしましたので、患者様には快適な環境で検査を受けていただけたと思います。



## NEW! 短時間で 断層画像の収集が可能

従来全身の骨シンチに断層画像を追加する場合、限定した領域の断層画像の撮影が一般的でしたが、新しい装置ではスムーズな装置の駆動とシステムの高感度化により、短時間で広範囲な断層画像を撮影することができ、より診断精度の高い検査が可能となりました。

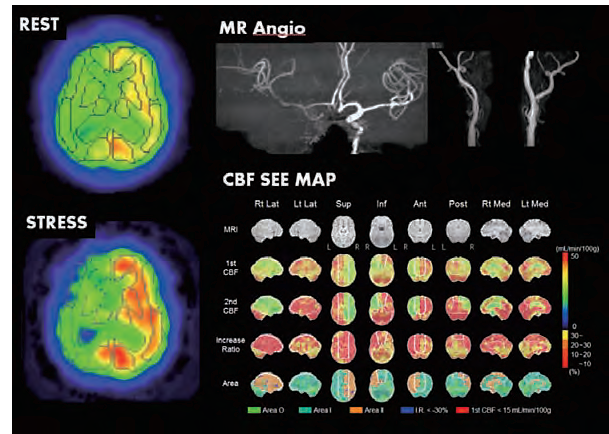
また、骨シンチでは診断支援ソフト「BONE NAVI」の運用を開始しました。骨転移の自動診断はもとより、骨転移の経過観察を健常者のデータベースと比較した数値解析が可能であり、臨床に役立つデータの提供ができます。





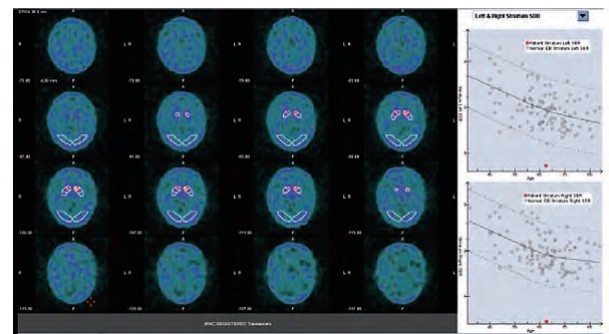
## NEW! 放射性核種ヨウドのエネルギー特性に適した設計（コリメータ）

脳の検査などに多く用いられる放射性ヨウドに対応した仕様の装置を採用することで、より精度の高い検査が可能となりました。当院で施行される負荷・安静脳血流検査では散乱線の影響を少なくし、虚血部と正常部のコントラストの高い画像が得られるようになりました。



## NEW! 健常者データを用いた診断補助アプリケーション（Dat QUANT）

健常者の頭部（線条体集積）データを用いた診断補助アプリケーションにより、レビー認知症、パーキンソン病等の診断が容易なものとなります。



# 第15回 市民公開講座

日 時：2017年6月17日（土曜日）

13：00～15：30

場 所：はつかいち文化ホール さくらびあ大ホール

テーマ：「肺がんの発見から治療まで」

要 旨：がんは誰もがかかりうる身近な病気となりつつあります。今回は肺がんスポットを当て、肺がんの知識や治療について幅広い年代の方に知っていただくことを目的として開催しました。

- 演 題：1. 「知っておきたい肺がん治療の基本情報」  
呼吸器外科 診療部長 渡 正伸
2. 「最新の肺がん治療」  
呼吸器内科 診療部長 近藤 文博
3. 特別講演  
「私の野球人生～がん早期発見のすすめ～」  
広島テレビ野球解説者 池谷 公二郎

参加者：408名

JA広島総合病院・廿日市市・佐伯地区医師会

第15回  
**市民公開講座**

特別講演  
**私の野球人生**  
～がん早期発見のすすめ～

広島テレビ  
テレビ演 コメンテーター  
**池谷 公二郎 氏**

日時 平成29年6月17日(土) 13:00～15:30(開演12:00)

会場 はつかいち文化ホール さくらびあ大ホール (定員1,000名)

入場無料

テーマ「肺がんの発見から治療まで」

【第1部】  
「知っておきたい肺がん治療の基本情報」  
呼吸器外科 診療部長 渡 正伸

【第2部】  
「最新の肺がん治療」  
呼吸器内科 診療部長 近藤 文博

主催 JA広島総合病院・廿日市市・佐伯地区医師会  
後援 廿日市市・大竹市医師会・JA佐伯中央  
お問合せ JA広島総合病院 地域医療連携課 Tel.0829-36-3111 <http://www.hirobryo.jp/>

【第15回市民公開講座風景】



## 第8回 オープンホスピタル開催

2017年11月23日（木・勤労感謝の日）にオープンホスピタルを開催し、大勢の地域住民にご来場いただきました。

オープニングセレモニーに続いて行われた「マンドリンアンサンブル ミナーガ」によるマンドリン演奏で、会場は大いに盛り上がりました。



その後、地御前町内会の皆様のご協力で餅つき大会が行われました。来場者につきたてのお餅がふるまわれ、長蛇の列ができ大盛況でした。

イベントブースでは医師や薬剤師による医療相談コーナー、健診コーナー、内視鏡シミュレーター体験コーナー、骨密度測定、血管年齢測定、JA 佐伯中央の農産物販売が行われ、好評を博していました。



この他にもクイズラリー、おもちゃすくい、輪投げ、射的と盛り沢山のイベントを用意し、小さな子ども連れのご家族にも楽しんでいただきました。

また、公開講座では、田崎腹部救急治療科主任部長による「鼠径ヘルニア（脱腸）ってなに？」を開

催し、集まった参加者は熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



オープンホスピタルにあわせて、病院の各部署の日々の取り組みを地域住民の方に広く知っていただくこと、病院1階フロアに各部署が工夫を凝らして作成したポスターを展示しました。来場者には、優秀な作品を選考する投票にご協力いただき、地域住民の方々と院内の選考メンバーでの投票による厳正な審査を行ない、最優秀賞、優秀賞を決定しました。

### 【最優秀賞】

部署	作品名
中央検査処置室	アブレーション 始まりました

### 【優秀賞】

部門	部署	作品名
医局	眼科	その充血、ほっといて大丈夫?!
看護	西5階	ロコモティブシンドローム 一転ばぬ先の杖?ー
コメディカル	臨床研究検査科	ようこそ検査室ワールドへ Part7 輸血検査 血液型編
チーム活動	DMAT & 災害対策ワーキングチーム	減災への道 ー今年のミッションはこれだ!!ー
住民投票	東5階	その症状! 認知症じゃない? With Brain

## 第27回 院内バレーボール大会開催

2017年6月10日（土）、日本赤十字広島看護大学体育館において、第27回院内バレーボール大会が開催されました。

当日は、部署ごとに結成された20チーム（選手と応援合わせて約400人）が参加しました。各チームはお揃いのユニフォームを着用し、お互い一步も譲らない熱戦が繰り広げられました。

頑張る選手を全力でサポートする応援団、団結力が高まるイベントとして年々参加者も増加しており、大変盛り上がりました。

各リーグの成績は、Aリーグ優勝は手術室チーム、Bリーグ優勝は東8階チームでした。

今後も、職員同士の親睦を図ることを目的として、毎年開催していきたいと思えます。



## 第7回 広島西部高校生 外科セミナー開催

2017年8月3日（木）、第7回外科セミナーが開催されました。外科の魅力を知り、関心・理解を深めてもらうために毎年開催しているもので、今年度で7回目の開催です。

当日は、県内の高校生20名が参加されました。各自手術着に着替えグループに分かれて、実際の手術で使用する器具を使った模擬手術体験や、実習キットを用いた縫合・糸結び体験をしました。内視鏡外科トレーニング用エンドトレーナーでの鉗子操作体験では、画面を見ながらの鉗子操作に苦労する場面も見られましたが、楽しみながら実習を体験することができました。

参加者からは、「医師という職業へのあこがれが強まった」、「進路選択の参考になった」等の意見があり、今年度も大盛況のうちに幕を閉じました。





■ Annual Report 2017 2017年(平成29年)度 年報 ■

---

# 病院の概要

# 病院概況

病院基本理念

私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

基本方針

- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
- 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
- 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
- 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院の概要

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院		
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573		
開設年月日	1947年12月23日		
許可病床数	561床 (一般)		
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 岡田仁志		
病院長	藤本吉範		
土地・建物の状況	区分	敷地面積	建物延面積
	病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡
	住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡
	計	16,792.8㎡	34,815.15㎡
診療科目 (計37科)	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科		

病棟別許可病床数 (一般 561 床)

	西棟		東棟	
	階	床	階	床
内(呼消)・放射線治療科	55	8	内(内分泌・腎・透析)	44
内(消化器)・画像診断部	55	7	内(呼・整・呼吸器外科・脳)	43
外・(泌)	54	6	泌・外・皮・精・心療内科	51
整形外科	55	5	脳外・歯科口腔外科	52
産婦・外科系(小)・ドック	46	4	小・耳・眼	43
地域救命救急センター	19	3	内(循環器)・心外・麻酔	44
計	284			277

計 561 床

指定等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院群輪番制病院</li> <li>・災害拠点病院</li> <li>・脳死臓器提供病院</li> <li>・救急指定病院 (救急告示番号第 374 号)</li> <li>・臨床研修指定病院</li> <li>・地域医療支援病院</li> <li>・地域がん診療連携拠点病院</li> <li>・DPC 対象病院</li> <li>・地域救命救急センター</li> <li>・へき地医療拠点病院</li> </ul>
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーション</li> <li>・居宅介護支援事業所</li> </ul>

施設基準

<p>■基本診療料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般病棟入院基本料 (7対1)</li> <li>・総合入院体制加算3</li> <li>・超急性期脳卒中加算</li> <li>・診療録管理体制加算1</li> <li>・医師事務作業補助体制加算1 (15対1)</li> <li>・急性期看護補助体制加算 (50対1)</li> <li>・看護職員夜間配置加算 (12対1配置加算1)</li> <li>・療養環境加算</li> <li>・重症者等療養環境特別加算</li> <li>・栄養サポートチーム加算</li> <li>・医療安全対策加算1</li> <li>・感染防止対策加算1</li> <li>・患者サポート体制充実加算</li> <li>・ハイリスク妊娠管理加算</li> <li>・ハイリスク分娩管理加算</li> <li>・病棟薬剤業務実施加算1</li> <li>・病棟薬剤業務実施加算2</li> <li>・データ提出加算2</li> <li>・退院支援加算1</li> <li>・認知症ケア加算1</li> <li>・精神疾患診療体制加算</li> <li>・救命救急入院料1</li> <li>・特定集中治療室管理料3</li> <li>・小児入院医療管理料4</li> <li>・短期滞在手術基本料2</li> </ul> <p>■特掲診療料に関わる届出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病合併症管理料</li> <li>・がん疼痛緩和指導管理料</li> <li>・がん患者指導管理料1</li> <li>・がん患者指導管理料2</li> <li>・がん患者指導管理料3</li> <li>・糖尿病透析予防指導管理料</li> <li>・外来放射線照射診療料</li> <li>・ニコチン依存症管理料</li> <li>・開放型病院共同指導料 (I)</li> <li>・ハイリスク妊産婦共同管理料 (I)</li> <li>・がん治療連携計画策定料</li> <li>・肝炎インターフェロン治療計画料</li> <li>・薬剤管理指導料</li> <li>・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料</li> <li>・医療機器安全管理料1</li> <li>・医療機器安全管理料2</li> <li>・歯科治療総合医療管理料 (I) 及び (II)</li> <li>・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定</li> <li>・HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)</li> <li>・検体検査管理料 (IV)</li> <li>・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト</li> <li>・ヘッドアップティルト試験</li> <li>・小児食物アレルギー負荷検査</li> <li>・内服・点滴誘発試験</li> <li>・画像診断管理加算1</li> <li>・CT撮影及びMRI撮影</li> <li>・冠動脈CT撮影加算</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓MRI撮影加算</li> <li>・抗悪性腫瘍剤処方管理加算</li> <li>・外来化学療法加算1</li> <li>・無菌製剤処理料</li> <li>・心大血管疾患リハビリテーション料 (I)</li> <li>・脳血管疾患リハビリテーション料 (I)</li> <li>・運動器リハビリテーション料 (I)</li> <li>・呼吸器リハビリテーション料 (I)</li> <li>・がん患者リハビリテーション料</li> <li>・エタノールの局所注入 (甲状腺)</li> <li>・透析液水質確保加算1</li> <li>・下肢末梢動脈疾患指導管理加算</li> <li>・CAD/CAM冠</li> <li>・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算</li> <li>・組織拡張期による再建手術 (一連につき) [乳房 (再建手術) の場合に限る]</li> <li>・脊椎刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術</li> <li>・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検 (併用)</li> <li>・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検 (単独)</li> <li>・乳腺悪性腫瘍手術 (乳頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴わないもの) 及び乳頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴うもの))</li> <li>・ゲル充填人口乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)</li> <li>・経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)</li> <li>・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</li> <li>・大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)</li> <li>・胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上) を伴うものに限る。)</li> <li>・体外衝撃波胆石破砕術</li> <li>・腹腔鏡下肝切除術</li> <li>・体外衝撃波膵石破砕術</li> <li>・腹腔鏡下膵尾部腫瘍切除術</li> <li>・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術</li> <li>・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術</li> <li>・膀胱水圧拡張術</li> <li>・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術</li> <li>・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術</li> <li>・輸血管理料 II</li> <li>・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算</li> <li>・麻酔管理料 (I)</li> <li>・麻酔管理料 (II)</li> <li>・放射線治療専任加算</li> <li>・外来放射線治療加算</li> <li>・高エネルギー放射線治療</li> <li>・1回線量増加加算</li> <li>・画像誘導放射線治療加算 (IGRT)</li> <li>・体外照射呼吸性移動対策加算</li> <li>・直線加速器による定位放射線治療</li> <li>・定位放射線治療呼吸性移動対策加算</li> <li>・病理診断管理加算1</li> <li>・口腔病理診断管理加算1</li> </ul>
認定	<p>日本医療機能評価機構 (区分 4 Ver.6.0)</p> <p>DMAT 指定医療機関 (災害派遣医療チーム)</p>

平成29年4月1日現在

# JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により地域の中核的病院の性格を持つに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドに転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベットに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベットに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
		神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	医療福祉支援センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター
平成26年	4月	電子カルテシステム更新
平成26年	10月	廿日市市地域医療拠点等整備に関する基本協定調印
平成26年	11月	第3駐車場運用開始
平成28年	10月	救命センターHCU病床の高規格化(ICU整備)のため、3床一般病床へ変更
平成28年	11月	老朽化に伴い医師住宅・看護師宿舎解体(平面駐車場整備)







# 呼吸器内科

## ■スタッフ

主任部長 近藤 文 博 (1999年卒)  
 日本呼吸器学会専門医  
 日本内科学会認定医  
 部 長 古 玉 純 子 (2005年卒)  
 日本呼吸器学会専門医  
 日本内科学会認定医  
 医 員 濱 田 亜理沙 (2014年卒)  
 医 員 鳥 井 宏 彰 (2015年卒)

## ■診療科紹介

肺がん代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきました。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲陽圧換気療法（NPPV）の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のように導入されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

### 【肺がん】

肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩を上げています。イレッサを始めとする分子標的薬剤は、耐性遺伝子を標的とした第3世代のEGFR-TKI（タゲ

リッソ）の時代を迎え、また、ALK阻害薬もアレセンサを始めめざましい生存期間延長をもたらしています。さらに、2016年から臨床現場で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬（オプジーボ、キイトルーダ）は医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来EGFR-TKIやALK阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に大きな利益をもたらすこととなりました。当院呼吸器内科ではこれらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺癌治療が行える体制を整えています。また、当院では初診から治療まで呼吸器外科と放射線治療部と連携し、最速で2週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われる。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方々の診療ができればと思います。

さらに、当院では局所麻酔下胸腔鏡などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。



局所麻酔下胸腔鏡による実際の処置中の写真

### 【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり、最

近は治療に難渋する傾向があります。また、肺結核を早期診断し、外来加療を行うとともに結核病棟のある病院への紹介も行っています。さらに、最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

#### 【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっていますが、まだまだ普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスクミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は、喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

#### 【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが、当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

#### 【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近は、導入される開業医の先生方も徐々に増えて来られたので、逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携をはかり、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

# 循環器内科

## ■スタッフ

血管内治療科主任部長

辻山 修 司  
循環器学会専門医

主任部長 前田 幸 治

循環器学会専門医  
CVIT 指導医

主任部長 (心臓カテーテル室担当)

莊川 知 己  
循環器学会専門医  
内科学会専門医

医 員 渡 邊 義 和

循環器学会専門医  
不整脈専門医

医 員 赤 澤 良 太

医 員 池 内 佳 裕

## ■診療科紹介

冠動脈形成術を中心とした冠動脈の治療（急性心筋梗塞は101件/年）、下肢動脈の治療を主に、高血圧や心不全の治療にも力を入れています。

不整脈専門医の渡邊先生を迎えたことで、これまでのペースメーカー治療に加え、心房粗細動や心房頻拍に対するカテーテル治療も軌道に乗ってきました。

### 【冠動脈形成術】

薬剤溶出性 STENT を中心に、必要であればロータブレーターも使用して 220 件/年のカテーテル治療をこなしています。そのうち緊急は 110 件で、夜間でも緊急対応しています。

主に上肢の橈骨動脈からアプローチし、患者さんの負担軽減にも努めています。下肢動脈形成は、心臓血管外科とも連携しながら 10 件/年施行しました。

### 【不整脈】

徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療は 25 件/年施行しました。可能であれば生理的な DDD ペースメーカーを選択するよう努めています。25 件

／年の新規の植込みでした。

頻拍性不整脈に対するアブレーションも現在は火曜日のみの限定ではありますが、48 件/年 施行しました。

特に心房細動に対しての治療は、抗凝固療法の中止や心不全増悪の予防にも効果が見込まれ近隣の医療機関からの要望も増えています。



〈カテーテル室でのアブレーション風景〉

# 腎臓内科

## ■スタッフ

主任部長 荒川 哲次 (1998年広島大学卒業)

日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会透析専門医・指導医

副部長 前田 和也 (2009年北里大学卒業)

日本内科学会認定内科医

日本腎臓学会腎臓専門医

日本透析医学会透析専門医

医員 板倉 崇帆 (2013年広島大学卒業)

医員 新開 泰 (2015年川崎医科大学卒業)

## ■診療科紹介

2017年4月より前田医師・板倉医師・新開医師が新たに着任し、前任の荒川医師と合わせ現在4人体制で診療を行っています。

各医療機関の先生方から多くの患者さんを紹介して頂いており、外来および入院患者数は県内有数です。また、当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会教育関連施設に認定されています。

現在、日本には約32万人の透析患者さんがおり、これは国民450人に1人に相当します。近年の高齢化社会を反映しての糖尿病性腎症と高血圧性腎硬化症の増加に伴い、現在も年1万人弱程度の割合で透析患者数は増加しており、今後もさらに増加することが予想されています。

また、慢性的に腎機能が低下している透析予備軍を「慢性腎臓病」と呼び、現在、日本には約1300万人の慢性腎臓病患者がいると推定されています。これは、成人の約8人に1人にあたる数ですが、こちらも透析患者と同様に急激に増加傾向にあります。「慢性腎臓病」はこれだけ頻度の高い国民病であるにもかかわらず、患者さんの大部分は何の症状もないまま、徐々に腎機能が低下していき、末期腎不全へと進行していきます。また、慢性腎臓病は透析予備軍であるだけでなく、心・血管疾患の発症と生命予後に強く影響を与えていることが多くの研究で明らかにされており、透析回避および心血管疾患の予防の観点から、慢性腎臓病をいかに治療していくかが現在大きな問題となっています。

当科では、原発性糸球体・尿細管間質性疾患、高血圧、糖尿病、膠原病、血液疾患などに伴う全身性腎疾患、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓病に対し幅広く診療に当たっています。腎炎に対しては腎生検を中心とした診断とその診断結果の基づいた集学的な治療を、また腎不全に対しては食事・薬物療法などによる保存的加療および透析療法を実施しています。



写真1 当科での腎生検

透析療法に関しては積極的に腹膜透析 (PD) 導入を推進しているのが当院の特徴であり、また、血液透析 (HD)、各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。



写真2 血液透析室

## ■診療実績

2017年度実績

腎生検数 31例

血液透析患者数 (延べ) 5068件

腹膜透析患者数 24名

## ■教育・研修活動

研究会および学会への参加および発表などを積極的に行っています。また、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

## ■トピックス

常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）について：

常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）とは、腎臓に多発性嚢胞を形成する遺伝性疾患であり、最も頻度の高い遺伝性腎疾患です。両方の腎臓にできた多発性の嚢胞が徐々に大きくなり、進行性に腎機能が低下する疾患であり、約50%の人が腎不全に至ります。わが国の患者数は、約35,000人と推定されており、わが国の透析患者における導入原疾患割合の3%程を占めています。今までは有効な治療法は存在しませんでした。2014年3月26日より、常染色体優性遺伝型多発性嚢胞腎に対して、経口薬剤であるサムスカ錠（トルバプタン）が処方できるようになりました。この薬剤は、日本を含む世界規模の治験により、腎臓の嚢胞が大きくなるのを抑制することが証明されています。これにより、腎機能の低下や、血尿・嚢胞感染などを抑制できる可能性があります。この薬剤を服用していただくためには、病気や治療に対して十分な知識を持つ専門医師のもとで、詳しい説明や検査を受けた患者さんが対象となります。当科では、この新しい治療薬を安全に服用していただけるように、スタッフ一同で体制を整えています。また、治療の相談だけでなく、多発性嚢胞腎についての遺伝相談等も受け付けています。

# 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

## ■ スタッフ

主任部長 石田 和史 (1986年卒、1988年～)  
 部長 三玉 康幸 (2007年卒、2015年10月～)  
 医員 濱岡 彩 (2013年卒、2017年4月～)  
 医員 古森 佑美 (2014年卒、2016年4月～2018年3月)  
 日本糖尿病療養指導士：20名

## ■ 診療状況

**糖尿病** 外来受診患者実数 計3042名 (平均年齢68.2歳、平均罹病期間18.0年、平均通院期間11.7年、インスリン治療者の割合34.7%)  
 (1型糖尿病 7.2%、2型糖尿病 91.3%、その他 1.5%)

糖尿病入院患者 143名 / 他科周術期管理 396名  
 ※ 2008年8月に開始した広島県西部地区糖尿病連携パス紹介患者総数450名 (うち201名が継続通院中、全通院患者の約7%を占める)

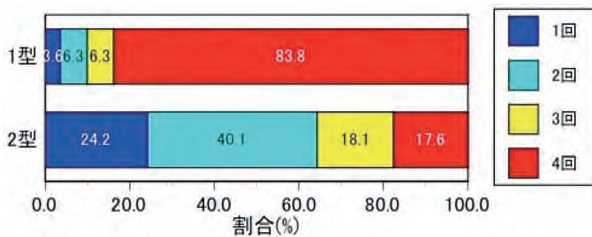


図1 インスリン注射回数の内訳 (1型には緩徐進行型も含む)

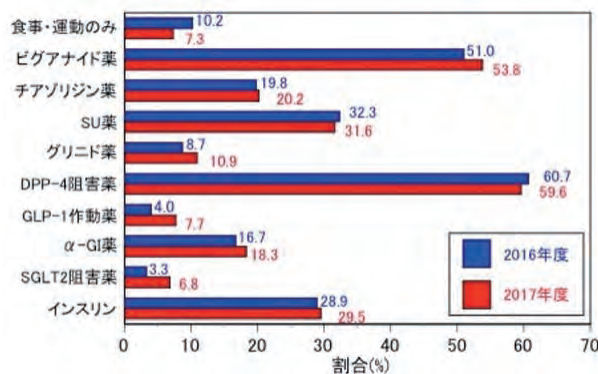


図2 2型糖尿病における治療内容の内訳 (重複あり)

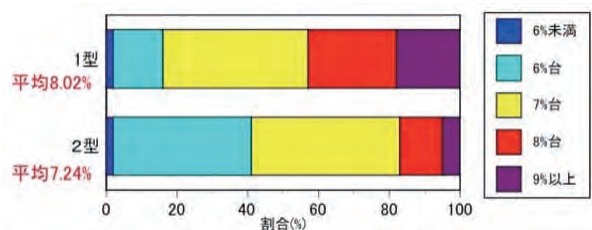


図3 年間平均HbA1cの内訳

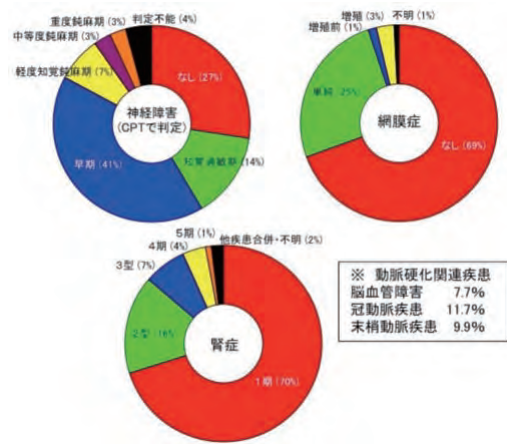


図4 定期通院患者の合併症の状況

**甲状腺疾患** 723名 (バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ / 糖尿病合併例を含む) ※ 甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

**下垂体機能低下症および副腎機能低下症** 若干名

## ■ 研究活動

研究テーマ

- 1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障害の評価・長期成績 (治療戦略を視野に入れた病期分類確立とその応用)



図5 ニューロメーター®(CPT測定装置)

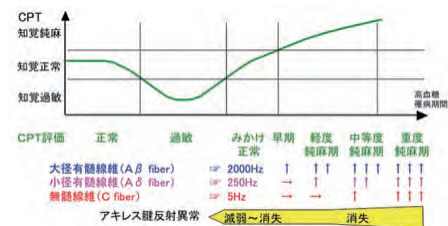


図6 CPTの推移から想定される糖尿病末梢神経障害の自然経過

- 2) 患者 QOL 向上を重視したテーラーメイド治療法確立の試み (各種インスリン製剤・経口血糖降下薬の相異の探求を介して)
- 3) 体組成分析 (インピーダンス法) の経時的観察を用いた臨床研究 (特に、SGLT2 阻害薬使用者、運動療法に関して)
- 4) ビグアナイド薬投与症例における血漿乳酸値の変動に関する研究
- 5) CGM を用いた薬剤効果の比較研究



# 消化器内科

## ■ スタッフ

副院長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長

徳毛 宏 則 (Hironori Tokumo) 1980 年卒  
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医  
消化器内視鏡学会専門医・指導医

内視鏡科主任部長、緩和ケア科主任部長

小松 弘 尚 (Hironao Komatsu) 1985 年卒  
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医  
消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長、消化器内科部長

相坂 康 之 (Yasuyuki Aisaka) 1990 年卒  
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医  
肝臓学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長 (代謝領域担当)、消化器内科部長

兵庫 秀 幸 (Hideyuki Hyogo) 1992 年卒  
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医  
肝臓学会専門医、消化器内視鏡学会専門医

膵・胆道内科主任部長、消化器内科部長

藤本 佳 史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒  
認定内科医、消化器病学会専門医・指導医  
胆道学会認定指導医

食道・胃腸内科主任部長、消化器内科部長

古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒  
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医  
消化器内視鏡学会専門医

消化器内科部長

野中 裕 広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒  
総合内科専門医、消化器病学会専門医・指導医  
消化器内視鏡学会専門医・指導医  
肝臓学会専門医、がん治療認定医

医 員 末 廣 洋 介 (Yousuke Suehiro) 2013 年卒  
認定内科医

医 員 隅 岡 昭 彦 (Akihikoi Sumioka) 2014 年卒

医 員 村 田 愛 (Ai Murata) 2014 年卒

## ■ 診療科紹介とトピックス

消化器内科の診療スタッフは総勢 10 名となっています。消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。当科では、各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾

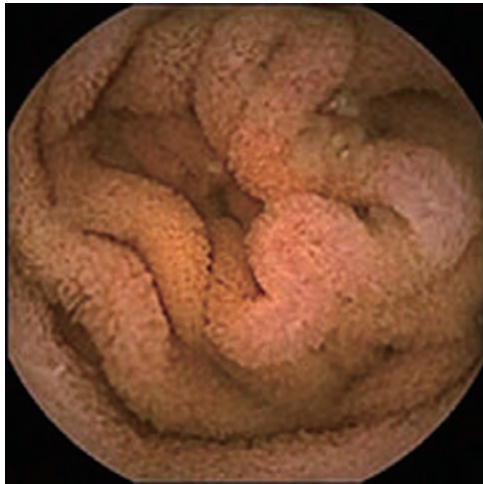
患に適切に対応することができる体制となっています。

当科は近隣の病院やクリニックとの連携に力をいれており、様々な勉強会研究会共同活動を行っています。主な活動をあげると、RIGD Net (固い絆：地域相互消化器医師ネットワーク)、広島肝臓疾患フォーラム、広島西部地域食道胃腸疾患研究会、膵癌胆道癌教室、広島胃瘻と経腸栄養療法研究会 (広島ページェント) などです。これらの情報は、末尾の JA 広島総合病院消化器内科フェイスブックから確認できます。

当科では「膵臓がん胆道がん教室」という、患者さんやご家族を対象とした患者支援事業を行っています。当院医師や地域の先生方のみならず、多職種専門職とともに毎月 2 回全 4 回のシリーズで様々な催しを行っています。



2017 年度の当科の大きな話題は、「小腸カプセル内視鏡検査」を本格的に開始したことです。小腸カプセル内視鏡検査は、外径 11mm、長さ 26mm のカプセル型の内視鏡を飲み込んで検査を行います。カプセル内視鏡が撮影した画像は、患者さんの腰につけた記録装置に送信され記録されます。小腸内の撮影は約 8 時間ですが、その間に患者さんは帰宅し、通常の生活を送ることも可能です。カプセル内視鏡は、組織検査や治療は行えませんが、患者さんの体への負担が少ないため、原因不明の消化管出血や炎症性の腸疾患が疑われた際にまず外来で行われる検査となります。



肝臓領域では、肝臓疾患の専門指導医である相坂康之により最新の抗ウイルス薬による治療が行われています。C型肝炎の治療は、2011年に抗ウイルス内服薬とインターフェロン注射、リバビリン内服薬の3剤の併用療法が認可され、2014年には、内服薬だけでウイルスの排除ができる抗ウイルス薬が登場しました。さらに最近では、12週間という短い期間の治療で済む抗ウイルス薬が登場して、治療の選択肢が広がりました。現在まで当院では多数の患者様がこれらの治療を受け、治癒効果は9割以上の高率であり、C型慢性肝疾患は治る病気であると言える状況になっています。

肝臓領域でのもう一つの大きな話題は非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）です。いわゆるお酒を飲まない人に起こる脂肪肝のことで、この領域のリーダーである兵庫秀幸と野中裕広がNASH専門外来を開設し診療しています。さらに、全国多施設での共同研究を進めるとともに糖尿病治療薬によるNASH改善の多施設共同の臨床研究なども進めています。

消化器内科のさまざまな検査処置を行う場である内視鏡センターでは、充実した内容の診療をしています。経鼻内視鏡など人に優しい内視鏡機器、安楽な内視鏡検査処置を目的として二酸化炭素送気による検査や鎮静麻酔下での内視鏡処置なども行っています。

食道や胃腸といった消化管の分野では、早期癌等に対して内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という侵襲の少ない革新的な方法のプロフェッショナルである古土井明が活躍しています。また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。

### ■ 研究活動

当科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

### ■ 検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数（2017年度）	
上部消化管内視鏡検査（含小腸内視鏡）	4989
上部消化管内視鏡処置（含EUS）	374
十二指腸内視鏡検査処置（ERCP等）	454
小計	5817
下部消化管内視鏡検査	1395
下部消化管内視鏡処置治療	982
小計	2377
全消化管検査処置合計	8194
腹部超音波検査（含造影US）	4915
腹部超音波下処置	139
超音波関連検査処置合計	5054
その他（造影等）	145
消化器内科検査処置合計	13393



フェイスブック <https://www.facebook.com/GHJAAGH>

# 小児科

## ■ スタッフ

主任部長	辻 徹 郎 (1993 年卒)
	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医
部 長	二 神 良 治 (2008 年卒)
	日本小児科学会専門医
副 部 長	森 本 彩 (2011 年卒)
	日本小児科学会専門医
医 員	早 川 博 子 (2015 年卒)
嘱託医師	中 島 千 恵 子 (1970 年卒)
	日本小児科学会専門医・指導医
嘱託医師	岡 島 宏 易 (1980 年卒)
	日本小児科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医

## ■ 診療科紹介

2017 年は 2016 年から引き続き常勤医師 4 名、嘱託医師 2 名の計 6 名で外来、病棟診療を行っています。常勤医師の辻、嘱託医師の岡島の両名はアレルギー領域を専門としており、感染症をはじめとする一般小児科診療に加え、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患に対しては特に専門的診療が可能となっています。

気管支喘息診療に関しては、県内でもトップクラスの肺機能検査実施件数を誇り、呼気 NO 濃度測定や気道過敏性検査なども積極的に実施しています。昨年から強制オシレーション法による呼吸抵抗の測定も可能となり、これまでは肺機能の客観的評価が困難であった低年齢児での肺機能検査件数も増えつつあります。

アトピー性皮膚炎診療に関しては、生後早期からの保湿剤を用いたスキンケアの導入による発症予防を積極的に心がけています。発症後の治療に関しても、アレルギーマーチ進行を抑制する観点から、ステロイド外用剤を上手く用いた積極的な寛解維持療法により、新たな抗原感作を防ぐことや食物アレルギーの合併対策を行っています。

食物アレルギー診療に関しては、経口負荷試験による正確な原因食物の診断及び必要最低限の除去を行い栄養面での問題を最小限にするとともに、近年

は早期の耐性獲得を目的として、原因食物を普段から少量ずつ摂取する経口免疫療法を行う症例も増えつつあります。

勿論、こどもの総合診療医として、アレルギー領域に偏らず幅広い領域の診療ができるよう研鑽を積むとともに、必要に応じて各領域の専門医が所属する県内医療機関との速やかな連携も可能です。

時間外診療に関しましては人手の問題から原則行っておりませんが、救急搬送される重症患者に関しては、当院救急部とも連携のうえ可能な範囲内で診療を行っています。

## ■ 診療実績

### 食物アレルギー経口負荷試験

2010 年	51 件	2011 年	50 件
2012 年	77 件	2013 年	267 件
2014 年	322 件	2015 年	480 件
2016 年	461 件	2017 年	500 件

### 肺機能検査

2016 年	147 件	2017 年	183 件
--------	-------	--------	-------

### 呼吸抵抗測定

2016 年	79 件	2017 年	69 件
--------	------	--------	------

### 気道可逆性検査

2016 年	170 件	2017 年	133 件
--------	-------	--------	-------

### 気道過敏性検査

2016 年	11 件	2017 年	5 件
--------	------	--------	-----

### 脳波検査

2012 年	540 件	2013 年	545 件
2014 年	492 件	2015 年	485 件
2016 年	492 件	2017 年	402 件

### 成長ホルモン分泌刺激試験

2012 年	27 件	2013 年	34 件
2014 年	29 件	2015 年	32 件
2016 年	52 件	2017 年	26 件

### 心エコー検査

2017 年	43 件
--------	------

# 外科

## ■スタッフ

副院長、医療福祉支援センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)  
日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会認定医

化学療法室 室長

今 村 祐 司 (1983 年卒)  
日本外科学会専門医・指導医  
日本消化器外科学会専門医

診療部長、一般外科センター長、肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993 年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科主任部長

田 崎 達 也 (1997 年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長 (上部消化管外科担当)

杉 山 陽 一 (1997 年卒)  
日本消化器外科学会専門医・指導医  
日本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長

上 神 慎之介 (2001 年卒)  
日本消化器外科学会専門医  
日本大腸肛門病学会専門医

肝・胆・膵外科部長

新宅谷 隆 太 (2008 年卒)  
日本外科学会専門医  
日本消化器外科学会専門医

医 員： 亀 田 靖 子 (2012 年卒)  
日本外科学会専門医

医 員： 田 妻 昌 (2013 年卒)

医 員： 新 原 健 介 (2014 年卒)

医 員： 宮 下 浩 平 (2014 年卒)



## ■診療科紹介

臓器別チームに分かれて、ガイドラインに基づいた専門性の高い診療を行っています。

上部消化管 (杉山)、下部消化管 (香山、上神)、ヘルニア (田崎) 領域では、県下で数少ない内視鏡外科学会技術認定医資格を有したスタッフが手術、指導にあたり、低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に行っています。

肝・胆・膵領域 (佐々木、新宅谷) では、高度技能指導医資格を有したスタッフが手術、指導にあたり、安全な手術と周術期管理をこころがけています。保険適応となっている腹腔鏡下肝切除 (肝部分切除、肝外側区域切除)、腹腔鏡下膵体尾部切除も、適応を選び、行っています。

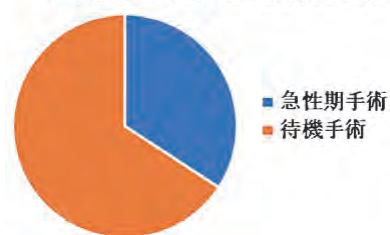


写真：腹腔鏡下肝切除

高度進行癌に対しては、消化器内科・放射線治療科・画像診断部などとカンファレンスを行い、化学療法、放射線治療を含めた集学的治療を行っています。

Tokyo Guideline に基づき、胆嚢炎に対する急性期腹腔鏡手術を積極的に行っています。その他、急性虫垂炎、消化管穿孔、腸閉塞など、急性腹症に対する腹腔鏡手術も、積極的に行っています。

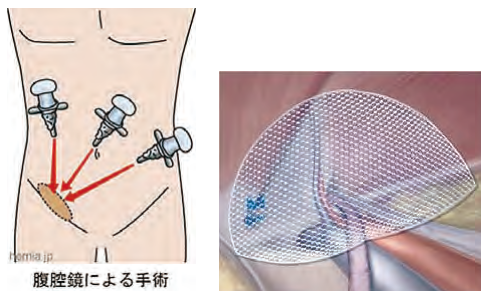
胆嚢摘出における急性期手術の割合



## 診療実績

主な手術件数は以下のとおりです。

- ・上部消化管外科
  - 食道癌手術 5 例、食道裂孔ヘルニア 1 例、胃・十二指腸潰瘍 12 例、胃悪性腫瘍手術 72 例（うち腹腔鏡 34 例）、胃空腸バイパス術 2 例、審査腹腔鏡 8 例。
- ・下部消化管外科
  - 大腸癌手術 169 例（腹腔鏡 121 例）、直腸良性疾患 17 例、人工肛門造設 10 例、虫垂切除 55 例（腹腔鏡 48 例）、腸閉塞手術 39 例（腹腔鏡 2 例）
- ・肝胆膵外科
  - 肝切除 28 例（腹腔鏡 7 例）、膵頭十二指腸切除 15 例、膵体尾部切除 10 例（腹腔鏡 4 例）、膵全摘 1 例、胆嚢癌切除 2 例、胆石・総胆管結石手術 157 例（腹腔鏡 143 例）
- ・ヘルニア外科
  - 鼠径部ヘルニア 192 例（腹腔鏡 170 例）、腹壁ヘルニア 18 例（腹腔鏡 10 例）、閉鎖孔ヘルニア 2 例
- ・甲状腺外科
  - 甲状腺良性腫瘍 7 例、悪性腫瘍 11 例、副甲状腺腫瘍 1 例



腹腔鏡による手術

図：鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術

## 研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本外科感染症学会の修練・認定施設です。

全国学会、広島臨床腫瘍外科研究グループなどが主催する臨床試験に登録、参加しています。

日本環境感染学会および厚生労働省による手術部位感染サーベイランスに参加しています。

## その他の活動

将来の外科医を発掘すべく、毎年4月には、入職したばかりの初期研修医を対象とした縫合・結紮講習、夏には高校生を対象とした外科セミナー（写真）を行っています。



11月のオープンホスピタルでは、地域住民の皆様を対象に「鼠径ヘルニア（脱腸）ってなに？」という公開講座を行いました。



# 乳腺外科

## ■スタッフ

主任部長 川 渕 義 治 (1994 年卒)  
日本外科学会専門医  
日本乳癌学会専門医

部 長 大 原 正 裕 (2000 年卒)  
日本外科学会専門医  
日本乳癌学会専門医/指導医

部 長 板 垣 友 子 (2002 年卒)  
日本外科学会専門医  
日本乳癌学会認定医

## ■診療科紹介

2017 年は 2016 年よりも一名増員となり、上記 3 名体制で診療を行いました。初診の患者さんをお待たせしないように、初診のためだけの外来を開設しました。年間 600 名近くの初診患者さんに来院いただき、患者さんの外来での動線短縮を目的に、外来診察室にて臨床検査科・中央放射線科技師による乳腺エコー業務を行っています。

手術においては、年々件数の増加を見ます。内訳は部分切除が増加しており、部分切除が可能である早期発見が来ていることも要因であると考えます。

また、乳房切除術後の乳房再建手術も増加しており、保険適応になったことが浸透してきた効果です。外来化学療法も外来化学療法室に対応いただきながらエビデンスにのっとり副作用対策を進めています。手術・放射線治療・化学療法・内分泌療法・分子標的治療を用いて、その方その方に応じた適切な治療方針を設定し、カンファレンスを中心に他職種との連携により、患者さんのニーズに合う診療を行っています。

近年科学技術の進歩に伴い、乳癌に限らず新規の分子標的薬が登場しています。当院においても遅滞なく標準治療が行えるように、知識の習得に努めています。

今後も、院外の地域連携・院内のチームのサポートをいただきながら、広島県西部の乳腺疾患をお持ちの患者さん・ご家族の“Satisfaction”の向上を目指した取り組みを継続してまいります。

## ■診療実績

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術

胸筋温存乳房切除術	83
皮膚温存乳房切除術	4
乳頭温存乳房切除術	6
乳房部分切除術	81
腫瘍摘出術	1

小計 (件) 175

腋窩リンパ節郭清	34
センチネルリンパ節生検	
→腋窩リンパ節郭清	4
センチネルリンパ節生検	109

乳房再建

エキスパンダー	6
インプラント	10
腹直筋皮弁	8

乳腺再発手術

小計 (件) 3

乳腺良性手術

小計 (件) 21

その他

小計 (件) 2

合計 (件) 201

〈外来化学療法〉

術前化学療法	11
術後化学療法	38
進行再発化学療法	54
合計 (名)	<u>103</u>

## 整形外科

### ■ スタッフ

病院長 藤本 吉 範 (2002年4月～)  
 主任部長 鈴木 修身 (2013年4月～)  
 部長 山田 清 貴 (2009年4月～)  
 部長 橋本 貴 士 (2011年4月～)  
 部長 中前 稔 生 (2012年4月～2017年9月)  
 部長 平松 武 (2015年4月～)  
 部長 須賀 紀 文 (2017年10月～2017年12月)  
 部長 古高 慎 司 (2018年1月～2018年3月)  
 医員 丸山 俊 明 (2017年4月～)

以下の如く各スタッフが専門領域を担当しています。

脊椎・脊髄疾患：藤本、山田、中前、平松

手外科・微小外科・リウマチ外科：鈴木

関節外科：橋本

外傷：鈴木、橋本、平松、丸山

### ■ 診療状況

整形外科は2017年4月から丸山医師が赴任し、藤本病院長以下7名が常勤として勤務しています。9月末で中前医師が退職し、以後須賀医師、古高医師が3ヵ月交替で勤務しました。また広島大学整形外科より3名の非常勤医師の派遣を受け、近年の手術件数のさらなる増加に対応しています。当科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2017年度の初診患者数は3013名で、引き続き多くの患者さんを紹介して頂いています。また地域医療支援病院紹介率は106.2%で、当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2017年度の手術件数は1495例で、毎年継続して増加しています。そのうち頸椎手術が133例、腰椎手術が530例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当院整形外科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本病院長のもとで紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

また当科では経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011年からは経皮的後弯矯正術として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2017年度の後弯矯正手術例は111

例です。さらに腰椎椎間板ヘルニアの治療では、当院では顕微鏡視下ヘルニア摘出術を基本術式としていますが、新しい手術方法である経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術も行っており、2017年度までに57例と症例数が増えてきています。

2013年に病院内に開設された脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、副センター長：平松 武）は、脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながらチームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損傷や化膿性脊椎炎など重篤な障害の治療も、積極的に行っています。

主任部長の鈴木は手外科、リウマチ外科の診療を行うとともに、微小外科の領域でも診療しており、外傷では切断指再接着や複合組織欠損に対する遊離組織移植術を行っています。また地域の先生方から骨壊死の患者さんを紹介して頂き、血管柄付き骨移植を行うことも増えています。

また整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、橋本部長が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

骨折や靭帯損傷など整形外科の基本的な外傷は、2011年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身状態のチェックを受けた上で、整形外科的外傷に対して、質の高い治療を行うよう心がけています。また大腿骨頸部骨折の手術と後療法については、アマノリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院と当院で地域連携診療を行っており、年4回の連絡会議を行い、円滑に治療が進むように努めています。

手術症例数が多いのが当科の特徴です。しかし一方で学会や研究会での活動も大切と考え積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えていきます。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けて行きたいと考えています。

# 形成外科

## ■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003年広島大学卒業)  
 日本形成外科学会専門医、医学博士  
 形成外科一般 小児形成外科分野指導医

## ■ 診療科紹介

当院に形成外科を開設していただいて6年が経過しました。院内他科、近隣開業医の方々のご紹介で年々患者数は増加し、昨年は形成外科教育関連施設に昇格することができました。偏にみなさまのご協力の賜物と心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

形成外科が対象にする疾患は多岐にわたりますが、当科では主に露出部の腫瘍性病変、眼瞼下垂、乳房再建、下肢の難治性潰瘍が大多数を占める傾向にあります。症例数は多くはありませんが、頬骨骨折、先天性形態異常(耳瘻孔、副耳、頸嚢胞)も手がけましますし、何科で対応すればいいかよく変わらない深部腫瘍や感染性病変への対応もしています。臓器別の診療体系が進む中でこそ生じる隙き間を埋められる存在であることも、当科の重要な役割であると最近では考えるようになりました。

## ■ 診療実績

初診患者数	318例
手術症例数	計 236件
内訳 全身麻酔	52件
腰麻・伝達麻酔	25件
局所麻酔	159件

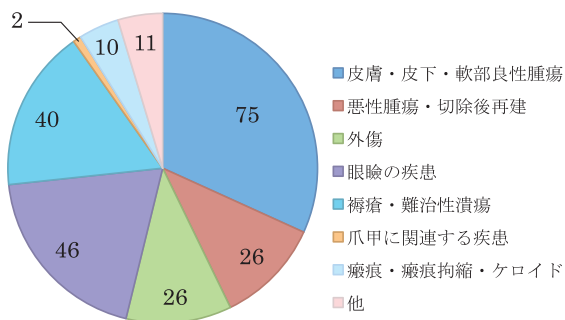


図1 2017年 形成外科手術内訳

## ■ トピックス

### ・小児形成外科分野指導医の取得

形成外科の専門分野は、手外科分野指導医、美容外科分野指導医、創傷外科分野指導医、頭蓋顎顔面外科分野指導医、熱傷分野指導医、皮膚腫瘍外科分野指導医、小児形成外科分野指導医があり、専門性は多岐にわたります。当科は今現在、一人体制ですので、専門性にあまり特化せず、形成外科一般を手がけていきたいとは考えていますが、この度、小児形成外科分野指導医を取得しました。多合趾症などの四肢の先天疾患、副耳、耳瘻孔、頸嚢胞などの頭頸部の先天疾患、小児の皮膚腫瘍や外傷、瘢痕拘縮、内反症など、小児を対象にした疾患の集患を目指していきたいと考えています。

### ・眼瞼下垂症の手術実績

開設当初より力を入れていた眼瞼下垂症例ですが、今年度までの累積数が100件を超えました。上眼瞼を構成する皮膚、眼輪筋、上眼瞼挙筋、ミュラー筋、結膜のどの組織もとても薄く、手術には繊細な操作が求められます。1mmの左右差が患者の不満につながることもあり、納得いくまで修正を重ねて手術成績の向上に努めてまいりました。とても興味深い疾患であり、引き続き症例数を伸ばしていければと考えています。

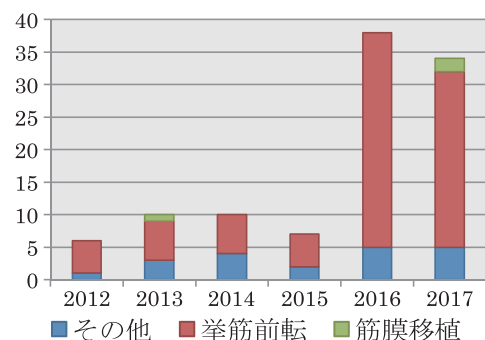


図2 眼瞼下垂手術症例 年間推移



# 脳神経外科

## ■ スタッフ

急性期リハビリテーションセンター長、主任部長

黒木 一彦 (1991年広島大学卒)  
日本脳神経外科専門医  
日本救急医学会専門医  
日本脳卒中学会認定医

部長 品川 勝弘 (2002年広島大学卒)

日本脳神経外科専門医  
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

部長 野坂 亮 (2004年大分大学卒)

日本脳神経外科専門医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

上記のスタッフで地域市民の脳を24時間体制で守っています。

## ■ 診療科紹介

脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2017年では593人の入院がありました。2017年手術数は、合計278例；脳動脈瘤手術41例（clipping 29例）、頸動脈ステント留置術（CAS）19例、脳腫瘍摘出術21例、血行再建術10例、頸動脈血栓内膜剥離術（CEA）5例、動静脈奇形（AVM）摘出術4例、開頭血腫除去術36例、慢性硬膜下血腫64例、カテーテル治療46例でした。

代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が不要なく、内服しやすくなっています。また、発症4時間30分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（tPA）の投与、発症8時間以

内で条件を満たす疾患であれば、カテーテルによる血栓除去も可能となっています。最近では24時間以内であっても条件を満たせば治療可能な症例もあることがわかってきています。このように脳梗塞は時間との闘いになり、救急・集中治療科の医師と連携し、迅速に対応しています。3人の脳神経外科医師が24時間常に待機状態を強いられる過酷な勤務状況ですが、幸い皆仕事に興味な人たちなので前向きに仕事に取り組んでいます。

また、一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療やカテーテル治療による血管拡張術（CAS）を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては、浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈—中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くをしめています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

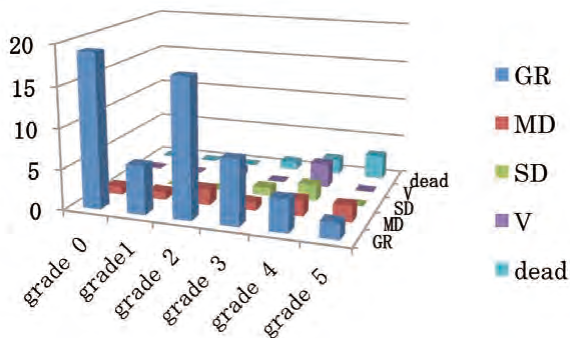
【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂をおこすことで生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床突起近傍動脈瘤

はコイル塞栓術のよい適応です。以前はwide neckな動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近ではステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。



ステントアシストコイルの模式図

開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤やwide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。

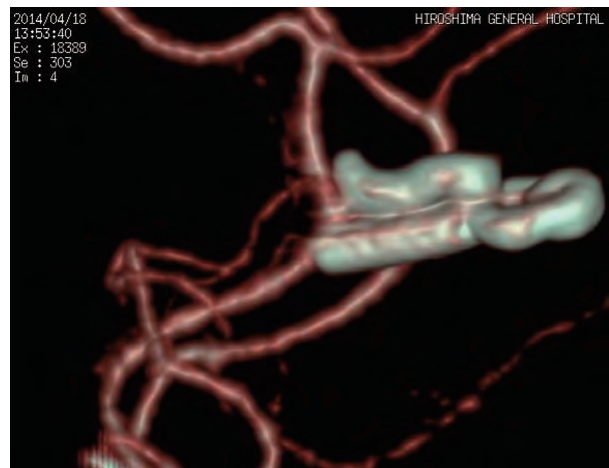
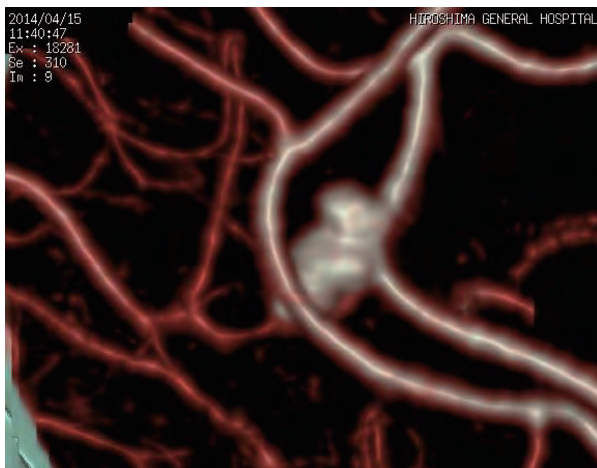


(grade0; 無症状、grade Vは昏睡状態です)  
開頭クリッピング術治療成績

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は1年間に10万人あたり10人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると100種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため(生検)、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。脳内に発生する神経膠腫はgrade I-IVまでありますが、浸潤性に発育するため治癒が困難であり、特にgrade IVにおいては30年以上にわたり治療成績の目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。

これまで当科では年齢を考慮、手術治療を選択してきましたが、高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は乏しいと感じています。

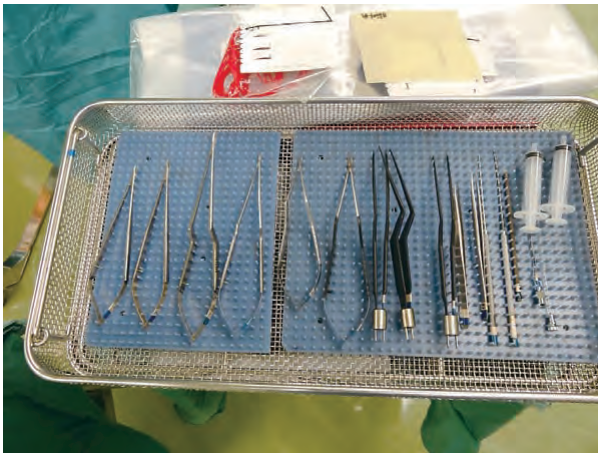
実際手術成績も他施設と比較し遜色はないと自負しています。



遠位前大脳動脈瘤破裂  
脳動脈瘤クリッピング前後の3D-CT画像

【慢性硬膜下血腫】頭部外傷後1か月くらい経過して発症することが多い疾患です。硬膜下に徐々に血腫が貯留し、脳を圧迫することで歩行障害や手の巧緻運動障害、認知症などの症状を呈し、認知症と

誤認されることもあります。穿頭洗浄術という簡単な手術で症状の改善がみられ、脳神経外科領域では最も多くみられる疾患です。



# 呼吸器外科

## ■スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (1986年卒)  
日本呼吸器外科学会評議員  
日本外科学会指導医  
医 員 熊 田 高 志 (2010年卒)  
日本外科学会専門医  
医 員 伊 藤 林太郎 (2014年卒)

## ■診療科紹介

2001年10月に開設され、16年が経過しました。近年増加の一途である肺癌は、日本人の癌死亡の1位となっています。今日、外科分野では内視鏡を用いる内視鏡手術が主流となっています。大きく開胸して行う場合と比較し、低侵襲と言われています。故に、より専門性の高い技術が要求され、呼吸器外科専門医による専門的な診療、手術が必要です。

最近の年間手術症例は130-150例、そのうち肺癌根治術は50-70例を行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用しています。

また、肺疾患（COPDなど）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を2009年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。低体力、低肺機能の肺癌症例に上記の術前管理を応用して根治術を行っています。

また、肺癌をより早期で発見するために、胸部CT検診も2002年より人間ドックのオプションとして行っています。胸部CT検診の有用性は2011年の米国の報告（NLST）で証明され、県内でも実施する施設が増えてきました。しかし被曝線量を考慮し低線量CTで行う必要があり、胸部CT検診認定医による検診が必要です。

## ■診療実績

2017年度までの手術件数を図1に示します。上記の術前チーム医療を行うようになり、術後合併症は激減しています。

また2012年7月より開始した術前肺機能外来（図2）による潜在COPD患者の診断治療については、国内外の数多くの学会で発表してきました。COPDは今後日本人の死亡原因として上位にランクされるようになる疾患です。そのために健康日本21（第2次）でもCOPDの認知度の向上とその早期発見を目標としています。我々は術前肺機能外来という新規のシステムにより当院の外科系の全診療科の手術患者に対して、術前肺機能検査を通して潜在COPD患者の発見とより良い周術期管理が期待できる新たな取り組みを提供しています。そして当院で術前診断されたCOPD患者さんは退院時にかかりつけ医に逆紹介し、COPDの継続治療をお願いする病診連携を行っています（図2）。

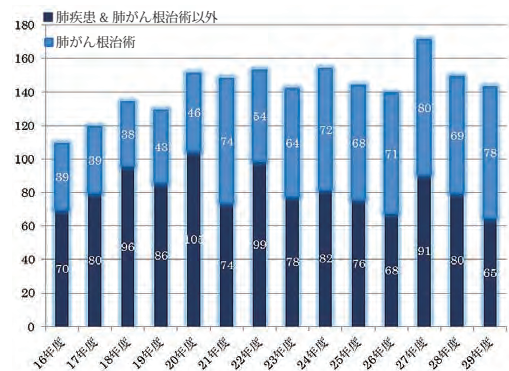


図1 肺癌根治術件数とその他の手術件数の推移

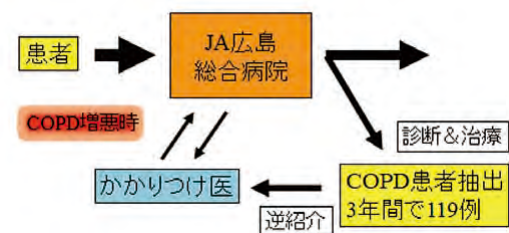


図2 COPD 病診連携

## ■研究活動

ハイリスク肺癌手術における工夫  
術前から開始する総合的周術期管理  
術前肺機能検査によるCOPDスクリーニング

# 心臓血管外科

## ■ スタッフ

- 主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)  
心臓血管外科専門医、修練指導医、  
外科学会専門医、指導医
- 主任部長 (血管外科担当)  
小 林 平 (1999 年卒)  
心臓血管外科専門医、脈管専門医
- 部 長 小 澤 優 道 (2001 年卒)  
胸部ステントグラフト指導医、  
腹部ステントグラフト指導医
- 医 員 海 氣 勇 気 (2012 年卒)

## ■ 診療科紹介

### 心臓弁膜症

僧帽弁疾患はリウマチ熱に起因する僧帽弁狭窄症が激減し、加齢変性に伴う僧帽弁閉鎖不全症 (MR) が増加しています。75 歳以上であれば 10 人に 1 人が MR を有しています (Nkomo VT, et al. Lancet 2006 ; 368 : 1005-1011)。

- MR は器質性 MR と機能性 MR に分類されます。器質性 MR は進行性で、無症状のうちに左室拡大と左室機能低下が進行していきます。器質性 MR は無症状であっても心事故発生率が増加するため早期手術が推奨され、手術によって死亡率を 70% 低減することが可能です (Enriquez-Sarano M, et al. N Engl J Med. 2005 ; 352 : 875-883)。
- 機能性 MR は、虚血性心疾患や心筋症による左室拡大に伴って二次的に発生する MR です。最近では長期間の持続性心房細動に続発する心房性 MR が話題となっています。機能性 MR は手術時期が決定しにくく、内科的治療を継続するうちに心機能低下が進行し治療時期を逸してしまうこともあります。
- MR 治療の第一選択は自己弁を温存した弁形成術です。僧帽弁複合体 (弁尖、弁輪、腱索、乳頭筋) の異常を心臓超音波検査で同定し、その異常を修整する形成手技をいくつか組み合わせて実施しています。
- 当科における 2013 年から 2017 年の僧帽弁手術数は下図のように推移しており、約 70% の症例が形成術の適応となっています。形成術が困難で置換術に術式変更した割合は約 6% となっています。

### 大動脈疾患

大動脈疾患は“瘤”と“解離”に大別され、“瘤”

は大きさと形状、“解離”は発生部位により治療の必要性が検討されます。低侵襲のステントグラフト治療が大動脈疾患の確立した治療法となり、これまで唯一の治療法であった人工血管置換術では治療困難なハイリスク症例に対しても治療の道が拓かれました。さらに、2つの治療を組み合わせるハイブリッド治療や、これまで保存的治療が基本だった B 型解離に対する積極的治療介入、など今なお大動脈疾患の治療戦略は変化しています。

人工血管置換術とステントグラフト治療にはそれぞれ長所と短所があり、それらに精通し適切に選択することで治療成績は向上しています。当院における 2017 年の大動脈手術症例は 58 例 (人工血管置換術 : 30 例、ステントグラフト治療 : 28 例) であり、手術死亡率は待期手術 0% (0 例 / 45 例)、緊急手術 7.7% (1 例 / 13 例) でした。

### 末梢動脈疾患

重症下肢虚血は今まで難治性と言われ、下肢切断に陥る場合が多い疾患でした。当院では 2009 年より弁切開刀を使用したバイパスで、下腿、足部を中心に血行再建を施行しています。この分野では日本有数の施設であり、8 割以上の症例で下肢を救うことができるようになってきました。2017 年は 314 例に血行再建術を施行、うち重症下肢虚血に対する下腿へのバイパスは 78 例に、血管内治療は 241 例に施行しました。

### 静脈疾患

2017 年より下肢静脈瘤に対して低侵襲治療であるラジオ波焼灼術を開始しました。2017 年は 48 例の下肢静脈瘤手術を行い、24 例でラジオ波焼灼術を行いました。手術合併症はありませんでした。

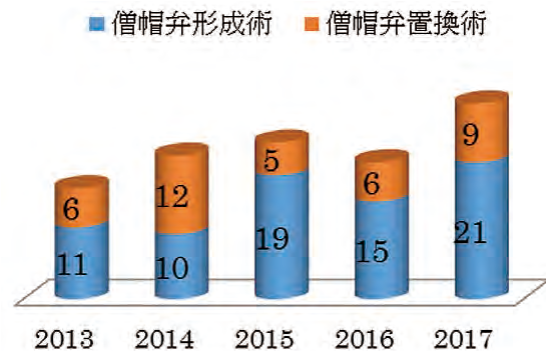


図 僧帽弁疾患の治療推移

# 皮膚科

## ■スタッフ

主任部長 北野文朗 (2002年卒)

資格：皮膚科専門医  
専門：皮膚科一般

副部長 小林紘子 (2010年卒)

専門：皮膚科一般

医員 田中友里恵 (2014年卒)

専門：皮膚科一般

非常勤医師 吉屋直美 (2001年卒)

資格：皮膚科専門医  
専門：皮膚科一般

## ■診療科紹介

皮膚科の診療内容としては、外来診療において湿疹・皮膚炎群などの炎症性疾患、带状疱疹・蜂窩織炎などの感染症、皮膚の自己免疫疾患、良性・悪性の皮膚腫瘍など、皮膚疾患を全般的に扱っています。

現在は病診連携の一環で軽症な疾患は開業医の先生で診療していただき、重症な疾患や手術が必要な症例は総合病院で診療する分業化が進んでいます。まずは開業医の先生方に診察をしていただき、総合病院を受診する必要があるのか無いのかを判断していただいたうえで、当院へご紹介いただいています。患者さんにはご迷惑をおかけしますが、ご協力のほど宜しくお願いします。また緊急で入院が必要な重症皮膚疾患の患者さんに対しては、今後も変わらず全力で対応していきます。

## 外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前	朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置					
午前	1診	北野	北野	北野	北野	北野
	2診	小林	小林	小林	小林	小林
	3診	田中	田中	田中	田中	田中
	4診	吉屋		吉屋		吉屋
午後		手術室手術	小手術	小手術	小手術	手術室手術
		病棟処置および他科の患者さんの往診				
		病棟回診				

## ■最近のトピックス

近年、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、じんま疹、これらの重症で難治な症例に対して生物学的製剤が適応となり高い効果を得ています。

### 尋常性乾癬

皮膚科領域では生物学的製剤が最も進歩している分野です。尋常性乾癬とは、皮膚における免疫異常により皮膚の炎症や新陳代謝が異常に高まることで、全身の皮膚に紅斑、肥厚、鱗屑といった皮膚症状が現れる疾患です。過剰に増加した免疫物質（TNF $\alpha$ 、IL-23、IL-17など）をブロックすることで、高い治療効果を発現します。2018年7月現在で、ブロックする免疫物質の種類に応じて7製剤が承認されており、患者さんの症状に応じて選択していきます。

### アトピー性皮膚炎

基本治療は、従来のステロイド外用剤、免疫調整外用剤、保湿剤の外用や抗ヒスタミン剤の内服などです。従来の治療で効果が乏しい重症な患者さんが適応となります。アトピー性皮膚炎の増悪因子と考えられているIL-4、IL-13をブロックして皮膚症状を改善します。

### じんま疹

基本治療は、従来の抗ヒスタミン剤の内服が第一選択です。従来の治療で効果が乏しい重症な患者さんが適応となります。じんま疹の誘因と考えられているIgEをブロックして皮膚症状を改善します。

すべての生物学的製剤に共通するのは、これらの製剤は症状を抑制する効果はあるものの根治するものではないということです。そのため、治療効果を持続するには継続的な治療が必要になります。また実際の導入において一番大きな難点は、どの製剤も非常に高価であるということです。高額療養費制度が利用できる場合や、加入している保険組合によっては医療補助などがある場合があります。導入の際には詳細を説明させていただきます。

# 泌尿器科

## ■ スタッフ

顧問、医療秘書室長

小深田 義 勝 (1979 年卒)  
日本泌尿器科学会専門医 指導医  
日本がん治療認定医機構暫定教育医

主任部長 加 藤 昌 生 (1996 年卒)  
日本泌尿器科学会専門医 指導医  
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医  
日本排尿機能学会認定医

部 長 増 本 弘 史 (2001 年卒)  
日本泌尿器科学会専門医 指導医  
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医

副 部 長 赤 坂 保 行 (2011 年卒)  
日本泌尿器科学会専門医

医 員 田 坂 亮 (2015 年卒)

## ■ 診療科紹介

当科は、多くの手術を従来の開腹手術から腹腔鏡手術に移行し、治療成績の向上とともに、より低侵襲な治療を目指しています。2017年4月より加藤昌生が赴任し、腹腔鏡技術認定医2人体制で、質の高い腹腔鏡手術を実践しています。現在は、泌尿器癌手術はほぼ全例内視鏡手術（腹腔鏡手術および経尿道的手術）で行っています。

腎癌に対しては、腎機能温存のために、可能な限り腹腔鏡下腎部分切除を施行するようにしています。かなり難易度の高い手術ですが、安全に施行できています。

浸潤性膀胱癌の手術は、全例、腹腔鏡下膀胱全摘除術を行っています。開腹術と比較して、手術時間が短縮し、出血量も著明に減少し、術後早期の離床が可能となり、高齢の患者様に対しても適用範囲が広がりました。

前立腺癌の手術は、全例、腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っています。術後の早期尿禁制を図るために、適用症例に対しては可能な限り神経温存を意図した手術を行っています。

2017年4月より、女性泌尿器科にも積極的に取り組んでいます。腹圧性尿失禁に対する中部尿道ス

リング手術 (TVT)、骨盤臓器脱に対する経膈メッシュ手術 (TVM: transvaginal mesh) を導入しました。

## ■ 診療実績

手術統計 (前立腺: 89 件)

腹腔鏡下前立腺全摘除術	76
TUR-P	12
前立腺被膜下摘除術	1

手術統計 (腎尿管副腎: 47 件)

腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍手術	28
腹腔鏡下腎部分切除術	12
腹腔鏡下副腎摘除術	3
腹腔鏡下腎盂形成術	1
腎摘出術	3

手術統計 (膀胱: 202 件)

TUR-BT	190
腹腔鏡下膀胱全摘除術	10
腹腔鏡下尿管管摘出術	2

手術統計 (結石: 117 件)

TUL	22
膀胱結石摘出術 (高位切開)	1
ESWL	94

手術統計 (陰茎・陰囊: 23 件)

精巣摘出術	8
陰囊水腫手術	10
包茎手術	3
精巣捻転手術	2

手術統計 (女性泌尿器科: 17 件)

TVT	6
TVM	10
膀胱水圧拡張術	1



# 産婦人科

## ■スタッフ

主任部長 中西慶喜 (1984年卒)

日本産科婦人科学会指導医  
女性ヘルスケア暫定指導医

部長 高本晴子 (1996年卒)

日本産科婦人科学会指導医  
母体保護法指定医師

部長 中前里香子 (1998年卒)

日本産科婦人科学会専門医

部長 佐々木美砂 (2005年卒)

日本産科婦人科学会専門医  
母体保護法指定医師

部長 数佐淑恵 (2007年卒)

日本産科婦人科学会専門医

医員 川崎正憲 (2012年卒)

日本産科婦人科学会専門医

医員 佐藤優季 (2015年卒)

日本産科婦人科学会専攻医

## ■診療科紹介

2017年3月末で仙波恵樹医師が退職し、4月から川崎正憲医師が赴任しました。佐藤優季医師は当院での初期研修を終え、引き続き産婦人科専攻医として後期研修を開始しました。7月には数佐淑恵医師がJA尾道総合病院に異動となりました。

診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金曜日の午後には手術をしています。火曜日と木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査を行っています。当院はセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニックとレディースクリニックとよしま医院、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディースクリニック、広島市佐伯区ではさくらウィメンズクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡が取れないときは最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で2012年に構築しました。

年間の母体搬送を約80件程度受け入れており、

県内でも有数の母体搬送受け入れ病院となっています。但し当院にはNICUがなく35週未満での早産が予想される場合には他院に搬送をしています。

悪性腫瘍に関しては、手術・化学療法・放射線治療等で集学的治療を行っています。また良性疾患に対しては腹腔鏡下手術を取り入れており、骨盤臓器脱には積極的に手術療法を勧めています。

### ①診療実績

分娩数 491件 (2015年度 512件)

手術数 449件 (2015年度 482件)

悪性腫瘍	子宮頸癌	5例
	子宮体癌	20例
	卵巣癌	12例

### ②研究活動

日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会や周産期委員会での全国規模の調査研究に協力しています。

またJGOG(日本婦人科悪性腫瘍研究機構)の臨床治験にも多くの症例を登録しています。





# 眼科

## ■ スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986 年卒)

眼科専門医

緑内障、白内障

部長 末岡 (井上) 千絵 (2007 年卒)

資格 眼科専門医

専門 眼科一般

## ■ 診療科紹介

眼科スタッフは、医師は昨年同様当院が 19 年目の私 (二井) と 6 年目の末岡 (旧姓井上) 千絵先生です。他は、看護師 (OMA の有資格者) が 2 名、視能訓練士が 3 名で、他に事務 1 名 (OMA の有資格者)、医師事務作業補助者 1 名 (OMA の有資格者) の計 9 名と、変化ありません。

## ■ 診療実績

午前は外来診療、手術は週 3 回午後から概ね一日 5 例行っており、毎年微増傾向です。

2017 年度手術件数は、白内障手術 434 例、緑内障手術 112 例で、その他 14 例、計 560 例です。他に、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症に対するマキュエイドテノン嚢下注射とルセントィス・アイリーア硝子体注射を合わせ 149 例に施行しています (注射後感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っています)。緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が 22 例、線維柱帯切除術が 23 例、白内障手術併用線維柱帯切開術が 36 例、白内障手術併用線維柱帯切除術が 1 例、白内障手術併用隅角癒着解離術が 2 例、虹彩切除術が 1 例、線維柱帯切除術後の濾過胞再建術が 27 例と増加傾向です。最近調べたところ当院で緑内障点眼を 3 剤以上投薬している緑内障患者さんが 53% もおり、緑内障点眼を減少させ QOL の向上を目指し 2016 年末から合併症の少ない極小切開緑内障手術 (低侵襲緑内障手術) であるマイクロフック線維柱帯切開術 (眼内法) を積極的に行っています。この術式では入院期間も 1 週間以内ですみ、早期の通常生活への復帰が可能です。白内障手術は、全国でもトップレベルである極

小切開白内障手術 (切開幅 2.2mm) を行っています。幸い 2017 年度も白内障手術・緑内障手術ともに最も忌むべき合併症である術後感染や駆逐性出血は経験していません。

## ■ 研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障治療薬に関し広島大学眼科との多施設共同研究もっており、2017 年に和文・英文で原著となりました。また、緑内障新薬の治験も行っています。



# 耳鼻咽喉科

## ■スタッフ

主任部長 高本宗男 (1992年広島大学卒)  
日本耳鼻咽喉科学会専門医  
気管食道科学会専門医

部長 長陽子 (2001年浜松医科大学卒)  
日本耳鼻咽喉科学会専門医

医員 弓井康平 (2014年杏林大学卒)

## ■診療科紹介

2016年8月より上記医師3人体制にて耳鼻咽喉科全般の診療にあたっています。

## ■診療実績

現在、当科の診療体制は月曜日から金曜日までの午前中の一般外来と火曜日・木曜日の午後に手術、月曜日の午後は甲状腺疾患の超音波外来、水曜日・金曜日の午後は局所麻酔下の外来小手術や嚥下機能検査などを行っています。また、月2回の月曜日の午後には補聴器に関する相談などのための時間（予約制）があります。

耳鼻咽喉科外来では外来に設置いただいた機器による甲状腺や耳下腺などの唾液腺疾患についての超音波検査（エコー検査）も行っていきます。前年度は9011件の検査が行われました。

また、当院のリハビリ科言語療法士（ST）と連携して、主に入院中の患者さんを中心に嚥下機能評価検査を担当し、内視鏡下および透視造影にて経口摂取による栄養確保の可否の判定なども行っていきます。（図1）



図1 嚥下造影検査

手術治療は、耳鼻咽喉科一般で行われている扁桃・アデノイド手術や内視鏡下鼻内鼻副鼻腔手術、直達喉頭鏡下の声帯手術（ラリンゴマイクロ手術）などのほか、唾液腺・甲状腺手術を中心に行っています。（図2）

また、広島大学病院の腫瘍専門医師の指導による悪性腫瘍手術なども行っていきます。

2017年度の手術件数は187件でした。



図2 内視鏡下鼻内鼻副鼻腔手術

# 放射線治療科

## ■ スタッフ

主任部長 伊 東 淳 (1995年卒)  
 医学博士、日本医学放射線学会・  
 日本放射線腫瘍学会認定治療専門医、  
 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

診療放射線技師は3名体制で、海老谷京子（科長・放射線治療品質管理士）、中村哲之（放射線治療専門技師）、砂田研二が常勤で担当しています。他にローテーションの技師が1名です。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）、受付は奥田志帆です。

以上7名で診療に当たっています。

## ■ 診療科紹介

放射線治療は手術、抗がん剤とならぶ、癌治療の3本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す（温存する）ため、機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、（治癒をめざした）根治照射から、（症状軽減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので、

月曜日；放射線治療カンファレンス（当科医師、大学病院医師、診療放射線技師、認定看護師）

水曜日；cancer board（消化器内科・外科・画像診断部・当科）

水曜日；呼吸器カンファレンス（呼吸器内科・呼吸器外科・画像診断部・当科）

水曜日；乳腺カンファレンス（乳腺外科・画像診断部・当科）

木曜日；緩和ケアカンファレンス（消化器内科・麻酔科・外科・呼吸器内科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

金曜日；頭頸部癌カンファレンス（耳鼻咽喉科・当科）と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には、

1. IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院
2. 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限にいかすよう時間調整している。
3. 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うよう取り組んでいる。
4. 病棟を持ち、とくに化学放射線療法の患者・緩和照射の患者の主治医となっている。  
 などが、当科の特徴といえるかと思います。  
 また、がん拠点病院の要件ともなる、（医療従事者を対象とした）放射線治療講習会を年1回開催しています。

今後も、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

## ■ 診療実績

1) 脳・脊髄	3
2) 頭頸部	16
3) 食道	18
4) 肺・気管・縦隔	26
4) のうち肺	25
5) 乳腺	80
6) 肝・胆・膵	4
7) 胃・小腸・大腸	10
8) 婦人科	4
9) 泌尿器系	66
9) のうち前立腺	49
10) 造血器・リンパ系	4
11) 皮膚・骨軟部	1
12) 良性疾患	2

2017年度の新患数は235人（昨年度238人）、のべ治療患者数は262人（昨年度276人）です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌のIMRTを21人（昨年度22人）に、体幹部低位照射を2人（昨年度0人）に施行しています。定位照射（脳）は0人（昨年度1人）でした。

## ■ 研究活動

2001年4月更新の直線加速器を使用しており、機器の更新時期を迎えていること、マンパワー不足もあり、対外的な活動に手が回らない状況です。

# 画像診断部

## ■ スタッフ

- 主任部長 西原 礼介 (1994年卒)  
放射線診断専門医
- 部長 岡崎 肇 (1993年卒)  
放射線診断専門医
- 部長 土田 恭幸 (2000年卒)  
放射線診断専門医
- 副部長 廣延 綾子 (2010年卒)  
放射線診断専門医
- 副部長 石崎 宏美 (2010年卒)

## ■ 診療科紹介

- CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断、造影検査（胃透視、注腸）の読影。
- IVR；肝細胞癌に対する TACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での外傷、動脈出血に対する塞栓術など。
- 肝切除前に残肝を肥大させる目的で、消化器内科・外科と協力して経皮経肝門脈塞栓術 (PTPE) 施行。
- Nonvascular IVR：CT ガイド下生検、CT ガイド下膿瘍ドレナージ。
- 職員対象に頸動脈エコー検診を施行。
- 健康管理センターの依頼で、脳ドック施行、希望者には結果説明。検診バスの胃透視読影、検診マンモグラフィーの一次読影。
- 開業医から依頼された CT、MRI や骨塩定量、マンモグラフィーなどの検査や画像診断。
- 救急外来からの時間外読影を在宅で施行。
- 造影剤副作用発生時の対応のシミュレーションを放射線技師や看護師と施行。
- 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンスへの参加、乳腺カンファレンスへの参加、救命救急センターと画像カンファレンス。
- 11月、256列 Revolution CT で dual energy 撮影が可能になりました。

## ■ 診療実績

2017年度 放射線診断業務

CT	21978
MRI	7585
消化管造影	1230
核医学	1091
血管造影	416
腹部 IVR	74

# 麻酔科

## ■ スタッフ

病院長代行、麻酔科主任部長

中尾正和 (山口大学 1979 卒)  
臨床研修プログラム責任者、臨床研修指導医、  
医学博士、麻酔科学会麻酔指導医、広島大学医  
学部臨床教授、ICLS インストラクター、JPTEC  
CMD、査読者；Journal of Anesthesia、日本  
臨床麻酔学会雑誌、麻酔と蘇生 (2002 / 4 - )

地域救命救急センター長

吉田研一 (広島大学 1984 卒)  
救急・集中治療部門責任者、医学博士、臨床研修  
指導医 (1997 / 4 - )

救急麻酔科主任部長

古賀知道 (広島大学 1995 年卒)  
麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修指導医 (2015 / 7 - )

部長 本多亮子 (愛媛大学 1998 卒)

麻酔科学会麻酔指導医、米国心臓学会認定 ACLS  
インストラクター、集中治療医学会認定医、臨床  
研修指導医 (2011 / 4 - )

副部長 村上俊介 (広島大学 1998 卒)

麻酔科学会認定医 (2016 / 4 - )

副部長 梅田絢子 (愛媛大学 2007 卒)

麻酔科学会専門医 (2013 年度取得) (2012 / 4 - 2018 / 3)

副部長 河本佐誉子 (広島大学 2008 卒)

麻酔科学会認定医 (2015 / 4 - )

医員 佐々木幹子 (川崎医科大学 2009 卒)

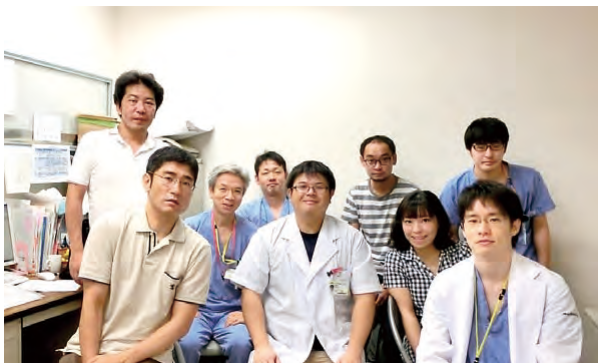
麻酔科後期研修中、麻酔科学会認定医 (2015 / 7 - )

医員 高橋珠世

広島大学歯学部歯科麻酔科より医科麻酔研修  
(2017 / 4 - 2018 / 3)

医員 好中大雅

広島大学歯学部歯科麻酔科より医科麻酔研修  
(2017 / 10 - 2018 / 7)



2018 / 7 撮影

## ■ 診療実績

▶ 2017 年度の総手術件数は 5689 例、うち麻酔科管理は 4001 例で、中央部門として大きな役割を果たしています。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総数	5689	4001
予定	4033 (70.9)	2824 (70.6)
追加	838 (14.7)	517 (12.9)
当日緊急	818 (14.4)	660 (16.5)

▶ 予定手術 (締め切りは前週水曜日正午) 計画以降に申し込まれた追加手術、当日申し込みの緊急手術と計画後手術が比較的多いのが特徴です。2017 年度は前年よりも追加手術割合が減少しています。

▶ 麻酔管理の診療科別内訳は外科 928、整形外科 1374、泌尿器科 413、産婦人科 338、心臓血管外科 245、耳鼻科 180、乳腺外科 160、呼吸器外科 143、脳外科 121、口腔外科 62、形成外科 46、皮膚科 21、眼科 10 など新生児を除く多岐にわたっています。

▶ ペインクリニック；平日午前のみですが、外来で痛みをもつ患者の治療を担っています。

▶ 救急・集中治療 (地域救命救急センター、ICU のセクション参照)

## ■ 麻酔科の機器

▶ 麻酔ワークステーション；ドレーゲル社全身麻酔器 Fabius GS をベースに、フィリップス社インテリレビューモニターを統合し、安全で信頼性の高いシステムを構築しています。セボフルラン専用気化器はすでに全室に配備されていましたが、2014 年度にデスフルラン専用気化器も全手術室に配備完了しました。麻酔ガスモニターが更新され、コンパクトで高精度なモジュール型になりました。

▶ 自動麻酔記録システム；paperChart を神戸海星病院の越川正嗣 Dr と共同開発したもので、静脈麻酔薬を投与するポンプもオンライン接続して活用しています。

▶ 高次脳波モニターの全室配備；患者さんの術中覚

醒防止と麻酔薬の調整に有用な BIS モデル A2000 を全手術室に配備し全身麻酔患者さんに利用してきました。当院のように手術室が9室あるような大きめの一般病院では全国で数番目と早期から導入されています。実際の麻酔の品質管理にも役立っています。2017年度に BIS はフィリップスモニターのモジュールタイプで両側脳波がモニターできる新型に更新されました。Masimo 社 SedLine と両方が使用できるようになりました。

- ▶筋弛緩モニタリング TOFwatch Sx monitor を全手術室に配置し、PC への取り込み客観的な筋弛緩レベルを記録・確認しています。
- ▶エコーガイド下の末梢神経ブロックも積極的に取り入れています。

### ■基本活動

- ▶麻酔科学会認定指導病院 (No.421)
  - ・初期研修医の医師としての基本的手技を含めた基礎教育
    - 1 年次必須ローテーション 10 名 8wks
    - 2 年次選択ローテーション 4wks のべ 3 名
  - ・後期研修医 (麻酔科) の養成指導
  - ・ガイドラインによる歯科医師の医科麻酔研修 (12 ヶ月 1 名、6 ヶ月 1 名)
  - ・広島大学医学部生に対する学外教育
  - ・救急救命士の就業前研修、就業後研修、気管挿管などの実習病院
  - ・女性麻酔科医師復帰支援機構の協力病院
  - ・看護学校での非常勤講師
- など、多くの役割を果たしています。

### ■研究活動

- ▶ GlideScope、AirwayScope、McGRATH®MAC などのビデオ喉頭鏡による安全で速やかな気管挿管に関する研究
- ▶ビデオ喉頭鏡を利用した、気管挿管技術習得の品質管理
- ▶気管挿管時の歯牙損傷予防に関する歯科口腔外科

協力による歯牙プロテクタ作成とそのアウトカム研究

- ▶麻酔記録システム paperChart のビッグデータからの筋弛緩モニタリングの実態調査、筋弛緩効果と血中シミュレーション濃度との関連研究

### ■その他活動内容

- ▶救急蘇生の講習会 日本救急医学会認定 ICLS 認定コース 開催
- ▶外傷のプレホスピタルケア JPTEC 認定コース 開催 CMD (中尾)

# 歯科口腔外科

## ■ スタッフ

- 主任部長 原 田 直 (1986年卒)  
 口腔外科学会専門医、口腔外科学会指導医、  
 癌治療認定機構暫定教育医、臨床歯科医研修指導医、  
 歯学博士
- 医 員 大 井 尚 志 (2014年卒)
- 医 員 二 神 聡 (2016年卒)

## ■ 診療科紹介

口腔外科を専門として診療をしています。一般開業医では、困難な口腔・顎・下顔面の疾患の診療、入院処置、手術を中心とした専門的治療を行っています。

主な疾患は、がんや良性腫瘍、粘膜疾患、骨折、顎関節症、歯が原因の感染症などがあります。

もう一つの特色として、周術期口腔管理を行っています。口腔は大きな感染源であり、医科での全身麻酔下での手術、化学療法、放射線治療に伴う口腔合併症は、食事量の低下、粘膜炎、誤嚥性肺炎を誘発し、術後感染など予後の低下や生活のレベル低下、入院日数の延長につながります。このようなトラブルを防止・軽減するため、医科と連携し、口腔管理・口腔保清を行っています。

## ■ 診療内容

当科で扱っている主な疾患

- 1：顎顔面の外傷・骨折等
- 2：悪性腫瘍（舌がん、歯肉がん、唾液腺がん、肉腫等）
- 3：良性腫瘍（顎、歯肉、舌、軟組織、唾液腺等）
- 4：歯性感染症（蜂窩織炎、膿瘍、薬剤性顎骨壊死、上顎洞炎等）
- 5：顎関節症（顎関節脱臼等）
- 6：口腔粘膜疾患（白板症、扁平苔癬、ヘルペス、口内炎等）
- 7：神経疾患（三叉神経痛、顔面神経麻痺等）
- 8：周術期口腔管理（医科での手術・放射線治療・化学療法中の口腔管理）
- 9：その他：（味覚異常・舌痛症、歯科金属アレルギー）

## ■ 診療実績

### 【口腔外科】

主な入院件数は以下のとおりです。

悪性腫瘍手術：16件 骨折：3件 良性腫瘍：30件  
 歯性感染症：34件 薬剤性腐骨除去：2件 埋伏抜歯術：21件 その他：4件

薬剤性腐骨に関しては、（デノスマブ、ビスホスホネート等）投与中の歯科治療（抜歯等）のガイドラインでは、顎骨壊死の起こる可能性は、10000人に1人とされていますが、当科では、全身麻酔が必要な広範囲の腐骨例は2015年度：4件あり、外来局所麻酔下での腐骨除去を合わせると、10000人に1人のデータには疑問が残ります。

またBP関連製剤投与中での顎口腔外科手術の施行について賛否両論ですが、顎骨壊死の原因の8割近くのケースで抜歯操作が加わっていることも事実です。

### ・外来小手術

骨内埋伏・水平埋伏抜歯や小病変の摘出など約600例

### 【周術期口腔衛生管理】

周術期の口腔管理ののべ人数は以下のとおりです。

2014年度：1031名、2015年度：2009名、2016年度：2451名、2017年度：2846名と年々増加しております。

歯科介入することで、在院日数の減少や抗生剤の使用の低下につながっています。

## ■ 学生指導

広島高等歯科衛生士学校、広島デンタルアカデミー専門学校、IGL医療福祉専門学校の3校の実習受け入れを行っており、次世代の歯科衛生士の臨床実習教育を行っています。

## ■ 学会発表、論文発表

なし

## ■ 研究活動

日本口腔外科学会認定研修施設です。口腔外科学会など全国学会が主催する顎・口腔疾患、口腔外科疾患調査の実施や口腔がん登録などに参加しています。

今後も西部地区の医療機関からの紹介患者様の受け入れ、当院各診療科の治療成績の向上、治療時のリスクの除外など医科診療科との連携を図る医療を行っています。

# 救急・集中治療科

## ■スタッフ

地域救命救急センター長

主任部長 吉田 研一 (1984年卒)  
医学博士、日本救急医学会専門医  
臨床教授 (広島大学 救急医学)  
集中治療・救急医療

部長 櫻谷 正明 (2007年卒)  
日本救急医学会専門医  
集中治療・救急医療

副部長 河村 夏生 (2010年卒)  
日本救急医学会専門医  
集中治療・救急医療

医員 高場 章宏 (2011年卒)  
日本救急医学会専門医  
集中治療・救急医療

医員 筒井 徹 (2013年卒)  
集中治療・救急医療

## ■診療科の紹介

2017年度、当科は、総勢5名で救急・集中治療の診療行為を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修施設でもあり、新専門医制度においても専門医研修施設となるよう申請をおこない、その認可を得ました。

救急・集中治療科は、「内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する」部門です。

このたび、2011年4月から地域救命救急センターとして、組織変更し、より患者さんへもわかりやすい救急体制が認可されました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしく申し上げます。

### 【診療実績】

2017年度

年間救急搬送患者数 3591台

年間救急来院患者数 5684人

2017年度の年間重篤患者数を表1に示す。

表1 救急・集中治療科実績 (厚生労働省報告)

(人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心停止	115	6	109
2	重症急性冠症候群	101	93	8
3	重症大動脈疾患	22	15	7
4	重症脳血管疾患	79	50	29
5	重症外傷	76	72	4
6	重症熱傷	5	5	0
7	重症急性中毒	15	15	0
8	重症消化管出血	26	24	2
9	重症敗血症	25	6	19
10	重症体温異常	3	3	0
11	特殊感染症	3	1	2
12	重症呼吸不全	14	7	7
13	重症急性心不全	24	20	4
14	重症出血性ショック	6	0	6
15	重症意識障害	6	0	6
16	重篤な肝不全	0	0	0
17	重篤な急性腎不全	2	0	2
18	その他の重症病態	2	2	0
合計		524	319	205

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

救急外来：

従来より三次救急対応を行ってきました。心肺停止患者はもちろん、高エネルギー外傷や意識障害、胸痛などの致死的な疾患を疑う症候があれば、救急隊がホットラインを要請し、24時間365日、当科で対応しています。

一次救急、二次救急については全症例当科での対応はできておりませんが、他科の診療科の先生方とも協力しながら、特に来院直後の初療を行っています。

RRS (Rapid Response System)：

院内急変患者は急変する前になんらかの異常を訴えている場合が多く、例えば院内心停止患者の大半に8時間前よりなんらかのバイタルサインの異常を認め、その多くが「頻呼吸」でした。当科では研修医とも協力し、より早く対応できるように Rapid Response System を導入しています。

PICC センター：

PICC (Peripheral Inserted Central Catheterization) とは、末梢静脈から穿刺し、カテーテル先端を中心



静脈に留置するカテーテルです。気胸や大動脈穿刺などの合併症が少なく、安全性が高いデバイスです。

しかしながら、留置にはいくつかのコツがあり習熟するまでには時間と経験が必要です。当科では、スタッフを中心に、専攻医・研修医と協力し、挿入しています。

ICU：

オープンICUで、他科の診療科の先生方が主治医で管理する場合もあれば、当科が主治医となる場合があります。人工呼吸管理、鎮静・鎮痛管理など当科が介入する場合も多く、様々な診療科や多職種とも協力し、診療に当たっています。

# 緩和ケア科

## ■スタッフ

主任部長 小松 弘 尚 (1985年広島大学卒)  
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医  
日本がん治療認定医機構がん治療認定医・指導医

## ■診療科紹介

緩和ケア科は、2007年に発足した緩和ケアチームを母体として2010年に創設されました。2012年7月に緩和ケア病床を西8階病棟の一角に5床開床し、緩和ケア科を主科としての専門的緩和ケアを提供しています。現在は、院内のプライマリー科から病床依頼があれば、緩和ケア科へ転科しチームで方向性を共有し、専門的な緩和治療の実践を行っています。

地域に対して、県から依頼された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを行っています。中でも、がん患者が不安なく療養場所の調整が行われる事を目標とした両方向で利用できる緩和ケア地域連携パスを作成し、患者の緩和ケア提供体制を整えました。パスの使用件数は、2017年度16件でした。

当科では、患者の意思決定支援に対する取り組みとして、アドバンス・ケア・プランニング（後述）の実施・啓発と、2013年8月から終末期医療におけるリビングウィル文書を導入しています。2017年度の文書の作成数は、32件/年でした。これらを用いて、治療の選択、療養場所の選択、終末期医療について患者の希望を中心としたケアの実践をしています。

### 【アドバンス・ケア・プランニング】

将来の不測の事態（不慮の事故・不治の病）に備えて、あらかじめ意志表示や準備・覚悟をしておく過程（プロセス）を言います。健常人であっても必要な過程ですが、がん終末期の方には喫緊の必須事項と考えて、十分な説明と御理解をいただけるように対応しています。このアドバンス・ケア・プランニングが実践されなければ、本人の望まない医療・療養となってしまう可能性があり、非常に重要な事項です。

## ■診療実績

- 1) 緩和ケア外来：2/週 水・木曜日午後診：原則として罹患がんの主科との併診により緩和ケアを提供しています。
- 2) 緩和ケア病床（西8階5床）：緩和ケア科を主科・プライマリー科医師を副主治医として診療しています。

## ■各部門の主な活動紹介（2017年度）

### 【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき、過不足ないように主治医と連携、調節し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導します。

### 【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。2017年緩和ケア科病床を利用した36名の患者のうち19名にリハビリを実施しました。

### 【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

### 【がん患者管理指導加算】

がん患者管理指導加算はシステムを整え運用中です。がん患者管理指導加算1では各科主治医（緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している）と認定看護師等が協力して患者の病状説明、その後の意思決定支援にあたります。がん患者のスクリーニングの運用を軌道に乗せて、そこから要望の出た患者へはがん患者管理指導加算2も利用して対応しました。2017年度緩和ケア科では、がん患者管理指導加算1の定数は32件、がん患者管理指導加算2は57件でした。



# 健康管理センター

## ■ スタッフ

診療部長・センター長、主任部長、臨床研究検査科部長

碓井 裕史 (1977年卒業)

日本人間ドック学会認定医・産業医・臨床検査管理医

課長(保健師) 久保 知子

主任(保健師) 増本 順子

林 直子

保健師 4名、事務 6名、業務委託(受付・予約) 5名  
(車両業務) 1名

臨時職員(医師 5名、看護師 6名、助手 2名、臨床検査技師 2名)

### 【取得資格】

人間ドックアドバイザー 5名、禁煙専門保健師 1名、健康運動指導士 1名、転倒予防指導士 1名、心理相談員 1名、

### 【所属学会】

日本人間ドック学会、日本癌学会、日本人類遺伝学会、日本農村医学会、日本乳癌検診学会、日本禁煙学会、日本転倒予防学会

### 【各種所属委員】

健康はつかいち 21 推進協議会

### 【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会  
日本農村医学会

## ■ 概要

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JAグループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域のJA組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

## ■ 主な活動内容

1. 施設内健診は、当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の

委託ドック、各種がん検診他、10月第3日曜日にJMSマンモグラフィーサンデー(7回目)を行いました。

2. 巡回健診はJAグループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。

3. 地域の健康教育活動

JAフェスティバル(JA佐伯中央主催)、院内オープンホスピタル、廿日市あいプラザ健康まつり等でミニ健診、健康相談を実施、その他JA組合員健康教室やJA広報誌の執筆活動も行っています。

## ■ トピックス

～新健診システム導入に向けて～

2017年度、健診システムの更新のためプロジェクトチームを立ち上げました。今回、健診システムを更新するにあたり、より効率的で質の高い健診を提供できるシステムづくりを目指して取り組みました。

院内各検査部門との調整を行い、Web機能を用いた各検査読影結果入力システムを構築しました。これにより、検査から読影まで速やかに進み、より早く結果を受診者へお返しできるように準備できました。

質の高い健診を目指して、医師診察記録と保健師による保健指導(事後指導)記録をシステム内に毎年蓄積します。生活習慣病・がん予防へのアドバイスなど、受診者ひとりひとりに応じた健診メニューの案内などに活かせるようになります。

また、精密検査や受診が必要な方が受診されたか早期に把握し、未受診の方へ受診をすすめること(受診勧奨)も健診機関としての重要な役割です。新健診システムでは、受診勧奨を自動化させ、未受診の方への受診勧奨文書の発送などスムーズにできるように整えました。

## ■ 2017 年度活動実績

### ○施設内健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
入院ドック	15	15
外来ドック	231	2,608
協会けんぽ健診	184	1,278
原爆 (一般・がん・2世)	303	349
脳ドック	188	319
肺ドック	116	159
膝ドック	35	41
個別子宮がん検診	24	28
個別乳がん検診	67	134
個別大腸がん検診	20	24
健康診断 (一般・簡易)	165	395
健康診断 (当院職員) *1	17	1,704
個別特定健診	50	65
骨密度	107	147
その他	27	92
計	1,549	7,358

### ○巡回健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	22	599
肝炎検診	4	27
胃がん検診	18	433
職員健診	58	3,799
大腸がん検診	4	330
特定・後期高齢者健診	4	408
その他	8	799
計	118	6,395

### ○保健指導

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
特定保健指導	88	(初回) 23 (のべ) 104
施設内保健指導	228	2,582
健康教育	9	413
事後指導	8	102

## ■ 2017 年度がん検診部位別精密検査受診状況

### ○施設内検診

		受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がん発見数 (人)	がん発見率 (%)
胃部	バリウム	1,125	127	11.3	96	75.6	0	0.00
	カメラ	2,228	197	8.8	181	91.9	3	0.13
胸部	レントゲン	4,747	176	3.7	146	83.0	0	0.00
	CT	159	7	4.4	2	28.6	0	0.00
大腸 (便潜血反応)		3,797	201	5.3	135	67.2	3	0.08
乳部		1,156	53	4.6	50	94.3	4	0.35
子宮頸部		981	87	8.9	68	78.2	1	0.10
前立腺 (PSA)		621	31	5.0	27	87.1	9	1.45

### ○巡回検診

	受診者数 (人)	要精検者数 (人)	要精検率 (%)	精検受診者数 (人)	精検受診率 (%)	がん発見数 (人)	がん発見率 (%)
胃部間接レントゲン	433	38	8.8	21	55.3	0	0.00
胸部間接レントゲン	4,353	19	0.4	8	42.1	0	0.00
大腸 (便潜血反応)	1,682	77	4.6	29	37.7	0	0.00
前立腺 (PSA)	375	10	2.7	4	40.0	0	0.00

## 病理診断科・病理研究検査科

### ■ スタッフ

主任部長 台 丸 裕

科 長 水 野 誠 士

臨床検査技師 6名

事務 1名

### ■ 取得資格

病理専門医	1名
細胞診専門医	1名
病理解剖資格	1名
細胞検査士	4名
国際細胞検査士	2名
二級甲類臨床病理技術士	4名
	(病理学4)
診療情報管理士	1名
医療情報技師	1名
認定病理検査技師	2名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	2名

### ■ 所属学会

- 日本病理学会
- 日本臨床細胞学会
- 日本臨床衛生検査技師会

### ■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2017年度)

組織検査	5938件	(2016年度 6093件)
術中迅速検査	358件	( " 366件)
細胞診検査	6575件	( " 6829件)
術中迅速細胞診	102件	( " 106件)
病理解剖	2件	( " 3件)

### ■ トピックス

〈がんゲノム診断への対応〉

近年、悪性腫瘍の病理組織・細胞検体を用いた遺伝子検査が急増しています。一般社団法人日本病理学会では、2017年7月「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規定」が定められました。ゲノム診断で最

も利用が見込まれるホルマリン固定パラフィン包埋検体は、検体の取り扱い方法により品質差が生じます。検体の品質が検査結果に与える影響は大きく、適切な処理をする必要があるため、固定液を推奨されている10%中性緩衝ホルマリンに変更しました。今後は固定プロセス以前の、検体採取や検体提出までの行程に関しても、問題点があれば改善していきたいと思っております。患者さんが適切な治療を受けられるよう、業務改善に取り組んでいきます。

〈包埋センターの更新〉

パラフィン包埋ブロック作製装置の故障のため、新機種に更新しました。20年近く使用した愛着ある機器でしたが、業務で使用している2台ともパラフィンを冷やすための冷却板がホットプレート状になるなど、同時期に故障や不具合が生じたため、両方新しくなりました。更新に当たり、第一条件は作業台に収まること。各社から数種の包埋センターが発売されていますが、設置スペースと作業の効率性、使いやすさを考えてサクラファインテック TEC プラスを採用しました。



# 臨床研修科

## ■スタッフ

### 〈2年目初期臨床研修医〉

石橋 一樹、小西 宏奈、高橋 佑輔、竹野 典子、  
竹原 悠大、田中 三千彦、田中 友理佳、  
野村 晃生、武藤 雅幸、吉村 晴香

### 〈1年目初期臨床研修医〉

今中 俊秀、宇山 拓澄、児玉 竜一、  
柴田 祥之、西蔭 孝之、初鹿 佳輝、  
山本 高嗣、河本 遥、芳野 由弥

## ■概要

初期臨床研修医 19名が在籍しています。それぞれが当院の研修プログラムに沿って、各科をローテーションしながら研修を行っています。

## ■活動内容

初期臨床研修医 1年目に内科6ヶ月、外科系1ヶ月、救急集中治療科2ヶ月、麻酔科2ヶ月、自由選択1ヶ月でローテーションを行い、2年目で産婦人科1ヶ月、小児科0.5ヶ月、精神科1ヶ月、地域医療1ヶ月、検診0.5ヶ月、残りを自由選択科にて研修を行っています。

研修内容は各科によって異なりますが、上級医の先生の下で外来での患者さんの初期対応や病棟業務など、日々の診療業務を行っています。医学知識はまだまだ至らない点も多いですが、患者さんと積極的にコミュニケーションをとり、研修医だからこそ気がつける些細な出来事を意識して日々の診療にあたっています。救急集中治療科では、主に救急車で搬送される急患の初期対応を行います。指導医の下、今自分にできることを常に考えながら行動するように心がけています。また、HCUや一般病棟に入院された患者さんの診療も行います。外科系の診療科をローテーションしている際には、手術の助手として参加させていただくこともあり、その後の術後管理も上級医の先生と一緒にいきます。麻酔科では麻酔の導入から維持、覚醒までの一連を行います。静脈路確保や気管挿管、人工呼吸器の操作といった手技

も麻酔科で習得します。

また、日々の診療に加え夜間・休日の当直日直業務を行っています。研修医1年目・2年目それぞれ1名ずつと、救急当直医1名、一般当直医1名の4名で夜間・休日に救急外来を受診される患者さんの対応をしています。日々の診療で培った知識や技術を活かしながら、目の前の患者さんの病態を迅速かつ的確に把握し、適切な初期診療を行えるよう心がけています。上級医からフィードバックもあり、初期研修医にとっては大きく成長できる場であると感じています。一次救急から三次救急まで幅広い症例を経験でき、非常に勉強になります。

また、毎週火曜日の早朝に Early Bird Lecture (EBL) と呼ばれる研修医同士の勉強会も行っています。日々の診療や当直・日直で経験した症例について疑問に思ったこと等を各自で調べ、発表し研修医間で共有したり、上級医の先生からの講義も行われます。スライド作成や発表の練習にもなります。

若手医師のためのセミナーや勉強会に数多く参加でき、BLS・ACLS、JAPTEC、JATEC、FCCS、TNT等様々な講習を受講し、資格を取得するための補助を受けることもできます。対外面としては中四国の地方レベルから、場合によっては海外の学会にまで、上級医の指導を仰ぎながら学会発表をする機会があります。

その他に、当院では初期臨床研修医としての研修修了後に、3年目からも後期研修医として当院での研修を希望する先輩が多くいるのも特徴の一つです。初期研修で慣れ親しんだのはもちろんのことですが、それ以上に指導熱心な上級医の先生や、スタッフの皆さんと一緒に医療を行い、その中で自分自身も成長したいという気持ちからだと思えます。

# 看護科

## ■ スタッフ

看護部長 馬場崎 喜美子  
 看護副部長 佐藤 澄香  
                   寺田 英子  
                   坂尻 明美  
                   藤本 七津美 (総合医療福祉相談室)

## ■ 部門紹介

2017年看護科目標

心と心の通い合うハートふるナーシング  
 —看護の質を語り・つなぎ・広がる看護—

## ■ 活動内容

### 1 看護の質向上に関する活動

#### ▶看護実践能力の開発支援

広島厚生連3病院共通のクリニカルラダー認定制度を推進し、ラダーⅠ52名・ラダーⅡ20名・ラダーⅢ3名の認証を受けました。リーダーシップ研修に野外での研修を組み込み、集中と創造を高める研修内容の変更を行いました。



### 2 看護科の広報活動

#### ▶ハートフルナース通信の開始

毎月の行事内容や成果を職員に紹介するコーナーを院内のホームページにて広報する活動を開始しました。

### 3 看護の普及啓発に関する活動

#### ▶ふれあい看護体験

53名の高校生を対象に看護体験を通して患者さんとふれあい、看護の仕事を体験することで今後の看護職への理解と希望・関心を持っていただく機会となるよう期待しています。



### ▶命の授業

広島県看護協会からの依頼で、中広中学校・廿日市西高校・佐伯高校において助産師による命の誕生や尊さに関する授業をおこない、命について考えていただく機会を持っています。

### 4 看護の人材確保と定着推進活動

#### ▶病院見学会を5月13日と5月27日に開催しました。

113名の看護学生が参加し、院内見学の結果「大変興味もてる内容だった」と好評をいただきました。

▶育児休暇中の看護職員の復帰支援(るんるん広場)を7月28日と10月27日の2回開催しました。22名の看護職員と子供たちが参加し、院内託児所の見学や病院の動向などを伝え、復帰に対する不安を軽減する活動を行いました。



▶サマーインターンシップを7月18日から8月18日の期間で実施しました。44名の看護学生が看護師・助産師・保健師・看護補助者スタッフとともに勤務し患者さん・ご家族のケアを共に実践することで、当院への就職を検討していただく機会となりました。

## ■ 2017年度トピックス

### ▶看護科委員会の活動の変更を行いました。

がん看護質向上委員会や災害・防災委員会を立ち上げ、研修や看護の質向上となることを目指しました。

▶患者入院センターを開設し、入院前から患者の情報収集を行い、入院時に素早く看護計画の立案につながることで看護の質向上となることを目指しました。救急車で来院された患者さんが一般病棟に昼夜を問わず入院できることをお助けするために、お助けナースとして患者入院センターの看護師が活躍し安全・安心な看護を目指しました。この活躍により看護師夜間負担軽減のリリーフ機能を推進した結果、加算に結びつきました。

# 外来

## ■ スタッフ

科 長 中 元 美 恵

(糖尿病センター、泌尿器科、耳鼻科、皮膚科、眼科、  
外科・乳腺外科、心血管外科・呼吸器外科、脳神経外科、  
形成外科・整形外科)

鶴 谷 理 恵 (内科)

松 下 理 恵

(中央採血室、内視鏡センター、中央検査処置室)

主 任 廣瀬 敏子、平外 仁美、尾崎 直美、  
上本 枝美、平野 有紀、藤村 雅子、  
岡田 恵美子

他 看護師 85 名 看護補助者 5 名

## ■ 外来の概要

2017年度の1日平均外来患者数は、1,059.1人で、年間延べ合計患者数は259,486人です。昨年度は過去5年間で最高外来患者数を記録しましたが、今年度はその更新にはつながりませんでした。地域の住民の皆様当院を選んで受診していただけるようスタッフ一同頑張っていきたいと思っております。

私たち外来看護師は、これからも多くの患者さんの受診をサポートし、患者さんを選んでいただけるよう、質の高い看護を安心して提供できるように努力していきます。そして看護師だけでなく他職種連携のチーム医療を提供していきます。

## ■ 看護

2017年度より小児科外来と婦人科外来は病棟との一元化を行いました。外来から入院、そして退院後外来受診を通して切れ目のない継続看護が実施できるようになりました。

外来各科では、患者さんが少しでも「この病院、〇〇外来に来てよかった」と思っただけのように丁寧に笑顔で接するよう心がけています。小さなことでも患者さんのために、よりよい看護へ向けて工夫をしています。

## ■ 教育

泌尿器科、耳鼻科は専門的処置の習得のため、救急外来看護師の研修を受け入れています。また、内

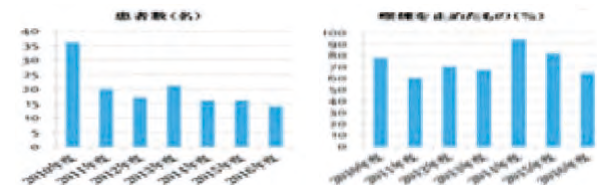
科では新人ローテーション研修の受け入れを行っています。

今後も外来、病棟との連携を取りながら、ジェネラルナースを目指します。

## ■ 院外活動

地域の活動に救護を派遣しています。2017年度は広島国際会議場で開催されたJA広島市レディースクラブ「レディースのつどい」に1名を派遣しました。

広島県歯科医師会館で開催された「広島県禁煙支援ネットワーク第15回研修会」で当院の禁煙活動の取り組みを発表しました。2005年に禁煙対策委員会を発足し、活動を行っています。



〈禁煙外来の診療実績〉

2017年には「肺がんの発見から治療まで」と題して市民公開講座を開催しました。当院では、毎週金曜日に完全予約制で禁煙外来を行っています。看護師は医師・薬剤師と連携を取り、効果的な指導が行えるように努めています。





# 外来治療センター

## ■ スタッフ

科長 野村昌代

主任 実平明美

その他スタッフ

放射線治療室 1名

がん化学療法治療室 4名

透析室 5名

### 【資格取得】

放射線治療看護認定看護師 1名

がん化学療法看護認定看護師 2名（科長含む）

腎不全療養指導看護師兼慢性腎臓病療養指導士 1名

### 【所属学会】

日本放射線治療学会

日本臨床腫瘍学会

日本がん看護学会

日本腎不全リハビリテーション学会

日本慢性腎不全学会

## ■ 活動報告

### 〈放射線治療部門〉

2017年は、診療医師1名と協働で治療患者の意思決定時IC同席212件に対し、指導カウンセリング500点を算定。また、治療開始時オリエンテーションは180件。連続して指定時間に行われることへのストレスや有害事象に関わる相談などを中心に支援しています。

### 〈がん化学療法治療部門〉

一部屋にリクライニングチェア4床・ベッド1床設置した2部屋の10床で運用。がん治療に関わる全薬剤の調剤は、隣接したミキシング室で薬剤師により管理しており、認定看護師を中心に入院・外来に関わらず院内のがん化学療法に関連した血管外漏出や暴露問題・有害事象などを情報共有しながら、専門的看護を提供しています。

2017年の外来治療のべ件数は4526件。治療当日骨髄抑制や体調不良などが原因の中止等により1日の件数は、最低9件から最大44件。1日平均18.5件。過敏症で20件発症し、その内4件が入院対応しましたが、いずれも問題なく、翌日退院で治療を継続しています。

がん化学療法導入時オリエンテーション256件。

がん患者カウンセリング指導料1;500点は、各診療部門との時間的連携による課題があり伸び悩んでいます。2の200点については、156件と僅かではありますが経営に加算できています。また、複雑化した有害事象には電話訪問による支援を行っています。

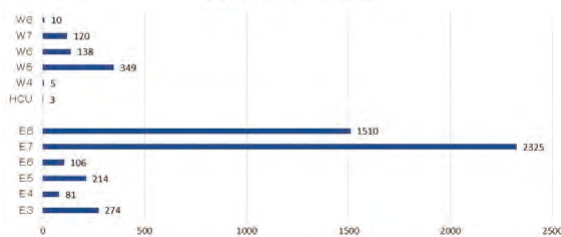
### 〈透析治療部門〉

主任と5名のスタッフで早出・遅出の勤務体制で実施。

周囲の透析施設と連携を図りながら、急性期病院として原疾患治療及び併発治療の透析看護を実施しています。

2017年外来治療延べ件数 2154件、入院治療延べ件数 2858件の療養支援及び治療中のモニタリングを行っています。

2017年病棟別治療件数



### 〈その他の業務〉

- ・各部署院内共通マニュアル改訂管理
- ・院内外教育講演
- ・地域医療従事者研修会開催
- ・隣がん教室協働運営
- ・消化器がんカンファレンス参加
- ・乳腺外科カンファレンス参加
- ・緩和カンファレンス参加

### 〈院外発表〉

第8回 腎不全リハビリテーション学会

- ・開催日：2018年3月17・18日
- ・発表者：平木一枝 濱尾佳織

第8回 隣がん教室ワークショップ

- ・開催日：2018年2月24日
- ・発表者：野村昌代

# 地域救命救急センター

## ■ スタッフ

科 長 水 村 めぐみ

主 任 杉 中 知 子

他 看護師 39 名 看護助手 1 名

## ■ 概要

1 階の外來は救急車の受け入れや他院からの紹介、院内急変対応など全科の患者対応を行っています。救命救急センター受診者数は、7068 人でした。2 階の救命病棟は定床 8 床（個室 1 床）で、状態が急変する可能性があり、モニタリングが必要な患者を主に受け入れています。小児、産科を除く全科の救急患者が入院可能です。

救命病棟入室患者数は 782 人で、平均滞在日数は 2.3 日です。

## ■ 看護

救急外來では、他部門との連携を密にして重症患者や急変時に素早く的確に対応できる様に心がけています。また、外來と病棟が連携をとり、いつでもスムーズに救急患者を受け入れられる様に心がけています。

救命病棟では、「患者家族看護」を重要視し、家族とともに患者ケアが行えるよう、家族の気持ちに寄り添うことを大切に看護を提供しています。また、患者さんにとっての「自律的意志の尊重」をめざして、今年度から医師、看護師、コ・メディカルとの倫理カンファレンスを行っています。カンファレンスでは「医学的適応」「患者の意向」「周囲の状況」の順に話し合いを行い、患者さんにとって何が最善かを考えて行うようにしています。

## ■ 教育

専門知識を習得し、スタッフのキャリアアップを目指して、月 1 回以上のシミュレーション研修や勉強会を開催しています。全員が勉強会に参加できるように、同じ内容の勉強会を複数回開催し確実な知識、技術の向上を目指しています。また各自の教育

課題に応じて BLS、ICLS（心肺蘇生対応トレーニング）コース、ACLS（二次心肺蘇生法）コースに参加し救急領域のスキルアップをはかっています。

新人教育はプリセプターが中心となり、毎月評価しながら個人の成長に合わせて目標設定をおこないました。

看護学生の実習も受け入れています。

## ■ 院内における研究・発表

地域救命救急センターにおける 2 年目看護師による家族看護実践現状と課題

～グループフォーカスインタビューによる質的分析～

○岡崎裕美 杉中知子 水村めぐみ

**AEDとは・・・（自動体外式除細動器）**  
心臓がごまかく震えているときに、電気ショックを与える機械。心臓の状態をAEDが判断して、電気ショックが必要かどうかを教えてくれます。

**救命の手順**

- ①周囲の安全確認**
- ②意識の確認**
- ③応援を呼ぶ**  
誰かきてください。  
あなたはAEDを・・・  
あなたは119番を・・・  
反応なし  
大丈夫ですか？
- ④呼吸の確認**  
普段通りの呼吸ではない、しゃくりあげるような呼吸の時  
呼吸なし
- ⑤心臓マッサージ**  
ポイント  
手の位置は胸の真ん中！
- ⑥AED使用**  
AED到着  
垂直に体重をかけ、肘を曲げない。  
大人は、深さ5cm以上、6cm未満。  
1分間に100～120回のテンポ（うさぎとかめ、アンパンマンマーチ）で強く押す。  
(1) 電源を入れる  
(2) コネクターを接続する  
(3) パッドを装着する。（右鎖骨下と左胸下に貼る）  
(4) AEDがショックが必要と判断したら、傷病者に誰も触れていないことを確認。  
(5) ショックボタンを押す。  
※ショックが必要なければ心臓マッサージを繰り返す。  
(6) 心臓マッサージを継続する。傷病者が手や足を動かしたら心臓マッサージをやめましょう。  
離れて！！ 私よし！ あなたよし！ 周りよし！

JAIZ 島総合病院付近のAED設置場所。AEDマップで検索すると、設置場所がわかります。

\*ポスター展出展

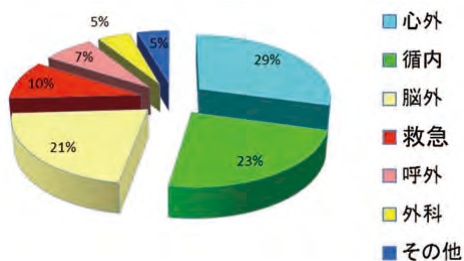
## ICU・西3階病棟

### ■ スタッフ

科長 丸澤 葉志子  
 主任 竹野 香織、益田 尚恵、  
 岡崎 裕也、植田 美穂、  
 坂本 佳奈江  
 他看護師 25名 看護補助者 1名

### ■ 病棟の概要

ICUは病床8床で、特定集中治療加算3を取得しています。算定件数は年間578件でした。心臓血管外科・循環器内科・脳神経外科の入室が全体の7割を占めていました。



### ■ 看護

他職種連携により、心身の合併症を予防し早期に一般病棟への転床を目標に、2017年度は病棟目標達成に向けて、看護師スタッフを4つのチーム（教育チーム・カンファレンスチーム・業務改善チーム・合併症予防チーム）に分け、活動しました。

教育チームは、新人・2年目・異動看護師に対する教育プログラムの見直しと運用を行いました。

カンファレンスチームは、他職種カンファレンスと看護師カンファレンスの導入に向け取り組みました。他職種カンファレンスでは、ジョンセンの4分割法を用いて情報共有し、介入方法を検討しました。



— 日々のカンファレンス風景 —

業務改善チームは業務の効率化を目的に時間外削減に向けての取り組みをしました。

合併症予防チームは、口腔ケアの標準化と入室患者の早期離床に向けての取り組みを行いました。医師・リハビリスタッフと協同し、離床プロトコルを作成しました。休日に看護師が継続してリハビリ介入できるよう、リハビリスタッフに休日の継続リハビリ内容を確認し、看護師が運動療法を行いました。

また、4つのチーム活動の他に、家族看護チームを立ち上げ、入室患者とその家族に対する精神的ストレス緩和を目的に活動しました。長期入院患者さんへの介入として、患者さん・家族と相談し、希望に沿ってお誕生日には病室に飾り付けをし、ご家族で過ごせるひとときを作って、和やかな空間となるよう工夫をしました。



— お誕生日の飾り付け —

### ■ 教育

新人看護師・2年目看護師・異動看護師に対し、教育パスに則って、教育委員と主任が指導計画を立案し、計画をもとに、スタッフ全員で教育する体制で指導しています。看護師の夜勤ひとり立ちの目安は、①わからない事・困った事を先輩看護師に相談できる。とし、個人の進捗状況に応じて、ひとり立ちの時期を検討しています。

### ■ 院内における研究・発表

ICUでの抜管後の看護師による嚥下機能評価の導入—導入前後でスタッフの意識変化と課題—  
 発表者 大野真由美

## 西 4 階病棟

### ■スタッフ

科 長 田 尾 由美子  
主 任 植 野 祐 子、横 山 祐加子、  
麻 川 真 代

他 助産師 18 名 看護師 12 名 看護助手 3 名

### ■病棟の概要

診療科は産婦人科・外科系混合病棟で、唯一の女性病棟です。病床数は 41 床、病棟稼働率は 80.28% です。平均在院日数は 9.2 日です。平均必要度は 31% です。退院支援加算は 30 件です。

2017 年度の分娩件数は 500 件で帝王切開率は 22.2% でした。近隣の有床施設からのハイリスク妊娠の母体搬送は全例受け入れています。

婦人科では良性・悪性腫瘍手術、化学療法、異常妊娠、切迫流早産などの治療を行っています。

### ■看護

2017 年度 4 月より病棟外来一元化が 3 か年計画で開始しました。交替で病棟から外来へ派遣し、現在 13 名のスタッフが外来業務を行えるようになりました。

産科では特定妊婦に外来保健指導から出産、産後まで受け持ち助産師が一貫して関わることで、母親に安心感を与えることができます。また、病棟スタッフへの情報提供がスムーズに行われるように活動しています。

婦人科では周手術期の看護や悪性腫瘍の化学療法・放射線療法の看護、終末期患者に対して同じ女性としての目線で患者さん・ご家族に寄り添った看護を提供しています。



また、2017 年度より廿日市市、尾道市、東広島市で産後 1 ヶ月の母親にエジンバラうつ評価表を使用したスクリーニングが開始され、うつ傾向にある母親の産後支援を行っています。

### ■教育

4 月より赴任した川崎医師の指導のもと、NCPR（新生児蘇生法）の訓練を定期的で開催し、陽圧換気に自信を持って臨めるようになりました。他にも、新生児の血ガスデータの読み方、婦人科手術、不妊治療の研修会を開催していただきました。

昨年度に引き続き、スタッフが持ち回りで CTG 勉強会を開催し、事例検討を通して知識を深めました。



### ■院外活動

2017 年度も廿日市健康祭りでベビーマッサージを行いました。看護の出前授業で中・高校 4 校に「いのちの授業」を行いました。助産師 1 名が広島県看護協会の社会経済福祉委員として活動しています。

### ■院内における研究・発表

院内研究発表会

「病院助産師に求められる産後ケア」

研究者：植野祐子、横山祐加子、麻川真代

中村由香里、田尾由美子

院外発表：第 58 回日本母性衛生学会

「当院における外来保健指導導入後の妊婦の体重増加の実態調査」

発表者：川上佳苗

共同研究者：春木優香 大西千春

## 西5階病棟

### ■スタッフ

科長 西村 留美

主任 龍 敬子、岩崎 文江

他看護師 32名 看護助手 3名

### ■病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の外傷患者の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師 35名、看護助手 3名で構成されており、勤務体制は2交代勤務です。

2017年度の整形外科手術件数：1628件 病床稼働率：84.7% 平均在院日数：11.8日です。

### ■看護

当科では固定チームナースング+受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ち看護師が挨拶し、入院から退院まで責任を持って継続した看護を提供することに努めています。

「患者参画型看護」を実施しており、患者さんとご家族が看護問題の解決に参画することで個別性が生かされ、相互の情報共有が、より安心で安全な看護の提供につながっています。今後も患者さんと共に考え、共に協力しあえる関係性を大切に、信頼される質の高い看護が提供できるよう努力していきたいと考えています。

以下5つのチームに分かれ、業務改善や看護技術向上を目指して活動を行っています。

看護必要度チーム、シミュレーションチーム、クリニカルパスチーム、安全対策チーム、病棟勉強会チーム。

昨年まで脊椎の術後は、砂嚢で患者の首を固定したり、自力での体位変換を禁止していました。今年度、安静に伴う患者さんの苦痛を緩和するために看護研究を行い、医師と協力して基準を作成し、コルセットやポリネックを装着して自力で体位交換が行えるように変更しました。その結果、より安楽に患者さんが術後を過ごせるようになり、看護師の負担も軽減しました。

また、病棟内クリニカルパスチームが中心となり、腰椎除圧術についてのクリニカルパスを作成し、運用を開始しました。パスを使用することで評価が徹底され、統一した看護の提供に繋がっています。



院内ポスター展 優秀賞受賞

### ■教育

新人看護師が自立して看護が行えるようになるまで新人と経験のある看護師がペアナーシングを行っています。ペアナーシングでは、先輩看護師が看護技術を新人に見せ、コーチングし、ケアの意味づけをします。そうすることで、新人が安心して看護を行う事ができ、看護技術を習得する事ができました。病棟全体で新人を育て、共に学び看護の質を高めています。

また、シミュレーションチームが中心となり、急変シミュレーションを実施し、急変時の対応を強化しています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すとともに、リーダーや実習指導者を育成し、スタッフがさらに成長できるように支援を続けています。今年度はラダーⅠ認定者が4名、ラダーⅡ認定者が2名追加になりました。

### ■院内における研究・発表

頚椎手術直後からの自力での体位変換が患者の身体・心理に与える影響

○美濃智子 安尾由佳 川邊静 清水美保 西村留美

2017年度廿日市支部看護研究発表会にて発表

## 西 6 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 植 谷 滋 乃

主 任 竹 村 美 鈴、阿 部 伸 也

他看護師 31 名 看護助手 3 名

### ■ 病棟の概要

【診療科】 消化器外科

【病床数】 54 床

(個室 6 室…うち重症個室 1 室、4 人部屋 12 室)

2017 年度の平均病床稼働率は 84.1%、平均在院日数は 16.0 日となっています。また、肝・胆・膵外科と消化管外科の年間手術件数は 846 件となっています。

### ■ 看護

看護スタッフを周術期医療・看護を行うチームとがん患者に対する抗がん剤治療や症状緩和を行うチームの 2 つに編成しています。

「外科看護に特化した病棟」であるため、周術期医療・看護を行うチームを編成することで専門性を強化し、クリニカルパスを多数導入して術後合併症予防とストーマケアに力を入れています。

また、がん患者に対する抗がん剤治療や症状緩和を行うチームでは、新規薬剤の導入時や食事摂取困難患者に対して薬剤師や管理栄養士と協働して患者さんのサポートに力を入れています。

2017 年度の看護目標を以下の 3 つに設定して、日々の看護に励んでいます。

- \*各委員リンクナースが主体的に病棟内で活動する。
- \*入院時から退院を意識したケア・支援を行い、在宅への退院を目指す。
- \*重症度、医療・看護必要度の入力を実践に行う。

### ■ 教育

毎月 1 回を目標に、病棟内で勉強会を実施しています。

2017 年度は院外研修参加も推奨し、広島県看護協会などで開催された勉強会に自主的に参加し、伝達

講習を行うことで情報を共有しました。

新人に対してはプリセプターによる勉強会の他、チェックリストを使用して基礎看護技術に対する OJT を行いました。

各委員リンクナースが病棟内で勉強会やシミュレーションを通じてスタッフに教育するなど、積極的に教育活動を行いました。



急変シミュレーション

### ■ 院内における研究発表

術後患者の栄養管理カンファレンスの効果

～栄養管理に対する病棟看護師の意識変化～

## 西 7 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 村 中 ひろみ

主 任 平 野 有 紀、坂 手 友 子

他 看護師 32 名 看護助手 3 名

### ■ 病棟の概要

当病棟の病床数は 55 床、個室 7 室（うち特別室 1 室、重症個室 1 室）、4 人部屋 12 室を有する消化器内科病棟です。入院患者は内視鏡検査・治療や肝疾患治療を受ける患者さんが多く、クリニカルパスに沿って医療・看護を提供しています。

2017 年度の平均病床稼働率は 83.3%、平均在院日数は 13.1 日です。

### ■ 看護

看護体制は A・B の 2 チームで固定チームナースング制をとっており二交代制で行っています。消化器に関連した内視鏡検査・治療の他、緊急入院患者さんも多く、限られた時間の中での情報収集や患者さんとその御家族へ確実に丁寧な対応を心がけています。病棟目標に「転倒・転落、薬剤関連のインシデント件数の削減」を掲げ、発生したインシデントに対しカンファレンスの時間を設けて分析を行い、リスク回避に対する意識付けを共有することで患者さんに安全で質の高い看護を提供するよう努めました。また、毎月のリーダー会、チーム会を行い病棟スタッフへの伝達事項や業務改善について話し合い団結して看護を行っています。



### ■ 教育

リーダー I を 4 名取得しました。次年度にはリーダー II 取得者 3 名を目指し、計画的に行っています。

新人看護師教育には、プリセプターが中心となり

立案した計画に添って、基礎看護技術および専門的治療についての知識と技術を習得できるよう各チームで協力しながら指導を行いました。年に 3 回程度振り返りを行い、新人看護師とプリセプターも成長を自覚できるよう新人看護師だけでなくプリセプター教育にも力を注いでいます。

また、内視鏡検査・治療に関連した勉強会を行い、根拠を持った検査前後の看護の提供に繋がるよう病棟スタッフに対し勉強会を実施しました。

看護学生は 3 校を受け入れており基礎・成人・統合実習を通して看護学生への指導・育成にも努めています。



### ■ 院内における研究・発表

2017 年度院内看護研究発表会

膵がん・胆道がん教室の病棟での取り組みと今後の課題

○村上優子 永井沙也加



## 西 8 階病棟

### ■スタッフ

科 長 久 保 洋 子  
主 任 高 原 さ お り、伊 藤 昭 範  
他 看護師 31 名 看護補助者 3 名

### ■病棟の概要

西 8 階病棟は、病床数 56 床の呼吸器内科・緩和ケア科・放射線治療科の混合病棟です。主な疾患は間質性肺炎、細菌性肺炎、急性呼吸不全、気管支喘息、肺癌や食道癌などの悪性腫瘍となっています。急性期から終末期まで幅広い看護を提供しています。2017 年度の平均在院日数は 16.8 日、平均病床稼働率は 84.8%でした。

### ■看護

2017 年度も引き続き病棟の理念に①急性期から慢性期へ切れ目のないケアを提供します。②苦痛なく療養できるケアを提供します。の 2 点を掲げ多職種と協働しながら看護を提供しました。

当病棟は固定チームナーシング（2 チーム）の体制をとっています。緩和ケアのミニカンファレンスは毎朝実施、呼吸器カンファレンスは週 1 回多職種と行い情報共有しながら必要な支援を行っています。

2017 年度は在宅酸素療法を行う患者だけでなく呼吸器疾患患者全体を対象を拡げ、RCT チームとして医師や理学療法士など多職種と協力し患者指導を行いました。

その結果、患者から「パンフレットを用いて指導してもらって良かった」など反応がありました。関わっているスタッフからも「呼吸器ケアの必要性について認識が高まった」と意見があり、呼吸器ケアの底上げができていていると感じています。

退院支援カンファレンスでは MSW と情報共有を行い、転院や退院に向けて準備を行いました。自宅療養を希望される場合は院内外が多職種と退院前カンファレンスを実施し、退院後の療養環境を整えるよう支援しました。年間 28 件の退院前カンファレンスを実施しました。

### ■教育

対象を新人看護師と 2 年目以上の看護師に分け、年間計画に基づき看護の知識・技術の向上を目的に勉強会を実施しました。新人看護師の勉強会は病棟看護師が講師を担当することで知識技術の振り返りができました。年度終わりには、新人が学んだことをまとめて病棟会で発表することで新人の成長を共有できました。次年度の新人教育に活かしたいと思います。2 年目以上の看護師対象の勉強会は他職種にも講師を依頼し疾患・看護だけでなく、薬剤や情報管理など幅広い分野の勉強会を開催することができました。

日本赤十字広島看護大学の実習を受け入れて、学生指導にも力を入れています。





## 東 3 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 新 田 克 己

主 任 畷 小百合、宮 本 英 美

他 看護師 31 名 看護助手 3 名

### ■ 病棟の概要

東 3 階病棟は、循環器内科・心臓血管外科を主とする混合病棟です。2017 年度の平均在院日数は 13.6 日、病床稼働率は平均 81.1%でした。

循環器内科の入院患者は、主に心筋梗塞・狭心症・心不全・不整脈が主病名です。従来当心臓カテーテル検査や治療に加え、2017 年度からは不整脈に対して高周波カテーテルアブレーション治療も開始となりました。

心臓血管外科は、心臓弁膜症・心臓血管バイパス・胸部大動脈瘤などの開心術後やステントグラフト内挿術などの患者さんが入院されます。

### ■ 看護

看護体制は固定チームナーシング（2 チーム）を取り入れ、チームリーダーを中心に質の高い看護の提供に務めています。日々チームカンファレンスを実施するなかで意見を出し合い、患者情報の共有と看護ケアの見直しを行っています。

心不全・心筋梗塞の患者さんに対しては、他職種と連携を図り、指導計画に基づいて、生活改善の見直しと自己管理の必要性について指導を実施しています。

2015 年度から広島県心臓いきいき推進事業に参画して、毎月の心臓病教室や年 2 回の心臓いきいきキャラバンを開催しています。2017 年度からは専門的知見を有する医療機関・在宅医療サービス事業所を対象に、心臓いきいき在宅支援施設認定講習会を 2 回開催しました。

### ■ 教育

新人教育に対しては、プリセプターが中心となり、スタッフと情報共有しながら病棟全体で教育・支援

を実施しています。

病棟勉強会は主任が中心となって企画していますが、今年度、高周波カテーテルアブレーション治療の導入にあたり、関連部署との合同勉強会を実施しました。看護の質・向上に向けて、関連部署と連携を取りながら、適宜準備の内容・手順の見直しを実施しました。

また、当病棟は安田女子大学看護学部、山陽看護専門学校、東亜看護学院等の実習を積極的に受け入れ、学生に対して支援をしています。

### ■ 院内における研究・発表

第 23 回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会

急性心筋梗塞例の外来心臓リハビリテーション移行について～入院中に看護師ができることは～



## 東 4 階病棟

### ■スタッフ

科 長 川 村 洋 子  
主 任 秦 真 規 子、辻 由 利 恵  
他 36 名

### ■病棟の概要

当病棟は小児科・眼科・耳鼻咽喉科を主とし、ほか 14 歳以下の整形外科・形成外科などの診療科の患児を受け入れています。病床数は 43 床です。

入院患者の多くは廿日市市、広島市佐伯区、大竹市の方です。広島県西部地区における小児の入院の受け入れ可能施設は当院のみのため、小児の入院は多方面より受け入れています。

### ■看護

～小児科外来・病棟の看護一元化～

当院の小児科外来では、地域で暮らす慢性疾患患児や食物アレルギー患児が多く通院しており、成長発達段階を踏まえた継続的な生活指導が重要となってきます。2017 年度から小児患児への継続的な看護支援の充実を図る目的で、小児科外来と病棟の看護一元化に取り組みました。外来と病棟の看護一元化をすることで、急な入院においても、外来から入院、そして退院後は外来へと、継続した看護を提供することができました。患児の保護者からは、外来で関わりのある看護師が病棟にいて安心して入院できたという声も聞かれました。

～小児における急性期看護の充実～

小児は、身体の多くの組織が発達段階にあり、対応予備能力が未熟なため、容易に重症へと変化しやすく、小児救急の知識や技術を踏まえた急性期看護が重要となります。2017 年度は、質の高い小児の急性期看護の充実を目標に日々看護に取り組みました。院内の救急認定看護師、救急科医師の協力のもと、研修会を企画し、日々研鑽に努めました。また、院内留学制度を活用し 14 名のスタッフが地域救命救急センターで研修に取り組みました。研修の成果として、学んだことを意識して日々の看護実践に活かせるようになりました。

### ■教育

2017 年度研修実績

1. 小児救急看護トリアージ (PAT、ABCDE 評価)
2. 小児科電話相談対応方法
3. 小児救急蘇生法 PBLIS
4. 小児急変対応；小児科外来編 (シナリオシミュレーション)
5. 小児救急蘇生法；気管内挿管、骨髄針穿刺介助
6. 小児救急蘇生法；PALS (シナリオシミュレーション)



### ■院内における研究・発表

2017 年度院内研究発表会

「自宅で経口免疫療法をしている患児の母親が抱えている困難感」

○金行麻衣 重井和香菜 秦真規子 辻由利恵

## 東 5 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 吾 郷 志津枝  
主 任 宮 崎 有 紀、中 満 美 幸  
岡 本 真 理

他 看護師 31 名 看護助手 2 名 介護士 2 名

### ■ 病棟の概要

病床数は 51 床で、一般病室（4 人部屋）7 部屋と混合病室（観察室 4 人部屋）3 部屋、一般個室 9 床、重症個室 2 床の病棟です。脳神経外科・口腔外科・消化器内科の検査入院の患者さんが入院される混合病棟です。

脳卒中（脳出血・脳梗塞・脳塞栓・くも膜下出血）の患者さんは、入院当初よりリハビリを開始して、病棟食堂で遊びリテーション（歌風船バレー・カープ応援歌の合唱など）も実施しています。その後、地域連携パスを使用して、地域の回復期リハビリテーション病院（廿日市記念病院・アマノリハビリテーション病院・大野浦病院・西広島リハビリテーション病院・五日市記念病院）への転院をサポートして、切れ目のないリハビリを行える環境を提供しています。



### ■ 看護

看護師の勤務形態は、2 交代制、A チーム・B チームの 2 チーム制を取っています。

今年は、5 つの病棟活動チームを編成しテーマごとに活動しました。

#### 1. 退院時指導チーム

スタッフの退院指導に差が生じないようにスタッフ教育を 3 回に分け実施しました。自宅退院の患者さんへ受け持ち看護師が患者さん・ご家族へパンフレット指導をしていくように力を入れました。



#### 2. 基礎データ作成・地域連携パスチーム

病棟独自の問診票の見直しが終了したため、スタッフに提示し、運用開始しました。地域連携パスの説明を統一するため勉強会を行い、患者さん・ご家族に説明できるようになりました。

#### 3. 急変シミュレーションチーム

新人・リーダークラスに分けて、講義とシミュレーター人形を使用し、シナリオを作成してシミュレーション研修を行いました。今後も定期的実施していく予定です。

#### 4. 研修会企画チーム

臨床工学技士、リハビリスタッフ、栄養士を講師に勉強会を企画・運営し東 5 病棟の看護に必要な知識を身につけました。

4 名の新人看護師のための勉強会は担当を振り分け、病棟看護師全員で新人を育てています。

### ■ 教育

ラダーⅠに 3 名、ラダーⅡに 3 名の看護師が認定されました。ラダー認定もスタッフに定着し、来年度の受審のため計画的に研修に参加しています。

修了証のある認知症看護の研修に 4 名、重症看護必要度の研修に 3 名受講し、計画的にスタッフ教育をしています。

### ■ 研究発表

1. 急性期脳神経外科病棟における遊びリテーションの有効性に関する検討～FIM 改善率と退院時 mRS に焦点を当てて～ ◎宮城亜耶・山崎克仁他  
・日本リハビリテーション看護学会

・第 28 回佐伯医学会

・広島県看護協会廿日市支部看護研究発表会

2. 身体抑制開始・解除時の統一した評価～危険予測スケールを用いて ◎折本孝子・川岡めぐみ他  
・広島県看護協会廿日市支部看護研究発表会

### ■ 生き生きとした職場作り

スタッフ同士の交流会に重きを置き 2 ヶ月に 1 度の昼の食事会、忘年会などを企画して実施しました。



## 東 6 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 古 井 良 子  
主 任 前 田 智 子、手 島 未 貴  
他 看護師 26 名 看護助手 2 名

### ■ 病棟の概要

東 6 階病棟は、病床数 49 床の泌尿器科・乳腺外科・皮膚科、他科診療科の受け入れを行っている混合病棟です。急性期の患者から終末期の患者まで幅広く看護を行っています。2017 年度に実践した周術期看護は、662 件で前年を大幅に増加しています。入退院も多く、総入院患者数 1542 名、総退院患者数 1582 名となっています。

手術、入退院数、在宅復帰率を 2016 年度と比較し、【表 1】に示します。前年度に比べ全体的に増加傾向となっています。今後も維持・増加を目指し病棟運営を行ってまいります。

【表 1】2017 年度病棟概要

	2016 年度	2017 年度
年間入院患者	1441 名	1542 名
退院患者数	1480 名	1582 名
年間手術件数	604 件	662 件
在院日数	10.0 日	9.3 日
在宅復帰率	93.10%	93.90%
平均看護必要度	29.40%	29.50%

### ■ 看護

看護体制は、固定チームナースング制をとっており、2 チーム 2 交代制で行っています。

2017 年度は以下の病棟目標を立案しました。

- 安全で適切な療養環境を整える。  
インシデント件数は転倒 29 件（目標 30 件）、薬剤関連 28 件（目標 30 件）でした。前年度に比インシデント件数が増加しています。病棟内でインシデントを振り返り部署全体で検討しています。今後もより安全な医療、入院時から患者の状況に合わせた介入を実践し、質の高い看護を提供できるよう取り組み課題としていきます。
- 退院支援を充実させ病床稼働率を維持する。  
入院時より病棟担当相談員と連携し退院支援を行

い、DPC II 期間で退院できるよう調整しています。

3. コスト意識を持ち病院の収益に関心を持つ。

病棟内で SPD 定数の見直し等を行い、物品管理方法を再検討し、前年度に比べ大幅に SPD 紛失枚数を減らすことができています。

### ■ 教育

- ・新人看護師教育はアソシエイトナース、プリセプターナースを中心に年間教育プログラムを立案し、勉強会の開催、定期的に面談を行い、精神的なサポートと共にスタッフ育成を病棟全体で行っています。
- ・専門性を高めるためにチーム編成（泌尿器科看護、アロマ認知症看護、乳腺外科看護、リスク管理、スキンケア）を行い活動しました。年間目標による計画立案のもと他職種との病棟内での勉強会開催や院外研修への参加を行い、病棟内のレベルアップに努めています。

### ■ 院内における研究・発表

#### 【院内】

- 療養上の尿道留置カテーテル管理について病棟看護師の意識調査

研究者：木村賢士

#### 【ポスター展発表】

- 尿失禁について



# 東 7 階病棟

## ■ スタッフ

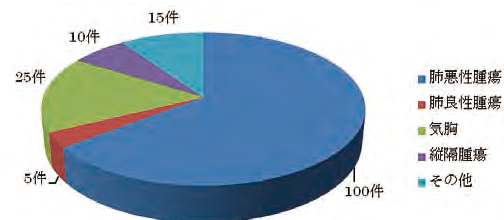
科 長 本 山 敏 恵  
 主 任 島 津 加 奈 子、辻 幸 枝  
 他 看護師 26 名 看護助手 3 名

## ■ 病棟の概要

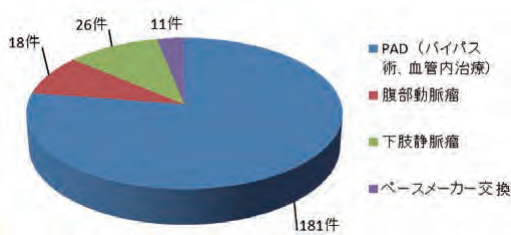
東 7 階病棟は 43 床を有し、個室 11 室（うち重症個室 2 室）、4 人部屋 8 室があります。呼吸器外科と心臓血管外科の病棟であり、検査入院から外科的治療を行うだけでなく、終末期治療まで行っています。呼吸器外科では肺癌、気胸、膿胸、縦隔腫瘍、心臓血管外科は下肢閉塞性動脈硬化症、腹部動脈瘤、下肢静脈瘤の疾患の治療を行っています。その他、呼吸器内科の肺炎や、形成外科の下肢潰瘍、足趾壊死の患者の入院を受け入れています。

2017 年度の平均病床稼働率は 86.9%、平均在院日数は 21.9 日、看護必要度は 30.8% です。

### 【手術件数】



(図 1) 呼吸器外科手術件数 (総数 155 件)



(図 2) 心臓血管外科手術件数 (総数 236 件)

## ■ 看護

患者さんとの関わりを深め、きめ細かく・質の高い看護を提供する為に、看護方式は固定チームナーシングと受け持ち制を併用しています。限られた時間の中での周術期の情報収集や、毎日の処置を行う上での細やかな看護を心がけています。多職種とのチームカンファレンスを毎週行っており、患者情報

の共有を行い、統一した医療の提供を行っています。皮膚・排泄認定看護師を中心に、フットケアのスキルアップを目指しており、また、下肢血管チーム（心臓血管外科医師、形成外科医師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、看護師）でのフットケア回診を実施することで、ケアの充実につとめています。



## ■ 教育

クリニカルラダーの取得を目指しており、今年度はラダーⅠを 2 人、ラダーⅡを 2 人取得しました。次年度取得に向けて自主的に研修会受講を行っています。

また、専門分野だけでなく幅広い知識の習得に向けて、院内院外の研修に参加し、チーム内での伝達講習を行っています。

### 〈2017 年に行った勉強会〉

- 下肢救済学会報告会
- スキンケアの方法
- 肺・呼吸音について
- 胸腔ドレナージの管理について
- 血管の名前や位置について
- 急変対応、AED について
- 心電図

## ■ 院内における研究・発表

当院における救趾の携わるチーム医療での看護師の役割

- 南部智江 中洲沙織 福本裕平 本山敏恵 小林平

## 東 8 階病棟

### ■ スタッフ

科 長 野 田 明 美

主 任 加 賀 美 昌 美、松 浦 美 由 紀

他 看護師 22 名 看護助手 3 名

### ■ 病棟の概要

当病棟は糖尿病代謝内科、腎臓内科の病棟です。

糖尿病代謝内科では、主に糖尿病教育入院や血糖コントロール目的の患者さんが入院されます。

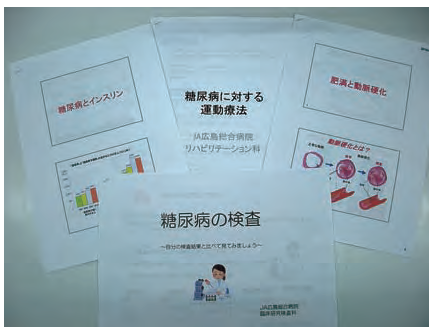
腎臓内科では、主に腎臓病教育入院や腎臓機能低下の患者さんが入院されます。

病床数は、35 床（個室：11 部屋、4 人部屋：6 部屋）です。

### ■ 看護

糖尿病看護認定看護師 1 名、糖尿病療養指導士 3 名、腎臓病療養指導士 1 名が在籍しています。

医師、薬剤師、栄養士の方々と定期的なカンファレンスを行い、チーム医療に力を入れています。入院された患者さんが治療の他に日常生活の中で必要な、食事・運動・薬物療法の管理を継続して行えるよう、また退院後も効果的な日常生活が送れるよう指導を行っています。



患者さんがわかりやすいように、パンフレット作成に取り組んでいます。

地域活動においては、毎年あいプラザ祭りに参加し、糖尿病について啓発活動を行っています。

また、看護師が生き生きと看護が提供できるように、看護師同士でメッセージの交換を行いました。

子育てと仕事を両立しながら働いている看護師をはじめとする一人一人を尊重し、コミュニケーション・他職種との連携を大切に考え、レクリエーションでバーベキューを行いました。



### ■ 教育

新人看護師教育は、プリセプターを中心にスタッフ全員で育てる姿勢で行っています。

研修会参加は、各自で自己研鑽に努めています。

看護学生の実習にも、力を注いでいます。

### ■ 院内における研究・発表

腎臓病教育入院後の療養生活継続における看護師介入の重要性

◎高見賢次・堀田泰寛 他

# 手術室

## ■ スタッフ

科 長 村 田 美智子  
 主 任 加 藤 智 恵、平 本 康 昂、  
 生 田 祐 子  
 看護師 35 名  
 委託業者（清掃、機械洗浄、滅菌、中材業務）

## ■ 概要

当院手術室は 13 診療科の手術を行っており、2017 年度の年間手術件数は 5,689 件でした。急性期病院の手術室として患者さんが安心して手術を受けられ、安全で円滑に手術が進行するように知識、技術の習得に励んでいます。

医療環境の変化に伴い、手術看護師に求められるスキルが多様化し、働き続けられる環境づくりが課題となっています。現在、新しい手術室看護体制を確立するため固定チーム制の導入、待機制から完全 2 交代制の導入に向けて業務改善活動に取り組んでいます。



## ■ 看護

今年度の部署目標

- 1) 患者さんが安全・安心な手術を受けられる手術室看護を実践しよう
- 2) 急性期病院手術室としての役割を果たし患者さんの治癒療養を支援しよう
- 3) 一人ひとりが経済意識を持ち、資源を有効活用しよう

手術管理システムの修正・整理や、スタッフによる器械管理・器材物品管理、医療機器の管理・看護行為を臨床工学技士と連携・協働し実施することで、より安全・安心な手術環境の提供に努めています。予定手術では手術担当看護師による術前訪問を行い患者さん、ご家族の緊張や不安の軽減に努めています。

## ■ 教育

“みんなで育てよう”をスローガンにスタッフ一丸となり育成に取り組んでいます。各診療科別のチームが主体となりマニュアルの修正、伝達ノートの作成など新人にも統一した指導ができるように工夫をしています。また、新人看護師教育は手術室ラダーをもとに、プリセプターを中心に指導を行っています。次年度の新しい手術室看護体制の導入に向けて、早期人材育成と働き続けられる職場環境づくりを目指すため 13 診療科を 3 つに分けて 1 年間で 4～5 の診療科に特化した教育に取り組む予定です。

また、災害対策チームが中心となり、手術室内の災害発生時の危険な箇所のピックアップ、アクションカードの作成、マニュアルの整備を行いました。実際にアクションカードを用いたシミュレーションを行い、スタッフの災害意識の向上と災害初期行動の理解を深める実りの多い研修会となりました。

看護学生の実習は、3 校を受け入れ、学生指導にも力を入れています。

## ■ 院内における研究・発表

### 【院内研究発表会】

手術室災害訓練・勉強会実施前後の看護師の災害意識・初期行動理解の比較～アクションカードを用いたシミュレーションを実施して～

○鈴木久憲 加藤智恵



【ポスター展】

# 居宅介護支援事業所

## ■スタッフ

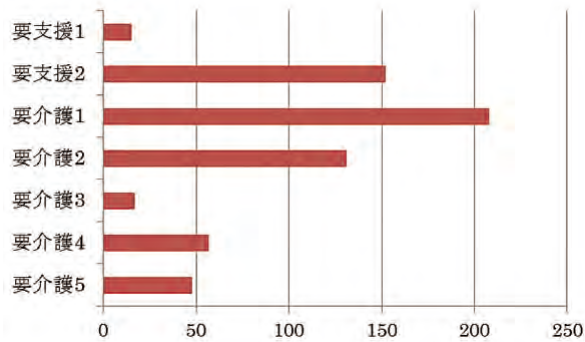
管理者 古本直子  
 (緩和ケア認定看護師、介護支援専門員)  
 矢野秀美  
 (主任介護支援専門員)

## ■概要

当事業所は、急性期病院（地域がん診療連携拠点病院）、訪問看護ステーションと併設し、医療依存度の高い利用者やがん終末期の利用者が多い事業所です。基礎資格は看護師で、生活の中でも医療の観点を持ち、相談・アセスメント・モニタリングしています。多職種と連携を図り、利用者・家族の意向を尊重したサービス計画を作成しています。

## ■実績

- 年間利用者実人数 57人  
 内、がんを主病名にもつ利用者 12人
- 年間介護度別利用者数（のべ人数）



## ■主な支援内容数（件）

	年間総数	月平均
利用者宅訪問	633	52.8
サービス担当者会議	97	8.0
モニタリング	536	44.7
包括との連絡	58	4.8
医療機関との連携	49	4.1

## ■支援の実際

A氏：80歳代女性 独居 フレイル

「自分の家で死にたい」「一人の時間に死んでもいいように、入れ歯を入れ、手を組んで眠るの」と、在宅看取りを希望されていました。在宅医・訪問介護・訪問看護の連携、遠方に住む家族の承諾を得て、サービス担当者会議で在宅チームで意思統一をし、自宅で一人の時間に亡くなりました。



## ■教育

広島県集団研修、廿日市市地域包括支援センター、広島県介護支援専門員協会、廿日市市介護支援専門員連絡協議会、廿日市市五師士会、院内外の研修に参加し、自己研鑽に努めています。

日本在宅ケア学会での発表、雑誌投稿も行っています。





# 訪問看護ステーション

## ■ スタッフ

施設科長 古本直子  
 (緩和ケア認定看護師、介護支援専門員)  
 主任 奥元直美  
 他 看護師 3名

## ■ 概要

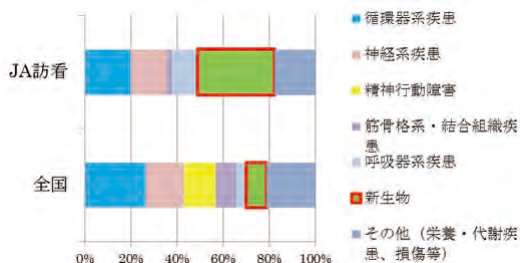
当訪問看護ステーションは、急性期病院（地域がん診療拠点病院）、居宅介護支援事業所に併設し、がん末期の方や医療依存度の高い方を、医療・介護の連携を図り、支援しています。看護師4名で待機制をとり、365日24時間連絡対応しています。がんを主病名にもつ利用者が多く、医療保険での訪問件数が増えています。

## ■ 実績

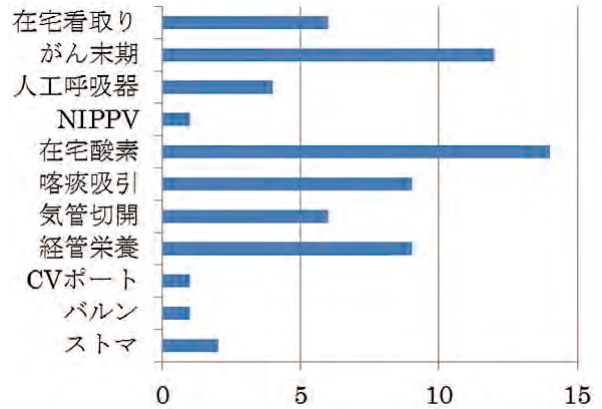
- ・利用者の年齢 4歳～101歳
- ・月間実利用者数：27～35人  
年間総利用者数 49人
- ・月間のべ平均訪問件数 140件
- ・介護保険と医療保険種別利用者の構成割合

	介護保険	医療保険
厚生連訪問看護	52.1%	47.9%
全国 2016年 (厚生省事業調査)	71.2%	28.8%
広島県 2015年 広島県訪問看護協議会調査	68.2%	31.8%

## ・主な疾患



## ■ 医療処置 (重複該当有り)



## ■ 教育

部署内での勉強会、院内外研修、日本在宅ケア学会、日本がん看護学会に参加し、伝達講習も行い自己研鑽に努めています。今年度は、新卒看護師の学習支援プログラムを作成し指導しました。

膀胱がん教室ワークショップ in 福岡参加

(ポスター発表)



## 院内ポスター展の事例紹介より



# 薬剤部

## ■スタッフ

部長 橋本佳浩  
 科長 中島恵子  
 科長補佐 磯貝明彦  
 主任 松本里恵、山崎貴司  
       正畠和美、大原由希子  
       角井碧

薬剤師 計 38 名（休職・産休 3 名含む）

事務 6 名

[人員配置]

西 4 階、西 5 階、西 6 階、西 7 階、西 8 階、  
 東 3 階、東 4 階、東 5 階、東 6 階、東 7 階、  
 東 8 階、HCU、ICU に病棟薬剤師  
 がん化学療法専任 3 名 ICT 専任 1 名  
 NST 専任 2 名 緩和ケア専任 1 名  
 DI 専従 1 名

[取得資格（認定、所属学会、世話人等）]

日本臨床救急医学会 救急認定薬剤師 1 名  
 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 3 名  
 日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師 1 名  
 日本病院薬剤師会  
 感染制御認定薬剤師 1 名 認定指導薬剤師 1 名  
 生涯研修履修認定薬剤師 12 名  
 日本薬剤師研修センター  
 認定実務実習指導薬剤師 4 名  
 研修認定薬剤師 7 名  
 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師 1 名  
 糖尿病療養指導士 6 名  
 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 2 名  
 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）  
 公認スポーツファーマシスト 2 名  
 日本救急医学会 ILS インストラクター 2 名  
 危険物取扱者 1 名  
 NR・サプリメントアドバイザー 1 名  
 日本 TDM 学会 1 名・日本化学療法学会 2 名  
 日本医療薬学会 5 名・日本腎臓病薬物療法学会 3 名  
 日本緩和医療学会 1 名・日本緩和医療薬学会 4 名  
 日本臨床腫瘍学会 1 名・日本臨床腫瘍薬学会 4 名  
 日本環境感染学会 2 名・日本臨床救急医学会 1 名

日本静脈経腸栄養学会 2 名・日本褥瘡学会 1 名  
 日本心臓リハビリテーション学会 4 名  
 全国厚生連病院薬剤師長会議理事 1 名  
 広島県病院薬剤師会理事 1 名  
 広島県病院薬剤師会委員会（医薬品情報委員 2 名、  
 医療連携支援検討委員 2 名、専門薬剤師委員（感染）  
 1 名、薬剤業務・プレアボイド委員 1 名）

## ■業務内容

調剤業務：外来 518 枚／日（院外処方箋発行率 0%）  
 入院 324 枚／日  
 注射調剤 504 件／日、院内製剤 48 品目  
 TDM（VCM・TEIC・ABK）10 症例／月  
 抗がん剤無菌調製：外来 19 件／日 入院 7 件／日  
 抗がん剤レジメン構築・管理  
 がん指導管理料 3 算定（薬剤部のみ）292 件／年  
 薬剤管理指導算定件数 703 件／月  
 持参薬鑑別 218 件／月 実務実習 11 名／年  
 薬品管理、医薬品情報（DI）、後発医薬品選定、  
 治験 16 件／年  
 チーム医療（ICT、NST、医療安全管理、RST、PCT）  
 糖尿病教室、膵がん教室、心臓病教室

## ■その他活動内容

プレアボイド：外来 179 件／年 入院 37 件／年  
 委員会事務局  
 （院内感染対策委員会、薬事委員会、治験委員会、  
 がん化学療法運営委員会）  
 薬剤部定期勉強会・症例検討会 2 回／月

## ■管理機器一覧

錠剤分包機、散剤分包機、散剤バーコードシステ  
 ム、高圧蒸気滅菌器、乾熱滅菌器、RO 純水製造  
 装置、クリーンベンチ、安全キャビネット

全病棟に薬剤師を配置し、病棟薬剤業務加算を算  
 定、病棟における全薬物療法に貢献しています。  
 また、医薬品情報提供の充実、病院全体の薬品管  
 理の徹底に努め、薬剤の安全管理と適正使用を積  
 極的に推進しています。

# 臨床研究検査科

## ■スタッフ

主任部長 石田和史(兼務)  
 部長 碓井裕史(兼務)  
 精度管理部長 藤井隆  
 科長 水野誠士  
 科長補佐 三舛正志、福岡達仁  
 主任 小松浩基、長尾専  
 山本加代子

医師(兼務を含む) 3名  
 臨床検査技師(役職者を含む) 40名  
 助手 2名

### 【資格取得】

認定管理検査技師 2名 認定輸血検査技師 2名  
 認定臨床化学者 1名 認定血液検査技師 1名  
 認定一般検査技師 1名 認定心電検査技師 3名  
 細胞検査士 1名 日本糖尿病療養指導士 1名  
 認定臨床微生物検査技師 1名 DMAT 隊員 1名  
 医療情報技師 3名 医療環境管理士 1名  
 超音波検査士 6名(消化器 2、体表臓器 1、循環器 1、  
 泌尿器 2) 血管診療技師 3名  
 聴力測定技術者 1 消化器内視鏡技師 1名  
 二級臨床検査士 17名(血液 7、循環器 4、脳神経 1、  
 呼吸生理 1、病理 2、微生物 1、免疫血清)  
 一般毒物劇物取扱者 5名 危険物取扱者 1名  
 第1種衛生管理者 1名 衛生工学衛生管理者 1名

### 【所属学会】

日本臨床衛生検査技師会 日本臨床検査医学会  
 日本臨床化学会 日本臨床細胞学会  
 日本超音波医学会  
 日本検査血液学会 日本輸血・細胞療法学会  
 日本消化器内視鏡学会 日本超音波検査学会  
 日本感染症学会 日本臨床微生物学会  
 日本化学療法学会 日本環境感染学会  
 日本結核病学会 日本心エコー図学会  
 日本不整脈心電学会 日本睡眠学会  
 日本乳腺甲状腺超音波医学会 日本診療情報学会  
 日本臨床検査自動化学会 生物試料分析学会

### 【施設基準】

日本臨床衛生検査技師会 認証制度保証施設

同 標準化事業 基準基幹施設

## ■部門紹介

当検査室は迅速で、安全かつ精度の高い検査を保証し、診療支援の一翼を担うことを基本に、次の行動目標をたて日々の業務に取り組んでいます。

\*患者第一、そのサービス向上に努力しよう

\*積極的にチーム医療に参画しよう

\*日々、業務改善を念頭に仕事をしよう

\*常にコスト意識を持ち、収益性を考え原価計算しよう

### 【部門内研修会】

\*バイオマーカーとしてのナトリウム利尿ペプチドと腎機能

\*平成 28 年度日臨技精度管理調査(微生物分野)

\*睡眠時無呼吸症候群

\*真の異常値? 偽の異常値

\*尿沈渣スライドカンファレンス

～上皮細胞を分類しましょう Q & A～

\*水は基本! 純水・超純水の基礎知識

\*皮膚灌流圧検査(SPP)

\*白血病について

\*亜鉛の有用性

\*秘かに隠れるファブリー病

～日常診療で「気付く」ために～

\*緊急時輸血の検査室での対応

\*知って良かった! 感染対策ピットホール

\*新しい DIC の診断基準について

\*ユービットを用いた尿素呼気試験法

### 【外部精度管理調査報告】

1) 日本臨床衛生検査技師会 100点 (231 / 231)

2) 日本医師会 99.7点 (638 / 640)

3) 広島県医師会 100点 (116 / 116)

## ■トピックス

採血室・採血管準備システムの更新

(株式会社テクノメディカ)

# 中央放射線科

## ■スタッフ

主任部長 西原 礼介 (兼務)  
科 長 山口 裕之  
科長補佐 本山 貴志  
主 任 高畑 明、砂田 研二  
下土居 一、柳井 環

診療放射線技師 (役職者含む) 24 名

### 【取得資格】

第 1 種放射線取扱主任者	4 名
エックス線作業主任者	5 名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	3 名
第一種作業環境測定士 (放射線)	1 名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	4 名
核医学専門技師	1 名
救急撮影認定技師	1 名
X 線 CT 認定技師	3 名
医療情報技師	2 名
肺がん CT 検診認定技師	2 名
医用画像情報管理士	1 名
臨床実習指導教員	1 名
Ai 認定診療放射線技師	3 名
放射線管理士	1 名
放射線機器管理士	1 名
ICLS プロバイダー	1 名
ISLS プロバイダー	1 名

### 【所属学会】

日本診療放射線技師会 日本放射線技術学会  
日本乳癌検診学会 オートプシーイメージング学会  
日本消化器集団検診学会 日本核医学技術学会  
日本超音波検査学会 日本 CT 技術学会  
日本磁気共鳴医学会 日本乳房画像研究会

### 【世話人等】

公益社団法人 日本診療放射線技師会代議員  
公益社団法人 広島県診療放射線技師会副会長  
公益社団法人 広島県放射線技師会西部地区理事  
NPO 日本乳癌検診学会評議員  
NPO 日本核医学技術学会中国・四国地方会理事  
広島臨床画像研修会幹事 (事務局)  
広島 CT 技術研究会会長

## ■認定施設基準

日本乳がん検診精度管理中央機構認定 マンモグラフィ検診施設画像認定施設

## ■部内研修会 (1 回/月)

みんなで急患に強くなりましょう Part1  
急変シミュレーション 初級編  
島津エックス線装置のイノベーションと最新装置の紹介  
病院情報システム利用者プログラム研修  
みんなで急患に強くなりましょう Part2  
食道と胃の CT 画像と手術支援画像のポイント  
単純 X 線撮影で実現する胸部動態解析技術  
みんなで急変に強くなりましょう Part3  
更新導入された核医学検査装置について  
AeroDR 装置の新画像処理 REALISM について  
DXA 法における骨密度測定的基础  
放射線治療装置用動態追跡システム SyncTraX の紹介

## ■業務内容 (トピックス)

核医学検査装置の機器更新に伴い 2017 年 11 月に GE 社製 Discovery 670 が導入されました。本装置は、画質の向上を目的とした様々なアプリケーションが搭載されており、従来装置より診断精度が向上しています。



# 臨床工学科

## ■ スタッフ

主任部長 吉田 研一 (兼務)

科長 瀬尾 憲由

主任 荒田 晋二、平野 恵子

臨床工学技士 (CE) 14名 (科長・主任含む) 助手 1名

### 【認定資格取得】

- ・体外循環認定士：3名
- ・3学会合同呼吸療法認定士：6名
- ・透析技術認定士：2名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1名
- ・消化器内視鏡技師：3名

### 【所属学会】

- ・日本臨床工学会・日本体外循環技術医学会
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

## ■ 部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在14名でさまざまな業務と各専門性に対応するためにチームに分かれて業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

## ■ 業務内容

### 『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：  
67例



### 『整形外科立ち合い業務』

立ち合い症例数

頸椎・脊椎固定：

97例 上肢・下肢：246例

下肢関節置換：39例

### 『EVT立ち合い業務』

EVT 症例数：247例

### 『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化療法各症例数

CHDF：80例、血漿交換：3例、血液透析：19例



- ・補助循環装置 (VA-ECMO、W-ECMO)、IABP 各症例数

VA-ECMO、W-ECMO：8例 IABP：29例



『循環器業務』

- CAG、PCI、PMI、ABL 各症例数  
CAG：342 例 PCI：233 例 PMI：42 件（14 件電池交換）

『血液浄化療法』

- 慢性透析症例数：5028 回  
白血球除去療法（LCAP：GCAP）症例数：51 回



『高気圧酸素療法業務』

- 症例数：531 例  
主な疾患：突発性難聴、網脈動脈閉塞症など

『内視鏡業務』

- ESD、ERCP、EMR 各症例数  
ESD：144 例 EMR：489 例 ERCP：435 例



『慢性期・在宅医療支援業務』

- 人工呼吸器や NPPV（NIP、ASV）などの在宅医療支援（HST）活動としての在宅訪問：38 回



■ トピックス

2017 年 5 月からカテーテルアブレーション（ABL）業務を開始しました。カテーテルアブレーション治療とは、カテーテルという細い管を血管から心臓に入れて、不整脈の原因となる電気回路を遮断する治療法です。薬物治療が不整脈の症状を抑えることを目的とした治療法であるのに対し、カテーテルアブレーションは不整脈の根治を目指す治療法です。  
ABL：65 例



# リハビリテーション科

## ■ スタッフ

センター長 黒木 一彦 (兼務)  
 部長 小林 平 (兼務)  
 部長 山田 清貴 (兼務)  
 科長 村上 嘉章  
 主任 寺迫 正広、小林 恭子  
 本間 智明

理学療法士 13名 (役職者含む)

作業療法士 4名

言語聴覚士 4名

取得資格

呼吸療法認定士 8名

心臓リハビリテーション指導士 2名

住環境福祉コーディネーター 2級 3名

社会福祉士 1名

介護支援専門員 2名

がんリハビリテーション研修修了者 9名

認知症ケア専門士 1名

リンパ浮腫複合的治療技術者 1名

弾性ストッキングコンダクター 1名

認定言語聴覚士 (摂食・嚥下領域) 1名

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士 1名

## ■ 部門紹介

当科では入院患者さんを中心に院内全科からのリハビリテーション依頼を受けており、入院直後や手術後早期の超急性期から終末期まで、多種多様な疾患をもたれた患者さんに介入しています。全ての疾患別リハビリテーションに加え、がん患者リハビリテーション料も算定しています。昨年と同様にリハビリテーション処方件数は年々増加しています。(図1)

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かし、他職種と協働して患者さんに介入しています。

所有管理機器

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・低周波・スパイロメーター、心リハ専用モニター (RH-1000)

認定施設基準

運動器リハビリテーション料 (1)

呼吸器リハビリテーション料 (1)  
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (1)  
 心大血管疾患リハビリテーション料 (1)  
 がん患者リハビリテーション料

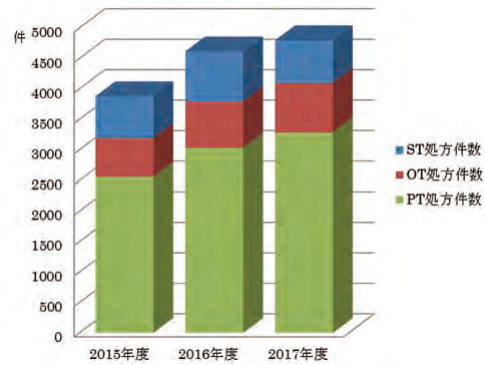


図1 リハビリテーション処方件数

## ■ トピックス

今年度より呼吸器内科において呼吸器疾患患者さんすべてを対象に包括的呼吸リハビリテーションを開始しています。入院直後から多職種が介入し、カンファレンスを行いながらチームで活動しています。リハビリ科は必要に応じて理学療法士と作業療法士が同時に介入し、運動療法やADL指導などを行っています。不用意な安静を排除し、適切且つ的確な医療体制を構築することで、円滑な退院支援が可能となりました。







# 診療情報管理科

## ■ スタッフ

科 長 井 本 真 美

他 9 名

### 【資格取得】

診療情報管理士 8 名 (科長含む)

院内がん登録実務中級認定者 3 名

院内がん登録実務初級認定者 4 名

医療情報技師 1 名

DPC コース認定 1 名

腫瘍学分類コース認定 1 名

### 【所属学会】

日本診療情報管理士会

日本診療情報管理学会

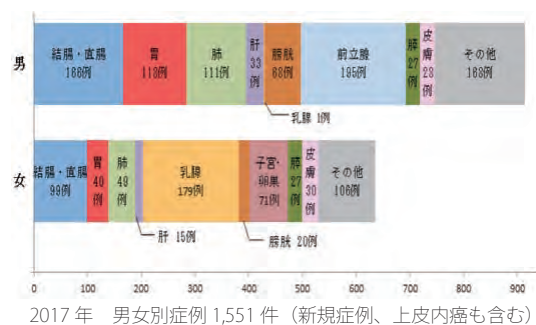
日本医療情報学会

## ■ 活動報告

### 〈がん登録業務〉

地域がん診療連携拠点病院として「院内がん登録は国へ」、「全国がん登録は県へ」データ提出を行っています。

また、本年度も昨年に引き続き、院外ホームページの「がん治療実績」更新や当院オリジナル新聞「広総がん情報ニュース」を発行し、地域の開業医・近隣住民に向けての情報発信を行いました。



### 〈Medoc スキャン業務〉

Medoc スキャンされた同意書等には、タイムスタンプが付与され、電子データの原本性が担保されます。

当科へ搬入された同意書等は内容点検後、一両日中 (不備分を除く) にスキャンし、不備分は都度対応を行っています。スキャン後の同意書は6ヶ月保

管し、その後破棄処分しています。

### 〈サマリ業務〉

医師の退院時サマリを基に国際疾病分類 ICD-10、手術・処置の分類 ICD-9-CM で登録を行い、データを蓄積しています。蓄積したデータは、医師・看護師・コメディカルからの抽出依頼に対し情報還元を行っています。

2017 年度 病名別件数 総数：15,124 件 (転科を含む)

順位	病名 (大分類)	件数
1	悪性新生物および良性新生物 (C00-D48)	2,736
2	循環器系の疾患 (I00-I99)	1,985
3	消化器系の疾患 (K00-K93)	1,931
4	損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	1,631
5	呼吸器系の疾患 (J00-J99)	1,273
6	健康状態に影響をおよぼす要因 (Z00-Z99)	908
7	腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	838
8	筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	819
9	妊娠、分娩および産褥 (O00-O99)	658
10	眼および付属器の疾患 (H00-H59)	543
11	感染症および寄生虫症 (A00-B99)	386
12	内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	311
13	神経系の疾患 (G00-G99)	264
14	皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	211
15	異常臨床所見、異常検査所見 (R00-R99)	194
16	耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	175
17	周産期に発生した病態 (P00-P96)	144
18	血液、造血器、免疫機構の障害 (D50-D89)	61
19	先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	29
20	精神および行動の障害 (F00-F99)	27

### 〈その他の業務〉

- ・データ作成
- ・各種督促 (サマリ・手術・委譲者オーダー承認 等)
- ・質的・量的監査 など

### 〈院外発表〉

第 110 回 広島診療情報勉強会

- ・開催日：2017 年 4 月 19 日
- ・発表者：高科順子

第 40 回 広島県 農村医学研究会

- ・開催日：2018 年 2 月 17 日
- ・発表者：沖 理美

# 医療安全管理室

## ■ スタッフ

室長 徳毛 宏 則 (兼務)  
 次長 鈴木 修身 (兼務)  
 科長 村中 好美 (専従)  
 専従リスクマネージャー (RM)、  
 医療安全責任者  
 医療メディエーター

## ■ 部門紹介

医療安全管理室は「患者さんが医師・医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療提供できるシステム構築をめざし、患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保につなげる」ことを目標に、医療事故防止対策委員会や院内 RM 管理部会を中心とし、各組織・部門と連携し「安全な医療の提供」が推進されるよう取り組んでいます。

## ■ 活動内容

[院内 RM 管理部会]

\* 毎週月曜日 16:10 ~ 17:00 開催。提出されたインシデント報告書を元に事案発生の原因、防止方法に関する提言を行います。事案によって部署対応・部門対応、病院対応とすべきかなど検討及び提案を行います。また、担当部署における職員の意識向上等、医療安全管理の推進に向け取り組んでいます。

### \* メンバー紹介

徳毛 宏則 (副院長・医療安全管理室室長)  
 鈴木 修身 (診療部長・医療安全管理室次長)  
 村中 好美 (医療安全室科長・専従 RM)  
 中光 篤志 (副院長)  
 近藤 文博 (診療部長)  
 荒田 晋二 (臨床工学技士：臨床工学科主任)  
 藤岡 朋子 (臨床検査技師)  
 高畑 明 (診療放射線技師：放射線科主任)  
 村上 嘉章 (理学療法士：リハビリテーション科科长)  
 吾郷志津枝 (看護科長、医療安全研修終了)  
 本山 敏恵 (看護科長・看護科安全対策委員会担当)  
 角井 碧 (薬剤師：薬剤部主任、医療安全研修終了)  
 大道 瑞穂 (事務：総務課長補佐)

[医療事故防止対策委員会]

- \* 毎月第3木曜日 17:00 開始。医療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会に関連した事項の対応策の検討、医療安全研修会の計画実施、委員会の伝達を担うほか、院内 ROUND を実施しています。本年度は「ドレーン・チューブ」「情報関連」に関する ROUND も開始し、啓蒙活動やマニュアル変更に繋がっています。
- \* メンバーは、院内 RM 管理部会メンバーと各部門長等により構成されています。
- \* 2016 年度に引き続き「防ごう誤認 なくそう確認不足 守ろう院内ルール」を活動テーマとし、「行動目標 1. 患者に名乗ってもらう!」「行動目標 2. 指差し呼称の徹底!」「行動目標 3. 守ろう PDA 認証」として取り組みました。

### ■ 認定施設基準：医療安全対策加算 1

## ■ 2017 年度トピックス

- ① 医療安全管理組織図の変更を行いました。
- ② 離床センサー類の検討を行い、新たな機種（うーご君・起き上がりセンサー）を採用しています。また、機種変更にあたっては管理・運用についてのマニュアル作成を行い周知を図りました。

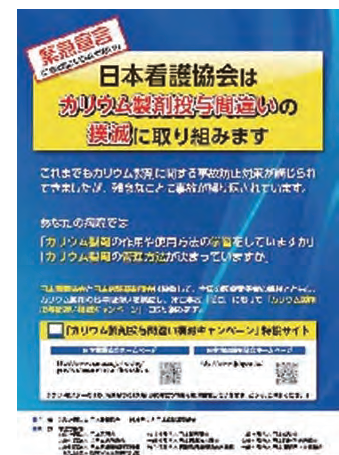


うーご君



起き上がりセンサー

- ③ 日本薬剤師会と日本看護協会は「カリウム製剤投与間違い撲滅キャンペーン」を実施しており、当院も院内ルールの見直しとその周知徹底に取り組みました。



## 地域医療連携室

### ■ スタッフ

室長 藤本 七津美  
係長 寺岡 みゆき  
他 事務職 2名

### ■ 部門紹介

当院は、地域医療支援病院として、広島県西医療圏を中心に高度な専門医療の提供を行い、かかりつけ医を支援する役割を担っています。地域住民の健康を守り、必要な医療を提供し、自立した生活を支援できるよう地域と連携した医療体制強化に従事しています。

地域と連携する病院窓口として、地域の病院、診療所、住民、行政、介護連携施設などとの連携強化に継続的に力を入れています。

その連携強化として、佐伯地区・大竹医師会、広島市佐伯区医師会との医師懇話会を開催しました。毎年多くの医師会の先生方に参加いただいています。

当院は地域医療支援病院として、近隣の医師会・自治体・町内会などの代表者で構成される「地域医療支援病院諮問委員会」を年2回開催しています。地域の医療従事者には、「地域医療従事者研修会」を年12回開催しています。

地域と病院の窓口として、今後も地域との連携をさらに強化できるように取り組んでいきます。

### ■ 研修会

#### ○佐伯地区医師会・大竹医師会との医師懇話会

日時：2017年8月23日（水）

場所：安芸グランドホテル

参加者：佐伯地区・大竹医師会 54名

JA 広島総合病院 92名



#### ○佐伯区医師懇話会

日時：2017年11月29日（水曜日）

場所：広島サンプラザ

参加者：佐伯区医師会 22名

JA 広島総合病院 85名

#### ○地域医療支援病院諮問委員会

日時：2017年6月28日（水曜日）

JA 広島総合病院 管理棟3階 大会議室



#### ○地域医療従事者研修会

（開催した研修会）

4月20日 脳卒中リハビリテーションと看護

5月11日 退院支援は、腎性の再構築を支援すること  
～患者さんが望む栄養療法を叶えるために～

5月19日 消化器懇話会

6月15日 認知症と認知症初期集中支援チームについて

7月14日 西部地区がん診療オープンカンファレンス

7月20日 嚥下障害と食事

9月21日 在宅ストーマ管理

「在宅におけるストーマケア」

10月19日 看取り（エンゼルケア）

11月16日 心臓いきいき在宅支援施設認定講習会1回目

1月18日 口腔ケアに携わる人のために

～ケアポイントとしておきたい関節（あご）の話～

2月15日 心臓いきいき在宅支援施設認定講習会2回目

3月22日 お薬よろず相談

～素朴なギモンにお答えします～



# 総合医療相談室

## ■スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (副院長兼務)  
 室 長 藤 本 七津美 (看護部副部長兼務)  
 主 任 三 谷 法 子 (看護師)  
           中 村 希 (看護師)  
           桐 山 葉 子 (社会福祉士)

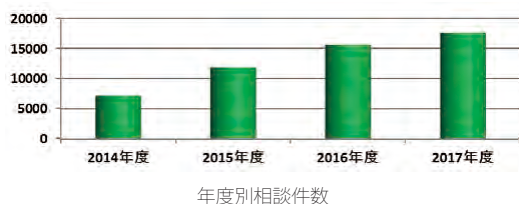
他 看護師 4 名 社会福祉士 3 名

## ■部門紹介

総合医療相談室は、急性期病院で適切な治療が終了した後、住み慣れた地域で安心して療養できるように患者と地域をつなぐ役割を担っています。そのため患者さん・ご家族からの医療・福祉の多岐にわたる相談をうける窓口になっています。

2017年度は、退院支援看護師を前年度より2名増員し、5名が配属され退院支援を行いました。退院支援が地域と連携して実践できることを目標とし、今後も活動していきます。

また地域がん診療連携拠点病院の役割を当院が発揮するため「がん相談支援センター」が相談窓口となっており、相談件数も2016年732件→2017年1013件と増加しています。がん専従担当者1名・がん専任担当者1名を配置し、患者・家族に寄り添ったサポートが今後も継続して行える体制を整備していきます。



(専門の担当者)

- ・退院支援専従・専任担当者
- ・退院支援看護師
- ・がん相談専従・専任担当者
- ・認知症チーム専従担当者
- ・患者サポート体制充実加算専任担当者

(主な相談内容)

- 転院・施設入所に関する内容

- 在宅療養に関する内容

- がん相談

- 医療費などに関する内容

- セカンドオピニオンに関する内容

## ■研修会

- おしゃべりサロン (がん患者サロン)

月2回開催

第2月曜日 交流会

第4月曜日 ミニレクチャーと交流会



- 市民公開講座

第15回

「肺がんの発見から治療まで」

日時：2017年6月17日(土曜日)

参加者：408名

(※2017年度より年1回開催)

第15回市民公開講座より、佐伯地区医師会が加わり、廿日市市、JA広島総合病院の主催で開催されました。今回は、野球解説者 池谷公二郎氏を特別講演にお招きしました。自らの肺がん治療経験を話されました。



# 人事課

## ■スタッフ

課長 砂田 朋子

他 人事担当者 4名

## ■業務概要

### ○人事・労務に関する事項

- \*各部署の要員計画策定及び採用活動
- \*給与・賞与計算
- \*退職・休職・復職等人事発令に関する業務
- \*職員勤怠管理
- \*税金及び社会保険関係

### ○安全衛生・福利厚生に関する事項

- \*衛生管理委員会の開催
- \*職員健康診断の実施
- \*インフルエンザ予防接種・B型肝炎予防接種
- \*院内バレーボール大会開催事務局

### ○業務委託・人材派遣に関する事項

- \*委託及び派遣業務の管理・契約

### ○その他

- \*永年勤続表彰・職員表彰

## ■活動内容

人事課は課長含め5名の職員で業務を行なっています。

要員計画に基づいて採用試験を実施し、適正な人員管理に努めています。

職員の給与・賞与計算及びそれに付随する税金や社会保険関係の手続きを行っています。職員ひとりひとりの標準報酬月額に応じた社会保険料の決定及び徴収、一年間の源泉所得税精算を行なう年末調整も人事課の重要な業務です。

また、退職や休職等の人事発令に関する業務も行なっています。院内の事務処理だけでなく、健康保険組合・年金事務所・公共職業安定所・各自治体等への申請も必要に応じて行ないます。

安全衛生面では、健康管理センターや各検査部門と連携して職員健康診断を実施しています。また、インフルエンザ・B型肝炎予防接種の調整を行い、

職員の感染管理にも従事しています。

職員間の親睦を深めるため年に一度開催される院内バレーボール大会の事務局を行なっています。2017年度は約430名の参加がありました。部署・職種の枠を超えて交流のできる大切な行事となっています。

適切・迅速な事務処理を行なうのはもちろんのこと、誠実な対応を常に心掛け日々の業務にあたっています。



6月10日 院内バレーボール大会

## 情報企画課

### ■スタッフ

課長 丸澤 裕司

他 3名

業務委託 2名

### ■活動内容

- ・病院情報システムに関する問い合わせ対応
- ・各種ソフトウェア、ハードウェア問い合わせ対応
- ・病院データの可視化
- ・電子カルテシステム向けマスタ更新
- ・Filemaker、Access等を使用したソフトウェア開発
- ・講習会パンフレット、院内ホームページ web デザイン
- ・BSC 活動

### ■業務概要

電子カルテ、Excel、Filemaker、セキュリティ講習の開催や、情報の可視化を目的としてDWH（データウェアハウス）より抽出したデータの提供、日々追加される電子カルテ、医事会計マスタの更新、院内ホームページの編集等を行っています。

病院情報システムの運用面について問題が発生した場合は、該当部署にヒアリングの実施及び改善提案を行い、必要に応じて運用の変更を行っています。運用変更の可否は、電子カルテベンダーSEとの定例会にて仕様のすり合わせを行い、現場へフィードバックを行う運用となっています。

また、システムのみならず、BSC（バランススコアカード）活動の事務局として本院の理念、ビジョン、戦略を明確化し、各部署に行動計画（アクションプラン）の取りまとめや、院内ホームページの編集など様々な業務を行っています。

来年度は院内情報システムのセキュリティ強化を図り、安心・安全なシステム構築を目指し取り組んでいきます。



BSC 発表会の様子

### ■活動実績

- ・HI-UP 講習会（年4回実施）
- ・当院のセキュリティ事情（医療安全研修会）
- ・日本農村医学会学術総会 演題発表
- ・富士通電子カルテ「利用の達人」演題発表
- ・部署別 BSC 発表会



HI-UP 講習会配布資料



院内ホームページの更新

## 災害対策ワーキングチーム（DMAT）

災害拠点病院である当院は、災害派遣医療チーム（DMAT）、災害対策ワーキングチーム、看護科には災害委員会を有し、地域の防災・減災活動を積極的に行っています。これらの活動の様子を報告します。

### ■ DMAT の活動

〈新メンバーの紹介；筒井医師（救急医）〉

2017年DMAT養成研修を終了しました筒井と申します。西医療圏に限らず、各地の災害医療に貢献し、ひとりでも多くの命を救うことができるよう活動していきたいと考えています。



〈広島県集団災害救護訓練参加；三原興生病院〉

10月30日に行われた広島県集団災害救護訓練に参加し、正面玄関でのトリアージや赤エリア（重症の患者さんを治療するエリア）を担当しました。



### ■ 災害対策ワーキングチームの役割

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、それを契機に防災・減災対策の重要性を再認識することとなり、当院が災害拠点病院として何が出来るのか考えるきっかけとなりました。



今世紀前半に発生が予想されている南海トラフ地震は、広島県においても大きな被害が予想されています。当院においても、最大震度7を引き起こす可能性のある活断層が近隣に存在し、自施設や地域全体の災害医療を担うことが求められます。今後起こりうる様々な災害に対し、災害対策ワーキングチームは院内・院外において防災・減災の啓発活動を行い、来る災害に備え対策を推進していくための活動を続けています。

### ■ 構成メンバー

DMATメンバーや看護協会登録災害支援ナースを中心として、職種・部門を問わず、防災・減災活動に参画したいという意思がある職員で構成されています。

### ■ 活動の概要

活動日：毎月第1火曜日の夕方1時間程度。

（2012年度5月より活動を開始）

- 1) 災害対策マニュアル改訂の検討
- 2) 院内の災害・防災対策委員会と連携し災害マニュアルの改訂とそれに基づいたアクションカードの作成（写真1、2）
- 3) 地域住民との防災・減災にかかわる活動

今年度は、地御前きらきら公園で行われた地御前地区自主防災会総合防災訓練に参加しました。①トリアージポスターの展示、②災害時活用できる包帯法をレサシアンにて展示、③簡易的な新聞紙スリッ

パの作成(写真3、4)等を指導しました。新聞紙スリッパについては、高評価を頂き、小さな子供～お年寄りまで積極的に参加されていました。訓練への参加人数は約600名に上り、地域の方々の防災への意識の高さが伺えました。

活動に参加して、地域住民の自助・共助に関するニーズは高く、その力になれるよう啓発活動を継続し、地域の方々と医療機関が連携していく必要があると思いました。

4) 広島県集団災害救護訓練の見学

10月30日に行われた三原興生病院での広島県集団災害救護訓練(当院DMAT参加)の見学を災害対策ワーキングチームのメンバーにて行いました。

5) オープンホスピタルへの参加(写真5)

AED体験ブースや市民トリアージブース、災害用資機材展示ブースを設け、地域住民の方々とふれあい防災への意識付けを推進しました。

6) 災害支援チーム活動報告

7) チーム医療報告会への参加



写真5 オープンホスピタルの風景

地震	リーダー	部署
1. 自分の身の安全を守る 2. スタッフを誘導し、アクションカードに沿って行動するように指示する 3. メンバーの安全を確認し、アクションカードに沿って行動するように指示する 4. 自分自身は退避しない 5. 訓練内全員に自室で待機するよう知らせる 6. 非常経路出口物品を平元に戻す 7. 退避後の報告状況を報告する 8. 火災発生時は、初期消火を促す 9. 被害状況報告書に記載する		
1. 退避後に記入済みの被害状況報告書を送す 2. 退避後は退避する 3. 退避後は退避する		
詳細は裏面を参照		



写真1、2 アクションカードと院内シミュレーション

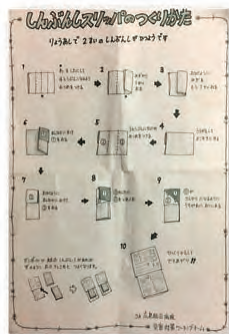


写真3、4 地域の方々が作成した新聞紙スリッパ



# 栄養サポートチーム (NST)

## ■ チーム概要

栄養サポートチーム (NST) は、栄養管理における専門的な知識を持つ多職種により構成されるチームで、当院では2005年4月より活動しています。

NSTは、栄養状態不良の方、経管栄養や経静脈栄養を行っている方、嚥下障害のある方など、特に栄養管理が治療上必要と考えられる患者様に対して回診やカンファレンスを行い、専門的な立場から最善の栄養管理に向けた提案を行っています。

## ■ チームメンバー

- ・ 医師：○香山茂平、○櫻谷正明 (ICU)
  - ・ 歯科医師：大井尚志
  - ・ 看護師：○藤本七津美、松下理恵、藤村雅子
  - ・ 薬剤師：○中島恵子、○山崎貴司
  - ・ 管理栄養士：●○八幡謙吾、○上村真由美
  - ・ 臨床検査技師：横山富子、池田光泰、村田竜也
  - ・ 作業療法士：名井幸香、橋詰菜津美
  - ・ 言語聴覚士：上田雅美、竹廣舞
  - ・ 歯科衛生士：梶川佐知子
- (●専従者、○NST加算の専任要件を満たす)

## ■ 活動内容

- ・ NST ラウンド・カンファレンス：  
毎週木曜日 14：30～
- ・ 栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日
- ・ 院内 NST 研修会 (全職員対象)

開催日	内 容	講 師
4 / 18	エネーボについて (試飲あり)	MR
5 / 16	栄養剤の違いを学ぼう	八幡
6 / 20	栄養輸液について	山崎
7 / 18	経管栄養の合併症 ～確認事項のおさらい～	八幡
8 / 15	免疫栄養について	香山
10 / 10	褥瘡の栄養管理	八幡
11 / 20	嚥下内視鏡検査と嚥下訓練の実際	高本・後藤
12 / 19	なぜ PICC なのか	櫻谷・竹野
1 / 16	栄養療法で押さえておきたい検査	村田・池田

- ・ 看護科栄養管理推進委員会：毎月1回
- ・ 新人研修：年2回、ラダーII研修：年1回

## ■ 栄養サポートチーム加算算定件数

- ・ 2017年度算定件数：延べ1232件 (患者数300名)



※患者1人につき200点/週

## ■ 栄養サポートチーム 診療科別介入件数 (患者数)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
呼内	161 (33)	179 (26)	97 (31)	141 (45)
腎内	89 (10)	138 (22)	66 (13)	47 (11)
糖内	13 (2)	34 (7)	30 (8)	25 (7)
消内	203 (61)	279 (95)	237 (80)	286 (86)
循内	151 (25)	188 (25)	140 (35)	146 (35)
心血	45 (8)	41 (4)	101 (10)	65 (16)
呼外	59 (12)	135 (14)	102 (20)	132 (15)
外科	142 (27)	199 (20)	75 (23)	138 (23)
脳外	175 (36)	86 (15)	43 (13)	56 (15)
整形	32 (16)	38 (13)	26 (8)	20 (9)
形成	0	0	3 (1)	8 (2)
皮膚	34 (10)	65 (7)	88 (20)	36 (7)
泌尿	23 (9)	28 (6)	17 (3)	30 (4)
放射	7 (1)	0	16 (3)	15 (4)
耳鼻	71 (7)	70 (8)	69 (11)	26 (6)
小児	0	0	0	0
歯科	10 (1)	1 (1)	9 (2)	0
救急	45 (13)	41 (25)	40 (20)	78 (28)
産婦	6 (2)	3 (2)	5 (1)	16 (5)
乳外	0	0	0	1 (1)
緩和	2 (1)	3 (1)	0	0
合計	1268 (274)	1528 (290)	1164 (301)	1266 (323)

※単位：件 (人) ※NST加算算定数 (患者数) とは異なる

## ■ 2017年のTopics

- ・ 2017年8月『イントラリポス投与フローチャート』、『イントラリポス適正使用ガイド』を作成 (薬剤部 山崎)
- ・ 2018年1月『経管栄養に関する下痢対応マニュアル』の更新 (Ver.3へ)
- ・ 2018年3月『歯科連携加算』の算定開始。回診に歯科医師同行で、患者一人につきNST加算200点に加えて歯科連携加算50点が算定可能に。

## ■ 学会発表

- ・ 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会  
「経管栄養に関する下痢対応マニュアル」～作成5年後のアンケート調査結果報告～

八幡謙吾

# 呼吸療法サポートチーム (RST)

## ■部門紹介

〈RSTとは〉

呼吸療法サポートチーム (Respiratory Support team) の略称で、呼吸療法が安全で効果的に行われるようにサポートするチームのことです。

〈目的〉

集中治療室・救命救急センターに入院した患者さんが呼吸の補助を必要とする際に、非侵襲的陽圧換気 (NPPV) や人工呼吸器を装着することがありますが、一般病棟においても、それら人工呼吸療法が継続される場合もあります。

また、高流量酸素療法 (HFNC: 通称 ネーザルハイフロー) も増えており呼吸療法の幅が広がっています。

私たち RST は多職種からなるチームで構成されており、人工呼吸器からの離脱管理や NPPV の適正使用に向けて、合併症予防や安全管理を総合的に行い、主治医または病棟看護師へのサポートを行うことを目的として活動しています。

## ■メンバー紹介

医師、臨床工学技士、看護師、理学療法士、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師、事務

## ■活動内容

### 1) 病棟ラウンド

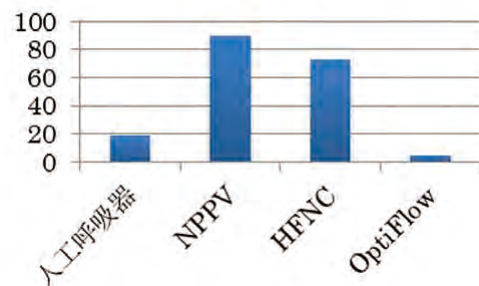
1 週間に 1 度、人工呼吸器や NPPV が装着されている患者さんのベッドサイドでラウンドシートを元に、人工呼吸器のチェック項目や周辺環境を確認するだけでなく、各専門職それぞれの目線で呼吸療法の管理について評価しています。その結果を踏まえ、適宜主治医や病棟看護師などの関連スタッフへの助言や提言を行います。また、人工呼吸器からの離脱に向けた支援や離脱後の加温加湿としての酸素療法の提供 (OptiFlow システム)、NPPV マスクのフィッティング、一部の酸素療法の評価を行なっています。

なお、2017 年度は一般病棟における人工呼吸患者

において 19 名に介入し、8 名の離脱・転院を行うことができました。



2017年度



### 2) 教育

看護部の RST 委員メンバーにてラダー看護師を対象に定期的に勉強会を行い、NPPV のマスクフィッティングや酸素療法、口腔ケアや体位排痰法などの習得に勤めています。この勉強会では、講義だけでなくシミュレーションを取り入れています。

また、普段呼吸療法に携わる機会の少ない部署の看護師でも、RST 委員の看護師メンバーがラウンドに参加し、ラウンドシートを元に呼吸器の設定の確認方法や周辺環境の点検方法を学習し、知識の向上にも取り組んでいます。

## ■今後の展開

RST では人工呼吸器で管理されたまま当院から退院・転院される患者さんやご家族に対してのケアを行なっていく必要と、可能な限り院内にて人工呼吸器から離脱することも引き続き目標としていきたいと考えています。





# 心臓リハビリテーションチーム

## ■ 設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さんに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に活動しています。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さんの社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

## ■ メンバー紹介

(\*心臓リハビリテーション指導士)

- 医師：辻山 修司、小林 平、長谷川 美紗  
 理学療法士：本間 智明\*、河野 裕美、小島 輝久\*、  
 西谷 喜子、高桑 翼\*  
 看護師：新田 克己、石川 恵子、門内 美鈴、  
 正木 博之、本山 敏恵、辻 幸枝、  
 島津 加奈子、南部 智江、福本 裕平、  
 高田 紗知、坂田 優花  
 薬剤師：向井 一樹、無漏田 香穂、  
 稲田 淑江、富永 祥子  
 管理栄養士：森田 菜津美、政田 采花  
 相談員：九十九 渚、岡村 良太  
 その他：臨床検査技師、義肢装具士

## ■ 活動内容

- 東3：循環器内科多職種カンファレンス  
 心臓血管外科多職種カンファレンス  
 東7：心臓血管外科多職種カンファレンス及び回診

心リハに関する活動	2017年度	2016年度	2015年度
開心術・大血管術後心リハ	162件	119件	100件
急性心筋梗塞後心リハ	79件	71件	66件
心肺運動負荷試験	68件	100件	59件
末梢動脈疾患手術後心リハ	113件	101件	88件
心不全心リハ	211件	221件	138件
心リハ外来	53件	79件	18件
日本心臓リハビリテーション学会発表	4件	9件	7件

## —心臓いきいき推進事業—

地域における心臓疾患患者さんに対する診療・自己管理サポート体制を構築し、心臓病患者を地域で診ることにより再入院抑制や予後の改善を目指しています。当院は、広島西部圏域の基幹病院として2015年度より活動を行っています。

### 「心不全患者在宅支援体制構築事業」

基幹病院のみでは対応しきれない数の心不全患者が存在することが明らかとなり、今後も増加が見込まれています。2017年度より、専門的知見を有する医療機関・在宅医療サービス事業所を拡充し、診療圏内における心不全疾病管理の連携強化を図る取り組みを行っています。心臓いきいき在宅支援施設認定講習会を2回開催し、14施設に支援施設として協力頂くこととなりました。

### —下肢バイパス術前カンファレンス—

2017年度より下肢バイパス術を行う患者さんを対象としたカンファレンスを開始しました。入院時より多職種が情報収集及び評価を行い、共有しています。その上で、治療方針や術後の介入について決定しています。生活背景や術前の身体状況を知っておくことで、術後支援をスムーズに行うことができます。



多職種カンファレンスの様子

# 「膵がん・胆道がん教室」運営チーム

## ■はじめに

2012年から院内で開催しています「膵がん・胆道がん教室」も早いもので6年目をむかえました。

## ■メンバー紹介（主要メンバー）

医師：藤本佳史（消化器内科）、佐々木秀（外科）、  
新宅谷隆太（外科）、北野文朗（皮膚科）

看護師：野村昌代、奥村麻美、古本直子、村中ひろみ、  
村上優子

薬剤師：藪田ゆみ、埋橋賢吾、白井敦史

管理栄養士：河本良美、三浦満美子、八幡謙吾

リハビリテーション科：小林恭子

MSW：正嶋忠貴

### 〈外部講師〉

木村泰博先生、小笠原英敬先生、長谷川健司先生

臨床心理士：坂本真里子さん

ヨガインストラクター：田中ゆり彩さん

## ■活動内容

### 〈膵がん・胆道がん教室〉

2016年12月に当院が中心となって開催した「第6回膵がん教室ワークショップ」によって、全国の施設の様々な試みを知ることができました。これを参考にして、教室の見直しを行いました。大きな変更点は、免疫力アップのためのヨガを取り入れたこと、そして、関連する診療科の講師を増やし、外科、皮膚科の先生方に新しく加わっていただいたことです。そのため、1つの演題を15分に短縮し、患者様への負担も少なくしました。また、定期的（第4水曜日）に教室の中でヨガ講座を開催することで、膵がんや胆道がん以外のがん患者さんにもヨガに参加していただける様にプログラム構成を工夫しました。

### 〈学会活動〉

2017年の学会としては、7月14日に京都で開催された膵臓学会に参加しました。コメディカル部門では、看護師の村上優子さんが「膵癌教室の現状と病棟での取り組み」、薬剤師の埋橋賢吾さんが「膵



がん教室の現状とアンケート報告～膵がん教室ワークショップ2016より～」を発表しました。

〈院内・院外の皆さんとの懇親会〉

2018年3月1日には、教室に関連する院内外の皆さんと、恒例の懇親会を開催させていただきました。昨年の「膵癌ワークショップ」の報告をさせていただくとともに、日ごろの連携のお礼をさせていただきました。


皆さん、今後とも宜しくお願いたします。

～膵がん・胆道がん教室にて～  
**やさしいヨガレッスン開催**

ゆっくりとしたヨガの動きと呼吸で、  
心身ともにリラックスしましょう

ヨガは、「呼吸」を整える心身の健康法です。  
普段なげなく行っている呼吸に少しだけ意識を向けることで、**ストレスや不安から心を解放して、**  
明るい一日を過ごすことができます。




**癌の患者様やご家族の方の悩みやストレスを和らげる為のヨガです。**

- ・ ゆっくりとした静かな時間の中で、心の安らぎを感じたい。
- ・ 無理のない軽い運動して、身体のたるさを取り、スッキリしたい。
- ・ 少しの時間で、心からだるさをリラックスしたい。

※職員のみなさまも、どうぞお気軽にご参加ください。  
ヨガレッスンは、椅子に座ったまま行える内容となります。

**開催日時：毎月第四水曜日**  
**開催場所：JA広島総合病院 2F健康管理センター（待合室）**



○全米アライアンス認定ヨガ講師  
○マニティヨガ・インストラクター  
田中ゆり彩

はじめまして！ヨガ講師の田中ゆり彩と申します。  
ヨガ教室を始めて今年で12年目をむかえました。  
ヨガは、どのような年齢、性別の方にも、楽しんで頂ける心身の健康法です。  
おひとりおひとりのお身体の状態に合わせて丁寧にご指導させていただきますので、  
安心してレッスンに、ご参加いただければと思っております。  
ゆっくりと体を動かす気持ちよさを、ぜひ一度ご体験ください。



# 各種委員会

## 治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

### 1. 設立主旨

#### 1) 治験委員会の責務

(1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。

(2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

#### 2) 治験審査委員会名簿

委員長：徳毛宏則、副委員長：碓井裕史

委員：黒木一彦、橋本佳浩、福岡達仁、藤本七津美、嘉屋祥昭、棒田祐司、森井克成、向井恵子（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：藤本吉範、森原義雄

### 2. 活動内容

#### 1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

#### 2) 2017年度治験審査委員会開催概要

- ・第1回（2017／4／21）  
審議事項9件（継続審査8件）  
報告事項1件
- ・第2回（2017／5／19）  
審議事項11件（継続審査10件）  
報告事項1件
- ・第3回（2017／6／23）  
審議事項10件（継続審査9件）  
報告事項1件
- ・第4回（2017／8／4）  
審議事項11件（継続審査10件）  
報告事項1件
- ・第5回（2017／9／15）

審議事項11件（継続審査9件）

報告事項2件

- ・第6回（2017／10／20）  
審議事項11件（継続審査9件）  
報告事項2件
- ・第7回（2017／11／24）  
審議事項13件（継続審査8件）  
報告事項5件
- ・第8回（2017／12／22）  
審議事項11件（継続審査8件）  
報告事項3件
- ・第9回（2018／1／19）  
審議事項12件（継続審査8件）  
報告事項4件
- ・第10回（2018／2／16）  
審議事項10件（継続審査8件）  
報告事項2件
- ・第11回（2018／3／16）  
審議事項14件（継続審査7件）  
報告事項7件

#### 3) 2017年度の実施治験総件数：16件

- (1) 前年度からの継続治験（9件）
  - ① hsCRP 高値を示す、心筋梗塞後の安定した患者を対象とした canakinumab の event-driven 試験（ACZ885）（ノバルティス）
  - ② 冠動脈疾患を合併した慢性心不全患者を対象としたリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討する二重盲検試験国内Ⅲ相（バイエル薬品）
  - ③ 左室駆出率が保持された心不全患者を対象とした国内Ⅲ相（LCZ696）（ノバルティス）
  - ④ 下肢血行再建術施行後の症候性末梢動脈疾患患者を対象としたリバーロキサバンの国際共同第Ⅲ相試験（VOYAGER PAD）（バイエル薬品）
  - ⑤ MR11A8 を中等度又は重度の急性呼吸窮迫症候群患者へ静脈内投与した際の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相臨床試験（丸石製薬）
  - ⑥ 保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象とし

- たダルベポエチンアルファを対照とする比較試験（切替え試験）（ASP1517）（アステラス製薬）
- ⑦保存期慢性腎臓病に伴う腎性貧血患者を対象とした第Ⅲ相試験（貧血改善・改善維持試験）（ASP1517）（アステラス製薬）
- ⑧潰瘍性大腸炎・クローン病の治療における MLN0002（300mg）の第Ⅲ相臨床試験（武田薬品）
- ⑨田辺三菱製薬株式会社による第Ⅱ相試験（田辺三菱製薬）
- (2) 2017年度からの新規治験（7件）
- ①大塚製薬の依頼によるうつ血性心不全患者を対象とした OPC-61815 第Ⅱ相試験（大塚製薬株式会社）
- ②LJN452の第Ⅱ相試験（ノバルティスファーマ）
- ③Respiratory Syncytial ウイルス感染症の28日齢～36カ月齢の入院患児を対象とした lumicitabine（JNJ-64041575）を経口投与したときの抗ウイルス活性、臨床アウトカム、安全性、忍容性、及び薬物動態の検討のための第2相、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試（ヤンセンファーマ）
- ④Respiratory Syncytial ウイルス（RSV）感染症の既往を有する乳幼児を対象とした、喘息又は喘鳴の発現に対する lumicitabine（JNJ-64041575）の影響を評価する 64041575RSV2004 試験の長期フォローアップ試験（ヤンセンファーマ）
- ⑤駆出率が保持された慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第Ⅲ相試験（ベーリンガーインゲルハイム）
- ⑥駆出率が低下した慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第Ⅲ相試験（ベーリンガーインゲルハイム）
- ⑦軽症～中等症の活動期潰瘍性大腸炎患者に FE 999315 を8週間投与した際における有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照、並行群間比較試験（フェリングファーマ）
- (3) 2017年度の終了治験（4件）
- ①帯状疱疹後神経痛患者を対象とした前期第Ⅱ相試

験（TRK-700）（東レ）

- ②帯状疱疹後神経痛に対する NZ-687 の第Ⅲ相試験（日本臓器製薬）
- ③左室駆出率が低下した心不全患者を対象に、vericiguat の有効性及び安全性を検討する第Ⅲ相、臨床アウトカム試験（MK-1242）（バイエル薬品）
- ④慢性血栓栓性肺高血圧症患者を対象とした NS-304（セレキシパグ）の第Ⅲ相試験（日本新薬）

## 薬事委員会

委員長 徳毛宏則

### 1. 目的

当委員会は、院内で使用する全ての医薬品に関する諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

### 2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の周知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

### 3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（病院長代行、副院長）、各診療科代表（センター長・主任部長）、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課課長及び薬剤部長等で構成されています。

### 4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月1回となっています。（但し、8月と12月は委員会を休会しています。）

### 5. 新規医薬品

- 1) 医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。
- 2) a) b) に関して、採用を希望する場合は、所



属長の承認の下、「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記入し、事務局（薬剤部）に提出していただき、当委員会で審議することとなります。

- 3) c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。
- 4) 薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。
6. 医薬品安全性情報が新規に発布された場合、全医師に連絡、注意喚起し、必要な対策を講じています。

また、2016年度より、高額新規薬剤適正使用のため、PD-1製剤の使用状況を当委員会にて毎回報告し、情報共有及び適正使用の推進に努めています。

#### 7. ジェネリック医薬品

当委員会では、当院の病院環境や薬剤使用状況を十分に考慮した上でジェネリック医薬品の採用を検討、実施しています。

2017年度は14件を採用し収益効果をあげ、後発医薬品係数取得に貢献しています。

#### 8. 医薬品管理

2017年度は、病棟定数配置薬の見直しのため、現状の問題点と改善策の提言を行いました。院内全体の薬剤の適正使用と安全管理のために、引き続き監視と是正に努めていきます。

#### 9. 2017年度実績

2017年3月31日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	90
内服薬	733		
注射薬	522		
外用薬	309		
その他	10		
一般採用 計	1,574		
用時購入 保険適応	77	RI 医薬品	113
その他（ワクチン類）	14		
採用品数合計			1,779
ジェネリック医薬品			279

#### 10. 2017年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品	総新規採用件数	69
医薬品	総削除件数	71

## 倫理委員会

委員長 碓井裕史

### 1. 設立主旨

#### 1) 倫理委員会の責務

当院の職員が行う人間を対象とした医学研究および医療行為について、職員の申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

また、関連する医療機関が当院職員・患者に対して実施する医学研究について、その申請に基づき、研究や実施計画について審査を行います。

#### 2) 倫理委員会構成メンバー（2017年度）

委員長：碓井裕史、副委員長：徳毛宏則

委員：病院長代行、副院長、診療部長、事務長、看護部長、薬剤部長、臨床研究検査科長、看護部副部長、地域医療連携室長、事務次長（書記兼務）

外部委員 3名（有識者、内1名は弁護士）

### 2. 活動内容

#### 1) 倫理研修会の開催

開催日時：2017年10月3日（火）17:30～

参加人数：53名

演題：

①サイバーリスクの実態と対策

②「事例から学ぶ！」

～説明とカルテ記載の重要性～

#### 2) 倫理委員会の開催

研究申請書が提出された場合、委員会を招集して開催します。2017年度は11回開催しました。

委員会の中で、外部委員（弁護士）による“人を対象とする医学系研究に関する倫理指針”に関するミニレクチャーを随時、行いました。

#### 3) 2017年度委員会開催概要

- ・第1回（2017/4/21）  
審査件数6件（承認6件）
- ・第2回（2017/5/19）  
審査件数3件（承認3件）
- ・第3回（2017/6/23）  
審査件数3件（承認3件）

- ・第4回（2017 / 8 / 4）  
審査件数 19 件（承認 19 件）
  - ・第5回（2017 / 9 / 15）  
審査件数 6 件（承認 5 件）
  - ・第6回（2017 / 10 / 20）  
審査件数 13 件（承認 12 件）
  - ・第7回（2017 / 11 / 24）  
審査件数 9 件（承認 9 件）
  - ・第8回（2017 / 12 / 22）  
審査件数 6 件（承認 6 件）
  - ・第9回（2018 / 1 / 19）  
審査件数 1 件（承認 1 件）
  - ・第10回（2018 / 2 / 16）  
審査件数 2 件（承認 2 件）
  - ・第11回（2018 / 3 / 16）  
審査件数 6 件（承認 6 件）
- 4) 2017 年度承認された研究の申請部署別内訳
- |          |      |
|----------|------|
| ・医局      | 49 件 |
| ・看護科     | 13 件 |
| ・薬剤科     | 1 件  |
| ・中央放射線科  | 4 件  |
| ・臨床研究検査科 | 3 件  |
| ・院外      | 2 件  |
| 合計       | 72 件 |

## 臨床検査適性化委員会

委員長 藤 井 隆

### 1. 設立趣旨

この委員会は、臨床検査に関する問題と、併せてその適正な運用に関する問題を審議し、臨床検査業務を円滑に行なうことを目的としています。

そのために以下の事項について審議します。

- \* 臨床検査に関する調査、情報収集に関すること
- \* 臨床検査部門内外で発生した臨床検査に関すること
- \* 臨床検査の適正な使用に関すること
- \* その他必要と思われる事項

### 1) 委員会の構成メンバー

医師 6 名、看護師 3 名、  
臨床検査技師 7 名、事務部門 2 名

### 2. 活動内容

- 1) Fib-4index（肝線維化指数）の表示
- 2) HEV - IgG 抗体検査の実施（外注）
- 3) 心電図・心エコー室の名称変更  
「生理検査室（心電図）」から「生理検査室」へ段階的に変更していく。
- 4) 睡眠時無呼吸検査機器の更新に伴うシステムのバージョンアップ
- 5) 抗菌薬 TDM ガイドライン 2016 の準拠  
治療有効濃度（トラフ値）15.0 ~ 30.0 $\mu$ g / ml
- 6) 検査依頼書の更新
- 7) パニック値報告基準の見直し（凝固系検査）  
PT：30%以下  
INR：2.00 以上（循内 3.30 以上）  
APTT：60 秒以上  
Fib：100mg / dl  
AT3：30.0%以下
- 8) チモール混濁試験（TTT）の測定中止
- 9) メトトレキサートの依頼方法の周知について
- 10) 年末年始の業務体制について
- 11) 院内検査から外注検査へ変更  
CH50、フェニトイン
- 12) 産科不規則抗体の結果変更  
産科の不規則性抗体の検査名称及び結果の報告名称を間接グロブリン試験に統一する。

### 3. 外部精度管理調査報告

- 1) 日本臨床衛生検査技師会  
100 点 (231 / 231)
- 2) 日本医師会  
99.7 点 (638 / 640)
- 3) 広島県医師会  
100 点 (116 / 116)

## 診療録管理委員会

委員長 石田 和史

### 1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

#### 【診療録管理委員会の構成】

オブザーバー：院長、事務長

委員長：医師

委員：医師5名、薬剤師1名、看護師6名

事務部門2名、診療情報管理士3名

(計20名)

### 2. 主な活動内容

#### 〈退院時サマリ2週間以内記載率〉

診療録管理体制加算1を取得しており、要件の1つである退院後2週間以内のサマリ記載率90%以上を維持するため、毎週医師への記載依頼を行っています。

また、委員会・医局会・院内HPへの掲載など、記載を意識してもらうための積極的な活動を行っています。

・2016年度：96.9%

・2017年度：97.4%

#### 診療科別 退院時サマリ2週間以内記載率

2017年4月～2018年3月退院分 15,124人（転科を含む）

診療科	2週間以内記載率	診療科	2週間以内記載率
呼吸器内科	96.70%	呼吸器外科	100.00%
循環器科	90.80%	心臓血管外科	98.60%
腎臓内科	99.20%	皮膚科	96.10%
糖尿病代謝内科	100.00%	泌尿器科	96.60%
消化器内科	96.30%	産婦人科	96.60%
小児科	99.30%	眼科	99.90%
外科	98.30%	耳鼻咽喉科	98.00%
整形外科	96.90%	放射線治療科	100.00%
形成外科	100.00%	歯科口腔外科	96.50%
乳腺外科	100.00%	緩和ケア科	100.00%
脳神経外科	96.70%	救急・集中治療科	99.90%
平均科別2週間以内記載率			97.40%

#### 〈質的（同僚）監査、量的監査、量的点検〉

質的監査では、医師同士で「日々の診療の判断材料の根拠となる診療情報」が正しく記載されているか監査を行っています。量的監査は、前年度まで年間約100件行ってきましたが、今年度から転科を含む全退院患者を対象にしました。併せて監査項目内容および項目数の整理、新たに診療報酬にかかわるものを追加し、全部で20項目としました。監査は、算定に基づいた必要な記載、書類が揃っているかを目的に行っています。

また、量的点検は、医師による日々の経過が記載されているか確認を行っています。各監査および点検結果は、関係部署へ還元すると共に、委員会・医局会にもアナウンスし、診療録の改善を担っています。

#### 2017年度 量的監査項目

No.	監査項目
1	入院診療計画書
2	採血および感染症検査に関する説明と同意書
3	転倒・転落に関する説明書
4	転倒転落アセスメントシート
5	褥瘡危険因子評価票
6	褥瘡治療計画
7	MNAシート_栄養管理計画
8	検査同意書・処置同意書
9	輸血同意書
10	栄養管理指導料
11	服薬指導料
12	手術同意書
13	麻酔同意書
14	麻酔管理料
15	退院前ケアカンファレンス
16	退院支援計画書
17	身体抑制に関する説明書および同意書
18	診療情報提供書
19	悪性腫瘍特異物質治療
20	リハビリテーション

#### 〈その他の業務改善の内容〉

現行の運用で生じる様々な問題点を委員会で検討し、業務の改善を図っています。

- ・院内共有の略語検索の掲載

- ・委譲者オーダと研修医カルテ承認の問題点
- ・入院診療計画書、診療情報提供書の問題点
- ・同意書（新規・修正）の承認 など

## 衛生管理委員会

委員長 藤本 吉 範

労働安全衛生法第 17 条及び第 18 条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月 1 回委員会を開催しています。

〈衛生管理委員会構成メンバー〉

委員長：病院長

副委員長：産業医

委員：診療部長 2 名・臨床研究検査科部長・小児科主任部長・薬剤部長・放射線科長・臨床病理研究検査科長・臨床工学科長・臨床研究検査科長補佐・放射線科長補佐・看護部副部長・看護科長（東 6 階）・看護科長（手術室）・医療安全管理室科長・感染防止対策室科長・事務次長・人事課長・総務課長・施設資材課長・臨床研究検査科主任・看護科主任（西 3 階）・健康管理課主任・総合医療相談室専門員・放射線科・栄養科・人事課

オブザーバー：事務長、看護部長

〈2017 年度の主な取り組み事項〉

### 1. 過重労働対策について

職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。月に 80 時間以上の超過勤務が 2 ヶ月連続した職員、もしくはひと月の超過勤務が 100 時間を超えた職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。また当院の 36 協定における上限である月 45 時間以上超過勤務した職員数の報告も併せて行っています。

### 2. 職員のメンタルヘルス対策について

職員に対し毎年 1 回ストレスチェックを実施する事が義務づけられており、8 月にストレスチェックを実施しました。高ストレス者へは面接勧奨文書を発布して医師による面接の実施、部署ごとの集団分析結果の検証等を行い、職場環境改善に向

けて、検討しました。

また、当院の臨床心理士によるメンタルヘルス相談窓口を設置し、メンタルヘルス不調者や新採用職員（研修医・看護職員）等に対して、面談を行っています。

2017 年度は、メンタルヘルス休務者への職場復帰支援として、運用方法を設定し、復帰前には産業医又は臨床心理士が面談を行い、職場復帰可否の判断を行うこととしました。

### 3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

職員の入職時に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs 抗原・抗体検査、HCV 抗体検査を実施しています。B 型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。

さらにインフルエンザの流行に備えて、職員・職員家族の内、希望者を対象に 10 月から 12 月にかけてインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は 92.0%となっています。

### 4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、結核患者接触のハイリスク部署の職員に対し、T スポット検査および年 2 回胸部 X 線検査を実施しています。

### 5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、各部署の所属長への声かけを積極的に行っています。その結果、職員健康診断の受診率は夏期が 97.4%、冬期が 99.0%と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い者（事務職員、臨床検査技師、診療放射線技師、画像診断部医師、検査科医師）に対し VDT（Visual Display Terminals）健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

### 6. 職場巡視

医療福祉支援センター、リネン室を巡視し、職場環境をチェックしました。問題点や要望等を委員会で報告し、改善点について対応しました。

#### 7. その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に2回実施し、その結果を委員会で報告しています。結果は全て「適切である」となっています。

## 地域医療連携推進委員会

委員長 中 光 篤 志

### 1. 設立趣旨

本院が、地域の中隔病院としての役割を發揮するために、院内の診療体制整備、強化を目的としています。委員会の活動により円滑な地域医療連携を推進し、地域から信頼され選ばれる病院を目指します。

### 2. 活動内容

- ①地域医療連携に係わる活動実績に関すること  
（紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなどに関する実績）
- ②地域医療連携に係わる院内の体制に関すること
- ③地域医師会、関係機関との連携に関すること
- ④地域医療連携に係わる地域住民への広報活動
- ⑤その他（地域医療連携に関すること）

### 3. 2017年度構成員

委員長：副院長・医療福祉支援センター長  
副委員長：診療部長・健康管理科主任部長・センター長／地域医療連携室室長  
委員：医師13名、薬剤師1名、保健師1名、看護師7名、事務3名、診療情報管理士1名、社会福祉士2名  
オブザーバー：病院長、事務長、看護部長

### 4. 活動内容

2017年度の地域医療推進委員会は、9月7日に開催しました。協議内容は以下の4項目です。

- ①近隣医療機関挨拶回りについて
- ②第16回市民公開講座について

（2018年開催予定）

- ③初診紹介・救急患者について
- ④未返書状況について

近隣医療機関挨拶回りは、今年度で4回目となり、定着してきています。受診相談、相談体制など多くのご意見をいただいています。ご意見は適切に対応し、今後の近隣病院との連携をさらに強化していこうと思います。

市民公開講座は、参加者のアンケートより内容の評価は良かったのですが、公開講座の参加者が少なくなってきました。そのため第16回の市民公開講座は、広報に重点をおき、できるだけ多くの市民の方々に参加していただけるように取り組んでいきます。

初診紹介、救急患者に関しては、増加している報告がありました。未返書状況については、ルールを整備しながら、返書率をあげる取り組みを行っていく方向性となりました。

## 輸血療法委員会

委員長 香 山 茂 平

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。（6回開催）

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。また今年度も、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを症例報告し検討を行いました。

### 【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告
- ・輸血副作用報告
- ・アルブミン製剤使用分析
- ・輸血製剤・特定生物由来製品が適正使用検討
- ・輸血関連インシデント

- ・緊急輸血における製剤血液型依頼方法
- ・輸血血液製剤の外観チェックについてマニュアル改訂

#### 【院内合同研修会】

開催日 2017.10.5

演題 輸血におけるヒヤリ・ハット事例

講師 広島大学病院 輸血部 藤井 輝久 先生

昨年度に引き続き、アルブミン使用状況より集計分析等で適正使用に向け取り組み、輸血管料・輸血適正使用加算の値を満たすことができました。

来年度も、輸血製剤・特定生物由来製品が適正に使用されているかを検討し、各診療科へフィードバックしていきます。また、廃棄血については今年度増加していますが、今後も削減および輸血後感染症検査の実施率向上に向けて取り組みます。

2017年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		使用単位数合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	2728	150	RBC	2730	5.2%
Ir-WRC-LR2	2	0			
FFP-LR240	848	36	FFP	944	3.7%
FFP-LR480	96	0			
Ir-PC-LR10	2770	40	PC	2770	1.4%
Ir-PC-LR20	0	0			

2017年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	34	30	4
産婦人科	14	6	8
合計	48	36	12

2017年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20%アルブミン	625
グロベニン12.5g	16
グロベニン15g	189
ケイセントラ静注用1000	1
テタノブリン筋注250国際単位	51
ハプトグロビン静注	73
抗D人免疫グロブリン筋注	6
乾燥HBグロブリン筋注	0
献血ノンスロン	11
フィプロガミンP	0
タコシール3×2.5cm	106
タコシール9.5×4.8cm	58
ベリプラストP組織接着用1ml	51
ベリプラストP組織接着用3ml	67
ベリプラストP組織接着用5ml	81
アブラキサン点滴静注100mg	759
5%アルブミン250ml	346

## 臨床研修医支援委員会

委員長 西原 礼介

臨床研修委員会は、初期臨床研修医の充実した研修を実現するため、基本的臨床能力の獲得・向上の支援、学術活動や生活面・精神面のサポートなどを行っています。

〈院内研修〉

- ・Early Bird Lecture：毎週火曜日午前7時～ 研修医のプレゼン、上級医のレクチャー
- ・オープンカンファレンス：毎月第3水曜、研修医の症例発表ほか
- ・基本的臨床能力評価試験（2／6）

〈セミナー開催〉

- ・イブニングセミナー
  - 山本内科循環器科 山本正治先生（7／12）
  - 静仁会静内病院 井齋偉矢先生（2／1）
- ・第4回わかりやすい先進医療セミナー（7／6）
  - 乳腺外科 大原正裕先生
  - 岡山大学陽子線治療 勝井邦章先生
  - 広島大学精神神経科 志々田一宏先生
- ・第5回わかりやすい先進医療セミナー（1／9）
  - 消化器外科 香山茂平先生
  - 広島西医療センター 下村壮司先生

〈学術活動〉

- ・佐伯医学会総会（2017／11／3）で発表など多数

〈院外実習〉

- ・地域医療研修（廿日市記念病院、吉和診療所、コーレルメディカルクリニック、南相馬市立総合病院、草津病院、メープルヒル病院、北海道静内病院）
  - ・ERアップデート、沖縄（7／7）、東京（2月）
  - ・ハワイ大学 SimTiki 研修（7月）佐藤優季先生
- 〈研修医サポート〉
- ・メンター制度：研修医1人につき原則として上級医1人をメンターとして指名し、研修医のアドバイスやサポートを行う。
  - ・臨床心理士との面接（6月）

- ・西原礼介委員長、三玉康幸先生との面接（2月）
- ・臨床研修科 Facebook にて、研修医の活動を広く世界に紹介。

#### 〈学生勧誘〉

- ・マイナビレジフェス（広島）（4 / 23）
- ・広島卒後臨床研修ネットワーク説明会（6 / 24）
- ・レジナビフェア 2017 大阪（7 / 2）
- ・マイナビレジフェス（広島）（2 / 18）
- ・レジナビフェア 2018 福岡（3 / 4）

#### 〈今年度行ったこと〉

- ・北海道静仁会 静内病院視察（5 / 22、23）：竹原雄大先生、野村晃生先生
- ・Yokosuka Emergency Symposium（6 / 17）参加：石橋一樹先生、高橋佑輔先生
- ・広島医療冊子「ETTO」掲載：田中友理佳先生、宇山拓澄先生
- ・病院見学会（10 / 14）：山本高嗣先生、宇山拓澄先生
- ・第10回 厚生連病院研修医全国大会（10 / 27、岐阜）参加

#### 〈表彰〉

- ・アカデミー学術賞研修医部門：竹原雄大先生
- ・基本的臨床能力評価試験 優秀賞：竹野典子先生
- ・研修医が選ぶベストオブ指導医：高場章宏先生

#### 〈西原委員長の活動〉

- ・第35回臨床研修研究会（4 / 22、名古屋）
- ・第12回広島卒後臨床研修ネットワーク指導医養成講習会（2 / 13 - 14）



写真：研修医修了式にて（3 / 23）

## 広報委員会

委員長 藤井 隆

### ◆設立の目的

院内における各部署の活動を院外に周知することを目的として設立されました。各部署についての詳細な業績集としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の1つが広報誌「せと」であり、もう1つが「ホームページ」です。この2つを作成・管理するのが本委員会です。

### ◆委員会活動

委員会は年3回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、「ホームページ」についても検討を行っています。

#### 1. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことができる小冊子で、新年号は年始の病院長挨拶に始まり、春夏号は新任医師の紹介、秋号は院内のインフォメーション等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2017年度は、春夏号で市民公開講座、秋号のインフォメーションは乳がん検診のご案内と各科紹介として産婦人科、小児科、新年号で整形外科、脳神経外科を取り上げました。

#### 2. ホームページ

ホームページは年に1回アクセスの解析を行い、相互リンクを増やすことによりアクセス数の増加に努めています。2017年4月から1年間の医療ニュースアクセスランキングと閲覧者数及び閲覧方法の経年的比較を右の表図に表します。

また、診療科及びスタッフによって作成された最新の話やイベント情報などを盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めていま

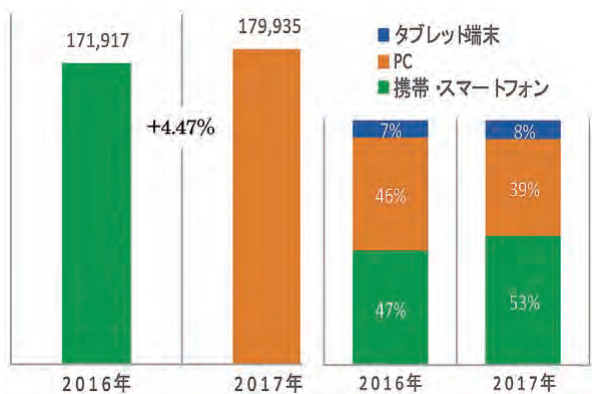
す。各科の医療ニュース、医療実績のページを新しく保つために、5年から7年以上更新されていない科を中心に改定を依頼しました。

さらに、ホームページの改定に関しては、来年度にリニューアルすることが決定しましたので、レイアウト改定案を委員会で話し合いました。

今年度のホームページ閲覧者数は、昨年度に引き続き増加しました(下図対前年度比: +4.77%)。

ホームページの閲覧方法について、PCでの閲覧は年々減少し、携帯・スマートフォンでの閲覧が増加しています。来年度よりPC閲覧用ホームページのリニューアルに加え、スマートフォンに対応した様式に改定されるので、スマートフォンによる閲覧者がさらに増加すると考えられます。また、ホームページのページビュー数、滞在時間も昨年度より増加しました。

来年度も引き続き医療ニュース等を更新し、より多くの方々にアクセスしていただけるホームページにしていく所存です。



○医療ニュースアクセス数 (2017.4.1 ~ 2018.3.31)

1. 心臓血管外科：近年の大動脈瘤の治療について
2. 歯科口腔外科：多発するビスホスホネート製剤による顎骨壊死の情報
3. 外科：おなかのヘルニア専門外来のお知らせ
4. 麻酔科：気管挿管とビデオ喉頭鏡の導入
5. 中央放射線科：心臓 CT 検査について
6. 緩和ケア科：がん告知について
7. 整形外科：腰椎椎間板ヘルニアに対する新しい

治療法

8. 循環器内科：心筋梗塞と PCI / スtent 治療
9. 小児科：食物アレルギーの問題点とトピックス
10. 循環器内科：超悪玉コレステロールに関して

## アカデミック委員会

委員長 徳毛宏則

1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で平成22年に設立されました。

2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を3回開催し、下記の事項について協議しました。

(1) 第8回ふれあいポスター展

2017年11月13日～12月29日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター46作品を院内に展示し、地域住民等から選出された6作品を表彰しました。

◆表彰作品

賞	部 門	部 署
最優秀賞	中央検査処置室	
優秀賞	医 局 部 門	眼科
	看 護 部 門	西5階
	コメディカル部門	臨床研究検査科
	チーム活動部門	災害対策ワーキングチーム
	住民投票部門	東5階

(2) 第8回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

◆最優秀賞受賞者

部 門	診 療 科	氏 名
外 科 系	眼 科	末岡 千絵
コメディカル	リハビリテーション科	本間 智明
研 修 医	臨 床 研 修 科	竹原 悠大

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支



給し、学術活動の支援を行っています。

#### ◆各診療科への支援状況

部署	件数
糖尿病・代謝内科	3
消化器内科	11
循環器内科	1
外科	17
整形外科	14
呼吸器外科	2
泌尿器科	2
麻酔科	2
救急・集中治療科	9
臨床研修医	7

#### (4) ハワイ大学研修について

医学教育で有名なハワイ大学で医師としてのレベルアップを目指し、英語環境にも触れ、また、日頃の忙しい日常業務から開放され、鋭気を養ってもらうことを目的に、2012年度より短期海外研修を実施しています。

対象者は、初期研修から引き続き当院で3年目の勤務を続けた医師で、今年度は1名が参加しました。



## コンプライアンス委員会

委員長 藤本吉範

### 1. 活動内容

コンプライアンスは、法令、内部規程、業務マニュアル等を遵守することは勿論のこと、社会規範や倫理に即して、公正かつ公平な業務遂行を行うことです。

当院の使命は、農家・組合員並びに地域住民の「命」と「健康」を守ることであり、農家・組合員並びに地域住民の期待と信頼に応えるためには、職員自らのたゆまぬ努力によってコンプライアンス態勢を確立していくことが重要です。コンプライアンスを重視した事業展開は、当院に対する信頼を高めるとともに、職員自身や職場をも守ることに繋がります。

逆に、重大なコンプライアンスの違反（不祥事件）の発生は、農家・組合員並びに地域住民の期待と信頼を裏切り、社会的信用を失い、組織の存続さえ危ぶまれる事態になりかねません。

こうしたことを踏まえて、JA広島厚生連はコンプライアンス・マニュアルを制定し、役職員が遵守すべき行動規範等を明らかにするとともに、その徹底をはかるための内部組織・体制等の明確化を図りました。

当院ではコンプライアンス態勢の確立に向けて、コンプライアンス委員会を設置し、下記の活動に取り組んでいます。

- ・病院コンプライアンスプログラムの策定（毎年度）
- ・コンプライアンス・マニュアル等を使用した各部署でのコンプライアンス研修（毎月）
- ・コンプライアンス委員会の開催（年3回）
- ・外部講師を招聘しての院内集合研修（年3回）等

### 2. 構成メンバー

委員長：病院長

委員：顧問、病院長代行、副院長、事務長、診療部長、薬剤部長、臨床研究検査科長、看護部長、看護部副部長、事務次長、総務課長

# 出張記

## 第26回国際外科消化器科腫瘍科 会議に参加して

外科 杉山 陽一

フランス・リヨンで行われました、IASGO 2017（第26回国際外科消化器科腫瘍科学会議：2017年11月15～17日：リヨン）に参加させて頂きました。本学会は1988年にアムステルダムで始まり今年で26回目となり、がん治療を行う腫瘍科医が海外諸国から数多く参加される学会です。当院からは、消化器内科の藤本、外科の杉山、上神、臨床研修医の竹原、武藤の5名で参加しました。

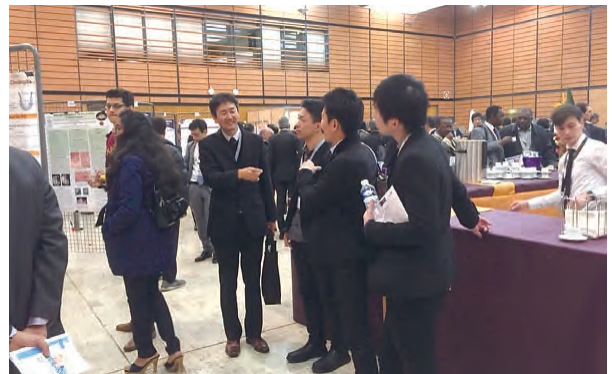


学会参加に先立って、ストラスブールにある IRCAD (Institut de recherche contre les cancers de l'appareil digestif) へ施設見学に向かいました。IRCAD は低侵襲手術である腹腔鏡手術の研究およびトレーニングセンターであり、外科医にとってはロボット手術（ダヴィンチ）などのトレーニングが出来る魅力的な施設で、世界各地から内視鏡外科医が研修に訪れています。友人が留学中だったことから、無理をいって施設見学させて頂きました。施設には1台数億円ともいわれるダヴィンチが10台近くあり、様々な手術プログラムが用意されていました。また、ライブ手術も行い海外からの中継もされており、スケールの大きさに驚かされることばかりでした。日本でもいずれロボット手術や遠隔手術が普及する時代が来るのかと思わずにはいられませんでした。

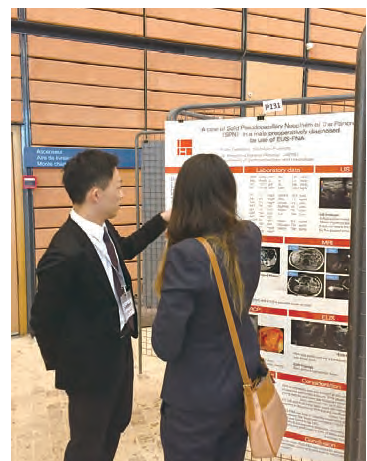
夜には友人の招待でホームパーティが行われまし

た。チーズ&ワインパーティーということで覚悟はしていましたが、ひたすらチーズとワインというもので流石にその後しばらくはチーズを受け付けなくなりましたが、それでも楽しく交流させて頂きました。ストラスブールは地理的、歴史的背景からドイツとフランスの文化を兼ね備えた街で美しく、また親日の方も多く非常に親しみやすい街だと思います。

後半は空路リヨンに移動し、学会に参加してきました。私は、「Outcomes of conversion therapy for initially unresectable gastric cancer」について発表させて頂きました。また、研修医2人は初めての国際学会ということで緊張していたようですが、質問及びディスカッションを立派にこなしていました。



無事発表も終わり、残された時間でリヨンの街散策に出かけるべくユネスコの世界遺産に登録されているリヨン歴史地区に向かいました。フルヴィエールの丘に登るとノートルダム大聖堂が聳え立ち、眼下には旧市街が広がっており、その壮大な景色と美しい街並みに息をのむばかりでした。また、リyonはフランスの「美食の街」として知られており、特に海の幸や牡蠣が美味しかったです。その時ばかりはあまり詳しくないワインを、「C'est bon!」と連呼しながら頂きました。



臨床研修医の2人にとっては初めての国際学会で、英語での抄録やポスター作製など苦労したと思います。しかし、国際化の流れは国内学会でも進んでいますし、何より色々な人との出会いがあり貴重な経験になったことと思います。



## ■ウィーンを訪れて

救急・集中治療科 櫻谷 正明

ESICM（ヨーロッパ集中治療医学会）にてe-posterセッションで発表してまいりました。二泊四日の弾丸ツアーのような日程で参加したため、滞在時間は短かったのですが、少しは楽しめたと思います。

10月24日の夜、関西国際空港からドバイ経由で、ウィーン国際空港へ向かいました。ちなみに英語の発音ではウィーンでなく「Vienna（ヴィエナ）」で、何回か間違えてウィーンと言いましたが、全然通じませんでした。ご存知の通り、ウィーンはオーストリアの首都で人口は186万人ほどです。モーツァルトやベートーヴェンに代表されるように数多くの作曲家が活躍して「音楽の都」とも呼ばれています。今回の学会のロゴマークはヴァイオリンのようなイラストになっていました（写真1）。

私の発表のe-posterですが、20名ほどの小さなブースでスライド6



写真1

枚、4分程度での発表でしたが、ほとんどの発表者がスライド枚数や時間を超過していました。毎度のことですが、この辺は日本と違うなと感じることで。抜管後のNPPVとハイフローについて発表してきました（写真2）。後ろ向きの観察研究ではありますが、この後は前向きに検討して行きたいと思いません。近年は集中治療においては、アメリカよりもヨーロッパの方がImpact factorも上がり、学会参加の日本人も増えています。今後も可能な限り海外の学会に参加して行きたいと思いません。



写真2

## ■ The International Society for the Study of the Lumbar Spine (ISSLS：国際腰痛学会) 2017に参加して

整形外科 脊椎・脊髄センター 山田 清貴

2017年5月29日から6月2日にギリシャのアテネで開催された第44回国際腰痛学会に参加しましたので報告します。

本会は、腰椎領域における最も権威のある国際学会であり、世界各国の研究者が参加し最先端の研究が報告されています。当院から整形外科の中前稔生先生と山田が参加しました。本会には日本からの参加者も多く、広島からは広島大学整形外科の中西一義先生、同門の松山市民病院整形外科の住吉範彦先生が参加されました。

会場はアテネのアクロポリスから徒歩で10分程度の場所にあるHilton Hotelでした。5日間



の学会期間中、口演 82 題、スペシャルポスター 60 題、ポスター 228 題の報告がありました。私は "Targeted therapy of low back pain in elderly de novo degenerative lumbar scoliosis" の口演を行い、中前先生が "Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral fracture associated with delayed neurologic deficit in thoracolumbar spine"、"Risk factors predicting cement loosening after percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft" の 2 題のポスター発表を行いました。本学会の特徴の一つですが、口演は 5 日間にわたり一会場のみで行われます。世界各国の腰椎専門家の前で発表するのはなかなか緊張する瞬間です。私が発表した演題は、全く新しいコンセプトに基づいた慢性腰痛に対する低侵襲治療の報告であり、当院独自の臨床研究です。フロアからの反響は大きく、その病態や治療成績について多くの質問がありました。



ギリシャは、皆さんで存じのようにたいへん歴史のある国です。アテネはその中心であり、約 3400 年の歴史がある世界でも最も古い都市の一つです。パルテノン神殿のあるアクロポリスを中心に、街の至るところに遺跡があります。残念ながらパルテノン神殿は修復中でしたが、石畳の街道を歩いていると古代ローマ時代にタイムスリップしたような感覚になりました。



国際学会で演題を発表し討論することはなかなか簡単なことではありませんが、当院の臨床研究が評価されたことはこれまでの苦勞が報われた瞬間でもありました。他大学や他国の医師達と交流ができることと合わせて、国際学会の大きな魅力です。これからも積極的に参加したいと思います。

忙しい診療業務の中、貴重な機会を与えて頂いた藤本院長、ならびに留守中にご迷惑をおかけした先生方、スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

## International Back and Neck Pain Research Forum 2017 に参加して

整形外科 脊椎・脊髄センター 山田 清貴

2017年9月12日から15日にノルウェー王国のオスロ市で開催された International Back and Neck Pain Research Forum 2017 に参加しましたので報告します。

本会は、脊椎由来の腰痛、頸部痛に対し世界各国の研究者が集まり、プライマリ・ケアから手術療法

まで様々なテーマについて議論されています。1995年にアメリカのシアトルで開催されて以来、18か月ごとに開催されている学会です。今回はノルウェーで開催されましたが、これまではブラジルやイギリスなどアメリカ以外の世界各地で開催されています。整形外科医だけではなく、公衆衛生の専門家や、内科医などのプライマリ・ケア医、理学療法士などの医療スタッフなども多く参加しており、参加者の専門領域が多岐にわたることが特徴です。また、近年の国際学会には珍しく、医療関係の企業からの協賛金を全く受けない学術集会です。



当院から藤本吉範病院長と中前稔生先生、山田の3名が参加しました。今回の学会には欧米を中心に様々な国の人が参加していましたが、日本人は私達のみでした。演題採択率が30%未満と厳しい中、当院からは2題の演題が採択されました。藤本病院長は、“Bone marrow edema and low back pain in elderly degenerative lumbar scoliosis: A cross-sectional study”を口演し、山田が“Targeted therapy



for low back pain in elderly degenerative lumbar scoliosis: A cohort study”のポスター発表を行いました。いずれも高齢者の慢性腰痛に対する病態解析とそれに基づいた低侵襲手術に関する演題であり、世界的にも例のないコンセプトに基づいた当院独自の臨床研究です。藤本病院長の魅力的なプレゼンテーションにより、ディスカッションが盛り上がったことは言うまでもありません。

オスロ市はノルウェー王国の首都であり、伝統的な建築物と自然が調和した美しい街です。市街地の多くが自然保護区になっているため人口は65万人と大都市ではありませんが、海運が盛んな北欧有数の世界都市です。オスロフィヨルドの最北奥に位置し、王宮からつづくカール・ヨハン通りが市の中心になります。“The Scream”で知られるエドヴァルド・ムンクの出身地であり、ノーベル平和賞の授賞式が行われる市庁舎が有名です。



国際学会の魅力は、全く異なる世界の人々と交流できることです。その中で当院の臨床研究が国際学会で認められたことは大変嬉しく勇気付けられました。

末筆ながら、忙しい業務の中留守をお願いした先生方、スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。



## 著書・論文

### 消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Involvement of Porphyromonas gingivalis in the progression of non-alcoholic fatty liver disease.	Nakahara T, Hyogo H, Ono A, Nagaoki Y, Kawaoka T, Miki D, Tsuge M, Hiraga N, Hayes CN, Hiramatsu A, Imamura M, Kawakami Y, Aikata H, Ochi H, Abe-Chayama H, Furusho H, Shintani T, Kurihara H, Miyauchi M, Takata T, Arihiro K, Chayama K	J Gastroenterol. 2017 Jul 24.		2017年
Prevalence of pruritus in patients with chronic liver disease: a multicenter study.	Oeda S, Takahashi H, Yoshida H, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Koshiyama Y, Ono M, Hyogo H, Kawaguchi T, Fujii H, Nishino K, Sumida Y, Tanaka S, Kawanaka M, Torimura T, Saibara T, Kawaguchi A, Nakajima A, Eguchi Y; Japan Study Group for NAFLD (JSG-NAFLD) .	Hepatol Res. 2017 Sep 6.		2017年
Use of Mac-2 binding protein as a biomarker for nonalcoholic fatty liver disease diagnosis.	Kamada Y, Ono M, Hyogo H, Fujii H, Sumida Y, Yamada M, Mori K, Tanaka S, Maekawa T, Ebisutani Y, Yamamoto A, Takamatsu S, Yoneda M, Kawada N, Chayama K, Saibara T, Takehara T, Miyoshi E; Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD) .	Hepatol Commun. 2017 Aug 16; 1 (8) : 780-791.		2017年
Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein predicts the development of hepatocellular carcinoma in patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Kawanaka M, Tomiyama Y, Hyogo H, Koda M, Shima T, Tobita H, Hiramatsu A, Nishino K, Okamoto T, Sato S, Hara Y, Nishina S, Kawamoto H, Chayama K, Okanoue T, Hino K.	Hepatol Res. 2018 Jan 7.		2018年

### 外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
TAPP 法で修復した巨大鼠径ヘルニアの3例	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 中光篤志	日本臨床外科学会雑誌	78 (5) : 1138-1143	2017年
腸重積をきたした回腸 lipomatosis の1例	馬場健太 田崎達也 香山茂平 井上聡 上神慎之介 佐々木秀 中光篤志	日本腹部救急医学会雑誌	37 (6) : 891-894	2017年

### 乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
診断に苦慮した肺 Micropapillary adenocarcinoma 乳房転移の1例	板垣友子 川淵義治	乳癌の臨床	32 巻 3 号 259-268	2017年

### 心臓血管外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Pure cusp tear of Trifecta bioprosthesis 2 years after aortic valve replacement.	Masaki Hamamoto, Taira Kobayashi, Masamichi Ozawa and Kosuke Yoshimura	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	23 : 157-160	2017年
本態性血小板症を合併した重症下肢虚血に対する Distal Bypass の1例	吉村幸祐 小林平 小澤優道 濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	26 : 153-156	2017年
感染制御後の待機的手術で治療した Graft-enteric erosion の1例	海氣勇気 小林平 小澤優道 濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	27 : 115-119	2018年

### 産婦人科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
子宮平滑筋肉腫内に腫瘍内転移を来した再発腎細胞癌の1例	佐々木美砂 大下孝史 藤本悦子 中西慶喜	日本婦人科腫瘍学会雑誌	35・4・787-792	2017年

## 著書・論文

卵巣癌による Trousseau 症候群の 1 例	仙波恵樹 大下孝史 上田明子 藤本悦子 数佐淑恵 佐々木美砂 中前里香子 中西慶喜	現代産婦人科	66・1・197-202	2017 年
術前に悪性の診断に至らなかった子宮体癌の 1 例	中前里香子 大下孝史 中西慶喜 永田郁子 井町海太 上國 愛 岡本淳子 臺丸 裕	広島県臨床細胞学会 会誌	38・51-55	2017 年

## 眼科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
ラタンプロストからタフルプロスト・チモロール マレイン酸塩への切り替え時の自覚症状、治療満 足度の検討	末岡千絵 二井宏紀 奥道秀明 ほか	臨床眼科	71 (4) 531 - 537	2017 年
The signs of ocular-surface disorders after switching from latanoprost to tafluprost/timolol fixed combination: a prospective study	Okumichi H, Kiuchi Y, Baba T, Kanamoto T, Naito T, Nakakura S, Tabuchi H, Nii H, Sueoka C, Sugimoto Y	Clinical Ophthalmology	Volume 11, 1175—1181	2017 年
低年齢時に視能訓練を行った間欠性外斜視 2 症例	川地里佳 米本真澄 末岡千絵 二井宏紀	日本視能訓練士協会 誌	46 47-55	2017 年

## 麻酔科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
男性親族・女性親族による患者体重の予測精度の 違い	森川百合亜 古賀知道 本多亮子 中尾正和	日臨麻会誌	Vol. 37 No. 7, 717- 723	2017 年
質疑応答—吸入麻酔薬と静脈麻酔薬を同時に投与 して行う	中尾正和	臨床麻酔	41 (5) : 759-760	2017 年
6. 内分泌疾患患者での特別な注意	中尾正和	稲田英一監訳 MGH 麻酔の手引—メディ カルサイエンスイン ターナショナル	75-101	2017 年
12. 静脈麻酔薬と吸入麻酔薬	中尾正和	稲田英一監訳 MGH 麻酔の手引—メディ カルサイエンスイン ターナショナル	169-184	2017 年
モニタープローブ等による皮膚損傷・熱傷	中尾正和	麻酔偶発症 AtoZ 文 光堂	597	2017 年
モニターケーブルの断線	中尾正和	麻酔偶発症 AtoZ 文 光堂	598	2017 年
加温ブランケットによる熱傷	中尾正和	麻酔偶発症 AtoZ 文 光堂	615	2017 年
電気供給停止・停電	中尾正和	麻酔偶発症 AtoZ 文 光堂	618	2017 年
マクロショック, ミクロショック	中尾正和	麻酔偶発症 AtoZ 文 光堂	619	2017 年

## 救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
人工呼吸器離脱	櫻谷正明/高場章宏	呼吸器ケア・メディ カ出版	2 / 3 月号	2017 年
波形を頭にたたき込め! グラフィックモニター 読解ドリル	櫻谷正明	呼吸器ケア・メディ カ出版	7 月号	2017 年
ハイフローセラピー	櫻谷正明/高場章宏	呼吸器ケア・メディ カ出版	8 月号	2017 年
PEEP 設定、参考にできるパラメーターは何か	櫻谷正明	呼吸器ケア・メディ カ出版	冬季増刊	2017 年
輸液プロトコルの有用性—医療の標準化と個別化	高場章宏	INTENSIVIST・メディ カル・サイエンス・ インターナショナル	9 巻 2 号	2017 年



## 著書・論文

## 臨床工学科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
交流量酸素投与を理解しよう～吸入酸素濃度を上げるには??～	荒田晋二	人工呼吸管理に強くなる「改訂版」		
基本のレシピ～ハミルトンG5編～	荒田晋二	呼吸器ケア		
在宅での人工呼吸器の現状と課題、退院支援	田中恵子	難病と在宅ケア		

## リハビリテーション科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
重症虚血肢の救肢と歩行について	本間智明 小林 平 長谷川美紗 村上嘉章 小林恭子 上野忠活 小島輝久 内山明子 井場和敏 飛鷹恵理 西谷喜子	日本心臓リハビリテーション学会誌	23巻1号13-16	2017年

## 書籍・雑誌編集

## 消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
徳毛宏則	在宅医療と内視鏡治療	査読者		PEG・在宅医療学会
兵庫秀幸	CJGE-D-17-00273	査読者	Laparoscopic fenestration for a huge symptomatic splenic cyst in a patient with Gaucher's disease: A case report	
兵庫秀幸	NPHB-2017-0866R1	査読者	Mechanism of TangGanJian on nonalcoholic fatty liver disease combined with type 2 diabetes mellitus	
兵庫秀幸	EJ17-0466	査読者	Validation of Simple Indexes for Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Western China: A Retrospective Cross-sectional Study	
兵庫秀幸	IJDCR-18-01-26	査読者	Differences in the application of glucose tolerance test between clinical practice and basic research.	

## 心臓血管外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Journal of Clinical Trials in Cardiology	査読者		Symbiosis
濱本正樹	Journal of Case Reports in Medical Science	査読者		
濱本正樹	Journal of Clinical Trials in Cardiology	査読者		Symbiosis
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Asian Journal of medicine and health	査読者		SCIENCEDOMAIN international
濱本正樹	Journal of Advances in Medicine and Medical Reserch	査読者		SCIENCEDOMAIN international
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	査読者		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Journal of Surgery: Current Trends & Innovations	査読者		Herald Scholarly Open Access
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	査読者		株式会社メディカルトリビューン
濱本正樹	Cardiology and Angiology: An International Journal	査読者		SCIENCEDOMAIN international

## 麻酔科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
中尾正和	Journal of Anesthesia	査読者		日本麻酔科学会
中尾正和	日本臨床麻酔学会誌	査読者		日本臨床麻酔学会
中尾正和	麻酔と蘇生	査読者		麻酔と蘇生編集部

# 学会発表

## 呼吸器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
放射性肺炎、間質性肺炎に合併した難治性気胸に対し、人工呼吸器管理下に EWS による気管支充填術を施行した 1 例	近藤丈博 濱田亜理沙 棚橋弘貴 古玉純子	第 57 回日本呼吸器学会	2017 年 4 月 21 ~ 23 日	東京都
気管支ステント留置後の再狭窄に対してステント再留置を行った間質性肺炎合併扁平上皮癌の 1 例	近藤丈博 濱田亜理沙 鳥井宏彰 古玉純子	第 58 回日本呼吸器学会 中国・四国地方会	2017 年 10 月 28 日	広島市

## 腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
透析導入直前にみられた高齢患者の潰瘍性大腸炎の一例	新開 泰 板倉崇帆 前田和也 荒川哲次	第 26 回中国腎不全研究会 学術集会	2017 年 11 月 4 ~ 5 日	広島市
AA アミロイドーシスと AL アミロイドーシスの鑑別に苦慮した一例	板倉崇帆 新開 泰 前田和也 荒川哲次	第 117 回日本内科学会中国 地方会	2017 年 11 月 18 日	出雲市

## 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
1 万件を超えるデータベース解析結果から見えた糖尿病神経障害日常診療における電流知覚閾値 (CPT) の意義・有用性を総括する	石田和史 三玉康幸 木ノ原周平 古森佑美	第 60 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2017 年 5 月 18 ~ 20 日	名古屋市
ヨード造影剤検査前後のビグアナイド薬休薬は、乳酸アシドーシスのリスク因子を認めない患者に対しても必要か？	古森佑美 木ノ原周平 三玉康幸 石田和史	第 60 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2017 年 5 月 18 ~ 20 日	名古屋市
Low Mix インスリン製剤からの切り替え症例を用いたデグルデク/アスパルト配合注の適合症例の模索	三玉康幸 古森佑美 木ノ原周平 石田和史	第 60 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2017 年 5 月 18 ~ 20 日	名古屋市
リスプロ Mix 製剤からデグルデク/アスパルト配合注への切替が患者 QOL 変化に及ぼす影響	三玉康幸 古森佑美 濱岡 彩 石田和史 安藤知佳 加賀美昌美 中元美恵	第 55 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2017 年 11 月 10 ~ 11 日	岡山市
CPT を用いた、ヒトにおける DPP-4 阻害薬の糖尿病神経障害進展阻止作用の検証	石田和史 三玉康幸 濱岡 彩 古森佑美 尾川 恵 本堂夏実 嶋田恵美 藤岡剛子 小松浩基 水野誠士	第 55 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2017 年 11 月 10 ~ 11 日	岡山市
チアゾリジン薬・SU 薬からの切り替え 症例でみた SGLT-2 阻害薬への有意義な切り替え	濱岡 彩 古森佑美 三玉康幸 石田和史	第 55 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2017 年 11 月 10 ~ 11 日	岡山市
ビグアナイド薬内服患者における、血漿乳酸値上昇のリスク因子の検討	古森佑美 濱岡 彩 三玉康幸 石田和史	第 55 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2017 年 11 月 10 ~ 11 日	岡山市
ACTH 単独欠損症と SIADH を合併した低 Na 血症の 1 例	河本 遥 濱岡 彩 古森佑美 三玉康幸 石田和史	日本内科学会第 117 回中 国地方会	2017 年 11 月 18 日	出雲市

## 消化器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Gender difference を考慮した脂肪性肝疾患の拾い上げと予防のための有効な質問表の提唱	野中裕広 兵庫秀幸 相坂康之 徳毛宏則	第 53 回日本肝臓学会総 会	2017 年 6 月 9 日	広島市
ワクチン接種するも B 型肝炎ウィルス GenotypeD による急性 B 型肝炎を発症した 1 例	末廣洋介 相坂康之 野中裕広 兵庫秀幸 徳毛宏則	第 53 回日本肝臓学会総 会	2017 年 6 月 9 日	広島市
腸管穿孔を契機に診断されたベーチェット病の 1 例	竹原悠大 古土井明 隅岡昭彦 村田 愛 末廣洋介 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	第 107 回日本消化器病学会 中国支部例会	2017 年 6 月 17 日	広島市
G-CSF 産生胆嚢癌の 1 例	隅岡昭彦 藤本佳史 村田 愛 末廣洋介 野中裕広 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則 古土井明	第 107 回日本消化器病学会 中国支部例会	2017 年 6 月 17 日	広島市
A 型胃炎に胃カルチノイドを併発した一例	村田 愛 古土井明 隅岡昭彦 末廣洋介 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	第 118 回日本消化器内視 鏡学会中国支部例会	2017 年 6 月 25 日	広島市
高齢者 IPMC の 2 例～穿破例と長期観察例～	村田 愛 藤本佳史	第 48 回日本肝臓学会大 会	2017 年 7 月 14 日	京都市

## 学会発表

当院における巨大肝嚢胞に対する内科的治療の現況	野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 徳毛宏則	村田 愛 隅岡昭彦 相坂康之	末廣洋介 古土井明 小松弘尚	第 66 回日本農村医学会 学術総会	2017 年 10 月 5 日	宜野湾市
当院における大腸 ESD 治療の現況	古土井明 村田 愛 隅岡昭彦 小松弘尚	徳毛宏則 末廣洋介 兵庫秀幸	野中裕広 藤本佳史 相坂康之	第 66 回日本農村医学会 学術総会	2017 年 10 月 5 日	宜野湾市
当院における巨大肝嚢胞に対するミノサイクリン 注入療法の実況	野中裕広 相坂康之	末廣洋介 徳毛宏則	兵庫秀幸	第 21 回日本肝臓学会大 会	2017 年 10 月 13 日	福岡市
A Case of Epidermoid Cyst in an Intrapaneatic Accessory Spleen	Y. Fujimoto, Y. Takehara, H. Tokumo, Y. Sugiyama			The International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists World Congress 2017	2017 年 11 月 15 日	Lyon, France
A Case of Solid Pseudopapillary Neoplasma of Pancreas (SPN) in a Male Preoperatively Diagnosed by Use of EUS-FNA	Yudai Takehara, Yoshifumi Fujimoto, Hironori Tokumo			The International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists World Congress 2017	2017 年 11 月 15 日	Lyon, France
内視鏡直視下でコーラの直接散布、局注により破 砕、除去した胃石の 1 例 日本内科学会	末廣洋介 村田 愛 藤本佳史 徳毛宏則	小松弘尚 野中裕広 兵庫秀幸	隅岡昭彦 古土井明 相坂康之	第 117 回日本内科学会中 国地方会	2017 年 11 月 18 日	出雲市
当院消化器内科での肝疾患患者におけるこむら返 りの実態	村田 愛 隅岡昭彦 藤本佳史 徳毛宏則	兵庫秀幸 末廣洋介 相坂康之	野中裕広 古土井明 小松弘尚	第 108 回日本消化器病学 会中国支部例会	2017 年 11 月 18 日	宇部市

## 小児科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
広島県廿日市市内の乳幼児保育施設における食物 アレルギーに関するアンケート調査	吉野修司 岡島宏易 小野早織 青木真奈美 辻 徹郎	第 66 回日本アレルギー 学会学術大会	2017 年 6 月 16 日～ 18 日	東京都
広島県内の食物アレルギー診療実態調査	岡島宏易 網本祐子 川口浩史 喜多村哲朗 白尾謙一 辻 徹郎 平田 修 藤原倫昌 渡邊弘司 牛尾剛士	第 54 回日本小児アレル ギー学会学術大会	2017 年 11 月 18 日～ 19 日	宇都宮市

## 外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の適応を考える上 での、JHS ガイドラインの問題点と課題	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第 15 回日本ヘルニア学 会学術集会	2017 年 6 月 2～3 日	東京都
TAPP 法後に再発をきたした 3 症例	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第 15 回日本ヘルニア学 会学術集会	2017 年 6 月 2～3 日	東京都
腸閉塞既往のある、再発鼠径ヘルニアに対する TAPP 法の経験	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第 15 回日本ヘルニア学 会学術集会	2017 年 6 月 2～3 日	東京都
巨大鼠径ヘルニアに対して TAPP 法を行った 3 例	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第 15 回日本ヘルニア学 会学術集会	2017 年 6 月 2～3 日	東京都
腹膜前修復法後再発鼠径ヘルニアの再発形式につ いて	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第 14 回中国四国ヘルニ ア手術研究会	2017 年 7 月 1 日	広島市
当科での鼠径部ヘルニア手術の術式選択と外科後 期研修の実況	亀田靖子 田崎達也 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 今村祐司 中光篤志	第 14 回中国四国ヘルニ ア手術研究会	2017 年 7 月 1 日	広島市

## 学会発表

見ないと損する腹腔鏡下ヘルニア修復術—再発させない手術、再発に対する手術	田崎達也	第14回中国四国ヘルニア手術研究会	2017年7月1日	広島市
A safe TAPP procedure for a long-term scrotal indirect hernia	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Nakamura H, Uegami S, Imamura Y and Nakamitsu A	第72回日本消化器外科学会総会	2017年7月20～22日	金沢市
膵頭十二指腸切除後膵液瘻発生予測因子の検討／Predictive factors for postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy	佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 上神慎之介 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平	第72回日本消化器外科学会総会	2017年7月20～22日	金沢市
高齢 Stage III 大腸癌症例に対する術後補助化学療法法の検討	香山茂平 今村祐司 佐々木秀 杉山陽一 田崎達也 中村浩之 上神慎之介 馬場健太 亀田靖子 中光篤志	第72回日本消化器外科学会総会	2017年7月20～22日	金沢市
左側閉塞性大腸癌に対する治療戦略～緊急手術と SEM 留置後の Bridge to Surgery の検討から	上神慎之介 亀田靖子 馬場健太 中村浩之 田崎達也 杉山陽一 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第72回日本消化器外科学会総会	2017年7月20～22日	金沢市
当院における偶発胆嚢癌の治療方針の検討	田妻 昌 杉山陽一 佐々木秀 新原健介 亀田靖子 上神慎之介 中村浩之 田崎達也 香山茂平 中光篤志	第72回日本消化器外科学会総会	2017年7月20～22日	金沢市
複雑性虫垂炎における術後合併症のリスクファクターに関する検討	馬場健太 杉山陽一 田妻 昌 亀田靖子 上神慎之介 中村浩之 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第72回日本消化器外科学会総会	2017年7月20～22日	金沢市
Treatment result of Stage IV gastric cancer and the appropriateness of conversion therapy by category	Yoichi Sugiyama, Kensuke Shimbara, Kohei Miyashita, Shou Tazuma, Yasuko Kameda, Ryuta Shintakuya, Shinnosuke Uegami, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu	第72回日本消化器外科学会総会	2017年7月20～22日	金沢市
審査腹腔鏡が診断に有用であった悪性腹膜中皮腫の1例	山本高嗣 杉山陽一 新原健介 宮下浩平 田妻 昌 亀田靖子 新宅谷隆太 上神慎之介 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第92回中国四国外科学会総会	2017年9月8～9日	高知市
絞扼性イレウスにおける腸管切除の必要性の予測因子についての検討	宮下浩平 中光篤志 佐々木秀 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介	第92回中国四国外科学会総会	2017年9月8～9日	高知市
当院における80歳以上高齢者に対する腹腔鏡下胃切除の短期成績	杉山陽一 新原健介 田妻 昌 亀田靖子 新宅谷隆太 上神慎之介 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第92回中国四国外科学会総会	2017年9月8～9日	高知市
再発鼠径ヘルニアに対する、腹腔鏡を主体とした治療戦略	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第28回佐伯医学会総会	2017年11月3日	廿日市市
圧搾空気釘打機（エアガン）による大腸穿孔の1例	宇山拓澄 田崎達也 上神慎之介 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第28回佐伯医学会総会	2017年11月3日	廿日市市
閉塞性大腸癌に対する治療—ステントによる減圧意義—	香山茂平 田崎達也 上神慎之介	第72回日本大腸肛門病学会学術集会	2017年11月10～11日	福岡市
再発鼠径ヘルニアに対する、腹腔鏡を用いた治療戦略	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第70回広島医学会総会	2017年11月12日	広島市
Pathological Complete Response after preoperative HER + XP therapy for synchronous liver metastasis from advanced gastric cancer	Mutou Masayuki, Yoichi Sugiyama, Kensuke Shimbara, Kohei Miyashita, Shou Tazuma, Yasuko Kameda, Ryuta Shintakuya, Shinnosuke Uegami, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu	International Association of Surgeons Gastroenterologists and Oncologists (IASGO 2017)	2017年11月15～17日	Lyon, France

## 学会発表

Examination of the conversion surgery for unresectable gastric cancer	Yoichi Sugiyama, Kensuke Shimbara, Kohei Miyashita, Shou Tazuma, Yasuko Kameda, Ryuta Shintakuya, Shinnosuke Uegami, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu	IASGO 2017	2017年11月15～17日	Lyon, France
The effectiveness of self-expandable metallic stent as a bridge to surgery for left-sided malignant colorectal obstruction	Shinnosuke Uegami, Yoichi Sugiyama, Kensuke Shimbara, Kohei Miyashita, Shou Tazuma, Yasuko Kameda, Ryuta Shintakuya, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu	IASGO 2017	2017年11月15～17日	Lyon, France
A Case of an Intussusception Caused by Ileal Lipomatosis	Baba K, Tazaki T, Kohyama M, Shimbara K, Tazuma S, Kameda Y, Uegami S, Nakamura H, Sugiyama Y, Sasaki M, Imamura Y, Nakamitsu A	21st Asian Congress of Surgery	2017年11月22～23日	Tokyo
Transabdominal preperitoneal repair is useful for giant inguinal hernia	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Nakamura H, Uegami S, Imamura Y and Nakamitsu A	21st Asian Congress of Surgery	2017年11月22～23日	Tokyo
腹膜前修復後再発鼠径ヘルニアに対する TAPP 法は是か非か	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第79回日本臨床外科学会総会	2017年11月23～25日	東京都
圧搾空気による大腸穿孔の1例	宇山拓澄 田崎達也 上神慎之介 中村浩之 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第79回日本臨床外科学会総会	2017年11月23～25日	東京都
腹腔内遊離ガス像を伴った気腫性胆嚢炎の1例	新原健介 田崎達也 杉山陽一 佐々木秀 香山茂平 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	第79回日本臨床外科学会総会	2017年11月23～25日	東京都
S状結腸軸捻転症の治療成績	田妻昌 田崎達也 香山茂平 上神慎之介 新原健介 宮下浩平 亀田靖子 新宅谷隆太 杉山陽一 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第79回日本臨床外科学会総会	2017年11月23～25日	東京都
膵頭十二指腸切除後瘻液発生予測因子の検討ードレーン排液培養の有用性	佐々木秀 中光篤志 今村祐司 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 上神慎之介 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平	第30回日本外科感染症学会総会学術集会	2017年11月29～30日	東京都
TAPP 法後再発鼠径ヘルニア症例から考える、再発を防ぐために必要なこと	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 新原健介 中光篤志	第30回日本内視鏡外科学会総会	2017年12月7～9日	京都市
腹腔鏡下に切除した胃 GIST 単発性腹膜再発の一例	新原健介 杉山陽一 亀田靖子 新宅谷隆太 上神慎之介 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第30回日本内視鏡外科学会総会	2017年12月7～9日	京都市
イレウスを契機に診断された腸管子宮内膜症の一例	亀田靖子 上神慎之介 佐々木秀 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 新宅谷隆太	第30回日本内視鏡外科学会総会	2017年12月7～9日	京都市
80歳以上高齢者に対する腹腔鏡下胃切除の安全性および有用性の検討	杉山陽一 新原健介 田妻 昌 亀田靖子 新宅谷隆太 上神慎之介 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 今村祐司 中光篤志	第30回日本内視鏡外科学会総会	2017年12月7～9日	京都市
A case of hepatic invasive gastric cancer found on sutgery of liver abscess	Sho Tazuma, Yoichi Sugiyama, Kensuke Shimbara, Kohei Miyashita, Shou Tazuma, Yasuko Kameda, Ryuta Shintakuya, Shinnosuke Uegami, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu	第90回日本胃癌学会総会	2018年3月7日～9日	横浜
A case of HER-2 positive gastric cancer with multiple liver metasisitasis treated by conversion surgery	Kensuke Shimbara, Yoichi Sugiyama, Kohei Miyashita, Shou Tazuma, Yasuko Kameda, Ryuta Shintakuya, Shinnosuke Uegami, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu	第90回日本胃癌学会総会	2018年3月7日～9日	横浜

## 学会発表

The significance of conversion surgery for Stage IV gastric cancer	Yoichi Sugiyama, Kensuke Shimbara, Kohei Miyashita, Shou Tazuma, Yasuko Kameda, Ryuta Shintakuya, Shinnosuke Uegami, Tatsuya Tazaki, Mohei Koyama, Masaru Sasaki, Yuji Imamura, Atsushi Nakamitsu	第 90 回日本胃癌学会総会	2018 年 3 月 7 日～9 日	横浜
--	---	----------------	--------------------	----

## 乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
転移・再発乳癌に対する TS-1 一次化学療法投与症例の検討	板垣友子 川淵義治 安井大介 中光篤志	第 25 回日本乳癌学会学術集会	2017 年 7 月 13～15 日	福岡
エリブリンにおける survival 延長に寄与する因子についての検討	川淵義治 板垣友子 安井大介 中光篤志	第 25 回日本乳癌学会学術集会	2017 年 7 月 13～15 日	福岡
Prognostic Nutritional index が乳癌の予後に与える影響	大原正裕 板垣友子 川淵義治	第 14 回日本乳癌学会中国四国地方会	2017 年 9 月 16～17 日	岡山
当院における 80 歳以上の高齢者乳癌の実情	大原正裕 板垣友子 川淵義治	第 28 回佐伯医学会総会	2017 年 11 月 3 日	廿日市市

## 実績

## 整形外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
高齢者腰椎変性側弯症の腰痛に対するターゲット療法	山田清貴 藤本吉範 中前稔生 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	日本脊椎脊髄病学会	2017 年 4 月 13～15 日	北海道
中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折の臨床的特徴と経皮的後弯矯正術	平松 武 藤本吉範 鈴木修身 山田清貴 中前稔生 橋本貴士 土川雄司	日本脊椎脊髄病学会	2017 年 4 月 13～15 日	北海道
骨粗鬆症性椎体骨折に対する骨セメントを用いた経皮的椎体形成術の成績不良因子の検討	中前稔生 藤本吉範 山田清貴 平松 武 橋本貴士 鈴木修身 土川雄司	日本脊椎脊髄病学会	2017 年 4 月 13～15 日	北海道
Targeted Therapy of Low Back Pain in Elderly De Novo Degenerative Lumbar Scoliosis	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	ISSLS (International Society for the Study of the Lumbar Spine)	2017 年 5 月 30～6 月 3 日	Athens, Greece
Risk factors predicting cement loosening after percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft: a retrospective analysis	Toshio Nakamae, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	ISSLS (International Society for the Study of the Lumbar Spine)	2017 年 5 月 30～6 月 3 日	Athens, Greece
Percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral fracture associated with delayed neurologic deficit in thoracolumbar spine	Toshio Nakamae, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	ISSLS (International Society for the Study of the Lumbar Spine)	2017 年 5 月 30～6 月 3 日	Athens, Greece
Targeted Therapy for Low Back Pain in Elderly Degenerative Lumbar Scoliosis. A Cohort Study	Kiyotaka Yamada, Yoshinori Fujimoto, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Toshio Nakamae, Takeshi Hiramatsu, Yuji Tsuchikawa	International Back and Neck Pain Research Forum 2017	2017 年 9 月 12～15 日	Oslo, Norway
Risk factors predicting cement loosening after percutaneous vertebroplasty for osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft: a retrospective analysis	Toshio Nakamae, Yoshinori Fujimoto, Kiyotaka Yamada, Osami Suzuki, Takashi Hashimoto, Takeshi Hiramatsu, Toshiaki Maruyama	NASS2018 (North American Spine Society)	2017 年 10 月 25～28 日	Orland, FL, USA
高齢者腰椎変性側弯症における椎間孔狭窄と椎体終板の骨髄浮腫	中前稔生 山田清貴 平松 武 橋本貴士 丸山俊明 藤本吉範	日本腰痛学会	2017 年 11 月 3～4 日	東京
アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する percutaneous endoscopic discectomy (PED) の治療成績—腰痛に着目して—	中前稔生 山田清貴 平松 武 橋本貴士 丸山俊明 藤本吉範	日本腰痛学会	2017 年 11 月 3～4 日	東京

## 脳神経外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
脳動脈瘤 clipping 術中破裂についての検討	黒木一彦 品川勝弘 岡村朗健 山田直人	第 20 回臨床脳神経外学会	2017 年 7 月 15 日	広島
植木鉢支柱による穿通性頭部外傷の 1 例	黒木一彦 品川勝弘 岡村朗健 山田直人	第 20 回臨床脳神経外学会	2017 年 7 月 15 日	広島

## 学会発表

## 呼吸器外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
飲食店における小中学生の喫煙席での食事経験	渡 正伸 山根 基	第 57 回日本呼吸器学会	2017 年 4 月 21 ~ 23 日	東京
術前肺機能外来で処方した吸入薬別効果に関する検討	渡 正伸 熊田高志 伊藤林太郎	第 57 回日本呼吸器学会	2017 年 4 月 21 ~ 23 日	東京
気胸術後の病理検査で発見された肺癌の 2 例	熊田高志 渡 正伸 井上 聡	第 34 回日本呼吸器外科学会総会	2017 年 5 月 18 ~ 19 日	福岡市
化学放射線療法後に肺葉切除を行い周術期に間質性肺炎を発症した 1 例	熊田高志 渡 正伸 伊藤林太郎	第 92 回中国四国外科学会総会	2017 年 9 月 8 ~ 9 日	高知市
右肺部分切除術後に麻痺性イレウスを伴った重症 Clostridium difficile 腸炎を発症した 1 例	伊藤林太郎 渡 正伸 熊田高志 田妻 昌	第 92 回中国四国外科学会総会	2017 年 9 月 8 ~ 9 日	高知市
脊椎側弯症が誘因となった肺全摘後症候群に気管支ステント留置を行い 10 年経過中の 1 例	渡 正伸 熊田高志 伊藤林太郎	第 66 回日本農村医学会総会	2017 年 10 月 5 日	沖縄
右肺部分切除術後に麻痺性イレウスを伴った重症 Clostridium difficile 腸炎を発症した 1 例	伊藤林太郎 渡 正伸 熊田高志 田妻 昌	第 79 回日本臨床外科学会総会	2017 年 11 月 23 ~ 25 日	東京

## 心臓血管外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
重症下肢虚血患者に対する Distal bypass の中・長期成績	小林 平 濱本正樹 小澤優道 吉村幸祐	第 45 回日本血管外科学会	2017 年 4 月 19 ~ 21 日	広島県
Effectiveness of EVT for failing vein grafts after distal bypass	小林 平 濱本正樹 小澤優道 吉村幸祐	第 45 回日本血管外科学会	2017 年 4 月 19 ~ 21 日	広島県
Indications and Results of Bypass Surgery for Elderly Patients with PAD	小林 平 濱本正樹 小澤優道 吉村幸祐	第 45 回日本血管外科学会	2017 年 4 月 19 ~ 21 日	広島県
下肢機能の温存を目的に—重症下肢虚血に対するチーム医療の意義を考える—	小林 平 濱本正樹 小澤優道 吉村幸祐	第 45 回日本血管外科学会	2017 年 4 月 19 ~ 21 日	広島県
Effectiveness of transposed brachio basilic arteriovenous fistula for difficult vascular access	小林 平 濱本正樹 小澤優道 吉村幸祐	第 45 回日本血管外科学会	2017 年 4 月 19 ~ 21 日	広島県
維持期心臓リハビリテーションは継続できるのか？	小林 平 本間智明 竹廣 舞 高桑 翼 小島輝久 河野裕美 村上嘉章	第 3 回日本心臓リハビリテーション学会中国地方会	2018 年 2 月 17 日	広島県

## 皮膚科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
	田中友里恵 末岡愛実 北野文朗	日本皮膚科学会 第 142 回広島地方会	2018 年 3 月 4 日	広島市
	末岡愛実 田中友里恵 北野文朗	日本皮膚科学会 第 142 回広島地方会	2018 年 3 月 4 日	広島市

## 泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
集学的治療を行った膀胱肉腫様癌	増本弘史 宮本俊輔 赤坂保行 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会東部総会	2017 年 9 月 15 日	東京都
腹腔鏡下膀胱全摘除術の初期経験	増本弘史 宮本俊輔 赤坂保行 加藤昌生 小深田義勝	広島泌尿器内視鏡研究会	2017 年 10 月 7 日	広島市
前立腺全摘除術後 PSA 再発に対する救済放射線療法法の検討	宮本俊輔 赤坂保行 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	西日本泌尿器科学会総会	2017 年 11 月 11 日	大分市
去勢抵抗性前立腺癌に対する cabazitaxel の初期経験	赤坂保行 宮本俊輔 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会広島地方会学術集会	2017 年 12 月 2 日	広島市
2016 年度の JA 広島総合病院における手術統計	宮本俊輔 赤坂保行 増本弘史 加藤昌生 小深田義勝	日本泌尿器科学会広島地方会学術集会	2017 年 12 月 2 日	広島市
女性泌尿器科の最近の話題	加藤昌生	佐伯区医師会学術講演会	2017 年 12 月 26 日	廿日市市



## 学会発表

## 産婦人科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における胎状奇胎症例の検討	中前里香子 大下孝史 仙波恵樹 数佐淑恵 佐々木美砂 高本晴子 中西慶喜	第 69 回日本産科婦人科学会学術集会	2017 年 4 月 13 ~ 16 日	広島市
当科における卵巣境界悪性腫瘍症例の検討	数佐淑恵 大下孝史 仙波恵樹 佐々木美砂 中前里香子 高本晴子 中西慶喜	第 69 回日本産科婦人科学会学術集会	2017 年 4 月 13 ~ 16 日	広島市
当科で経験した妊娠授乳後骨粗鬆症の 1 例	数佐淑恵 中西慶喜	第 32 回日本女性医学会学術集会	2017 年 11 月 4 ~ 5 日	大阪市

## 眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
網膜動脈閉塞症 32 例の検討	末岡千絵 二井宏紀	第 76 回広島地方眼科学会	2017 年 11 月 26 日	広島市
マイクロフックトラベクトミー眼内法の短期成績	二井宏紀	第 281 回広島眼科症例検討会	2018 年 1 月 11 日	広島市

## 画像診断部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
糖尿病治療中に発症した浸透圧性脱髄症候群の一例	小西宏奈 西原礼介	第 129 回日本医学放射線学会中国・四国地方会	2017 年 12 月 9 ~ 10 日	岡山市
診断に苦慮した腓リンパ上皮嚢胞の一例	高橋佑輔 西原礼介	第 129 回日本医学放射線学会中国・四国地方会	2017 年 12 月 9 ~ 10 日	岡山市

## 麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
全身麻酔導入時における非観血的 NIBP の連続測定 (STAT) モードの使用状況とその有用性—自動麻酔記録システム paperChart の後ろ向き Big Data から—	佐々木幹子 中尾正和 梅田絢子 河本佐誉子 村上俊介 本多亮子	日本麻酔科学会学術集会	2017 年 6 月 8 ~ 10 日	神戸市
ビデオ喉頭鏡 McGrath® Mac のビデオ画面をウェアラブルカメラで撮影するのに必要な視野角の検討	中尾正和 河本佐誉子 片岡宏子 村上俊介 古賀知道 本多亮子 梅田絢子	日本麻酔科学会学術集会	2017 年 6 月 8 ~ 10 日	神戸市
電動 IV-PCA ポンプの内部記録からふりかえった下腹部手術における高齢者での PCA 減量の妥当性	村上俊介 中尾正和 梅田絢子 本多亮子 片岡宏子 古賀知道	日本麻酔科学会学術集会	2017 年 6 月 8 ~ 10 日	神戸市
シミュレーションの pitfall (シンポジウム TCI の近未来: 動向と対応)	中尾正和	日本麻酔科学会学術集会	2017 年 6 月 8 ~ 10 日	神戸市

## 救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
成人症例の国内使用調査	櫻谷正明	第 39 回日本呼吸療法医学会 HFOV フォーラム	2017 年 7 月 16 ~ 17 日	東京台場
Nasal mask Continues Positive Airway Pressure versus High Flow Nasal Cannula after extubation for high risk patients	Masaaki SAKURAYA	ESICM LIVES 2017, 30th Annual Congress	2017 年 9 月 25 ~ 27 日	ウィーン
被殻出血に類似した CT 所見を呈した中大脳動脈瘤破裂の 1 例	竹野典子	第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 一般演題	2017 年 10 月 24 ~ 26 日	大阪
胸骨圧迫による肝損傷を合併したが独歩退院し得た 1 例	石橋一樹	第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 一般演題	2017 年 10 月 24 ~ 26 日	大阪
日本紅斑熱に電撃性紫斑病を合併し急激な転機をたどった一例	芳野由弥	第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 一般演題	2017 年 10 月 24 ~ 26 日	大阪
心肺停止で救急搬送され救命できた重症肺炎の 1 症例	野村晃生	第 45 回日本救急医学会総会・学術集会 一般演題	2017 年 10 月 24 ~ 26 日	大阪

## 学会発表

長期のICU滞在は退院後の睡眠薬処方の増加につながる	櫻谷正明	第45回 日本集中治療医学会 学術集会 一般演題	2018年2月21～23日	幕張
メトホルミンによる乳酸アシドーシスに続発した浸透圧性脱髄症候群の1例	吉村晴香	第45回 日本集中治療医学会 学術集会 一般演題	2018年2月21～23日	幕張
当院におけるPICC（peripherally inserted central venous catheter）センターの現状	竹野典子	第45回日本集中治療医学会 学術集会 一般演題	2018年2月21～23日	幕張
肺炎球菌肺炎加療中に痙攣を起こした1症例	児玉竜一	第16回日本病院総合診療医学会学術総会 一般演題	2018年3月2～3日	湯布院
S. bovisによる感染性心内膜炎の1症例	竹野典子	第16回日本病院総合診療医学会学術総会 一般演題	2018年3月2～3日	湯布院

## 病理診断科・病理研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
胼 Clear cell variant of solid pseudopapillary neoplasm の1例	永田郁子 上國 愛 岡本淳子 井町海太 台丸 裕	第58回日本臨床細胞学会総会春期大会	2017年5月26～28日	大阪

## 外来

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
内視鏡技師が関わる胃瘻知識の啓発活動	石崎淳子 松下理恵 藤本七津美 徳毛宏則	第79回日本消化器内視鏡技師学会	2017年10月13日	福岡市
高齢者の夫婦を支える訪問看護師と外来看護師との連携からみえたもの	安藤知佳 加賀美昌美 中元美恵 三玉康幸 石田和史	第55回日本糖尿病学会中国四国地方会	2017年11月10～11日	岡山市
外来腹膜透析患者の運動習慣実態調査	濱尾佳織 平木一枝 野村昌代 前田和也 荒川哲次 小林 平	第8回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2018年3月17～18日	仙台市
外来血液透析患者におけるサルコペニアの評価と運動習慣調査～運動療法介入に向け～	平木一枝 濱尾佳織 野村昌代 前田和也 荒川哲次 小林 平	第8回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2018年3月17～18日	仙台市

## 西4階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における外来保健指導導入後の妊婦の体重増加の実態調査	川上佳苗 春木優香 大西千晴	第58回日本母性衛生学会	2017年10月6～7日	神戸市

## 西7階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
膵がん教室の現状と病棟での取り組み	村上優子 村中由布子 坂手友子 村中ひろみ 藤本佳史	第48回日本膵臓学会大会	2017年7月14～15日	京都

## 東3階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
急性心筋梗塞例の外来心臓リハビリテーション移行について～入院中に看護師ができることは～	益本僚子 門内美鈴 福濱弥生 杉野里美 宮本英美 本間智明 小林 平	第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2017年7月15～16日	岐阜
参加者が興味を持てる心臓病教室を目指して	杉野里美 門内美鈴 畝小百合 新田克己 辻川知己 辻山修司	第3回日本心臓リハビリテーション学会 中国地方会	2018年2月17日	広島

## 東7階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院における救急に携わるチーム医療での看護師の役割	南部智江 中洲沙織 福本裕平 本山敏恵 小林 平	第9回日本下肢救済・足病学会学術集会	2017年5月26～27日	福岡

## 学会発表

## 東 8 階病棟

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
腎臓病教育入院後の療養生活継続における看護師介入の重要性	高見賢次 堀田泰寛 平田優奈 野田明美 前田和也 荒川哲次 小林 平	第 8 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2018 年 3 月 17～18 日	仙台市

## 手術室

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
手術室における外回り看護師の眼への血液・体液曝露防止に関する意識調査～ゴーグルの使用状況から明らかになったこと～	高野正義 平本廉昂	第 66 回日本農村医学会学術総会	2017 年 10 月 5 日～6 日	沖縄

## 薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
テイコプラニン初期投与設計に関する検討	角井 碧 山崎貴司	第 65 回日本化学療法学会学術集会	2017 年 4 月 7 日	東京都
鎮静管理に対する薬剤師の介入	吉廣尚大	第 20 回日本臨床救急医学会年会	2017 年 5 月 27 日	東京都
痔瘻教室の現状とアンケート報告	埋橋賢吾 白井敦史 藪田ゆみ 中島恵子 橋本佳浩 藤本佳史	第 48 回日本痔瘻学会	2017 年 7 月 14～15 日	京都府
外来心臓リハビリテーションへの薬剤師の介入～退院後の服薬コンプライアンス実態調査～	向井一樹 大原由希子 橋本佳浩 本間智明 小林 平	第 23 回心臓リハビリテーション学会	2017 年 7 月 15～16 日	岐阜県
末梢動脈疾患患者の個別化服薬指導に向けて	稲田淑江 角井 碧 後藤彰仁 橋本佳浩 本間智明 小林 平	第 23 回心臓リハビリテーション学会	2017 年 7 月 15～16 日	岐阜県
消化器外科病棟における Quality Indicator を用いた薬剤師の病棟業務内容に関する単施設後向き調査	岡野愛子 小野塚和人 吉廣尚大 磯貝明彦 橋本佳浩 中光篤志	第 56 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	2017 年 10 月 21～22 日	徳島県
非小細胞肺癌のニボルマブ治療における免疫関連有害事象の検討	白井敦史 藪田ゆみ 埋橋賢吾 中島恵子 橋本佳浩	第 27 回日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 1 日	千葉県
消化器外科病棟に入院した患者のポリファーマシーに対する薬剤師による介入効果の調査：単施設後向き観察研究	小野塚和人 吉廣尚大 岡野愛子 磯貝明彦 中光篤志 橋本佳浩	第 27 回日本医療薬学会年会	2017 年 11 月 3～5 日	千葉県
敗血症患者の鎮静管理で薬剤師の介入方法を考える	吉廣尚大	第 27 回医療薬学会年会	2017 年 11 月 4 日	東京都
ICU におけるロクロニウム使用患者に対する ADL の調査 単施設後向き研究	吉廣尚大 櫻谷正明 河村夏生 筒井 徹 高場章宏 吉田研一 橋本佳浩	第 45 回日本集中治療医学会年会	2018 年 2 月 23 日	東京都
結腸手術における術後感染予防抗菌薬の使用法変更による手術部位感染発生率の変化：単施設介入前後調査	小野塚和人 正島和美 吉廣尚大 角井碧 田崎達也 今本紀生	第 33 回日本環境感染学会総会・学術集会	2018 年 2 月 23～24 日	東京都
当院 CKD 教育入院の服薬状況と服薬指導について	得能千晶 井上沙緒里 橋本佳浩 前田和也 荒川哲次 小林 平	第 8 回腎臓リハビリテーション学会総会	2018 年 3 月 17 日	仙台市

## 中央放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
256 列冠動脈 CT における造影剤注入法の検討－TBT 法と BT 法の比較－	秋里恭平 山口裕之 下土居一 高橋昌史 村上 卓 柳井 環 倉本真志 横田 径	日本放射線技術学会 秋季学術大会	2017 年 10 月 19～21 日	広島
256 列冠動脈 CT における 3 次元動態ベクトル解析の使用に関する検討	秋里恭平 山口裕之 下土居一 高橋昌史 村上 卓 柳井 環 倉本真志 横田 径	日本放射線技術学会 中国四国部会	2017 年 12 月 2～3 日	徳島

## 臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
安全に在宅人工呼吸療法を行うために～RST (Respiratory Suoport Team) 活動の重要性	平野恵子	第 9 回広島県臨床工学技士会	2017 年 5 月 28 日	広島市

## 学会発表

内視鏡洗浄機での消毒液濃度測定方法の改善	藤田雄樹	第9回広島県臨床工学士会	2017年5月28日	広島市
在宅での人工呼吸管理の現状と課題、退院支援	平野恵子	第39回日本呼吸療法学会	2017年7月15～16日	東京
バイポーラ方式とモノポーラ方式の深達度の違い～模擬試験における焼灼深度の測定～	藤田雄樹	第79回日本消化器内視鏡技師学会	2017年10月13～14日	福岡県
志～あふれる思い 伝えたい心～	荒田晋二	第7回中四国臨床工学士会	2017年11月25～26日	山口県
ECMO 管理におけるピットホール～第59日目に人工肺の破損による大出血～	荒田晋二	第45回日本集中治療医学会学術集会	2018年2月21～23日	千葉県

## リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
重症下肢虚血患者における下肢機能と生命予後に関する検討	本間智明 小林 平 村上嘉章 小島輝久 西谷喜子	第9回日本下肢救済・足病学会学術集会	2017年5月26～27日	福岡
重症下肢虚血患者における下肢機能と予後に関する検討	本間智明 小林 平 村上嘉章 小島輝久 西谷喜子	第23回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2017年7月15～16日	岐阜
家族支援を中心に介入した若年脳腫瘍終末期患者の一例	後藤優佳 上田雅美 宮根 舞 黒木一彦	第20回日本臨床脳神経外科学会	2017年7月15日	広島
2型糖尿病教育入院患者に対するレジスタンス運動指導の効果	井場和敏 村上嘉章 中元美恵 石田和史	日本糖尿病学会中国四国地方会第55回総会	2017年11月10～11日	岡山市
PAD患者の生命予後を規定する因子はなにか	本間智明 小林 平 村上嘉章 河野裕美 小島輝久 高桑 翼 竹廣 舞	第3回日本心臓リハビリテーション学会中国地方会	2018年2月17日	広島
開心術後、気管切開患者が自宅退院するまでの言語聴覚士の関わり	竹廣 舞 上田雅美 後藤優佳 中谷すずか 本間智明 高桑 翼 小島輝久 河野裕美 村上嘉章 小林 平	第3回日本心臓リハビリテーション学会中国地方会	2018年2月17日	広島
CKD維持期運動療法は腎機能に効果を与えるのか	井場和敏 村上嘉章 小林 平 前田和也 荒川哲次	第8回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	2018年3月17～18日	仙台市

## 栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
胃癌術後の退院後栄養指導による体重減少抑制効果についての検討	河本良美 上村真由美 杉山陽一	第21回日本病態栄養学会年次学術集会	2018年1月11～14日	京都
当院の「経管栄養に関する下痢対応マニュアル」～作成5年後のアンケート調査結果報告～	八幡謙吾 宮根 舞 橋詰菜津美 名井幸香 村田竜也 池田光泰 上田雅美 上村真由美 梶川佐知子 山崎貴司 中島恵子 河本良美 松下理恵 藤本七津美 香山茂平	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2018年2月22～23日	横浜

## 感染防止対策室 (ICT)

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
広島県内 CNIC が実践する医療関連感染サーベイランスの状況報告	今本紀生	第6回日本感染管理ネットワーク学会学術集会	2017年5月19～20日	函館市

## 学会での座長

### 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第60回日本糖尿病学会年次学術集会	石田和史	神経障害5	2017年5月19日	名古屋市
第55回日本糖尿病学会中国四国地方会第54回総会	石田和史	1型糖尿病③	2017年11月10日	岡山市

### 消化器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第108回日本消化器病学会中国支部例会	兵庫秀幸	ワークショップ「生活習慣病と消化器疾患」	2017年11月25日	宇部市
第42回日本肝臓学会西部会	兵庫秀幸	NAFLD/NASH3	2017年12月1日	福岡市

### 外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第14回中国四国ヘルニア手術研究会	田崎達也	一般演題	2017年7月1日	広島市
第30回日本内視鏡外科学会総会	田崎達也	ePoster	2017年12月7～9日	京都市

### 心臓血管外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第45回日本血管外科学会	小澤優道	ポスター29(下肢動脈)	2017年4月19日	広島県
第45回日本血管外科学会	小林平	一般口演24	2017年4月21日	広島県
第3回日本心臓リハビリテーション学会中国地方会	小林平	一般演題 周術期リハ・予後因子	2018年2月17日	広島県

### 救急・集中治療科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本呼吸療法医学会学術集会	櫻谷正明	HFOVフォーラム	2017年7月17～18日	京都

### 健康管理センター

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
日本農村医学会学術総会	碓井裕史	臨床検査	2017年11月5日	沖縄県

### 中央放射線科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第45回日本放射線技術学会秋季学術大会	山口裕之	撮影(CT) 冠動脈・血流評価	2017年10月19日	広島市
第45回日本放射線技術学会秋季学術大会	小濱千幸	撮影(MMG)	2017年10月19日	広島市

### 臨床工学科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第9回広島県臨床工学技士会	荒田晋二	人工心臓・循環器	2017年5月28日	広島市
第9回広島県臨床工学技士会	平野恵子	企業で活躍する臨床工学技士	2017年5月28日	広島市

## 研究会講演・発表

## 循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
動脈硬化予防治療セミナー in 広島	指定コメント「循環器科の立場から」	辻山修司	2017年6月1日 ホテルグランピア	興和創薬
佐伯地区医師会学術講演会	心房細動よもやまばなし	辻山修司	2017年11月21日 佐伯地区医師会館	第一三共
Lscrosse NSE Workshop	PCI デモンストレーション	辻山修司	2017年12月4日 広島総合病院心カテ室	グッドマン

## 腎臓内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
佐伯地区医師会学術講演会	多発性嚢胞腎（ADPKD）の病態と治療	荒川哲次	2017年4月7日 佐伯地区医師会館	佐伯地区医師会・佐伯地区内科会

## 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Changing Diabetes in Takamatsu	ライゾデグ、その特徴と可能性を探る	石田和史	2017年4月7日 シンボルタワー（香川県高松市）	ノボノルディスクファーマ
第27回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」が提唱されたことを踏まえて	石田和史	2017年4月12日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ロッシュ DC ジャパン
2017 糖尿病治療 Up To Date in 島根	ライゾデグ、その特徴と可能性を探る	石田和史	2017年4月14日 ホテル一畑（島根県松江市）	ノボノルディスクファーマ
第28回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	使用経験から考える持続性 GLP-1 受容体作動薬の適応症例	三玉康幸	2017年8月9日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・アストラゼネカ
小倉地区インスリン療法学術講演会	患者さんの気持ちに寄り添うインスリン治療の提言～多彩なインスリン製剤を再考＆再興する～	石田和史	2017年8月18日 パークサイドビル（福岡県北九州市）	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
糖尿病重症化予防（フットケア）研修会	糖尿病の病態・生理と治療	石田和史	2017年8月25日 広島県看護協会（広島市中区）	広島県看護協会
広島プライマリーケアセミナー [激動する糖尿病治療に追いつく]	使いこなせていますか？さらに多彩となった経口血糖降下薬	石田和史	2017年9月7日 シェラトンホテル広島（広島市東区）	田辺三菱製薬
糖尿病スキルアップセミナー	患者さんの気持ちに寄り添うインスリン治療の提言～混合インスリン製剤を再考＆再興する～	石田和史	2017年9月15日 住友別子病院（愛媛県新居浜市）	日本イーライリリー
最前線糖尿病治療フォーラム	患者さんの気持ちに寄り添うインスリン治療の提言～混合インスリン製剤を再考＆再興する～	石田和史	2017年11月24日 川口総合文化センターリリア（埼玉県川口市）	日本イーライリリー・日本ベーリンガーインゲルハイム
第29回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	乳酸アシドーシスを生じたビッグナイド薬投与症例から学ぶこと	古森佑美	2017年12月13日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・興和創薬
第29回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	稀だが、時々遭遇する DPP-4 阻害薬の副作用	濱岡 彩	2017年12月13日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・興和創薬
第29回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	SGLT2 阻害薬の効果的な使用方法を探る	石田和史	2017年12月13日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・興和創薬
第16回広島循環器薬物治療研究会	さらに多彩になった経口血糖降下薬をどう使い分けるか？～実臨床の現場からの提言～	石田和史	2018年1月31日 広島市民病院（広島市中区）	広島循環器薬物治療研究会・広島県病院薬剤師会・トーアエイコー
第17回安佐 DM カンファレンス	電流知覚閾値検査（CPT）を用いた糖尿病神経障害の臨床～1万件を超えるデータから見えてきた実態と未来～	石田和史	2018年2月28日 ホテルグランヴィア広島（広島市南区）	安佐 DM カンファレンス・MSD

## 研究会講演・発表

## 消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
消化器懇話会スペシャル — 膵癌講演会 —	膵癌～早期診断の試み～	末廣洋介 藤本佳史 隅岡昭彦 村田 愛 野中裕広 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則 古土井明	2017年5月19日 廿日市市	大鵬薬品
第20回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	高齢者の IPMC の2例	村田 愛 末廣洋介 藤本佳史 隅岡昭彦 野中裕広 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則 古土井明	2017年6月28日 廿日市市	RGIDNet、佐伯地区医師会、第一三共、アストラゼネカ
佐伯地区医師会学術講演会	緩和ケアに於ける便秘治療	小松弘尚	2017年7月25日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、マイラン EPD 合同会社
第67回日本消化器画像診断研究会	膵内副膵に発生した Epidermoid cyst の1例	末廣洋介 藤本佳史 隅岡昭彦 村田 愛 野中裕広 古土井明 兵庫秀幸 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則 佐々木秀	2017年9月16日 札幌市	日本消化器画像診断研究会
第22回 PEG・在宅医療研究会学術集会	PEGENT2017における人工的水分栄養補給 (AHN) に関するアンケート調査	Wong Toh Yoon 米田かおり 徳毛宏則 有本之嗣	2017年9月23日 札幌市	PEG・在宅医療研究会
第28回佐伯医学会総会	超音波内視鏡下細径針吸引生検 (EUS-FNA) にて術前診断し得た男性発症の Solid-pseudopapillary neoplasm (膵SPN) の1例	竹原悠大 藤本佳史	2017年11月3日 廿日市市	佐伯地区医師会
第7回広島県中央脂質懇話会	当院における経口抗 HCV 療法の現状	相坂康之	2017年11月7日 東広島市	あすか製薬株式会社
OTSUKA Liver Forum 2017	肝疾患に於ける筋痙攣の実態調査	兵庫秀幸	2017年11月18日 東京	大塚製薬
第13回広島県消化器内視鏡技師研究会	疾病予防、アンチエイジングのための食材見直し	兵庫秀幸	2017年11月19日 広島市	広島県消化器内視鏡技師会
第5回広島肝臓疾患フォーラム	脂肪肝診断治療 Q and A	兵庫秀幸	2017年11月22日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、広島肝臓疾患フォーラム、第一三共、プリストルマイヤーズスクイブ
第5回広島肝臓疾患フォーラム	当院における肝生検の現況	野中裕広	2017年11月22日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、広島肝臓疾患フォーラム、第一三共、プリストルマイヤーズスクイブ
膵神経内分泌腫瘍カンファレンス in Hiroshima	pNET ケーススタディー	藤本佳史	2017年12月5日 広島市	ノバルティスファーマ、富士フィルム RI ファーマ
Clinical Lipid Seminar 2018	肝疾患と中性脂肪	兵庫秀幸	2018年2月2日 広島市	興和創薬株式会社
第22回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	肝疾患におけるこむら返りの実態	村田 愛 兵庫秀幸 野中裕広 末廣洋介 隅岡昭彦 藤本佳史 古土井明 相坂康之 小松弘尚 徳毛宏則	2018年2月28日 廿日市市	RGIDNet、佐伯地区医師会、第一三共、アストラゼネカ
循環器・消化器 Joint-Meeting in Saiki	消化管出血の現状	古土井明	2018年3月12日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、武田薬品、大塚製薬

## 外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第10回日本腹腔鏡下ヘルニア手術手技研究会	後期研修医執刀の TAPP 法手技	亀田靖子 田崎達也 田妻 昌 新原健介 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	2017年6月2日 東京都	

## 研究会講演・発表

第22回中国四国内視鏡外科研究会	巨大、非還納性鼠径ヘルニアに対する TAPP 法	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 亀田靖子 田妻 昌 新原健介 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	2017年9月8～9日 高知市	
第16回同門会研究報告会	当院での鼠径部ヘルニア手術と外科後期研修の現況	亀田靖子 田崎達也 田妻 昌 新原健介 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 上神慎之介 新宅谷隆太 宮下浩平 今村祐司 中光篤志	2017年10月14日 広島市	
第2回ラパヘルエキスパートミーティング	再発症例の Before/After	田崎達也	2017年10月14日 岡山市	メディコン
第3回ラパヘルエキスパートミーティング	IPOM 変法の是非	田崎達也	2018年3月10日 大阪市	Medtronic

## 乳腺外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島乳癌認定医・専門医育成研修会	乳腺専門医試験について	板垣友子	2018年3月6日 広島大学	第一三共
乳腺診断ブラザ	巨大乳房腫瘍を主訴に来院した Invasive Cystic Hypersecretory ductal carcinoma の一例	板垣友子	2018年3月31日 広島大学	なし

## 整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
USNH Yokosuka Emergency Medicine Symposium 2017	Case report: Amputated 4 fingers	Osami Suzuki	2017年6月16日 横須賀市	
USNH Yokosuka Emergency Medicine Symposium 2017	Microsurgery	Osami Suzuki	2017年6月16日 横須賀市	
広島市医師会産業医研修会	職場における腰痛対策について	山田清貴	2017年6月28日 広島市	
九州 MIST 研究会	骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP の治療成績 適応と限界について	山田清貴	2017年7月1日 福岡市	
整形外科痛みを語る会	高齢者腰椎変性側弯症に伴う腰痛の病態と低侵襲治療	中前稔生	2017年7月1日 尼崎市	
中国地区脊椎症例検討会	アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する percutaneous endoscopic discectomy (PED)	中前稔生	2017年9月2日 岡山	
中国地区脊椎症例検討会	硬膜外静脈拡張により頸髄症をきたした1例	丸山俊明	2017年9月2日 岡山	
興生メディカルフェスティバル 里仁祭 2017	腰痛に対する低侵襲手術	藤本吉範	2017年9月3日 三原市	
日本整形外科スポーツ医学会	アスリートの腰椎椎間板ヘルニアに対する percutaneous endoscopic discectomy (PED) の治療成績	中前稔生	2017年9月8日 宮崎	
北海道 MISTs 研究会	椎体不安定性を伴う骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術	中前稔生	2017年10月7日 北海道	
第60回広島脊椎・脊髄セミナー	高度な脊柱後側弯変形を呈した小児軟骨無形成症の1例	丸山俊明	2017年10月7日 広島市	
第60回広島脊椎・脊髄セミナー	特発性脊柱側弯症に対する後方矯正固定術の治療成績	山田清貴	2017年10月7日 広島市	
第60回広島脊椎・脊髄セミナー	中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折の臨床的特徴と経皮的後弯矯正術	平松 武	2017年10月7日 広島市	
第60回広島脊椎・脊髄セミナー	高度な脊柱後側弯変形を呈した小児軟骨無形成症の1例	丸山俊明	2017年10月7日 広島市	
中四国 MIST 研究会	神経症状を伴う中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折の特徴と経皮的後弯矯正術の治療成績	平松 武	2017年10月21日 広島	



## 研究会講演・発表

佐伯地区医師会学術講演会	広島県西部地区における関節リウマチ診療	鈴木修身	2018年1月23日 廿日市市	田辺三菱製薬株式会社
広島県臨床放射線技師会 2017年度第3回研修会	骨粗しょう症性椎体骨折の予防と治療	山田清貴	2018年1月13日 広島市	
骨粗鬆症椎体骨折におけるBKP治療を考える会 in 沖縄	骨粗鬆症性椎体骨折に対するBKPの至適介入	山田清貴	2018年1月20日 沖縄市	
第29回広島スポーツ医学研究会	スポーツ選手の腰椎椎間板ヘルニアに対する経皮的内視鏡下椎間板摘出術	丸山俊明	2018年2月3日 広島市	
第61回広島脊椎・脊髄セミナー	骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術の治療成績	山田清貴	2018年3月24日 広島市	
第61回広島脊椎・脊髄セミナー	神経根症を伴う中下位腰椎の骨粗鬆症性椎体骨折の特徴と経皮的後弯矯正術の治療成績	平松 武	2018年3月24日 広島市	

## 形成外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第64回西中国形成外科研究会	臍部子宮内膜症の1例	長谷川美紗	2017年7月16日 広島市中区	木村得尚（広島市民病院形成外科）

## 呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島西医療圏訪問看護推進協議会総会	見逃されやすい COPD（慢性閉塞性肺疾患）の基礎知識	渡 正伸	2017年6月10日 JA 広島総合病院	広島西医療圏訪問看護推進協議会
広島県西部地区薬剤師研修会	院内全術前患者を対象とした COPD スクリーニング	渡 正伸	2017年8月24日 廿日市市あいプラザ	広島県西部地区薬剤師会
第16回同門会研究報告会	術前肺機能外来の実績と術後合併症の低減	渡 正伸	2017年10月14日 広島県医師会	第一外科同門会

## 心臓血管外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第25回広島県北部腎不全研究会	PAD治療の最前線—予防と腎臓リハビリテーション、最新治療を含めて	小林 平	2017年5月30日 三次市	協和発酵キリン株式会社
第59回広島循環器病研究会	当院における重症下肢虚血患者に対する Distal bypass の治療成績	小林 平	2017年6月10日 広島市	広島循環器病研究会
長崎病院講演会	PAD治療の最前線—臨床検査の pitfall—	小林 平	2017年7月28日 広島市	
第20回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	静脈グラフトの弁は切除する必要があるのか？—倉敷中央病院を卒業して9年でわかったこと—未だにわからないこと—	小林 平	2017年11月1日 岡山県	倉敷心臓疾患最先端治療研究会、日本メドトロニック株式会社
Angioderma の会	CLI（重症下肢虚血）の虚血肢潰瘍に対する外科的治療の現状と問題点	小林 平	2017年11月7日 広島市	田辺三菱製薬株式会社
	左心耳の“耳”よりなお話～形態と塞栓症の関連、閉鎖術を含めて～	濱本正樹	2017年11月10日	廿日市市 佐伯地区医師会・アステラス製薬株式会社
第60回広島循環器病研究会	二次性大動脈十二指腸瘻の1救命例	海氣勇気	2017年12月16日 広島市	広島循環器病研究会、エーザイ株式会社
第8回備後 PAD ネットワーク研究会	PAD治療の最前線—予防と腎臓リハビリテーション、最新治療を含めて—	小林 平	2018年2月 福山市	協和発酵キリン株式会社
Z conference —広島—	Zenith α Thoracic を使用した TEVAR 症例	小澤優道	2018年2月24日 広島市	Cook medical

## 研究会講演・発表

## 画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 258 回広島放射線診断カンファレンス	Y グラフト後人工血管感染・十二指腸穿孔の一例	田中友理佳	2017年4月6日 広島大学	
第 263 回広島放射線診断カンファレンス	盲腸軸捻転症の一例	竹原悠大	2017年6月1日 広島大学	
第 275 回広島放射線診断カンファレンス	橋中心髄鞘崩壊症の1例	小西宏奈	2017年10月5日 広島大学	
第 275 回広島放射線診断カンファレンス	これって肺炎？画像から鑑別可能？	西原礼介	2017年10月5日 広島大学	
第 282 回広島放射線診断カンファレンス	臍リンパ上皮嚢胞の1例	高橋佑輔	2017年12月7日 広島大学	
第 295 回広島放射線診断カンファレンス	腸管子宮内膜症の1例	石橋一樹	2018年2月8日 広島大学	

## 救急・集中治療科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
血液凝固とDICを究める おりづるサマーセミナー	血液凝固検査：ベーシック2	櫻谷正明	2017年7月8日 広島市	旭化成
日本呼吸療法医学会セミナー ADVANCED コース	ARDS 診療ガイドライン 第3版の概説	櫻谷正明	2017年9月16日 京都市	日本呼吸療法医学会
呼吸療法セミナーII～呼吸療法を学ぼう、応用編	急性期の鎮静・鎮痛管理	櫻谷正明	2017年10月28日 名古屋市	愛知県臨床工学技士会
第2回ナースのためのガイドライン講座	ARDS 診療ガイドライン	櫻谷正明	2017年10月21日 仙台市	日本集中治療医学会
広島県呼吸療法セミナー	集中治療医が考える呼吸管理	櫻谷正明	2018年2月4日 広島市	広島県臨床工学技士会
第2回 Okayama Young Intensivist Seminar	呼吸療法	櫻谷正明	2018年2月12日 岡山市	岡山大学医療教育統合開発センター GIM センター部門、岡山大学卒後臨床研修センター

## 健康管理センター

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
農村医学に関する調査研究報告会	血中 PCSK9 濃度と LDL -コレステロール値、冠動脈疾患との関連の検討	碓井裕史	2017年10月27日 札幌厚生病院（北海道）	

## 病理診断科・病理研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
病理細胞部門研修会 第4回「技」	インシデントレポート提出後の現状報告	永田郁子	2017年8月26～27日 広島赤十字・原爆病院	広島県臨床検査技師会

## 居宅介護支援事業所

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
在宅ケア学会	経口摂取量が低下した在宅療養者の意思決定に関する考察～ Jonsen の4分割法を使い倫理的観点から～	古本直子	2017年7月15～16日 札幌	

## 訪問看護ステーション

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
隣がん教室ワークショップ in 福岡	在宅で本人・家族の揺らぐ気持ちに寄り添う訪問看護師のケア	小田真基子	2018年2月14日 福岡	

## 研究会講演・発表

## 薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第1回医療安全研修会	患者誤認を考える～発生事案の振り返りと防止対策～	角井 碧	2017年5月25日 広島総合病院	
JSEPTIC 関西コース	ICUの業務で活かせる薬剤師に必要な循環の知識	吉廣尚大	2017年6月18日 大阪市立大学病院	JSEPTIC 薬剤師部会
第3回NST研修会	栄養輸液について	山崎貴司	2017年6月20日 広島総合病院	
血液凝固とDICを究めるおびづるセミナー	抗凝固薬のメカニズムと適応1	吉廣尚大	2017年7月8日 広島市おびづるタワー	ひろしま集中治療研究会／旭化成
第2回感染対策研修会	抗菌薬適正使用の考え方とアンチバイオグラム	正島和美	2017年7月11日 広島総合病院	
広島県西部地区薬剤師研修会	吸入指導時に薬剤師が心掛けていること～薬薬連携・職種間連携のために～	中島恵子	2017年8月24日 廿日市市総合健康福祉センター	広島県病院薬剤師会 廿日市市薬剤師会 Meiji Seika ファルマ
広島西部泌尿器科フォーラム	前立腺がん治療における薬剤師の役割	藪田ゆみ	2017年8月25日 広島サンプラザ	武田薬品
第2回認知症ケア研修会	せん妄になりやすい薬剤について	石津克紘	2017年8月25日 広島総合病院	
NPPVセミナー	鎮静ブースのインストラクション	吉廣尚大	2017年9月9日 広島県医師会館	コビディエン
第191回集合研修会	いつも心がけているノンテクニカルスキル	吉廣尚大	2017年9月13日 佐伯区民文化センター	廿日市薬剤師会？
2017年度広島県病院薬剤師会研究発表会	消化器外科病棟における Quality Indicator を用いた薬剤師の病棟業務内容に関する単施設後向き調査	岡野愛子	2017年10月14日 広島大学霞キャンパス	広島県病院薬剤師会
第42回広島感染症研究会	テイクプラニン初期投与設計に関する検討	角井 碧	2017年12月2日 チューリヒヒ東方 2001	広島感染症研究会／Meiji Seika ファルマ
第29回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	SGLT2 阻害薬の服薬指導への取り組み	井上沙緒里	2017年12月13日 廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会／広島県医師会糖尿病対策推進会議／興和創薬
第40回広島県農村医学研究会	ささえてあげたい～妊婦・授乳婦のための薬剤師の取り組み～	永田佳子	2018年2月17日 広島市 JA ビル	
45th 日本集中治療医学会年会のプレコングレス、ハンズオンセミナー	Be An Intensivist アシスタント	吉廣尚大	2018年2月20日 幕張メッセ	CCPAT、日本ICU学会
第26回厚生連病院薬剤師業務研究研修会	小児喘息の吸入指導における取り組み	實光智美	2018年2月24日 東京都市センターホテル	全国厚生連病院薬剤師長会議
Lung Cancer Meeting	がん薬物療法による種々の副作用に対する薬剤師の関わり	藪田ゆみ	2018年3月2日 広島総合病院	中外製薬
救急に従事する薬剤師のための初級セミナー	気道・呼吸	吉廣尚大	2018年3月3日 広島市民病院	日本臨床救急医学会
広島西部地区医療従事者研修会	薬剤師から見た自己免疫関連副作用(irAE)対策	白井敦史	2018年3月16日 広島総合病院	JA 広島総合病院／小野薬品／プリストルマイヤーズスクイブ
地域医療支援病院 地域医療従事者研修会	おくすりよろず相談～素朴なギモンにお答えします～	中島恵子	2018年3月22日 広島総合病院	
JSEPTIC 関西コース	薬剤師による感染のアセスメントとプランニング	吉廣尚大	2018年3月31日 大阪市立大学病院	JSEPTIC 薬剤師部会

## 中央放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第35回安芸 RI 倶楽部	当院の Dual Table ARG 法 検査の実際	貝原雄也	2017年4月27日 JR 広島鉄道病院	富士 RI ファーマ株式会社
第25回広島 GEMR ユーザーズミーティング	当院の急性期脳梗塞撮像の現状	本山貴志	2017年6月3日 広島市西区民文化センター	GEヘルスケア・ジャパン株式会社
第21回CTサミット	SYNAPSE VINCENT の使用経験	下土居一	2017年7月8日 JMS アステールプラザ	CTサミット(公社) 広島県診療放射線技師会他

## 研究会講演・発表

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー	当直で役立つ救急CTを学ぼう	山口裕之	2017年8月29日 JR広島鉄道病院	(公社)広島県診療放射線技師会
広島県MRI勉強会 基礎講座39	EOB プリモビスト～解剖から臨床例まで～	重田祐輔	2017年9月7日 県立広島病院	
第91回広島MR撮像技術研究会	3D-T2のシーケンスチャートと臨床	血田勝裕	2017年9月22日 井野口病院	広島MR撮像技術研究会 エーザイ株式会社
広島GEMRユーザーズミーティング 第47回初級者コース	脳腫瘍のMRI～どう撮る?当院における検査～	血田勝裕	2017年11月10日 広島市東区民文化センター	GEヘルスケア・ジャパン株式会社

## 臨床工学科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第14回中国地区消化器内視鏡技師研究会	内視鏡関連機器における保守管理	伊藤功一	2017年9月3日 鳥取県	
第13回広島県消化器内視鏡技師研究会	内視鏡的粘膜下層剥離術において皮膚抵抗が高く対極板エラーのため中止となった1症例を経験して	村上直己	2017年11月19日 広島市	
第11回広島人工呼吸療法セミナー	症例から考える人工呼吸管理	荒田晋二	2018年2月4日 広島市	
第18回岩国・広島西地区消化器疾患懇話会	対極板エラーのためESD延期となった一例	村上直己 伊藤功一 藤田雄樹 平舛仁美 松下理恵 徳毛宏則	2018年2月8日 大竹市	岩国・広島西地区消化器疾患懇話会、アストラゼネカ

## リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
(公社)広島県診療放射線技師会 市民公開講座	ロコモ予防で椎体骨折予防	井場和敏	2018年1月13日 エソール広島	(公社)広島県診療放射線技師会
生理検査総合管理部門合同研修会	下肢機能障害のリハビリテーションー歩行困難者の介助法も含めてー	本間智明	2018年1月27日 広島市民病院	広島県臨床検査技師会
生理検査総合管理部門合同研修会	当院における呼吸リハビリテーションの取り組みと症例紹介	飛鷹恵理	2018年1月27日 広島市民病院	広島県臨床検査技師会
第4回廿日市支部研修会	当院における心臓リハビリテーションの紹介	小島輝久	2018年2月23日 アマノリハビリテーション病院	広島県理学療法士協会

## 栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
北河内保健所管内病院栄養士会研修会	経管栄養の注意点とトラブルの対応～こんな時どうする???～	八幡謙吾	2017年4月28日 野崎徳州会病院	北河内保健所管内病院栄養士会
第2回糖尿病連携サークル 地域医療支援研修会	糖尿病地域連携パスにおける栄養士の関わり	河本良美	2017年5月30日 徳山中央病院	徳山中央病院、アストラゼネカ株式会社、小野薬品工業株式会社
第10回安佐地区胃瘻研究会	当院の経管栄養に関する下痢対応マニュアル～アンケート調査をもとに～	八幡謙吾	2017年6月3日 広島共立病院	主催：安佐地区胃瘻研究会 協力：ニュートリー株式会社・住友ベークライト株式会社
えんげ塾(摂食・嚥下障害看護専門コース基礎・応用編)	当院での栄養管理と嚥下スクリーニング	八幡謙吾	2018年1月17日 土谷総合病院	土谷総合病院
第13回広島ページェント	急性期病院での『経管栄養の下痢対応マニュアル』～職員アンケート結果と今後の展望～	八幡謙吾	2018年3月3日 広島県医師会館	広島胃瘻と経腸栄養療法研究会

# 研究会座長

## 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Insulin Conference in Hiroshima	石田和史	患者の将来を見据えた基礎インスリンの選択～効果とコストの両面から見たアプローチ～	川口市立医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科副部長 金澤康先生	2017年6月23日 ホテルグランヴィア 広島（広島市南区）	日本イーライリリー・日本ペーリン ガーインデルハイム
2017 糖尿病治療 Up To Date in 広島	石田和史	災害と糖尿病治療	陣内病院糖尿病センター理事 陣内秀昭先生	2017年6月27日 TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前 （広島市南区）	ノボノルディスク ファーマ
GLP-1RA Workshop – Research Potential –	石田和史	1) 当院における週1回 GLP-1RA デュラグルチド使用経験について 2) 使用経験から見えてきたデュラグルチドへの期待	1) 広島赤十字・原爆病院内分泌・代謝内科部長 亀井望先生 2) 三井記念病院糖尿病代謝内科部長 五十川陽洋先生	2017年8月3日 オリエンタルホテル 広島（広島市中区）	日本イーライリリー・大日本住友
低血糖フォーラム in 広島	石田和史	1) 重症低血糖を回避する～実臨床における現状とその対策～ 2) DKD (Diabetic kidney disease) ?? ～その血糖管理戦略～	1) 神戸市立医療センター中央市民病院糖尿病・内分泌内科医長 岩倉敏夫先生 2) 大阪市立大学大学院医学研究科講師 森克仁先生	2018年3月20日 TKP ガーデンシティ 広島駅前大橋（広島市南区）	大日本住友製薬

## 循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島動脈硬化を考える会	辻山修司	脂質異常症診療 up date	江草玄士	2017年11月14日 ANA クラウンプラザ ホテル	興和創薬
静脈血栓症を診る	辻山修司	静脈血栓症治療における初期強化療法のインパクト	小坂橋紀通	2018年1月30日 広島総合病院大会議室	バイエル薬品

## 消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
消化器懇話会スペシャルー 膵癌講演会ー	藤本佳史	膵がん化学療法～何を根拠にレジメンを選択するか？～	井岡達也	2017年5月19日 廿日市市	大鵬薬品
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	Fスケールを利用した逆流性食道炎の初期・維持療法	後藤康彦	2017年5月23日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、武田薬品、大塚製薬
第20回 Regional Interactive G. I. Doctors' Network	藤本佳史	膵癌早期診断の最前線	花田敬士	2017年6月28日 廿日市市	RGIDNet、佐伯地区医師会、第一三共、アストラゼネカ
第13回広島肝臓プロジェクト研究センターシンポジウム	兵庫秀幸	NASH セッション		2017年7月1日 広島市	広島肝臓プロジェクト研究センター
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	緩和ケアに於ける便秘治療	小松弘尚	2017年7月25日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、マイラン EPD 合同会社
体液管理学術講演会	徳毛宏則	肝硬変におけるトルバパタン使用の考察	相坂康之	2017年8月4日 廿日市市	佐伯地区医師会、大塚製薬株式会社
第1回西部地区薬物治療連携セミナー	徳毛宏則	高齢者薬物療法とポリファーマシー対策～医師と薬剤師の連携～	竹屋 泰	2017年9月1日 廿日市市	JA 広島総合病院、沢井製薬株式会社 佐伯地区医師会、佐伯地区内科会
第7回生活習慣病と肝疾患を考える平卒の会	兵庫秀幸	早い！痛くない！信頼できる NAFLD 診療	米田正人	2017年10月13日 福岡市	生活習慣病と肝疾患を考える平卒の会、EA ファーマ、エーザイ、日本医療戦略研究センター
医療安全・院内感染対策研修会	徳毛宏則	より良いコミュニケーションのために訴訟事例を題材に。麻疹の集団発生が見られています	日山 亨	2017年10月24日 廿日市市	佐伯地区医師会
第28回佐伯医学会総会	徳毛宏則	脳とこころの科学から見たうつ病の最新治療とワクワクする自動車づくり	山脇成人	2017年11月3日 廿日市市	佐伯地区医師会

## 研究会座長

広島西部地区消化管勉強会	小松弘尚	難治性 GERD の病態と治療～PPI が効かなかった場合に、どう対応されますか？～	眞部紀明	2017年11月6日 広島市	第一三共 アストラゼネカ
第13回広島県消化器内視鏡技師研究会	小松弘尚	内視鏡診療における抗血栓薬について	塩谷昭子	2017年11月19日 広島市	広島県消化器内視鏡技師会
第5回広島肝臓疾患フォーラム	相坂康之	脂肪肝診断治療 Q and A	兵庫秀幸	2017年11月22日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、広島肝臓疾患フォーラム、第一三共、プリストルマイヤーズスクイブ
第22回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	兵庫秀幸	肝硬変の併発症～上部消化管出血とPPI～	相坂康之	2018年2月28日 廿日市市	RGIDNet、佐伯地区医師会、第一三共、アストラゼネカ
第22回 Regional Interactive G.I. Doctors' Network	相坂康之	肝硬変の併発症～上部消化管出血とPPI～	兵庫秀幸	2018年2月28日 廿日市市	RGIDNet、佐伯地区医師会、第一三共、アストラゼネカ
循環器・消化器 Joint-Meeting in Saiki	徳毛宏則	消化管出血の現状	古土井明	2018年3月12日 廿日市市	佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、武田薬品、大塚製薬

## 脳神経外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区医師会講演会	黒木一彦	てんかん治療	飯田孝治	2018年2月27日 廿日市	
西部地区医師会講演会	黒木一彦	脳梗塞治療	西野繁樹	2018年3月6日 廿日市	

## 心臓血管外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第20回倉敷心臓疾患最先端治療研究会	小林 平	一般演題 第2部 (リハビリ)	理学療法士	2017年11月1日 岡山県	倉敷心臓疾患最先端治療研究会、日本メドトロニック株式会社
広島動脈硬化治療を考える会	小林 平	session 1	医師、臨床検査技士	2017年11月14日 広島市	興和創薬株式会社
第60回広島循環器病研究会	濱本正樹	一般演題セッション4 (外科系II)	循環器内科医師、心臓血管外科医師	2017年12月16日 広島市	広島循環器病研究会、エーザイ株式会社

## 産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医学会学術講演会	中西慶喜	子宮内膜症の薬物療法とトピックス	谷口文紀	2017年5月11日 広島サンプラザ	バイエル薬品株式会社
	中西慶喜	子宮腺筋症の最新の知見と治療	太田郁子	2017年6月1日 広島サンプラザ	持田製薬株式会社
	中西慶喜	骨盤臓器脱治療の最近のトレンド～TVMとLSCについて～	浅野耕助	2017年7月13日 広島サンプラザ	日本新薬株式会社

## 中央放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第26回広島 GEMR ユーザーズミーティング	本山貴志	講演1: MR 最新情報 講演2: MR 基礎講座「装置の構造、システムメカニズム」	講演1: 三浦功平、講演2: 高磯慶彦	2017年9月2日 広島市安佐南区文化センター	GEヘルスケア・ジャパン株式会社
第25回日本核医学技術セミナー	高畑 明	骨代謝の基礎	川崎大学教授: 曾根照喜	2018年3月10日 広島大学	日本核医学技術学会 実行委員長

## 感染防止対策室 (ICT)

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第14回ハクゾウ感染対策セミナー	今本紀生	災害時における感染対策	加来浩器	2017年4月15日 広島県医師会会館	ハクゾウメディカル
感染対策&がん薬物療法曝露対策セミナー	今本紀生	日本及び当院における針刺し損傷の現状ならびに対策	平松玉江	2017年9月16日 岡山市	ビーブラウンエースクラブ

## 地域活動

### 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第8回広島いちがたの会（コーディネーター）	石田和史	1型糖尿病患者&家族、糖尿病医療従事者	2017年6月24日 広島市文化交流会館（広島市中区）	広島県糖尿病協会・広島VOX・日本イーライリリー	182人
あいプラザまつり「はかります！血糖・筋肉量～元気な筋肉で糖尿病予防」	糖尿病診療に関わるスタッフ全員	一般市民	2017年11月5日 あいプラザ（広島県廿日市市）	廿日市市	119人

### 消化器内科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第65回ヘルスケアセミナー「すい臓とその病気について」	藤本佳史	一般市民	2017年4月28日 広島市	野村證券株式会社	約80人
第65回広島市身体障害者福祉大会講演会「脂肪肝？NASHって何？メタボって？」	徳毛宏則	一般市民	2017年7月9日 広島市	広島市身体障害者福祉団体連合会	約200人
安佐ロータリークラブ講演会「すい臓とその病気について」	藤本佳史	一般市民	2017年9月21日 広島市	広島安佐ロータリークラブ	約50人
パープルリボン2017 in 広島「膵がんの治療とは」	藤本佳史	一般市民	2017年12月10日 広島市	NPO法人パンキャンジャパン	約100人

### 小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
廿日市市保育研修会講演『食物アレルギーの最新情報と小児のアレルギーについて』	辻 徹郎	保育士	2017年11月1日～2日 廿日市市	廿日市市	300人
2017年度食物アレルギー研修会『小児の食物アレルギーについて』	辻 徹郎	栄養士	2017年12月20日 福山市	福山市	150人
2017年度食物アレルギー研修会『小児の食物アレルギー～集団生活における対応～』	辻 徹郎	保育所、幼稚園、小・中学校、行政等関係者	2018年3月27日 廿日市市	広島県西部保健所	200人

### 外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
JA 広島総合病院オープンホスピタル市民公開講座「鼠径ヘルニア（脱腸）ってなに？」	田崎達也	一般	2017年11月23日 JA 広島総合病院	JA 広島総合病院	50人

### 乳腺外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島乳がんアカデミア	大原正裕	一般市民	2017年10月15日 広島市	NPO法人まちなかピンクリボンプロジェクト	500人

### 形成外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第3回きらら乳房再建講演会	長谷川美紗	乳がん患者関係者	2017年9月2日 あいプラザ	認定NPO法人乳がん患者友の会きらら	
医学生、研修医等をサポートするための会	長谷川美紗	医学生、研修医	2017年11月6日 広仁会館 大会議室	広島県医師会	

### 脳神経外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第27回脳神経看護教育セミナー	黒木一彦		2017年11月19日 JA 広島総合病院	日本脳神経看護研究学会 広島地方部会	

## 地域活動

## 呼吸器外科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
2017年度母子保健推進員(ママフレンド)研修会、タバコの有害性について	渡 正伸	母子保健推進員	2017年6月12～13日 あいプラザ	廿日市市健康推進課	10人
第15回市民公開講座、肺癌情報	渡 正伸	市民	2017年6月17日 さくらびあ	JA広総合病院、他	400人以上

## 健康管理センター

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
女性の冷え性について	増本順子	JA組合員	2017年4月14日 JA広島市	JA広島市 本店	120人
身体喜ぶ3つのいいこと	東千穂	JA組合員	2017年5月16日 JA佐伯中央 深江支店	JA佐伯中央 ふれあい課	28人
職員の健康管理	林 直子	企業職員	2017年5月17日 広島市内	株式会社カープタクシー	43人
職員の健康管理	林 直子	企業職員	2017年5月18日 広島市内	株式会社カープタクシー	46人
高脂血症について	碓井裕史	年金受給者	2017年5月25日 ホテルセンチュリー 21 広島	JA広島中央会	80人
乳がんをもっと知ろう	杉本奈緒子	JA組合員	2017年7月27日 大野9区集会所	JA佐伯中央 ふれあい課	18人
広通研 聞こえない人と学ぶがん検診～こわくない、がん検診～	久保知子	一般、ろうあ者	2018年1月28日 あいプラザ	広島県手話通訳問題研究会	15人
健康管理の基礎知識	増本順子	JA組合員	2018年2月14日 JAビル	JA広島中央会	30人
健康に関すること	森川裕子	JA組合員	2018年3月6日 大野9区集会所	JA佐伯中央	33人

## 訪問看護ステーション

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島西医療圏訪問看護推進協議会事務局研修会の企画・開催・評価、訪問看護資源MAP作成	古本直子 奥元直美	広島西医療圏 訪問看護ス テーションの 職員、ケアマ ネジャー	2017年6月10日 JA広島総合病院 2017年11月17日 廿日市市商工保険会館 2018年2月17日 JA広島総合病院	広島西医療圏訪問看護推進協議会	48人 31人 47人

## 薬剤部

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
ICLS コース インストラクション	吉廣尚大	初期研修医、 看護師	2017年4月15日 JA広島総合病院	教育研修科	10人
FCCS 神戸 インストラクション	吉廣尚大	医療従事者	2017年4月29～30日 神戸市立医療センター	CCPAT	30人
FCCS 広島 インストラクション	吉廣尚大	医療従事者	2017年7月29～30日 広島大学病院	CCPAT	60人
大阪ノミネーション研修会 薬剤師が鎮静管理を行う上で知っておきたい基本的な知識	吉廣尚大	医療従事者	2017年8月19日 尼崎市	個人の研究会 尼崎医誠会 病院、安部先生	20人
FCCS 奈良 インストラクション	吉廣尚大	医療従事者	2017年10月7～8日 奈良県立医療センター	CCPAT	60人
JMECC コース アシスタント	吉廣尚大	内科医	2017年10月28日 JA広島総合病院	日本内科学会	3人
FCCS 鹿児島 インストラクション	吉廣尚大	医療従事者	2018年3月10～11日 鹿児島大学病院	CCPAT	60人



## 地域活動

### 中央放射線科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島国際大学臨床実習前講義	小濱千幸	学生	2018年4月12日 広島国際大学	広島国際大学	80人
広島国際大学臨床実習前講義	血田勝弘	学生	2017年4月18日 広島国際大学	広島国際大学	80人
広島国際大学臨床実習前講義	高畑 明	学生	2017年4月19日 広島国際大学	広島国際大学	80人
広島国際大学臨床実習前講義	貝原雄也	学生	2017年4月28日 広島国際大学	広島国際大学	80人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2017年5月13、15日 広島大学病院	(公社) 広島県診療放射線技師会	18人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2017年7月16、17日 広島県立障害者リハビリテーションセンター	(公社) 広島県診療放射線技師会	33人
レントゲン週間イベント	山口裕之	市民	2017年10月9日 シャレオ中央広場	(公社) 広島県診療放射線技師会	600人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2017年11月25、26日 広島大学病院	(公社) 広島県診療放射線技師会	48人
広島県診療放射線技師会 2017年度第3回研修会・市民公開講座	田丸隆行	市民	2018年1月13日 エソール広島	(公社) 広島県診療放射線技師会	100人
業務拡大に伴う統一講習会	山口裕之	診療放射線技師	2018年2月17、18日 福山市市民病院	(公社) 広島県診療放射線技師会	31人

### リハビリテーション科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
第2回心臓いきいき在宅支援施設認定講習会	小島輝久	医療・介護従事者	2018年2月15日 JA 広島総合病院	広島県心不全患者在宅支援体制構築事業	

### 栄養科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
広島県農林漁業団体退職者連盟 第44回総代会 健康講話「健康長寿の妙薬 ア・ブ・ラ～脂質異常症に挑む～」	西田美穂	JA 退職者連盟	2017年5月25日 ホテルセンチュリー 21 広島	JA 広島中央会総務部	80人
地域医療従事者研修会「食べる楽しみを長く続けるために～安全に食べるための工夫～」	上村真由美	地域医療従事者	2017年7月20日 JA 広島総合病院	地域医療連携室	38人
ちょっと一息医療とふくしの相談室「ミニ講座」	三浦満美子	廿日市市住民	2017年12月7日 佐方市民センター	廿日市市五師士会	23人
がんサロン 講師「今年一年どんな美味しい物を食べましたか」	河本良美	がん患者・医療従事者	2017年12月25日 地域連携室	地域医療連携室 がん相談支援センター	10人
第2回心臓いきいき在宅支援施設認定講習会	森田菜津美	地域医療従事者	2018年2月15日 JA 広島総合病院	広島県心不全患者在宅支援体制構築事業	82人

### 感染防止対策室 (ICT)

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
アマンリハビリテーション病院 施設研修(講演)	今本紀生	医療従事者	2017年6月29日 アマンリハビリテーション病院	アマンリハビリテーション病院	70人
山本整形外科病院 施設研修(講演)	今本紀生	医療従事者	2017年7月12日 山本整形外科病院	山本整形外科病院	100人
佐伯区医師会 MRM 講演会(講演)	今本紀生	医療従事者	2017年7月20日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	80人
尾道総合病院 施設研修(講演)	今本紀生	医療従事者	2017年8月8日 尾道総合病院	尾道総合病院	130人
広島グリーンヒル病院 施設研修(講演)	今本紀生	医療従事者	2017年8月30日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	80人

## 地域活動

中国地区内視鏡技師研究会（講演）	今本紀生	医療従事者	2017年9月3日 米子コンベンションセンター	中国地区内視鏡技師会	90人
感染管理研修（講演）	今本紀生	看護師	2017年9月8日 2017年9月14日 広島看護協会会館	広島看護協会	50人
山陽看護専門学校 非常勤講師	今本紀生	看護学生	2017年9月21日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人
阿品土谷病院 施設研修（講演）	今本紀生	医療従事者	2017年10月2日 阿品土谷病院	阿品土谷病院	50人
感染症予防研修（講演）	今本紀生	医療従事者	2017年10月16日 福 山市生涯学習プラザ 2017年10月31日 広 島県社会福祉会館	広島県社会福祉協議会	70人
喜生園 施設研修（講演）	今本紀生	医療従事者	2017年10月21日 喜生園	喜生園	40人
高齢者福祉施設職員等講習事業（講演）	今本紀生	医療従事者	2017年11月7日 広島県西部保健所	広島県西部保健所	40人
大野浦病院 施設研修（講演）	今本紀生	医療従事者	2017年11月28日 大野浦病院	大野浦病院	80人
佐伯区医師会 MRM 講演会（講演）	今本紀生	医療従事者	2018年1月18日 佐伯区地域福祉センター	佐伯区医師会	70人
廿日市市・大竹市消防 症例研究会（講演）	今本紀生	消防・救急隊員	2018年3月3日 大竹市消防本部	広島西圏域メディカルコントロール協議会	30人

## 雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

### 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
石田和史	ライゾデグ、その特徴と可能性を探る	Webセミナー（インターネット配信）	ノボノルディスクファーマ	2017年4月27日
石田和史	ライゾデグ、その特徴と可能性を探る	Webセミナー（インターネット配信）	ノボノルディスクファーマ	2017年11月30日

### 消化器内科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
兵庫秀幸	食欲の秋も食べ過ぎに注意 脂肪肝	J-Station カラダ健康塾	広島 HOME テレビ、活習慣病と肝疾患を考える平卒の会、EA ファーマ、エーザイ、日本医療戦略研究センター	2017年9月11日
相坂康之	新しい肝炎治療について	FM つかいち医療情報コーナー	佐伯地区医師会	2017年10月4日
藤本佳史	膵がんの話	ぽるぽる LIVE「あっちゃんのフライデーNo.1」	広島ホームテレビ、NPO 法人パンキャンジャパン	2017年12月8日
兵庫秀幸、野中裕広、徳毛宏則、茶山一彰	非アルコール性脂肪性肝疾患の拾い上げと長期マネジメントの重要性 “脂肪肝は見過ぎてはいけない”	広島県内科会誌 第18号	広島県内科会	2017年12月11～14日

### 外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
田崎達也	鼠径ヘルニア	西広島タイムズ	西広島タイムズ	2017年4月21日
田崎達也	鼠径ヘルニア	FM つかいち	FM つかいち	2017年10月11、18日

### 整形外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
中前稔生	Relationship between clinical symptoms of osteoporotic vertebral fracture with intravertebral cleft and radiographic findings	J Orthop Sci		2017年
山田清貴	腰部外傷 腰椎椎間板ヘルニア	メジカルビュー社		2017年

### 産婦人科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
中西慶喜	子宮頸がんについて	FM つかいち	佐伯地区医師会	2017年12月20日
中西慶喜	子宮体がんについて	FM つかいち	佐伯地区医師会	2017年12月27日

### 健康管理センター

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
尾茂田彩	花粉症対策を早めましょう	こいづみ	JA 広島市	2017年4月号
尾茂田彩	花粉症対策を早めましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年4月号
森川裕子	今こそはじめよう！ウォーキングでメタボ予防	こいづみ	JA 広島市	2017年5月号
森川裕子	今こそはじめよう！ウォーキングでメタボ予防	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年5月号
東 千穂	今日から始めるお口のケア習慣	こいづみ	JA 広島市	2017年6月号
東 千穂	今日から始めるお口のケア習慣	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年6月号
長田恵美子	熱中症に注意しましょう	こいづみ	JA 広島市	2017年7月号

## 雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

長田恵美子	熱中症に注意しましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年7月号
森川裕子	夏の食中毒に注意しよう	こいづみ	JA 広島市	2017年8月号
森川裕子	夏の食中毒に注意しよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年8月号
杉本奈緒子	乳がんをもっと知ろう	こいづみ	JA 広島市	2017年9月号
杉本奈緒子	乳がんをもっと知ろう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年9月号
東 千穂	スポーツのけがを防ごう	こいづみ	JA 広島市	2017年10月号
東 千穂	スポーツのけがを防ごう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年10月号
森川裕子	尿酸値に注意しましょう	こいづみ	JA 広島市	2017年11月号
森川裕子	尿酸値に注意しましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年11月号
碓井裕史	健診結果の見方	広報 はつかいち	廿日市市	2017年11月号
杉本奈緒子	もしもの時に備えよう 餅の窒息	こいづみ	JA 広島市	2017年12月号
杉本奈緒子	もしもの時に備えよう 餅の窒息	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2017年12月号
東 千穂	ぐっすり眠れていますか？	こいづみ	JA 広島市	2018年1月号
東 千穂	ぐっすり眠れていますか？	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年1月号
長田恵美子	スマホと上手に付き合おう	こいづみ	JA 広島市	2018年2月号
長田恵美子	スマホと上手に付き合おう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年2月号
森川裕子	花粉症の対策を知ろう	こいづみ	JA 広島市	2018年3月号
森川裕子	花粉症の対策を知ろう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2018年3月号

## 訪問看護ステーション

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
古本直子	訪問看護“泣き笑い”川柳	コミュニケア	日本看護協会出版会	2018.1 Vol20 No01

## 薬剤部

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
向井一樹	心臓リハビリテーション外来での薬剤師の取り組み	薬事日報		

# 合同カンファレンス

## 循環器内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
循環器科病診連携の会	藤井 隆	佐伯地区医師会・佐伯区医師会・大竹市医師会	2017年6月9日 広島総合病院大会議室	アステラス製薬

## 糖尿病代謝内科・糖尿病センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第27回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(112名)	2017年4月12日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・ロッシュ DC ジャパン
第28回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(95名)	2017年8月9日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・アストラゼネカ
第2回糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima	大久保雅通	広島県糖尿病診療に関わるコメディカル(53名)	2017年9月9日 広島市文化交流会館(広島市中区)	糖尿病療養支援スキルアップセミナーチーム in Hiroshima・日本イーライリリー・広島県医師会糖尿病対策推進会議
第29回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル(95名)	2017年12月13日 廿日市市商工保健会館(広島県廿日市市)	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・興和創薬

## 消化器内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第114回広島診療情報勉強会 徳毛宏則「消内略語 何が何やら…」	有吉澄江	医療スタッフ	2017年12月27日 廿日市市	広島診療情報勉強会

## 放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
(医師を対象にした) 緩和ケア講習会	伊東 淳 小松弘尚	医師	2017年6月4日・6月11日 広島総合病院	広島総合病院

## 健康管理センター

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
廿日市市健診判定委員会	碓井裕史	佐伯地区医師会医師 当院健康管理課	2017年7月31日・8月17日・ 10月17日・12月12日 JA 広島総合病院	

## 栄養科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第7回広島西地域連携研修会「栄養士の顔の見える交流会」	河本良美 磯部朋美 土井千代美 奥 悟	廿日市市・大竹市 栄養士	2017年6月24日 JA 広島総合病院	
第8回広島西地域連携研修会「栄養士の顔の見える交流会」	河本良美 磯部朋美 土井千代美 奥 悟	廿日市市・大竹市 栄養士	2017年10月14日 JA 広島総合病院	

## 感染防止対策室 (ICT)

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島総合病院・院内感染予防に関する地域連携合同カンファレンス	渡 正伸	連携施設 ICT (7施設)	2017年6月7日 2017年8月2日 2017年9月27日 2017年11月29日 広島総合病院	



## 華道部

### ■ クラブ概要

1980年より「池坊」渡辺洋子先生よりお稽古をつけていただいています。

また、2013年よりブリザードフラワーの作製を、今井直子先生より指導していただいています。

### ■ 活動内容

活動日：毎月第3月曜日

場 所：中棟3階 従業員休憩室

時 間：17:30より約1時間

お稽古代：1,500円+花材代1,000円



### ■ クラブアピール

いけばなは“生ける”と言われるように、草や木を単に花瓶に挿すのではなく、命のあるものとして生長している草木のもつ美しさを映し出すもの、という事を教わっています。わずかな傾きによって違ってきます。

色々生けてみんなで感想を言い合って、楽しくお稽古をしています。

年2回（夏期、冬期）の研修講座にも参加しています。

画像診断部受付、総合受付、応接室のお花も、私たちが生けています。

興味のある方は是非参加してみてください。



# 野球部

## ■ クラブ概要

- ・ 部員数：37名（男性31名 女性6名）
- ・ メンバー（職種）：  
 医師4名、看護師7名、薬剤師4名、管理栄養士1名、臨床検査技師9名、臨床工学技士2名、社会福祉士1名、事務8名、研修医1名

## ■ 活動内容

- ・ 練習場所：阿品台球場、宮園球場、昭北グラウンド等
- ・ 日時：不定期（月2回程度）



## ■ 2017年度実施行事等

- 5月：新入部員歓迎会
- 10月：広島県医師会ソフトボール大会
- 11月：交流試合（JA 佐伯中央）
- ※他に不定期で練習や対外試合あり



（2017年10月 広島県医師会ソフトボール大会）

## ■ クラブアピール

野球やソフトボール、懇親会を通じて、部員同士、近隣病院と親睦を深めています。メンバーも増加傾向で、定期練習や練習試合の充実を計画しています。未経験者も大歓迎で、応援だけでもかまいません。是非のぞきにきて、そして参加してみてください。同時に練習試合の相手も募集中ですので、ぜひ声をおかけください！



興味をもたれた方は、  
 お近くの野球部員もしくは  
 栄養科 八幡（PHS：5521）  
 薬剤部 埋橋（PHS：3064）  
 人事課 乃美（PHS：3814）  
 までご連絡ください！！





# テニス部

## ■ クラブ概要

- 部員数：26名
- メンバー（職種）：医師・薬剤師・看護師・  
社会福祉士・事務職など

## ■ 活動内容

- 練習場所：佐伯運動公園（佐伯区五日市町）
- 日時：水曜日 or 木曜日 19：00～21：00  
月2回ペース
- 時期：3月～11月  
冬は休部していますが、希望者がいれば不定期に活動します。

### ○試合

第33回広島県医療メイト杯

H29年8月27日（日）

毎年広島県全土より、医療従事者・家族が参加し、熱中症に注意しながら試合を行います。

今年も2チームエントリーしました。

### 【結果】

広島総合病院 A チーム 2位

広島総合病院 B チーム 5位

※順位決定は、直接対戦の結果による

Cブロック	ぎおん牛田	松本	JR広島	健康センター	広島総合	勝敗	順位
①	★	6-4 5-6 6-2	6-0 4-6 6-0	—	6-5 1-6 6-1	3-0	1
②	4-6 6-5 2-6	★	6-2 0-6 1-6	—	3-6 3-6 4-6	0-3	4
③	0-6 6-4 0-6	2-6 6-0 6-1	★	—	0-6 6-4 4-6	1-2	3
④	—	—	—	★	—	—	
⑤	5-6 6-1 1-6	6-3 6-3 6-4	6-0 4-6 6-4	—	★	2-1	2

Eブロック	県病院	土谷	広総B	尾道市民	三菱三原	勝敗	順位
①	★	6-4 2-6 6-0	6-3 5-6 6-1	3-6 6-2 6-1	6-5 2-6 6-0	4-0	1
②	4-6 6-2 0-6	★	3-6 6-2 6-0	2-6 6-2 1-6	2-6 2-6 0-6	1-3	4
③	3-6 6-5 1-6	6-3 2-6 0-6	★	2-6 1-6 0-6	2-6 0-6 0-6	0-4	5
④	6-3 2-6 1-6	6-2 2-6 6-1	6-2 6-1 6-0	★	6-4 3-6 6-1	3-1	2
⑤	5-6 6-2 0-6	6-2 6-2 6-0	6-2 6-0 6-0	4-6 6-3 1-6	★	2-2	3



(医療メイト終了後)

今年もみんな怪我なく無事終わりました。  
来年はもっと動けるよう、もっと上位にいけるよう日々鍛錬を…と、試合の後は思いました。

### ○交流会

医療メイト杯の打ち上げと歓送迎会、忘年会を行っています。

## ■ クラブアピール

錦織圭くんや大坂なおみさんのようになりたい方、テニスをしたことがないけどやってみみたい方、どんな方でも大歓迎です。男女問わずいつでも部員募集中です。隣近所の方をお誘いあわせの上、気軽に遊びにきて下さい。

楽しく体を動かしていい汗を流しましょう！

体験・見学でもOKです！

# ゴルフ部（伯友会）

## ■活動報告

伯友会は1970年に活動を開始しています。大変歴史の長いゴルフ同好会です。年に3回の定期コンペと前夜の親睦会と翌日のコンペを行う1泊2日の地御前オープンが年間定例活動です。他には地域の医師会、歯科医師や薬剤師ともゴルフコンペを通じて交流を図っています。

## ■2017年度の活動

### 第172回伯友会コンペ

2017年7月9日

アイランドゴルフガーデン美和 17名参加

優勝 北野 文朗（皮膚科）

準優勝 井場 和敏（リハビリ科）

3位 小深田義勝（泌尿器科）

4位 渡 正伸（呼吸器外科）

5位 橋本 貴士（整形外科）

### 第173回伯友会コンペ

2017年9月25日

チェリーゴルフクラブ吉和の森コース 12名参加

優勝 兼見 良典（OB、明海耳鼻科）

準優勝 小深田義勝（泌尿器科）

3位 池本 晃一（旭化成薬品）

4位 碓井 裕史（健康管理センター）

5位 藤解 邦夫（OB、とうげ外科）

### 第42回地御前オープン

2017年11月26日

瀬戸内ゴルフリゾート 7名参加

優勝 関口 善孝（OB、野村病院）

準優勝 兼見 良典（OB、明海耳鼻科）

3位 碓井 裕史（健康管理センター）

4位 渡 正伸（呼吸器外科）

5位 植田 進介（大鵬薬品）

### 第174回伯友会コンペ雨のため中止延期

2018年3月21日

広島西カントリークラブ

現地集合しましたが協議の上、中止と決定。

地域医師会行事参加（ゴルフ部門）

グリーン会コンペ（医師）

2017年5月7日 鷹の巣カントリー

碓井 裕史（健康管理センター）

小深田義勝（泌尿器科）

中光 篤志（外科）

渡 正伸（呼吸器外科）

熊田 高志（呼吸器外科）

宮本 俊輔（泌尿器科）

三師会コンペ（医師、歯科医師、薬剤師）

2017年11月23日 芸南カントリー

碓井 裕史（健康管理センター）

小深田義勝（泌尿器科）

中光 篤志（外科）

渡 正伸（呼吸器外科）

丸山 聡（泌尿器科）

熊田 高志（呼吸器外科）

院内のゴルフコンペに留まらず、地域の医師会関連のゴルフコンペにもゴルフの腕前など気にせず、積極的に参加して地域の医療関係者と交流しています。

うまくいかないけどゴルフにはまっている人、一緒に楽しみましょう。大歓迎です。

また女性や若くて経験の浅い職員の方々の参加も大歓迎です。一緒にスコアアップを目指しましょう!!

文責 渡 正伸（2017年度より担当）



# サッカー部



(試合後のさわやかな風景)

## ■クラブ概要

- ◆通称：広総ラツィオ
- ◆創設：19〇〇年
- ◆部員数：約15名
- ◆メンバー（職種）：  
医師、研修医、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、臨床工学技士、理学療法士、事務など

## ■活動内容・報告

- ◆練習  
毎月第2、第4木曜日 20：00～21：30  
場所：廿日市グリーンフィールド



(練習風景)

職員だけでは人数が足りないことがあるので、廿日市F.Cさん主催の練習に参加させていただく形で行っています。地域の方々と一緒に楽しんでいます。

## ■エンジョイエイトリーグ

- ◆廿日市サッカー協会が主体となって行われている社会人リーグに年間を通して参加しています。  
だんだん年齢が上がってきて体力的に厳しくなっていますが、一戦一戦楽しくやっています。

## ■クラブアピール

- ◆サッカーがやりたい方、運動がしたい方いつでも大歓迎ですので一緒に楽しみましょう。
- ◆来シーズンの試合に向けて、ユニフォームを新しいものにしました。



# フットサル部

## ■クラブ概要

- ・創立：2014年8月
- 代表：栄養科 八幡 謙吾
- 副代表：臨床工学科 藤田 雄樹
- 会計：臨床研究検査科 丸山 恭平
- ・部員数：参加したことある方全員が部員です。  
※部費は徴収していません。
- ・メンバー：  
医師、研修医、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師、事務など当院職員、委託職員、元職員、元委託職員、又はその家族

## ■活動内容

- ・定期練習：毎月1～2回 19：30～21：30  
活動場所：ミズノフットサルプラザ広島（観音）他  
参加費：1000～2000円  
(参加人数次第。女性は絶対1000円！)
- ・その他、不定期で近隣病院や医療機器メーカーさんのチームと交流戦も行っています。



(2017.04.26)



(2017.08.21)



(2017.08.30)

## ■クラブアピール

日々のストレスと運動不足解消、多職種間交流を目的とし、2014年8月より活動を開始しました。

フットサルは、サッカーと違って接触プレーが少ないため、女性も一緒にプレーしやすいのが特徴です。男女混合で楽しく行っています。

その他に、新年会や歓送迎会、夏にはBBQも開催しフットサル以外での交流も大切にしています。

毎年新メンバーも増えていますが、まだまだ募集中です。知り合いを増やして楽しく仕事をしましょう♪



たまに懐かしい人も来ます (2017.05.16)



やまと先生 結婚おめでとう！ (2017.10.28)



宮本先生 今までありがとう♥ (2018.03.06)

★楽しくボールを蹴りたい人、フットサル部に惹かれた人は藤田、丸山、八幡など写真に写っている人までお気軽にどうぞ！



# バスケットボール部

## ■クラブ概要

### ・部員（職種）

医師、臨床研修医、看護師、放射線技師、検査技師、社会福祉士、事務職員

### ・部員数：15名程度

## ■活動内容

・練習場所：阿品台中学校 体育館

・日時：毎週木曜日

・時間：19時30分～21時30分

## ■年間行事

4月：歓迎会

8月：レクリエーション

12月：忘年会

2月：病院対抗バスケットボール大会

3月：送別会

## ■クラブアピール

2012年度から活動を開始し、メンバーも医師、コメディカル、事務職員等幅広い職種で構成されています。発足当初は、「バスケがやりたい!」という経験者や「体を動かしたい!」、「何か運動がしたい!」という職員が集まり、今では十数人程で活動しています。活動内容は主に試合ですが、シュート練習やミニゲームなども行い、時には真剣に、時には笑いを交えながら活動を続けてきました。

毎年顔ぶれは変わりますが、バスケを通じてみんな仲良く、楽しい雰囲気で行っています。

また、多職種間での交流の場にもなっているため、自身が勤める職種以外の仕事内容の話ができ、病院でも職種間の隔たりを気にすることもなくなるので、仕事がとてもやりやすくなりました。本年度は、活動場所の体育館工事などもあり、活動ができた回数は少なくなりましたが、使用可能な体育館を探して、活動できるよう心がけています。



また、今年から、岡山で開催される「ホスピタルカップ」という病院対抗のバスケットボール大会に参加しています。東は東京から西は福岡まで、各都県でバスケ活動をしている40もの病院が参加し、2日間にわたって熱戦が繰り広げられました。しかもこの大会は、初心者の方も参加しやすい内容となっており、バスケ経験のある人もそうでない人も、楽しめる2日間となりました。大会の結果は2勝6敗でしたが、次回はさらに良い結果を残せるよう日々の練習に励んでいます。



現在も経験・未経験、男女問わず部員を募集しています。最近運動不足だからちょっと運動してみよう、体を動かしてストレスを発散しよう、ダイエットをしたい、なんていうきっかけからの参加・入部も大歓迎です。一緒にバスケットをしているうちに、きっとバスケットが好きになることは間違いありません。

バスケ以外の「交流会」という名の飲み会も年に数回ありますので、ぜひ一緒に楽しみましょう!

■ Annual Report 2017 2017年(平成29年)度 年報 ■

---

資 料

# 診療科別外来患者数

平成29年度 月別外来患者数 (4~7月)

科 別	4月 (診療日数 20日)				5月 (診療日数 20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,092	763	5,855	292.8	5,069	739	5,808	290.4
(呼吸器内科)	723	110	833	41.7	714	113	827	41.4
(循環器内科)	1,044	164	1,208	60.4	1,018	162	1,180	59.0
(腎臓内科)	659	61	720	36.0	688	48	736	36.8
(糖尿病内科)	1,164	101	1,265	63.3	1,165	81	1,246	62.3
(消化器内科)	1,413	306	1,719	86.0	1,398	300	1,698	84.9
(血液内科)								
(神経内科)	55	7	62	3.1	60	8	68	3.4
(緩和ケア科)	13	0	13	0.7	11	0	11	0.6
(総合診療科)	21	14	35	1.8	15	27	42	2.1
精神科・心療内科	33	11	44	2.2	27	8	35	1.8
小児科	692	137	829	41.5	680	118	798	39.9
外科	1,173	86	1,259	63.0	1,158	96	1,254	62.7
乳腺外科	557	48	605	30.3	562	43	605	30.3
整形外科	1,406	224	1,630	81.5	1,433	301	1,734	86.7
形成外科	228	27	255	12.8	279	24	303	15.2
脳神経外科	866	163	1,029	51.5	905	176	1,081	54.1
呼吸器外科	242	30	272	13.6	263	29	292	14.6
心臓・血管外科	449	60	509	25.5	471	46	517	25.9
皮膚科	1,278	197	1,475	73.8	1,429	248	1,677	83.9
泌尿器科	1,785	111	1,896	94.8	1,705	118	1,823	91.2
産婦人科	894	103	997	49.9	915	125	1,040	52.0
眼科	870	71	941	47.1	920	45	965	48.3
耳鼻咽喉科	592	206	798	39.9	582	210	792	39.6
放射線治療科	858	14	872	43.6	679	59	738	36.9
麻酔科	45	315	360	18.0	46	295	341	17.1
救急科	70	226	296	14.8	56	232	288	14.4
画像診断部	39	73	112	5.6	24	82	106	5.3
歯科口腔外科	667	143	810	40.5	660	152	812	40.6
計	17,836	3,008	20,844	1,042.2	17,863	3,146	21,009	1,050.5
栗谷診療所	51	0	51	2.6	47	0	47	2.4
合計	17,887	3,008	20,895	1,044.8	17,910	3,146	21,056	1,052.8

科 別	6月 (診療日数 22日)				7月 (診療日数 20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,420	852	6,272	285.1	5,173	812	5,985	299.3
(呼吸器内科)	724	137	861	39.1	735	146	881	44.1
(循環器内科)	1,101	179	1,280	58.2	1,066	178	1,244	62.2
(腎臓内科)	731	51	782	35.5	709	60	769	38.5
(糖尿病内科)	1,157	109	1,266	57.5	1,139	87	1,226	61.3
(消化器内科)	1,612	335	1,947	88.5	1,448	316	1,764	88.2
(血液内科)								
(神経内科)	55	10	65	3.0	37	7	44	2.2
(緩和ケア科)	24	0	24	1.1	21	0	21	1.1
(総合診療科)	16	31	47	2.1	18	18	36	1.8
精神科・心療内科	33	15	48	2.2	32	17	49	2.5
小児科	728	119	847	38.5	725	142	867	43.4
外科	1,286	105	1,391	63.2	1,113	94	1,207	60.4
乳腺外科	662	53	715	32.5	584	58	642	32.1
整形外科	1,682	284	1,966	89.4	1,457	237	1,694	84.7
形成外科	308	30	338	15.4	316	14	330	16.5
脳神経外科	1,097	212	1,309	59.5	1,017	164	1,181	59.1
呼吸器外科	306	45	351	16.0	235	33	268	13.4
心臓・血管外科	487	58	545	24.8	478	48	526	26.3
皮膚科	1,473	244	1,717	78.0	1,341	241	1,582	79.1
泌尿器科	2,004	112	2,116	96.2	1,682	118	1,800	90.0
産婦人科	1,086	134	1,220	55.5	1,064	120	1,184	59.2
眼科	904	49	953	43.3	916	47	963	48.2
耳鼻咽喉科	571	222	793	36.0	536	229	765	38.3
放射線治療科	861	24	885	40.2	767	27	794	39.7
麻酔科	59	334	393	17.9	52	297	349	17.5
救急科	57	165	222	10.1	57	277	334	16.7
画像診断部	28	84	112	5.1	33	75	108	5.4
歯科口腔外科	765	155	920	41.8	671	158	829	41.5
計	19,817	3,296	23,113	1,050.6	18,249	3,208	21,457	1,072.9
栗谷診療所	55	5	60	2.7	50	1	51	2.6
合計	19,872	3,301	23,173	1,053.3	18,299	3,209	21,508	1,075.4

## 平成29年度 月別外来患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数22日)				9月(診療日数20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,336	847	6,183	281.0	5,182	745	5,927	296.4
(呼吸器内科)	797	113	910	41.4	729	115	844	42.2
(循環器内科)	1,029	184	1,213	55.1	985	159	1,144	57.2
(腎臓内科)	638	56	694	31.5	689	36	725	36.3
(糖尿病内科)	1,266	103	1,369	62.2	1,154	90	1,244	62.2
(消化器内科)	1,504	364	1,868	84.9	1,544	326	1,870	93.5
(血液内科)								
(神経内科)	54	10	64	2.9	48	4	52	2.6
(緩和ケア科)	19	0	19	0.9	13	0	13	0.7
(総合診療科)	29	17	46	2.1	20	15	35	1.8
精神科・心療内科	25	13	38	1.7	19	8	27	1.4
小児科	892	137	1,029	46.8	716	100	816	40.8
外科	1,308	87	1,395	63.4	1,236	75	1,311	65.6
乳腺外科	638	65	703	32.0	657	57	714	35.7
整形外科	1,670	255	1,925	87.5	1,391	209	1,600	80.0
形成外科	240	26	266	12.1	272	28	300	15.0
脳神経外科	1,245	175	1,420	64.5	1,040	163	1,203	60.2
呼吸器外科	263	36	299	13.6	260	37	297	14.9
心臓・血管外科	419	36	455	20.7	550	44	594	29.7
皮膚科	1,441	256	1,697	77.1	1,277	223	1,500	75.0
泌尿器科	1,716	126	1,842	83.7	1,816	107	1,923	96.2
産婦人科	1,174	155	1,329	60.4	1,125	131	1,256	62.8
眼科	942	52	994	45.2	845	76	921	46.1
耳鼻咽喉科	545	244	789	35.9	572	228	800	40.0
放射線治療科	696	58	754	34.3	748	23	771	38.6
麻酔科	42	328	370	16.8	50	290	340	17.0
救急科	74	248	322	14.6	72	194	266	13.3
画像診断部	40	75	115	5.2	33	78	111	5.6
歯科口腔外科	722	154	876	39.8	546	146	692	34.6
計	19,428	3,373	22,801	1,036.4	18,407	2,962	21,369	1,068.5
栗谷診療所	45	0	45	2.0	49	1	50	2.5
合計	19,473	3,373	22,846	1,038.5	18,456	2,963	21,419	1,071.0

科 別	10月(診療日数21日)				11月(診療日数20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,394	775	6,169	293.8	5,183	784	5,967	298.4
(呼吸器内科)	755	135	890	42.4	748	122	870	43.5
(循環器内科)	1,008	159	1,167	55.6	989	187	1,176	58.8
(腎臓内科)	669	51	720	34.3	663	54	717	35.9
(糖尿病内科)	1,243	89	1,332	63.4	1,109	86	1,195	59.8
(消化器内科)	1,614	309	1,923	91.6	1,597	304	1,901	95.1
(血液内科)								
(神経内科)	63	8	71	3.4	52	10	62	3.1
(緩和ケア科)	15	0	15	0.7	6	0	6	0.3
(総合診療科)	27	24	51	2.4	19	21	40	2.0
精神科・心療内科	20	15	35	1.7	25	7	32	1.6
小児科	749	106	855	40.7	730	131	861	43.1
外科	1,246	75	1,321	62.9	1,270	105	1,375	68.8
乳腺外科	731	56	787	37.5	642	58	700	35.0
整形外科	1,482	270	1,752	83.4	1,539	269	1,808	90.4
形成外科	253	34	287	13.7	268	36	304	15.2
脳神経外科	1,101	171	1,272	60.6	925	177	1,102	55.1
呼吸器外科	260	43	303	14.4	218	28	246	12.3
心臓・血管外科	555	47	602	28.7	457	36	493	24.7
皮膚科	1,315	220	1,535	73.1	1,268	193	1,461	73.1
泌尿器科	1,900	117	2,017	96.0	1,635	104	1,739	87.0
産婦人科	1,140	118	1,258	59.9	1,129	108	1,237	61.9
眼科	853	70	923	44.0	844	69	913	45.7
耳鼻咽喉科	543	217	760	36.2	581	198	779	39.0
放射線治療科	765	59	824	39.2	741	22	763	38.2
麻酔科	53	287	340	16.2	49	293	342	17.1
救急科	40	197	237	11.3	49	198	247	12.4
画像診断部	35	70	105	5.0	29	83	112	5.6
歯科口腔外科	706	151	857	40.8	699	162	861	43.1
計	19,141	3,098	22,239	1,059.0	18,281	3,061	21,342	1,067.1
栗谷診療所	55	3	58	2.8	47	1	48	2.4
合計	19,196	3,101	22,297	1,061.8	18,328	3,062	21,390	1,069.5



## 平成29年度 月別外来患者数 (12～3月)

科 別	12月(診療日数21日)				1月(診療日数19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,382	779	6,161	293.4	4,789	753	5,542	291.7
(呼吸器内科)	795	116	911	43.4	701	121	822	43.3
(循環器内科)	1,065	192	1,257	59.9	918	162	1,080	56.8
(腎臓内科)	681	52	733	34.9	623	41	664	34.9
(糖尿病内科)	1,240	77	1,317	62.7	1,116	93	1,209	63.6
(消化器内科)	1,498	299	1,797	85.6	1,349	295	1,644	86.5
(血液内科)	61	10	71	3.4	42	6	48	2.5
(神経内科)	17	0	17	0.8	11	0	11	0.6
(緩和ケア科)	1	11	12	0.6	1	12	13	0.7
(総合診療科)	24	22	46	2.2	28	23	51	2.7
精神科・心療内科	16	8	24	1.1	18	9	27	1.4
小児科	849	110	959	45.7	686	129	815	42.9
外科	1,239	67	1,306	62.2	1,145	60	1,205	63.4
乳腺外科	681	77	758	36.1	585	42	627	33.0
整形外科	1,399	245	1,644	78.3	1,359	258	1,617	85.1
形成外科	253	49	302	14.4	265	27	292	15.4
脳神経外科	1,061	169	1,230	58.6	1,007	206	1,213	63.8
呼吸器外科	257	48	305	14.5	219	35	254	13.4
心臓・血管外科	546	42	588	28.0	492	39	531	27.9
皮膚科	1,205	190	1,395	66.4	1,194	170	1,364	71.8
泌尿器科	1,908	98	2,006	95.5	1,653	123	1,776	93.5
産婦人科	1,097	103	1,200	57.1	1,022	109	1,131	59.5
眼科	836	67	903	43.0	821	58	879	46.3
耳鼻咽喉科	531	249	780	37.1	489	185	674	35.5
放射線治療科	741	22	763	36.3	706	24	730	38.4
麻酔科	54	276	330	15.7	39	281	320	16.8
救急科	51	212	263	12.5	49	272	321	16.9
画像診断部	29	104	133	6.3	31	65	96	5.1
歯科口腔外科	700	184	884	42.1	661	140	801	42.2
計	18,835	3,099	21,934	1,044.5	17,230	2,985	20,215	1,063.9
栗谷診療所	59	1	60	2.9	42	3	45	2.4
合計	18,894	3,100	21,994	1,047.3	17,272	2,988	20,260	1,066.3

科 別	2月(診療日数19日)				3月(診療日数21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	4,793	718	5,511	290.1	5,212	827	6,039	287.6
(呼吸器内科)	709	124	833	43.8	702	117	819	39.0
(循環器内科)	916	175	1,091	57.4	1,036	206	1,242	59.1
(腎臓内科)	594	53	647	34.1	645	42	687	32.7
(糖尿病内科)	1,109	100	1,209	63.6	1,238	133	1,371	65.3
(消化器内科)	1,371	234	1,605	84.5	1,489	291	1,780	84.8
(血液内科)	51	4	55	2.9	48	9	57	2.7
(神経内科)	18	0	18	0.9	15	0	15	0.7
(緩和ケア科)	5	5	10	0.5	5	7	12	0.6
(総合診療科)	20	23	43	2.3	34	22	56	2.7
精神科・心療内科	28	8	36	1.9	26	12	38	1.8
小児科	701	88	789	41.5	978	84	1,062	50.6
外科	1,150	82	1,232	64.8	1,276	77	1,353	64.4
乳腺外科	662	50	712	37.5	656	41	697	33.2
整形外科	1,354	229	1,583	83.3	1,507	232	1,739	82.8
形成外科	283	23	306	16.1	334	42	376	17.9
脳神経外科	1,048	173	1,221	64.3	1,073	177	1,250	59.5
呼吸器外科	231	30	261	13.7	265	41	306	14.6
心臓・血管外科	417	36	453	23.8	606	42	648	30.9
皮膚科	1,161	177	1,338	70.4	1,272	185	1,457	69.4
泌尿器科	1,637	100	1,737	91.4	1,948	118	2,066	98.4
産婦人科	994	121	1,115	58.7	1,088	112	1,200	57.1
眼科	762	77	839	44.2	871	85	956	45.5
耳鼻咽喉科	505	184	689	36.3	564	189	753	35.9
放射線治療科	795	19	814	42.8	896	23	919	43.8
麻酔科	56	311	367	19.3	58	307	365	17.4
救急科	58	211	269	14.2	76	248	324	15.4
画像診断部	26	70	96	5.1	21	85	106	5.0
歯科口腔外科	651	147	798	42.0	598	135	733	34.9
計	17,312	2,854	20,166	1,061.4	19,325	3,062	22,387	1,066.0
栗谷診療所	47	2	49	2.6	46	0	46	2.2
合計	17,359	2,856	20,215	1,063.9	19,371	3,062	22,433	1,068.2

## 診療科別入院患者数

平成 29 年度 月別入院患者数 (4~7月)

科 別	4月 (診療日数 30日)				5月 (診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	278	332	4,515	150.5	291	331	3,997	128.9
(呼吸器内科)	48	64	1,095	36.5	59	69	945	30.5
(循環器内科)	60	71	1,066	35.5	66	82	919	29.6
(腎臓内科)	14	15	366	12.2	19	19	395	12.7
(糖尿病内科)	12	15	166	5.5	8	10	117	3.8
(消化器内科)	143	165	1,800	60.0	137	148	1,587	51.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	2	22	0.7	2	3	34	1.1
(血液内科)								
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	53	55	253	8.4	36	38	245	7.9
外 科	108	96	1,547	51.6	97	117	1,826	58.9
乳 腺 外 科	18	19	111	3.7	21	21	95	3.1
整 形 外 科	118	130	1,661	55.4	121	145	1,562	50.4
形 成 外 科	6	7	38	1.3	7	7	53	1.7
脳 神 経 外 科	45	53	1,058	35.3	48	71	1,207	38.9
呼 吸 器 外 科	23	26	436	14.5	22	28	439	14.2
心 臓 ・ 血 管 外 科	31	35	1,166	38.9	31	36	1,142	36.8
皮 膚 科	13	18	229	7.6	16	16	233	7.5
泌 尿 器 科	80	85	601	20.0	67	69	623	20.1
産 婦 人 科	83	83	735	24.5	77	81	663	21.4
眼 科	50	55	142	4.7	43	38	98	3.2
耳 鼻 咽 喉 科	32	41	339	11.3	30	36	273	8.8
放 射 線 治 療 科	3	4	116	3.9	6	3	172	5.5
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	149	48	325	10.8	182	59	359	11.6
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	7	12	132	4.4	10	6	54	1.7
合 計	1,097	1,099	13,404	446.8	1,105	1,102	13,041	420.7

科 別	6月 (診療日数 30日)				7月 (診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	325	375	4,145	138.2	306	362	4,352	140.4
(呼吸器内科)	70	85	1,013	33.8	55	78	1,030	33.2
(循環器内科)	76	78	771	25.7	70	79	928	29.9
(腎臓内科)	21	28	387	12.9	17	17	420	13.5
(糖尿病内科)	9	11	118	3.9	14	13	197	6.4
(消化器内科)	149	170	1,854	61.8	147	174	1,721	55.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	3	2	0.1	3	1	56	1.8
(血液内科)								
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	52	51	254	8.5	59	58	299	9.6
外 科	109	115	1,503	50.1	119	127	1,708	55.1
乳 腺 外 科	23	22	114	3.8	20	20	129	4.2
整 形 外 科	116	127	1,409	47.0	124	143	1,505	48.5
形 成 外 科	6	6	30	1.0	5	4	76	2.5
脳 神 経 外 科	43	53	926	30.9	53	48	1,141	36.8
呼 吸 器 外 科	21	25	487	16.2	25	20	516	16.6
心 臓 ・ 血 管 外 科	41	47	1,071	35.7	36	40	1,013	32.7
皮 膚 科	23	22	208	6.9	20	25	221	7.1
泌 尿 器 科	76	85	575	19.2	71	76	719	23.2
産 婦 人 科	102	94	779	26.0	94	101	919	29.6
眼 科	51	53	157	5.2	33	33	89	2.9
耳 鼻 咽 喉 科	38	35	274	9.1	29	37	245	7.9
放 射 線 治 療 科	8	6	253	8.4	6	7	298	9.6
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	143	44	365	12.2	161	64	447	14.4
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	9	12	101	3.4	7	7	59	1.9
合 計	1,186	1,172	12,651	421.7	1,168	1,172	13,736	443.1

## 平成 29 年度 月別入院患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数 31日)				9月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	291	334	4,090	131.9	280	343	4,042	134.7
(呼吸器内科)	34	57	696	22.5	49	49	730	24.3
(循環器内科)	69	75	827	26.7	53	67	708	23.6
(腎臓内科)	18	27	511	16.5	18	27	371	12.4
(糖尿病内科)	17	16	231	7.5	12	15	187	6.2
(消化器内科)	151	154	1,729	55.8	145	177	1,927	64.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	5	96	3.1	3	8	119	4.0
(血液内科)								
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	49	52	282	9.1	48	43	288	9.6
外 科	123	137	1,588	51.2	101	115	1,429	47.6
乳 腺 外 科	23	24	154	5.0	26	28	136	4.5
整 形 外 科	108	115	1,239	40.0	102	126	1,383	46.1
形 成 外 科	5	5	94	3.0	4	6	119	4.0
脳 神 経 外 科	55	72	1,215	39.2	40	58	924	30.8
呼 吸 器 外 科	21	30	481	15.5	14	25	448	14.9
心 臓 ・ 血 管 外 科	32	32	945	30.5	29	42	850	28.3
皮 膚 科	23	23	348	11.2	16	18	294	9.8
泌 尿 器 科	75	80	801	25.8	79	85	821	27.4
産 婦 人 科	96	99	752	24.3	92	88	742	24.7
眼 科	45	44	145	4.7	43	47	141	4.7
耳 鼻 咽 喉 科	42	44	311	10.0	40	40	306	10.2
放 射 線 治 療 科	6	10	151	4.9	7	5	217	7.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	189	78	443	14.3	162	67	357	11.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	6	38	1.2	7	9	61	2.0
合 計	1,191	1,185	13,077	421.8	1,090	1,145	12,558	418.6

科 別	10月(診療日数 31日)				11月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	291	338	4,249	137.1	276	323	3,727	124.2
(呼吸器内科)	53	70	940	30.3	40	52	756	25.2
(循環器内科)	65	71	678	21.9	71	65	727	24.2
(腎臓内科)	14	18	395	12.7	16	26	405	13.5
(糖尿病内科)	10	12	126	4.1	6	13	81	2.7
(消化器内科)	147	162	2,052	66.2	140	163	1,687	56.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	5	58	1.9	3	4	71	2.4
(血液内科)								
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	46	51	247	8.0	39	33	201	6.7
外 科	88	110	1,267	40.9	108	104	1,483	49.4
乳 腺 外 科	26	26	135	4.4	23	22	136	4.5
整 形 外 科	118	128	1,320	42.6	120	120	1,317	43.9
形 成 外 科	4	5	50	1.6	8	6	90	3.0
脳 神 経 外 科	36	52	945	30.5	43	42	897	29.9
呼 吸 器 外 科	23	16	446	14.4	25	31	540	18.0
心 臓 ・ 血 管 外 科	45	42	826	26.6	58	63	894	29.8
皮 膚 科	25	32	339	10.9	21	25	183	6.1
泌 尿 器 科	84	91	896	28.9	80	84	747	24.9
産 婦 人 科	98	93	893	28.8	87	87	762	25.4
眼 科	34	29	101	3.3	42	40	120	4.0
耳 鼻 咽 喉 科	39	37	318	10.3	48	48	363	12.1
放 射 線 治 療 科	3	7	177	5.7	9	6	175	5.8
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	174	63	468	15.1	179	76	509	17.0
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	8	5	60	1.9	13	14	109	3.6
合 計	1,142	1,125	12,737	410.9	1,179	1,124	12,253	408.4

## 平成 29 年度 月別入院患者数 (12~3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	270	356	3,997	128.9	316	315	4,778	154.1
(呼吸器内科)	49	73	789	25.5	58	61	1,008	32.5
(循環器内科)	58	78	782	25.2	82	73	923	29.8
(腎臓内科)	22	28	460	14.8	20	23	525	16.9
(糖尿病内科)	6	6	98	3.2	12	9	197	6.4
(消化器内科)	133	169	1,821	58.7	144	146	2,102	67.8
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	2	2	47	1.5	0	3	23	0.7
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	54	59	338	10.9	38	44	237	7.6
外 科	92	105	1,442	46.5	92	96	1,542	49.7
乳 腺 外 科	19	23	210	6.8	26	26	139	4.5
整 形 外 科	101	121	1,302	42.0	114	116	1,499	48.4
形 成 外 科	3	7	41	1.3	3	3	49	1.6
脳 神 経 外 科	51	58	890	28.7	52	47	1,155	37.3
呼 吸 器 外 科	22	33	486	15.7	27	22	455	14.7
心 臓 ・ 血 管 外 科	49	50	1,040	33.5	38	40	998	32.2
皮 膚 科	19	20	233	7.5	21	19	244	7.9
泌 尿 器 科	64	84	733	23.6	69	69	649	20.9
産 婦 人 科	97	109	1,029	33.2	77	84	784	25.3
眼 科	44	52	160	5.2	38	34	90	2.9
耳 鼻 咽 喉 科	43	48	450	14.5	38	37	393	12.7
放 射 線 治 療 科	5	7	190	6.1	7	6	172	5.5
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	175	75	505	16.3	188	77	577	18.6
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	14	16	143	4.6	6	4	43	1.4
合 計	1,122	1,223	13,189	425.5	1,150	1,039	13,804	445.3

科 別	2月(診療日数28日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	264	334	4,444	158.7	279	347	4,403	142.0
(呼吸器内科)	41	63	967	34.5	56	60	1,135	36.6
(循環器内科)	69	82	1,132	40.4	66	91	980	31.6
(腎臓内科)	20	27	493	17.6	25	30	520	16.8
(糖尿病内科)	15	21	277	9.9	10	15	197	6.4
(消化器内科)	118	141	1,556	55.6	121	149	1,541	49.7
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	1	0	19	0.7	1	2	30	1.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	36	33	186	6.6	63	57	318	10.3
外 科	103	110	1,332	47.6	91	107	1,285	41.5
乳 腺 外 科	27	26	153	5.5	27	27	156	5.0
整 形 外 科	111	130	1,396	49.9	109	135	1,425	46.0
形 成 外 科	5	6	39	1.4	8	8	81	2.6
脳 神 経 外 科	36	53	1,130	40.4	35	47	942	30.4
呼 吸 器 外 科	20	28	381	13.6	24	31	467	15.1
心 臓 ・ 血 管 外 科	27	28	879	31.4	38	41	1,150	37.1
皮 膚 科	14	15	204	7.3	16	21	287	9.3
泌 尿 器 科	74	74	575	20.5	82	81	837	27.0
産 婦 人 科	67	70	543	19.4	83	75	681	22.0
眼 科	42	39	136	4.9	42	49	138	4.5
耳 鼻 咽 喉 科	33	44	373	13.3	32	29	386	12.5
放 射 線 治 療 科	5	7	122	4.4	9	8	143	4.6
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	173	77	577	20.6	171	72	525	16.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	6	6	60	2.1	10	11	122	3.9
合 計	1,043	1,080	12,530	447.5	1,119	1,146	13,346	430.5

# 患者数の推移

## 年度別外来患者数

年 度	平成 26 年度 (診療日数 243 日)				平成 27 年度 (診療日数 244 日)				平成 28 年度 (診療日数 244 日)				平成 29 年度 (診療日数 245 日)			
	科 別	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計
内 科	59,301	8,058	67,359	276.1	59,942	8,715	68,657	281.4	60,873	8,584	69,457	284.7	62,025	9,394	71,419	291.5
精神科・心療内科	492	174	666	2.7	497	141	638	2.6	323	144	467	1.9	302	131	433	1.8
小 児 科	9,662	1,477	11,139	45.8	10,871	1,550	12,421	50.9	11,245	1,377	12,622	51.7	9,126	1,401	10,527	43.0
外科・乳腺外科	14,201	1,052	15,253	62.8	21,137	1,800	22,937	94.0	15,186	1,028	16,214	66.5	22,217	1,657	23,874	97.4
整 形 外 科	16,765	2,814	19,579	80.6	17,983	2,954	20,937	85.8	17,801	2,817	20,618	84.5	17,679	3,013	20,692	84.5
形 成 外 科	1,228	240	1,468	6.0	1,475	261	1,736	7.1	2,126	346	2,472	10.1	3,299	360	3,659	14.9
脳 神 経 外 科	14,291	2,110	16,401	67.5	11,465	2,018	13,483	55.3	12,537	2,032	14,569	59.7	12,385	2,126	14,511	59.2
呼 吸 器 外 科	2,230	479	2,709	11.1	2,523	417	2,940	12.0	2,881	408	3,289	13.5	3,019	435	3,454	14.1
心臓・血管外科	4,293	518	4,811	19.8	4,920	599	5,519	22.6	5,222	504	5,726	23.5	5,927	534	6,461	26.4
皮 膚 科	18,534	2,961	21,495	88.5	19,348	2,861	22,209	91.0	19,115	2,886	22,001	90.2	15,654	2,544	18,198	74.3
泌 尿 器 科	21,051	1,461	22,512	92.6	21,848	1,412	23,260	95.3	22,209	1,308	23,517	96.4	21,389	1,352	22,741	92.8
産 婦 人 科	13,615	1,692	15,307	63.0	13,465	1,738	15,203	62.3	12,940	1,465	14,405	59.0	12,728	1,439	14,167	57.8
眼 科	10,032	1,112	11,144	45.9	10,093	999	11,092	45.5	10,735	686	11,421	46.8	10,384	766	11,150	45.5
耳 鼻 咽 喉 科	7,883	2,648	10,531	43.3	7,165	2,792	9,957	40.8	6,650	2,593	9,243	37.9	6,611	2,561	9,172	37.4
放 射 線 治 療 科	8,265	347	8,612	35.4	8,591	256	8,847	36.3	8,999	304	9,303	38.1	9,253	374	9,627	39.3
麻 酔 科	1,092	3,600	4,692	19.3	688	3,759	4,447	18.2	569	3,773	4,342	17.8	603	3,614	4,217	17.2
救 急 科	673	1,983	2,656	10.9	691	2,347	3,038	12.5	758	2,513	3,271	13.4	709	2,680	3,389	13.8
画 像 診 断 部	104	1,327	1,431	5.9	345	1,053	1,398	5.7	367	924	1,291	5.3	368	944	1,312	5.4
歯 科 口 腔 外 科	6,233	1,791	8,024	33.0	7,343	1,833	9,176	37.6	7,769	1,859	9,628	39.5	8,046	1,827	9,873	40.3
計	214,574	36,426	251,000	1,032.9	220,390	37,505	257,895	1,056.9	225,158	36,229	261,387	1,071.3	221,724	37,152	258,876	1,056.6
栗 谷 診 療 所	677	24	701	2.9	682	22	704	2.9	685	21	706	2.9	593	17	610	2.5
合 計	215,251	36,450	251,701	1,035.8	221,072	37,527	258,599	1,059.8	225,843	36,250	262,093	1,074.2	222,317	37,169	259,486	1,059.1

## 年度別入院患者数

年 度	平成 26 年度 (診療日数 366 日)				平成 27 年度 (診療日数 366 日)				平成 28 年度 (診療日数 365 日)				平成 29 年度 (診療日数 365 日)			
	科 別	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計	1 日当	入院	退院	計
内 科	3,202	3,739	53,053	145.4	3,204	3,710	50,240	137.3	3,428	4,034	53,360	146.2	3,467	4,090	50,739	139.0
精神科・心療内科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	803	804	4,665	12.8	868	878	4,650	12.7	799	800	4,311	11.8	573	574	3,148	8.6
外科・乳腺外科	1,341	1,474	20,444	56.0	1,374	1,501	20,551	56.1	1,165	1,272	17,281	47.3	1,510	1,623	19,620	53.8
整 形 外 科	1,339	1,459	17,814	48.8	1,408	1,521	17,191	47.0	1,438	1,594	17,883	49.0	1,362	1,536	17,018	46.6
形 成 外 科	9	10	39	0.1	43	40	333	0.9	74	77	623	1.7	64	70	760	2.1
脳 神 経 外 科	568	686	15,863	43.5	629	748	15,423	42.1	673	793	13,992	38.3	537	654	12,430	34.1
呼 吸 器 外 科	235	250	4,534	12.4	272	307	5,870	16.0	276	298	5,130	14.1	267	315	5,582	15.3
心臓・血管外科	338	382	10,513	28.8	319	360	9,339	25.5	341	369	10,710	29.3	455	496	11,974	32.8
皮 膚 科	180	186	3,172	8.7	195	213	3,065	8.4	203	226	3,656	10.0	227	254	3,023	8.3
泌 尿 器 科	853	917	8,958	24.5	870	931	9,257	25.3	884	952	8,296	22.7	901	963	8,577	23.5
産 婦 人 科	1,206	1,220	10,281	28.2	1,205	1,207	10,767	29.4	1,090	1,104	8,794	24.1	1,053	1,064	9,282	25.4
眼 科	472	472	1,232	3.4	469	462	1,233	3.4	472	474	1,276	3.5	507	513	1,517	4.2
耳 鼻 咽 喉 科	461	478	4,887	13.4	492	509	5,343	14.6	448	489	4,121	11.3	444	476	4,031	11.0
放 射 線 治 療 科	50	55	2,155	5.9	44	49	1,668	4.6	51	59	1,949	5.3	74	76	2,186	6.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救 急 科	1,709	631	4,899	13.4	1,586	557	4,248	11.6	1,802	620	4,319	11.8	2,046	800	5,457	15.0
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 科 口 腔 外 科	136	138	1,576	4.3	108	107	1,577	4.3	124	123	1,411	3.9	105	108	982	2.7
合 計	12,902	12,901	164,085	449.5	13,086	13,100	160,755	439.2	13,480	13,502	158,735	434.9	13,592	13,612	156,326	428.3

# 平均在院日数

平成 29 年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科		16.7	14.9	13.6	14.5	14.8	14.8	15.6	14.1	14.5	16.7	17.2	16.2
小 児 科		4.7	6.8	4.9	5.4	5.7	6.4	5.2	5.6	6.1	5.8	5.4	5.5
外 科		18.0	19.3	15.4	16.3	13.8	14.2	14.9	15.8	16.5	17.7	13.5	15.1
整 形 外 科		13.7	12.2	11.8	11.5	11.4	12.2	10.8	11.2	12.4	13.7	12.1	11.5
形 成 外 科		5.8	7.6	5.0	16.9	18.8	26.2	11.1	13.7	8.2	10.8	6.2	10.1
脳 神 経 外 科		21.9	20.8	19.7	23.3	19.2	18.9	21.8	20.6	16.9	24.0	25.7	21.9
産 婦 人 科		10.6	10.5	9.7	10.5	8.8	9.4	11.6	11.0	11.8	11.2	9.9	10.1
皮 膚 科		14.8	14.6	9.2	9.8	15.4	17.6	11.9	8.1	11.2	11.5	11.6	16.0
泌 尿 器 科		11.3	11.7	11.3	12.8	13.6	13.4	14.4	12.2	14.0	12.9	11.0	14.1
眼 科		5.9	5.1	7.0	6.2	7.1	7.9	6.8	7.6	7.8	21.0	7.4	6.3
耳 鼻 咽 喉 科		9.3	8.3	7.5	7.5	7.3	7.8	8.4	7.6	10.0	10.2	9.1	12.7
歯 科 口 腔 外 科		13.9	6.8	9.6	8.4	5.4	7.6	9.2	8.1	9.5	7.1	9.8	11.6
救 急 科、麻 醉 科		3.3	2.9	3.7	4.2	3.5	3.3	4.0	4.0	4.0	4.5	4.6	4.5
放 射 線 治 療 科		35.0	40.3	36.8	45.8	18.9	38.2	35.4	23.3	31.7	26.5	20.3	16.8
画 像 診 断 部		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
呼 吸 器 外 科		18.0	21.2	21.3	21.7	17.8	21.8	21.6	18.5	17.6	18.6	15.7	15.5
心 臓 血 管 外 科		34.6	36.7	23.7	27.7	28.9	23.1	19.2	15.2	21.0	25.6	32.5	29.6
精 神 科・心 療 内 科		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計		13.9	13.4	12.2	13.0	12.3	12.6	12.6	11.9	12.6	14.0	13.3	13.2

平成 29 年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位：日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	4 F	9.3	9.1	8.5	9.1	8.1	8.9	10.6	9.2	10.7	9.4	8.9	9.3
	5 F	14.9	12.1	11.6	11.3	11.2	12.6	11.1	11.0	11.7	13.8	12.3	11.6
	6 F	18	20.6	16.2	18.0	13.3	14.5	14.5	15.5	15.6	16.7	14.4	14.7
	7 F	13.9	14.4	14.9	14.2	15.0	16.3	18.3	13.8	15.5	17.3	16.0	14.4
	8 F	20.8	15.7	15.8	17.0	15.3	14.7	17.9	18.1	16.0	19.6	18.9	18.8
	3 F	14.1	19.1	17.6	15.1	16.4	21.2	10.0	8.3	10.8	16.9	9.8	22.3
	救 命	2.6	3.2	3.4	3.2	2.9	3.4	2.9	3.4	3.7	3.4	2.9	2.7
東 病 棟	3 F	18.3	14.8	11.1	14.3	13.4	13.6	10.3	11.9	12.3	14.0	17.3	14.1
	4 F	6.3	6.8	6.4	6.1	6.2	6.4	6.7	6.9	7.5	8.4	7.8	8.3
	5 F	21.2	16.4	16.7	22.9	18	15	19.1	18.0	13.3	18.4	21.7	16.2
	6 F	11.2	11	9.8	11.4	13.1	12.9	11.6	9.4	11.8	10.4	9.5	12.6
	7 F	26.4	27.7	21.9	24.4	20.3	21.0	18.8	16.3	19.7	21.1	21.1	22.2
8 F	13.8	13.6	12.1	16	13.6	12.0	13.4	11.4	13.8	18.8	15.3	14.5	
計		13.9	13.4	12.2	13.0	12.3	12.6	12.6	11.9	12.6	14.0	13.3	13.2

資  
料

# 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

平成 29 年度  
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	84.5%
5月	83.7%
6月	90.9%
7月	87.1%
8月	85.8%
9月	79.2%
10月	89.9%
11月	90.0%
12月	87.6%
1月	88.9%
2月	89.6%
3月	89.7%
合 計	87.2%

平成 29 年度  
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

月別	逆紹介率
4月	89.3%
5月	80.0%
6月	80.9%
7月	77.7%
8月	82.8%
9月	84.4%
10月	83.5%
11月	83.3%
12月	90.1%
1月	92.7%
2月	97.3%
3月	100.2%
合 計	86.5%

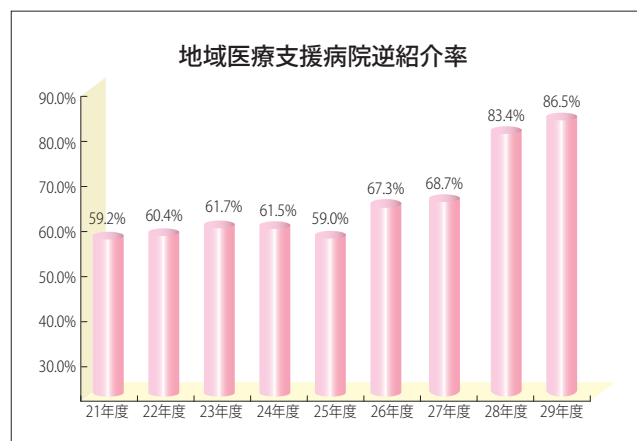
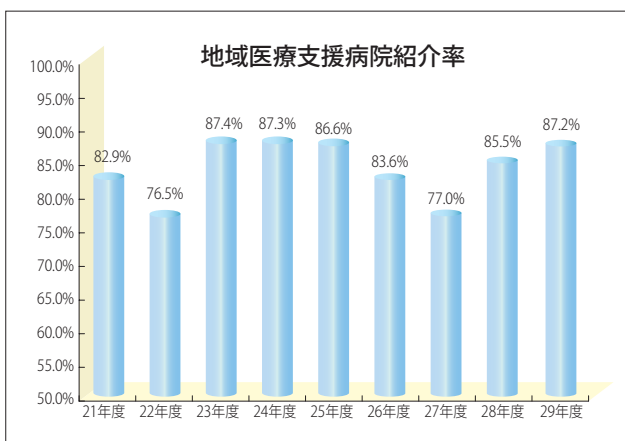
平成 29 年度  
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科別	紹介率
内 科	80.6%
小 児 科	60.1%
外 科	96.1%
整 形 外 科	101.1%
脳 神 経 外 科	74.7%
産 婦 人 科	80.3%
皮 膚 科	80.4%
泌 尿 器 科	80.9%
眼 科	99.2%
耳 鼻 咽 喉 科	89.4%
歯 科・口 腔 外 科	46.9%
救 急 科・麻 醉 科	132.7%
放 射 線 治 療 科	100.0%
画 像 診 断 部	98.7%
心 臓・血 管 外 科	89.1%
精 神 科・心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	50.7%
形 成 外 科	86.2%
合 計	87.2%

平成 29 年度  
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

科別	逆紹介率
内 科	156.6%
小 児 科	15.3%
外 科	132.1%
整 形 外 科	76.1%
脳 神 経 外 科	160.1%
産 婦 人 科	38.9%
皮 膚 科	15.1%
泌 尿 器 科	48.1%
眼 科	109.9%
耳 鼻 咽 喉 科	38.0%
歯 科・口 腔 外 科	63.8%
救 急 科・麻 醉 科	-671.1%
放 射 線 治 療 科	128.0%
画 像 診 断 部	128.3%
心 臓・血 管 外 科	141.6%
精 神 科・心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 外 科	75.1%
形 成 外 科	22.0%
合 計	86.5%

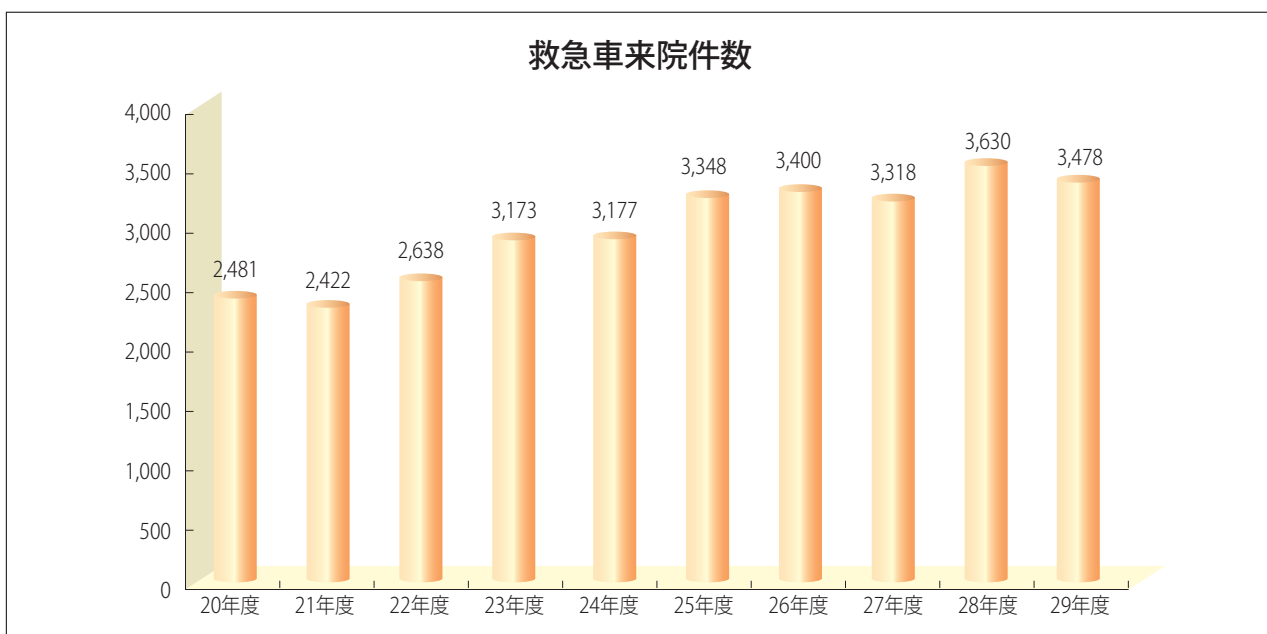
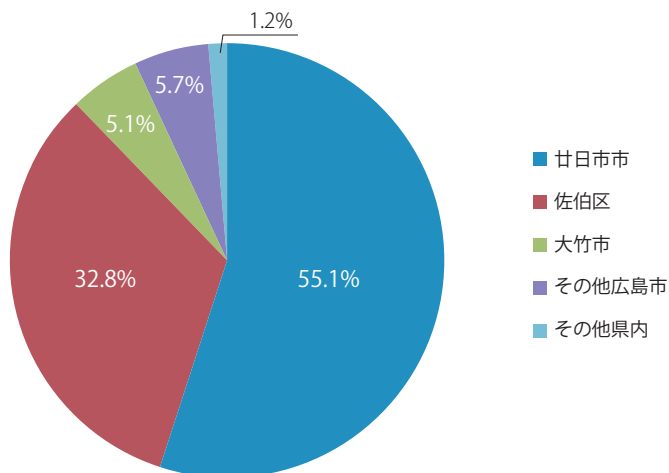
資 料



# 救急車来院件数

平成 29 年度  
救急車来院件数 (管轄別)

平成 29 年度	
廿日市市	1,918
佐伯区	1,142
大竹市	179
その他広島市	197
その他県内	42
合計	3,478



資料



# 医療行為統計表

平成 29 年度 医療行為統計表

【手術件数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	93	92	91	88	92	88	74	91	81	76	79	70	1,015
整形 外科	131	133	137	129	121	124	120	125	116	124	123	111	1,494
形成 外科	16	16	17	14	15	15	14	19	11	11	9	17	174
脳 神 経 外 科	21	15	12	14	26	13	14	10	10	15	14	7	171
産 婦 人 科	34	33	40	46	36	40	35	36	41	38	28	42	449
眼 科	56	62	69	55	62	56	58	55	56	60	50	70	709
耳 鼻 咽 喉 科	16	16	15	10	21	14	14	16	17	12	16	20	187
皮 膚 科	14	18	22	20	17	21	21	16	16	17	19	20	221
泌 尿 器 科	31	33	34	37	38	31	38	33	29	28	34	41	407
歯 科 口 腔 外 科	6	4	7	5	5	4	5	7	6	4	3	6	62
救急科・麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	37	48	46	41	37	35	43	37	44	31	39	34	472
呼吸器外科	12	13	13	13	19	13	8	9	13	13	15	13	154
乳 腺 外 科	13	15	14	13	16	13	16	18	14	14	14	13	173
計	480	498	517	485	505	467	460	473	454	443	443	464	5,689
手術(外来件数)(再掲)	47	48	53	49	40	47	52	43	34	50	31	57	551
( 口 腔 外 科 )	(57)	(58)	(42)	(45)	(55)	(52)	(72)	(58)	(52)	57	(54)	(51)	(653)
アンギオ室手術	2	3	2	10	3	5	3	(4)	(5)	(4)	(3)	(4)	48
内視鏡下手術(VPP)	94	106	107	107	122	104	94	117	98	97	99	101	1246
全身麻酔件数	333	326	334	323	343	306	308	323	318	307	325	314	3,860

【放射線業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一 般 撮 影	3,586	3,934	4,246	4,129	4,140	3,702	4,060	3,982	4,236	4,132	3,754	3,827	47,728
パ ン ト モ	133	136	144	124	129	125	125	152	145	121	120	113	1,567
骨 密 度 測 定	50	58	72	66	60	64	69	61	70	83	79	67	799
造 影 透 視 撮 影	117	110	115	74	126	78	70	105	102	90	69	80	1,136
上 部 消 化 管	92	180	209	202	201	164	208	158	166	154	121	99	1,954
注 腸	4	4	3	7	1	5	5	2	3	8	6		48
血 管 連 続 撮 影	29	38	42	40	29	34	37	42	35	38	21	36	421
心臓血管連続撮影	49	59	73	66	66	50	54	63	55	63	70	64	732
C T 各 科	1,696	1,806	1,897	1,823	1,897	1,679	1,833	1,799	1,808	1,793	1,662	1,814	21,507
C T 画 診	45	45	41	37	36	36	34	41	39	39	35	42	470
M R I	592	613	736	656	702	636	636	613	625	589	585	602	7,585
R I	164	185	198	156	175	160	186	82	173	175	156	155	1,965
リニアック(件数)	625	507	585	513	520	479	559	535	480	477	593	619	6,492
リニアック(門数)	2,498	2,056	2,171	2,055	2,242	2,016	2,379	2,181	1,983	1,959	2,657	2,565	26,762

【検査業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
心 電 図 検 査	1,597	1,725	1,814	1,695	1,748	1,644	1,735	1,691	1,725	1,701	1,677	1,786	20,538
ト レ ッ ド ミ ル	4	2	4	3	7	4	2	5	0	1	0	3	35
ホ ル タ ー 型	33	37	37	39	35	35	37	37	43	49	33	53	468
心 臓 エ コ ー	559	574	613	596	582	549	579	583	559	595	584	624	6,997
脳 波	43	31	36	49	69	33	34	32	43	28	36	42	476
肺 機 能 検 査	298	337	361	336	376	296	336	338	306	334	316	362	3,996
神経伝達速度、電流知覚閾値測定	258	176	165	152	166	133	182	185	175	143	156	192	2,083
重 心 動 揺 検 査	8	3	3	1	1	6	4	5	3	1	5	1	41
サーモグラフィー検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脈波図・心電図・ボリグラフ検査	236	217	215	200	243	232	251	219	223	229	263	246	2,774
体 液 量 測 定	147	140	121	120	151	141	162	122	128	134	160	138	1,664
病 理 組 織 検 査	1,127	1,117	1,327	1,148	1,194	1,155	1,244	1,142	1,278	1,124	1,057	1,085	13,998
解 剖 件 数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2

【薬剤業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外 来													
処 方 箋 枚 数	10,074	10,572	10,972	10,287	11,016	10,634	10,534	10,234	11,286	9,880	9,727	11,081	126,297
剤 数(件数)	30,520	31,732	32,766	30,796	32,514	31,129	31,429	30,882	33,774	29,653	29,333	32,821	377,349
延 べ 剤 数	928,898	948,337	986,001	917,313	965,820	953,343	942,380	928,824	1,053,025	886,220	864,588	999,495	11,374,244
入 院													
処 方 箋 枚 数	9,494	9,813	9,473	10,756	10,546	9,227	9,664	9,127	10,468	9,770	9,349	10,410	118,097
剤 数(件数)	14,788	14,947	15,353	16,102	15,807	13,945	14,358	14,069	15,427	14,839	14,463	17,461	181,559
延 べ 剤 数	68,085	64,867	72,479	68,668	68,740	61,125	60,661	65,271	67,117	65,786	65,139	94,485	822,423
服薬指導件数	792	781	760	746	757	629	690	626	601	650	594	643	8,269
栗合診療所													
処 方 箋 枚 数	40	54	50	48	44	33	72	45	56	43	32	33	550
剤 数(件数)	240	302	225	280	260	178	374	203	296	228	265	203	3,054
延 べ 剤 数	6,516	8,120	5,687	7,390	7,114	4,850	9,651	4,783	7,703	5,847	6,758	4,221	78,640

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	81	71	74	60	57	52	51	67	64	59	56	71	763
分娩	41	43	44	49	38	45	38	43	49	32	33	36	491
その他分娩	0	1	0	0	3	1	0	0	1	1	0	1	8
腎尿管結石破砕	12	8	4	8	7	12	4	8	6	11	8	6	94
化学療法件数(外来)	314	353	395	349	438	379	403	414	393	393	372	364	4,567
化学療法件数(入院)	132	144	152	123	128	148	142	173	143	123	97	130	1,635
(超音波内訳)													
内科	272	262	294	258	296	280	237	220	223	208	240	244	3,034
小児科	7	25	17	31	33	32	11	17	19	24	18	18	252
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	315	305	411	331	329	336	382	332	358	250	281	329	3,959
整形外科	10	14	11	7	11	10	6	7	4	10	11	11	112
脳神経外科	18	17	10	19	16	11	12	18	26	17	18	17	199
産婦人科	324	308	364	371	375	404	386	382	424	342	281	329	4,290
眼科	4	0	0	0	1	4	4	2	1	1	1	3	21
耳鼻咽喉科	75	81	81	69	67	74	69	77	88	67	68	85	901
皮膚科	12	6	11	1	1	0	0	1	3	2	2	2	41
泌尿器科	201	198	233	213	240	241	199	201	195	190	181	236	2,528
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科・麻酔科	134	142	127	148	131	135	132	134	128	144	109	123	1,587
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	51	51	72	47	60	59	69	53	73	48	45	43	671
呼吸器外科	1	2	2	3	1	1	2	2	0	0	0	3	17
健康管理課	108	140	238	249	280	250	279	249	263	243	241	102	2,642
超音波診断計	1,532	1,551	1,871	1,747	1,841	1,837	1,788	1,695	1,805	1,546	1,497	1,546	20,256

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	250	225	244	225	228	230	233	265	236	214	215	240	2,805
胃ファイバー検査 ドック	79	143	206	206	229	232	209	237	223	200	180	84	2,228
気管支ファイバー検査	11	14	16	15	10	9	10	8	12	12	10	4	131
大腸ファイバー検査	110	126	132	130	124	130	125	119	143	96	91	119	1,445
上部止血(消化管止血術)	11	7	8	9	13	12	11	5	19	8	9	7	119
EVL(食道静脈瘤血紮術)	2	0	0	0	1	1	1	4	5	0	0	0	14
PEG(胃瘻造設術)	10	4	4	2	3	5	7	9	4	4	3	3	58
上部EMR(粘膜切除)、ESD	6	4	8	7	7	11	10	9	5	12	8	10	97
下部ポリーブク(ポリーブク切除)	33	28	39	35	40	30	35	37	41	36	14	21	389
下部EMR(粘膜切除)	45	40	45	44	43	49	42	52	44	38	50	41	533
ERCP(膵胆管造影)、ERBD	4	14	10	6	9	4	5	2	2	3	6	4	69
EST(乳頭切開術)	34	27	77	36	32	28	41	31	23	49	20	31	429

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等(器具)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	807	765	796	700	830	886	748	720	836	698	729	789	9,304
脳血管疾患リハビリテーション	1,430	1,833	1,758	1,839	1,998	1,524	1,649	1,567	1,581	1,879	1,826	1,707	20,591
呼吸器リハビリテーション	554	474	499	466	515	517	599	532	615	553	556	597	6,477
疾患対象外	669	861	703	653	900	812	722	712	657	874	917	880	9,360
心大血管疾患リハビリテーション	781	713	696	650	660	491	540	524	642	533	680	759	7,669
A D L 加算													0
早期リハ加算	1,751	2,521	2,486	2,612	2,782	2,263	2,294	2,256	2,653	2,583	2,538	2,469	29,208
リハビリテーション総合実施計画書	117	109	149	152	153	128	106	126	106	90	102	106	1,444
退院時リハ指導	41	45	59	91	70	72	54	67	72	59	81	91	802

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	4,069	4,186	4,033	4,916	4,570	4,250	5,035	4,401	5,006	4,544	3,944	3,598	52,552
全粥	8,017	6,833	7,521	8,508	8,409	7,214	7,585	6,958	7,631	8,576	8,045	8,125	93,422
五分	146	92	169	200	106	87	107	50	66	72	91	78	1,264
三分	82	92	65	118	57	55	90	123	47	79	55	65	928
重湯	106	125	147	77	148	114	148	208	178	101	131	230	1,713
特別食	22,365	22,235	20,996	21,781	20,587	20,734	19,910	20,061	21,103	22,129	20,882	23,049	255,832
計	34,785	33,563	32,931	35,600	33,877	32,454	32,875	31,801	34,031	35,501	33,148	35,145	405,711

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	182	174	177	133	166	146	168	147	159	145	145	199	1,941
入院栄養指導	86	66	70	92	96	104	105	95	107	87	115	116	1,139
集団栄養指導	13	6	4	8	3	6	9	4	5	7	8	8	81

# 医師科別人員／職員数

平成 29 年度 医師科別人員

部署名		平成 29 年 4 月
内科	呼吸器内科	4
	腎臓内科	4
	糖尿病代謝内科	4
	消化器内科	10
	循環器内科	6
	合計	28
小児科	6	
外科	15	
整形外科	7	
脳神経外科	4	
心臓血管外科	4	
産婦人科	7	
眼科	2	
耳鼻科	3	
皮膚科	4	
泌尿器科	5	
歯科口腔外科	3	
放射線治療科	1	
画像診断部	5	
麻酔科	10	
救急・集中治療科	5	
精神科	—	
形成外科	1	
呼吸器外科	3	
健康管理科	1	
臨床研究検査科	1	
病理研究検査科	1	
臨床専門研修医	—	
臨床研修医 2 年次	10	
臨床研修医 1 年次	9	
合計	135	

職員数

区 分	H29 年 4 月
医師	111
歯科医師	5
臨床研修医	19
専修医	—
医師部門計	135
助産師	26
保健師	132
看護師	459
准看護師	4
看護部門計	621
薬剤師	37
放射線技師	26
臨床検査技師	46
臨床工学技士	14
理学療法士	13
マッサージ師	—
作業療法士	4
管理栄養士	12
歯科衛生士	4
歯科技工士	—
視能訓練士	4
言語聴覚士	4
臨床心理士	2
社会福祉士	4
介護福祉士	—
医療技術部門計	170
事務	86
事務部門計	86
ボイラ技師	1
電気技師	1
運転手	—
調理師	—
保清員	—
保育士	—
看護助手	33
介護員	—
技術助手	4
労務部門計	39
出向	—
合計	1,051

# 学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本気管食道学会専門医研修施設
日本大腸肛門病学会関連施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設

認定種別
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医訓練機関
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度関連施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
優良二日ドック施設
日本脈管学会認定研修指定施設

# 編集後記

2017年度のJA広島総合病院“Annual Report”が完成いたしました。

2017年度も色々な出来事がありました。広島東洋カープ 2016年に続いてセ・リーグ連覇はしたものの、まさかのクライマックスシリーズ敗退に終わり悔しい思いをいたしました。一方高校野球では夏の甲子園で広陵高校が躍進し準優勝しました。なかでも廿日市出身の中村奨成選手の活躍は目を引き、清原選手の持っていた全国高校野球選手権大会のホームラン記録を更新しました。カープに入団し、今後の活躍が期待されます。

2017年度の明るい話題を探すと、上野動物園のジャイアントパンダ「シンシン」が赤ちゃんを出産したこと、社会現象にもなった藤井聡太四段の29連勝、陸上100mで桐生祥秀が日本人で初めて10秒の壁を破り9秒98という日本新記録を樹立したことが挙げられます。藤井聡太四段の快進撃はその後も続き、7つの賞を受賞しました。

2017年度は明るくない話題が多かったと思います。一つのキーワードは「改ざん」です。日産自動車・スバルにおける無資格社員による出荷前点検、東洋ゴム・神戸製鋼所などのデータ改ざんは日本企業のモラル低下の象徴とされます。さらに「森友学園問題」における財務省の決裁文書改ざんも大きな問題となりました。もう一つのキーワードは「無責任」です。決裁文書改ざんに加え年金支給に関するミスなど公務員を巡る問題が改めて浮き彫りになりましたが、責任の所在は明確にされないまま終わっています。「コインチェック」の事件では情報セキュリティに対する責任が、また「てるみくらぶ」や「はれのひ」の事件では無責任な経営者によって多くの人が楽しみを奪われ、できるはずであった大切な思い出を奪われました。今後の日本を思うと暗い気分になります。

2017年度は北朝鮮の核開発と弾道ミサイル開発で東アジア地域が緊張しました。一方国連では核兵器禁止条約が122か国・地域の賛成多数により採択されましたが、日本は参加しませんでした。核兵器の問題は今後も大きな課題となりそうです。

さて2015年に「ブルートレイン」が廃止されて久しいですが、2017年度は従来からあるJR九州の「ななつ星」に続いてJR東日本の「TRAIN SUITE 四季島」、JR西日本の「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」がデビューしました。豪華列車での旅を夢見ながら日々の診療を頑張りたいと思います。

とりとめの無い話を綴って参りましたが、本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2019年3月  
年報編集委員長  
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	柳井 環	佐藤 澄香	小松 浩基
砂田 朋子	本間 智明	荒田 晋二	桑原 麻衣

**JA広島総合病院 年報 2017年度**

平成 31 年 3 月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会  
広島総合病院

広島県廿日市市地御前 1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープリントメディア



JA 広島総合病院  
JA. HIROSHIMA General Hospital